

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ム コ ガワ ガク イン 学校法人 武庫川学院								
フリガナ大学の名称	ム コ ガワ ヲシダ ヲク 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University)								
大学本部の位置	兵庫県西宮市池開町6番46号								
大学の目的	武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善良な情操と高麗な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	大学が掲げる立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、高度化していくICT社会で活躍できる女性を育成する。情報ネットワークの高度化、ビッグデータの活用、AIの発展により到来するスマート社会の実現とそこの指導的立場になるために、社会情報学分野における高度で専門的な知識や技術、人間性を身につけることを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	社会情報学部 [School of Social Informatics] 社会情報学科 [Department of Social Informatics] 計	4年	180人	—人	720人	学士 (社会情報学) 【Bachelor of Social Informatics】	令和5年4月 第1年次	兵庫県西宮市池開町 6番46号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	心理・社会福祉学部 心理学科 (150) (令和4年4月届出) 社会福祉学科 (70) (令和4年4月届出) 健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 (100) (令和4年4月届出) 文学部 心理・社会福祉学科 (廃止) (△160) (3年次編入学定員) (△17) 生活環境学部 情報メディア学科 (廃止) (△150) ※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は、令和7年4月学生募集停止) 武庫川女子大学短期大学部 心理・人間関係学科 (廃止) (△100) 健康・スポーツ学科 (廃止) (△80) ※令和5年4月学生募集停止 令和5年4月名称変更予定 文学部 英語文化学科 → 英語グローバル学科								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	社会情報学部 社会情報学科	講義 108 科目	演習 110 科目	実験・実習 14 科目	計 232 科目	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	社会情報学部 社会情報学科	11 (8)	7 (5)	1 (0)	1 (0)	20 (13)	0 (0)	88 (70)
		心理・社会福祉学部 心理学科	6 (4)	5 (5)	4 (2)	2 (0)	17 (11)	0 (0)	104 (76)
		社会福祉学科	6 (4)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (10)	0 (0)	102 (81)
		健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科	6 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	110 (78)
計		29 (21)	17 (15)	9 (6)	4 (1)	59 (43)	0 (0)	— (—)	

教 員 組 織 の 概 分 要	既 員 組 織 の 概 分 要	文学部 日本語日本文学科	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	117 (117)	※令和4年5月 名称変更届出予定
		英語グローバル学科	8 (8)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	124 (124)	
		教育学部 教育学科	17 (17)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	30 (30)	1 (1)	140 (140)	
		健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	12 (10)	5 (3)	3 (3)	0 (0)	20 (16)	2 (2)	103 (103)	
		生活環境学部 生活環境学科	8 (8)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	4 (4)	129 (113)	
		食物栄養科学部 食物栄養学科	10 (10)	11 (11)	1 (1)	1 (1)	23 (23)	6 (6)	90 (90)	
		食創造科学科	8 (8)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	7 (7)	74 (74)	
		建築学部 建築学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	2 (2)	109 (109)	
		景観建築学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	105 (105)	
		音楽学部 演奏学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	90 (90)	
		応用音楽学科	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	83 (83)	
		薬学部 薬学科	21 (21)	6 (6)	9 (9)	5 (5)	41 (41)	17 (17)	104 (104)	
		健康生命薬科学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	4 (4)	83 (83)	
		看護学部 看護学科	13 (13)	3 (3)	5 (5)	19 (19)	40 (40)	0 (0)	80 (80)	
		経営学部 経営学科	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	83 (83)	
		共通教育部	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	68 (68)	
		教育研究所	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	
		発達臨床心理学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		言語文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		生活美学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		バイオサイエンス研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		国際健康開発研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		トルコ文化研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		健康運動科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		栄養科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	
		学校教育センター	6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	
附属総合ミュージアム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)			
PCRセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)			
女性活躍総合研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)			
計	161 (159)	80 (78)	29 (29)	39 (39)	309 (305)	52 (52)	— (—)			
合計	190 (180)	97 (93)	38 (35)	43 (40)	368 (348)	52 (52)	— (—)			
教員以外の 職員の 概要	職 種	専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員	160 (160)		88 (88)		248 (248)				
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員	2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		2 (2)		2 (2)				
計	162 (162)		90 (90)		252 (252)					

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	武庫川女子大学短期大学部（必要面積10,400㎡）と共用（収容定員：1,040人※令和5年度収容定員変更後の定員） 借用面積：1,129.19㎡ 借用期間：2018年12月1日から2048年11月30日まで			
	校 舎 敷 地	68,039.60 ㎡	78,529.75 ㎡	0 ㎡	146,569.35 ㎡				
	運 動 場 用 地	0 ㎡	90,463.09 ㎡	0 ㎡	90,463.09 ㎡				
	小 計	68,039.60 ㎡	168,992.84 ㎡	0 ㎡	237,032.44 ㎡				
	そ の 他	400.00 ㎡	10,640.27 ㎡	0 ㎡	11,040.27 ㎡				
合 計	68,439.60 ㎡	179,633.11 ㎡	0 ㎡	248,072.71 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	武庫川女子大学短期大学部（必要面積7,450㎡）と共用（収容定員：1,040人※令和5年度収容定員変更後の定員）			
		71,942.11 ㎡ (71,942.11㎡)	119,664.40 ㎡ (119,664.40㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	191,606.51 ㎡ (191,606.51㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	158 室	205 室	461 室	8 室 (補助職員 1人)	4 室 (補助職員 2人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体			
		社会情報学部社会情報学科		20 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	社会情報学部 社会情報学科	700,104 [163,545] (700,104 [163,545])	9,552 [1,956] (9,552 [1,956])	8,832 [7,281] (8,832 [7,281])	11,241 (11,241)	10,590 (10,590)	37 (37)		
	計	700,104 [163,545] (700,104 [163,545])	9,552 [1,956] (9,552 [1,956])	8,832 [7,281] (8,832 [7,281])	11,241 (11,241)	10,590 (10,590)	37 (37)		
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体	
		12,450.21 ㎡		1,740	868,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体
		17,308.50 ㎡		武庫女SC7373x11(ウチネスタ館)、総合スタジアムスタンド、各グラウンド内のトイレ、更衣室					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	教員1人当り研究費等		286千円	286千円	286千円	286千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		230千円	230千円	230千円	230千円	—千円	—千円	
	図書購入費	1,620千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	—千円	—千円	
	設備購入費	22,000千円	22,000千円	22,000千円	22,000千円	22,000千円	—千円	—千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,170千円	1,310千円	1,310千円	1,310千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	武庫川女子大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	文学研究科	年	人	年次	人		倍		
	日本語日文学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (文学)	0.12	昭和46年度	兵庫県西宮市池開町 6番46号
	日本語日文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.22	平成3年度	同上
	英語英米文学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (文学)	0.12	昭和46年度	同上
	英語英米文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.33	平成12年度	同上
	教育学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	0.16	平成17年度	同上
	臨床心理学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (臨床心理学)	0.80	平成11年度	同上
	臨床教育学研究科								
	臨床教育学専攻 (修士課程)	2	16	—	32	修士 (臨床教育学)	0.52	平成6年度	同上
	臨床教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (臨床教育学)	0.21	平成9年度	同上
健康・スポーツ科学研究科									
健康・スポーツ科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (健康科学)又は (スポーツ科学)	0.27	平成23年度	同上	
生活環境学研究科									
食物栄養学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士 (食物栄養学)	—	昭和41年度	同上	
食物栄養学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (食物栄養学)	—	平成2年度	同上	

既設 大学 等 の 状 況	生活環境学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (生活環境学) 又は (情報メディア学)	0.00	平成12年度	兵庫県西宮市池開町 6番46号	
	生活環境学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (生活環境学) 又は (情報メディア学)	0.00	平成12年度	同上	
	食物栄養科学研究科									
	食物栄養学専攻 (修士課程)	2	8	—	8	修士 (食物栄養学)	0.87	令和4年度	同上	
	食物栄養学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士 (食物栄養学)	0.50	令和4年度	同上	
	食創造科学専攻 (修士課程)	2	4	—	4	修士 (食創造科学)	0.25	令和4年度	同上	
	食創造科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士 (食創造科学)	0.00	令和4年度	同上	
	建築学研究科									
	建築学専攻 (修士課程)	2	22	—	44	修士 (建築学)	0.97	令和2年度	同上	
	建築学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (建築学)	0.33	令和2年度	同上	
	景観建築学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (景観建築学)	1.83	令和2年度	同上	
	景観建築学専攻 (博士後期課程)	3	1	—	3	博士 (景観建築学)	0.00	令和2年度	同上	
	薬学研究科									
	薬学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士 (薬学) 又は (臨床薬学)	0.12	平成24年度	兵庫県西宮市甲子園 九番町11番68号	
	薬科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (薬科学)	0.18	平成22年度	同上	
	薬科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (薬科学) 又は (応用薬科学)	0.83	平成24年度	同上	
	看護学研究科									
	看護学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士 (看護学)	0.79	平成27年度	兵庫県西宮市池開町 6番46号	
	看護学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	13	博士 (看護学)	1.48	平成29年度	同上	※令和3年度入学 定員増(2人)
	大 学 の 名 称	武庫川女子大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍				
文学部						0.98				
日本語日本文学科	4	150	3年次25	650	学士 (日本語日本文学)	1.00	昭和33年度	兵庫県西宮市池開町 6番46号		
英語文化学科	4	200	3年次25	850	学士 (英語文化学)	0.93	昭和33年度	同上		
教育学科	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	昭和38年度	同上		※令和元年度より 学生募集停止
心理・社会福祉学科	4	160	3年次17	674	学士 (心理学) 又は (社会福祉学)	1.02	平成12年度	同上		
教育学部						0.97				
教育学科	4	240	3年次25	1,010	学士 (教育学)	0.97	令和元年度	同上		
健康・スポーツ科学部						1.05				
健康・スポーツ科学科	4	180	3年次20	760	学士 (健康・スポーツ科学)	1.05	平成23年度	同上		
生活環境学部						1.03				
生活環境学科	4	165	3年次20	700	学士 (生活環境学)	1.05	平成6年度	同上		
食物栄養学科	4	—	—	—	学士 (食物栄養学)	—	平成6年度	同上		※令和2年度より 学生募集停止
情報メディア学科	4	150	—	600	学士 (情報メディア学)	1.04	平成6年度	同上		
建築学科	4	—	—	—	学士 (建築学)	—	平成18年度	兵庫県西宮市戸崎町 1番13号		※令和2年度より 学生募集停止
食物栄養科学部						0.93				
食物栄養学科	4	200	3年次10	610	学士 (食物栄養学)	0.97	令和2年度	兵庫県西宮市池開町 6番46号		
食創造科学科	4	80	3年次5	245	学士 (食創造科学)	0.85	令和2年度	同上		

既設大学等の状況	建築学部						1.06			
	建築学科	4	45	—	135	学士 (建築学)	1.16	令和2年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号	
	景観建築学科	4	40	—	120	学士 (景観建築学)	0.95	令和2年度	同上	
	音楽学部						0.83			
	演奏学科	4	30	—	120	学士 (音楽)	0.60	平成21年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
	応用音楽学科	4	20	—	80	学士 (応用音楽)	1.16	平成21年度	同上	
	薬学部(6年制)						0.83			
	薬学科	6	210	—	1,260	学士 (薬学)	0.83	平成18年度	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号	
	薬学部(4年制)						0.91			
	健康生命薬科学科	4	40	—	160	学士 (薬科学)	0.91	平成18年度	同上	
看護学部						1.03				
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.03	平成27年度	兵庫県西宮市池開町6番46号		
経営学部						1.02				
経営学科	4	200	—	600	学士 (経営学)	1.02	令和2年度	同上		
大学の名称	武庫川女子大学短期大学部									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
日本語文化学科	2	100	—	200	短期大学士 (日本語文化学)	0.51	昭和26年度	兵庫県西宮市池開町6番46号		
英語キャリア・コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニケーション学)	0.32	昭和25年度	同上		
幼児教育学科	2	150	—	300	短期大学士 (幼児教育学)	0.51	昭和26年度	同上		
心理・人間関係学科	2	100	—	200	短期大学士 (心理・人間関係学)	0.49	昭和62年度	同上		
健康・スポーツ学科	2	80	—	160	短期大学士 (健康・スポーツ学)	0.52	昭和30年度	同上		
食生活学科	2	80	—	160	短期大学士 (食生活学)	0.61	昭和26年度	同上		
生活造形学科	2	90	—	180	短期大学士 (生活造形学)	0.73	昭和25年度	同上		
附属施設の概要	名称： 武庫川女子大学薬用植物園 所在地： 兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号 設置年月： 昭和37年4月（現施設は、昭和62年11月） 規模等： 温室・寒地性植物栽培室 162.68㎡ 薬草園 400.00㎡									

教育課程等の概要																	
(社会情報学部 社会情報学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文 科学 科目	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○										兼1	
	平安朝文学の世界	1前		2		○										兼1	
	鎌倉時代の文学への誘い	1前・後		2		○										兼1	
	平安時代の文学への誘い	1前・後		2		○										兼1	
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○										兼1	
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○										兼1	
	ミュージカル歌唱法	1前・後		1			○									兼1	
	音楽の科学	1前・後		2		○										兼1	
	フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2		○											兼1
	先端芸術表現	1前・後		1				○									兼1
	自己発見アート	1前・後		1					○								兼1
	未来造形	1前・後		1						○							兼1
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2			○										兼1
	日本の文化Ⅰ	1前		2			○										兼1
	日本の文化Ⅱ	1後		2			○										兼1
	遊びの人類学	1後		2			○										兼1
	SNSから日本語を見る	1前・後		2			○										兼1
小計 (17科目)	—	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼12	—
基礎 教育 科目 群	現代世界の教育	1前・後		2		○											兼1
	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○											兼1
	メディアに映る女性	1前・後		2		○											兼1
	生涯福祉論	1前・後		2		○											兼1
	社会福祉とボランティア	1前・後		2		○											兼1
	福祉レクリエーションの実際	1後		2		○											兼1
	子育てと家族関係	1前		2		○											兼1
	子育てと母性の気づき	1前		2		○											兼1
	環境心理学入門	1前・後		2		○											兼1
	現代社会と憲法	1前・後		2		○											兼1
	教養としての法律	1前		2		○											兼1
	暮らしと法律	1後		2		○											兼1
	女性と子どものヘルスケア	1後		2		○											兼2
	消費者生活論	1前		2		○											兼1
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○											兼1
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○											兼1
	我々のくらしと日本の産業	1前・後		2		○							1				兼1
メディア技術と文字デザイン	1前		2		○							1				兼1	
まちづくりと地方自治の役割	1前・後		2		○											兼1	
小計 (19科目)	—	—	0	38	0	—	—	—	0	2	0	0	0	0	0	兼14	—
自然 科学 科目 目	文化を創造する数学	1後		2		○											兼1
	生命科学入門	1前		2		○											兼1
	生活の中の物理学	1後		2		○											兼1
	最先端物理学が描く宇宙	1後		2		○											兼1
	微生物がつくる発酵食品の不思議	1前		2		○											兼1
	薬の歴史と未来	1後		2		○											兼2
	薬とからだ	1後		2		○											兼2
	医薬品概論	1前		2		○											兼2
小計 (8科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼10	—
国際 目 理 解 科 目	韓国文化の理解	1前・後		2		○											兼1
	中国文化論	1前・後		2		○											兼1
	国際協力入門	1前		2		○											兼1
	世界の中の日本人	1前		2		○											兼1
小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼4	—
現 代 ト ピ ッ ク 科 目	モラルジレンマから考える私	1前		2		○											兼1
	女性のためのマーケティング	1前・後		2		○											兼1
	Current Affairs in Japan I	1前		2		○											兼1
	Current Affairs in Japan II	1後		2		○											兼1
小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼4	—
ジ ェ ン ダ ー 科 目 群 ダ ー	セクシュアリティ入門	1前・後		2		○											兼1
	女性の身体とセクシュアリティ	1前・後		2		○											兼1
	メディアに見るジェンダー	1前・後		2		○											兼1
	女性が輝く社会づくり	1前・後		2		○											兼1
小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼3	—
デ キ ャ リ ア 科 目 群	女性のためのライフプランニング	1前・後		2		○											兼1
	自己アビリティトレーニング	1前・後		2			○										兼1
	キャリアビジョンと人物評価	1前・後		2			○										兼1
	小計 (3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼3
言 語 ・ 情 報 科 目 群	英語コミュニケーションⅠ	1前・後		2			○										兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1前・後		2			○										兼1
	英語コミュニケーションⅢ	1前・後		1			○										兼1
	英語コミュニケーションⅣ	1前・後		1			○										兼1
	英語リーディングⅠ	1前・後		1			○										兼2
	英語リーディングⅡ	1前・後		1			○										兼1
	英語ライティングⅠ	1前・後		1			○										兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
言語・情報科目群	英語ライティングⅡ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC演習Ⅰ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC演習Ⅱ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC演習Ⅲ	1前・後		1			○									兼1	
	TOEFL演習	1前・後		1			○									兼1	
	TOEIC(初級)	1後		1			○									兼1	
	Basics for PresentationⅠ	2前		1			○									兼1	
	Basics for PresentationⅡ	2後		1			○									兼1	
	Grammar for Communication	2前		1			○									兼1	
	Reading & Writing	2後		1			○									兼1	
	Speaking & ListeningⅠ	2前		1			○									兼1	
	Speaking & ListeningⅡ	2後		1			○									兼1	
	Speaking & ListeningⅢ	3後		1			○									兼1	
	Presentation	3後		1			○									兼1	
	WritingⅠ	3前		1			○									兼1	
	WritingⅡ	3後		1			○									兼1	
	English for Careers	3前		1			○									兼1	
	Reading & Discussion	3後		1			○									兼1	
	Global CommunicationⅠ	4前		1			○									兼1	
	Global CommunicationⅡ	4後		1			○									兼1	
	Current EventsⅠ	4前		1			○									兼1	
	Current EventsⅡ	4後		1			○									兼1	
	Reading & Critical Thinking	4前		1			○									兼1	
	Career Workshop	4後		1			○									兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1前・後		2			○									兼2	
	ドイツ語Ⅱ	1後		2			○									兼1	
	フランス語Ⅰ	1前・後		2			○									兼2	
	フランス語Ⅱ	1後		2			○									兼1	
	フランス語ⅠA	1前		1			○									兼1	
	フランス語ⅠB	1後		1			○									兼1	
	中国語Ⅰ	1前・後		2			○									兼3	
	中国語Ⅱ	1前・後		2			○									兼3	
	イタリア語ⅠA	1前・後		1			○									兼1	
	イタリア語ⅠB	1前・後		1			○									兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前・後		2			○									兼1	
	ハンブルⅠ	1前・後		2			○									兼2	
	ハンブルⅡ	1後		2			○									兼1	
	特別英語演習Ⅰ	1前・後		4			○									兼1	
	特別英語演習Ⅱ	1前・後		4			○									兼1	
	特別中国語演習Ⅰ	1前		2			○									兼1	
	特別中国語演習Ⅱ	1前		2			○									兼1	
	特別ハンブル演習Ⅰ	1前		4			○									兼1	
	特別ハンブル演習Ⅱ	1前		4			○									兼1	
	(小計50科目)	—		0	75	0		—								兼19	—
	共通教育科目	情報リテラシー科目	1前・後		2			○									兼1
		Accessデータベース基礎	1前・後		2			○									兼1
		情報社会を生きる技術	1前・後		2			○									兼1
		Webデザイン基礎	1前・後		2			○									兼1
		Webデザイン応用	1前・後		2			○									兼1
		Scratchによるプログラミング	1前・後		2			○									兼1
グラフィックデザイン基礎		1後		2			○									兼1	
フォトタッチ基礎		1前		2			○									兼1	
データサイエンスの基礎とExcel		1前・後		2			○									兼1	
データサイエンスの応用とExcel		1後		2			○									兼1	
データリテラシー・AIの基礎	1後		2			○									兼1		
(小計10科目)	—		2	18	0		—								兼3	—	
健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科目	1前・後		2			○									兼1	
	スポーツと栄養	1前・後		2			○									兼1	
	生涯スポーツ論	1後		2			○									兼1	
	スポーツと現代社会	1前・後		2			○									兼1	
	(小計3科目)	—		0	6	0		—								兼3	—
	スポーツ実技(テニス)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(バレーボール)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(バドミントン)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(ジャズダンス)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(エアロビクス)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(スリムエアロ)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(ダンスエアロ)	1前・後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(水泳)	1後		1					○							兼1	
	スポーツ実技(軽スポーツ)	1前・後		1					○							兼1	
スポーツ実技(ヨガ)	1前・後		1					○							兼1		
スポーツ実技(サッカー)	1前・後		1					○							兼1		
からだ気づきと姿勢法	1後		1					○							兼1		
スポーツ実技(スタイルジャズ)	1前・後		1					○							兼1		
(小計14科目)	—		0	14	0		—								兼13	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1前	1				○			4							
	初期演習Ⅱ(社会情報入門)	1後	1				○		4								
	データ・情報リテラシー	1前	2				○		1								
	Oral CommunicationⅠ	1前		1			○									兼1	
	Oral CommunicationⅡ	1後		1			○									兼1	
	小計(5科目)	—	4	2	0		—		5	0	0	0	0			兼1	
生活と文化科目群	メディア論	1後		2			○		1								
	コンセプトデザイン論	2前		2			○		1								
	科学技術と社会	2後		2			○			1							
	メディアと生活文化	3前		2			○		1								
	メディア産業論	3後		2			○									兼1	
	メディアカルチャー論	3後		2			○		1								
	情報とコミュニケーション	1前		2			○			1							
	ネットワーク社会論	2前		2			○		1								
	SNSリテラシー演習	2前		2				○								兼1	集中
	映像文化史	4前		2			○									兼1	集中
	文化社会学	4前		2			○			1							
	文化社会学演習	4後		2				○		1							
		小計(12科目)	—	0	24	0		—		2	2	0	0	0			兼3
生活と経済科目群	マーケティング論	1後		2			○		1								
	グローバルビジネス論	2後		2			○			1							
	マーケティング戦略論	3前		2			○		1								
	コンテンツプランニング演習	3前		2				○								兼1	集中
	企業経営論	3後		2			○		1								
	マーケットデザイン演習	4前		2				○	1								
	経営情報論	2後		2			○		1								
	経営情報演習	3前		2				○	1								
	組織コミュニケーション論	1前		2			○		1								
	広告メディア論	2前		2			○			1							
	広告メディア演習	2後		2				○			1						共同
	地域産業論	2後		2			○			1							
	IT活用とビジネス	3前		2			○			1							
	コミュニティビジネス論	3前		2			○			1							
消費者経済学	3後		2			○			1								
衣生活情報論	3後		2			○			1								
	小計(16科目)	—	0	32	0		—		2	4	0	0	0			兼1	
専門教育科目	情報科学入門	1前	2				○		2								
	プログラミング入門	1後		2				○	2								
	プログラミング演習Ⅰ	2前		2				○	1								
	プログラミング演習Ⅱ	2後		2				○	1		1						
	ユーザインタフェース論	3後		2			○		1								
	アルゴリズム論	2後		2			○									兼1	
	ソフトウェア工学	2後		2			○		1								
	ソフトウェア工学演習	3前		2				○	1								
	システム設計	3前		2			○		1								
	システム設計演習	3後		2				○	1								
	情報基礎数学	2後		2			○		1								
	情報数学	3前		2			○		1								
	データベース入門	1後		2			○				1						
	コンピュータネットワーク入門	1前		2			○		1								
	コンピュータネットワーク演習	2前		2				○	1								
	コンピュータネットワーク論	4前		2			○		1								
	ウェブ入門	1後		2				○	1		1						
	ウェブプログラミング	2前		2				○	1		1						
	ウェブアプリケーション設計	2後		2				○			1						
	ウェブアプリケーション開発演習	2後		2				○			1						
	ウェブエンジニアリング	3後		2				○			1						
ウェブコンピューティング論	4前		2				○			1							
プラットフォーム概論	3後		2			○		1									
システムセキュリティ入門	2前		2			○		1									
情報セキュリティ論	4後		2			○		1									
	小計(25科目)	—	2	48	0		—		6	1	1	0	0			兼1	
データサイエンス科目群	統計学Ⅰ	1後	2				○		1								
	統計学Ⅱ	2前		2			○		1			1					
	AI入門	1前		2			○		1								
	AI概論	2後		2			○		1								
	AI演習	3後		2				○	1								
	データサイエンス基礎演習	2後		2				○	2								
	データサイエンス演習<A>	3前		2				○	1								
	データサイエンス演習	3前		2				○	1								
	データサイエンス演習<C>	3後		2				○	1								
	データサイエンス演習<D>	3後		2				○	1								
	データサイエンス論<A>	4前		2			○		1								
	データサイエンス論	4前		2			○		1								
	社会調査入門	1後		2			○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	アイデア・エッセイ群	社会調査Ⅰ	2前	2		○				1							
		社会調査Ⅱ	2後	2		○				1		1					
		社会調査演習	3前	2				○									
		小計(16科目)	—	2	30	0	—	—	—	4	1	0	1	0		—	
	表現実習／研究手法科目群	デジタル表現入門	1後		2				○								
		デジタル表現	2前		2				○								
		ウェブデザイン演習	3前		2				○								
		ICT社会のビジネス	1前	2			○										
		オフィスツールの活用	1後		2				○								
		色彩情報論	2前		2				○								
		色彩情報演習	3前		2					○							
		情報英語Ⅰ	3前		2				○								兼1
		情報英語Ⅱ	3後		2				○								兼1
		情報倫理	2後		2				○								兼1
		小計(10科目)	—	2	18	0	—	—	—	0	3	0	0	0		兼2	—
総合科目群	社会情報学概論	1前	2			○				5						オムニバス	
	プロジェクト演習入門	1前		2				○		1	2						
	プロジェクト演習Ⅰ	1後		2				○		1	1		1				
	プロジェクト演習Ⅱ	2前		2				○		2	1					兼1	
	プロジェクト演習Ⅲ	2後		2				○		4	6					共同(一部)	
	ハッカソン	2後		2				○		7	1	1				集中	
	卒業基礎研究	3通	4					○		11	7	1					
	卒業研究	4通	4					○		11	7	1					
	卒業基礎演習Ⅰ	3前		2				○		11	7	1					
	卒業基礎演習Ⅱ	3後		2				○		11	7	1					
	小計(10科目)	—	14	10	0	—	—	—	11	7	1	1	0		兼1	—	
キャリア	キャリアプランニング	2後		1				○			1						
	生涯学習論	3前		2				○			1						
	小計(2科目)	—	0	3	0	—	—	—	0	2	0	0	0			—	
合計(232科目)			—	26	394	0	—	—	11	7	1	1	0		兼88	—	
学位又は称号		学士(社会情報学)		学位又は学科の分野				工学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
<p>4年以上在学し、共通教育科目16単位以上、基礎教育科目4単位以上、専門教育科目から80単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。また、外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位(2～8単位)を基礎教育科目として認定する。ITパスポート資格の取得をもって2単位を専門教育科目として認定する。 (履修科目の登録の上限：50単位未満(年間))</p> <p>【情報メディア専攻】専門教育科目のうち、プロジェクト演習入門、プロジェクト演習Ⅲの4単位を必修とする。また、メディア論、科学技術と社会、情報とコミュニケーション、ネットワーク社会論、マーケティング論、経営情報論、広告メディア論、組織コミュニケーション論から10単位、アルゴリズム論、プログラミング入門、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ、ソフトウェアエンジニアリング、データベース入門、コンピュータネットワーク入門、システムセキュリティ入門、ウェブ入門、ウェブプログラミング、統計学Ⅱ、データサイエンス基礎演習、AⅠ入門から16単位、プロジェクト演習Ⅰ、プロジェクト演習Ⅱから2単位をそれぞれ選択必修とする。</p> <p>【情報サイエンス専攻】専門教育科目のうち、メディア論、科学技術と社会、情報とコミュニケーション、ネットワーク社会論、マーケティング論、経営情報論、広告メディア論、組織コミュニケーション論から6単位、アルゴリズム論、プログラミング入門、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ、ソフトウェアエンジニアリング、データベース入門、コンピュータネットワーク入門、システムセキュリティ入門、ウェブ入門、ウェブプログラミング、統計学Ⅱ、データサイエンス基礎演習、AⅠ入門から22単位をそれぞれ選択必修とする。</p>								1学年の学期区分				2学期					
								1学期の授業期間				15週					
								1時限の授業時間				90分					

教育課程等の概要														
(生活環境学部 情報メディア学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文科学科目	日本語の世界	1前・後		2		○								兼1
	英語圏の文学・文化	1前・後		2		○								兼1
	建築と歴史	1前		2		○								兼1
	生活の中の心理学	1後		2		○								兼1
	ヨーロッパの名曲歌唱法	1前・後		1		○								兼1
	英語を学問するー理論と実践	1前・後		2		○								兼1
	日本の文化Ⅰ	1前		2		○								兼1
	日本の文化Ⅱ	1後		2		○								兼1
	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○								兼1
	平安朝文学の世界	1前		2		○								兼1
	芭蕉をめぐる人々	1前		2		○								兼1
	雨月物語に込められた情念	1前		2		○								兼1
	芭蕉と旅	1後		2		○								兼1
	「心中天網島」の女房「おさん」	1後		2		○								兼1
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○								兼1
	先端芸術表現	1前・後		1			○							兼1
	ミュージカル歌唱法	1前・後		1			○	○						兼1
	日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後		1			○	○						兼1
	自己発見アート	1前・後		1			○	○						兼1
	未来造形	1前・後		1			○	○						兼1
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2			○							兼1
	音楽の科学	1前・後		2			○							兼1
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2			○							兼1
	遊びの人類学	1後		2			○							兼1
	心理学入門	1後		2			○							兼1
	人間関係の心理学	1前・後		2			○							兼1
	日本近代文学の魅力Ⅰ	1前		2			○							兼1
	日本近代文学の魅力Ⅱ	1後		2			○							兼1
	SNSから日本語を見る	1前・後		2			○							兼1
	日本語と英語の比較	1前・後		2			○							兼1
	建築文化論	1後		2			○							兼1
	フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2			○							兼1
	小計(32科目)	—		0	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0
社会科学科目	現代の教育・保育事情	1前・後		2		○								兼3
	建築と社会	1前		2		○								兼1
	聴覚障害者の理解と手話言語	1前・後		2		○								兼1
	カウンセリングの実際	1前		2		○								兼1
	実践カウンセリング	1後		2		○								兼1
	子育てと家族関係	1前		2		○								兼1
	子育てと母性の気づき	1前		2		○								兼1
	福祉レクリエーションの実際	1後		2		○								兼1
	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○								兼1
	生涯福祉論	1前・後		2		○								兼1
	社会福祉とボランティア	1前・後		2		○								兼1
	「ふっつ」を考える社会学	1前・後		2		○								兼1
	現代世界の教育	1前・後		2		○								兼1
	消費者生活論	1前		2		○								兼1
	日本経済のしくみ	1前		2		○								兼1
	外国から見た日本社会のしくみ	1後		2		○								兼1
	女性と子どものヘルスケア	1後		2		○								兼2
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○								兼1
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○								兼1
	情報化と教育	1前・後		2		○								兼1
現代社会と憲法	1前・後		2		○								兼1	
我々の暮らしと日本の産業	1前・後		2		○				1				兼1	
環境心理学入門	1前・後		2		○								兼1	
教養としての法律	1前		2		○								兼1	
暮らしと法律	1後		2		○								兼1	
メディア技術と文字デザイン	1前		2		○					1			兼1	
まちづくりと地方自治の役割	1前・後		2		○								兼1	
小計(27科目)	—		0	54	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼22
自然科学科目	はたらく細胞とくすり	1後		2		○								兼1
	身近にある科学	1後		2		○								兼8
	発達障害の理解とリエゾン支援	1前・後		2		○								兼1
	エコロジーと私たちの暮らし	1後		2		○								兼1
	健康を支える仕組み	1前・後		2		○								兼2
	環境問題の歴史	1前		2		○								兼1
	科学技術の歩み	1後		2		○								兼1
生命科学の基礎	1前		2		○								兼1	

科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	単 位 数			授 業 形 態			専 任 教 員 等 の 配 置					備 考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1前	1				○			2	1	1			兼1 兼1 兼1 兼1	—	
	初期演習Ⅱ (情報メディア入門)	1後	1				○			2	1	1					
	コンピュータ基礎Ⅰ	1前	2				○										
	コンピュータ基礎Ⅱ	1後	2				○										
	Oral CommunicationⅠ	1前		1			○										
	Oral CommunicationⅡ	1後		1			○										
	小計 (6科目)	—	6	2	0		—			2	1	1	0	0	兼2	—	
専門教育科目	生活と文化科目群	メディア論	1後		2		○				1					兼1 兼1 集中 兼1 兼1 兼1 兼1 集中	—
		コンセプトデザイン論	2前		2		○				1						
		科学技術と社会	2後		2		○					1					
		メディアと生活文化	3前		2		○					1					
		メディア産業論	3後		2		○										
		メディアカルチャー論	3後		2		○					1					
		コミュニケーション論	1後		2		○						1				
		ネットワーク社会論	2前		2		○					1					
		SNSリテラシー演習	2前		2			○									
		情報と職業	2後		2		○						1				
		情報文明学	2後		2		○										
		生活美学	2後		2		○										
		生涯学習論	3前		2		○						1				
		情報環境学	3前		2		○										
		映像文化史	4前		2		○										
		文化社会学	4前		2		○					1					
		文化社会学演習	4後		2		○		○			1					
		社会調査Ⅰ	2前		2		○					1					
		社会調査Ⅱ	2後		2		○							1			
		小計 (19科目)	—	0	38	0		—			3	2	0	1	0	兼3	—
	生活と経済科目群	文化事業論	1前		2		○					1				兼1 兼1 兼1 共同	集中
		マーケティング論	1後		2		○					1					
		グローバルビジネス論	2後		2		○						1				
		マーケティング戦略論	3前		2		○		○								
		コンテンツプランニング演習	3前		2			○									
		企業経営論	3後		2		○					1					
マネープランニング		3後		2		○											
マーケットデザイン演習		4前		2			○	○			1						
広告メディア論		2前		2		○						1					
広告メディア演習		2後		2			○	○				2					
地域産業論		2後		2		○						1					
IT活用とビジネス		3前		2		○						1					
コミュニティビジネス論		3前		2		○						1					
消費者経済学		3後		2		○						1					
衣生活情報論		3後		2		○						1					
	小計 (15科目)	—	0	30	0		—			1	4	0	0	0	兼2	—	
情報科目群	情報科学への招待Ⅰ	1前	2			○					1				兼1	—	
	情報科学への招待Ⅱ	1後		2		○					1						
	CGプログラミング	2前		2		○					1						
	プログラミング入門	1後		2			○				2						
	プログラミング演習Ⅰ	2前		2			○				1						
	プログラミング演習Ⅱ	2後		2			○				1						
	ユーザインタフェース論	3後		2		○					1						
	アルゴリズム論	2後		2		○											
	ソフトウェアエンジニアリング	2後		2			○		○			1					
	システム設計	3前		2		○					1						
	システム設計演習	3後		2			○		○		1						
	情報数学	3前		2			○				1						
	データベース入門	1後		2		○						1					
	コンピュータネットワーク入門	1前	2			○					1		1				
	コンピュータネットワーク概論	2前		2		○					1						
	コンピュータネットワーク応用	4前		2		○					1						
	ウェブ入門	1後		2				○			1	1					
	ウェブプログラミング	2前		2				○			1	1					
	ウェブアプリケーション設計	2後		2				○				1					
	ウェブアプリケーション開発演習	3前		2				○				1					
	プラットフォーム概論	3後		2		○					1						
	システムセキュリティ入門	2前		2		○					1						
	AI入門	1前		2		○					1						
	AI概論	2後		2		○					1						
	AI演習	3後		2				○			1						
データサイエンス入門	1後	2					○			1							
データサイエンス演習	3前		2				○			1							
データサイエンス論	4前		2		○					1							
	小計 (28科目)	—	6	50	0		—			7	1	1	1	0	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	表現実習／研究手法科目群	デジタル表現入門	1後	2			○				1					兼1
		デジタル表現	2前	2			○				1					兼1
		ウェブデザイン演習	3前	2			○				1					
		クロスメディアデザイン演習	3後	2			○				1					
		統計学Ⅰ	1後	2			○			1						
		統計学Ⅱ	2前	2			○						1			
		オフィスツールの基礎	1前	2				○								
		色彩情報論	2前	2			○				1					
		色彩情報演習	3前	2				○			1					
		情報英語Ⅰ	3前	2			○									
		情報英語Ⅱ	3後	2			○									
		情報英語研修	2前	2					○		1					
		技術文書ライティング	3前	2			○				1					
		技術者倫理	2後	2			○									
小計 (14科目)	—	—	2	26	0	—	—	—	3	2	0	1	0	兼3	—	
総合科目群		情報メディア演習	2前	2			○			12	7	1				
		卒業予備演習	2後	2			○			12	7	1				
		ハッカソン	2後	2	2			○			7	1	1			
		卒業基礎研究	3通	4				○			12	7	1			
		卒業研究	4通	4				○			12	7	1			
		卒業基礎演習Ⅰ	3前	2				○			12	7	1			
		卒業基礎演習Ⅱ	3後	2				○			12	7	1			
小計 (7科目)	—	16	2	52	0	—	—	12	7	1	0	0	兼1	—		
合計 (307科目)		—	32	522	0	—	—	—	12	7	1	1	0	兼206	—	
学位又は称号		学士 (情報メディア学)		学位又は学科の分野				家政関係、工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>4年以上在学し、共通教育科目16単位以上、基礎教育科目6単位以上、専門教育科目から80単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。また、外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位 (2～8単位) を基礎教育科目として認定する。</p> <p>(履修科目の登録の上限：50単位未満 (年間))</p> <p>【情報メディア専攻】 専門教育科目の選択科目のうち、メディア論、ネットワーク社会論、マーケティング論、広告メディア論、統計学Ⅰから8単位を選択必修とする。</p> <p>【情報サイエンス専攻】 専門教育科目の選択科目のうち情報科学への招待Ⅱ、CGプログラミング、アルゴリズム論、プログラミング入門、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ、ソフトウェアエンジニアリング、データベース入門、コンピュータネットワーク概論、システムセキュリティ入門、ウェブ入門、ウェブプログラミング、ウェブアプリケーション設計、AI概論、統計学Ⅰ、統計学Ⅱから24単位を選択必修とする。</p>								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(社会情報学部 社会情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	神話・伝説の世界から	民衆の中から発生した文学の背景を見つめ、本質に触れながら作品を鑑賞し、多くの文学作品の根底に流れるものを読み取る力をつけることを目的とする。古代の人々は、文字を持たない時代から、生活の中に起こるいろいろな事象を、感動や信仰に結びつけて語り伝えてきた。それが神話や伝説として記録されたのである。古代の人々は一体どのようなものを神と感じ、伝えようとしたのだろうか。この授業では、古事記神話や伝説を読みながら現代の私達の生活の中にも、神話的なものや伝説が生きていることを知り、日本を理解する。	
	平安朝文学の世界	平安朝の文学を通して、当時の人々の生活・風俗や考え方に触れ、我が国の文学や文化についての理解を深めることを目標とする。 平安時代には、仮名文字の発達により、物語文学や日記文学・随筆など、さまざまなジャンルの散文学が開花した。この時代の人々は、何を考え、どのように生活していたのだろうか。恋愛は、家庭生活は、そして仕事は？——平安時代の文学作品を読み味わい、この時代を身近に感じることを通して、理解を深める。	
	鎌倉時代の文学への誘い	平家一門の盛衰の歴史を描いた軍記物語『平家物語』について学び、その文学的背景を複数の資料から読み解くことによって、日本の古典文学および日本文化への理解を深める。 『平家物語』を順次、取り上げて読み進めるが、そこに描かれる歴史的事件にのみ着目するのではなく、巻々から人々の歓喜と失意、執着と諦念、忠義と保身など、さまざまな生の諸相を辿ってゆく。同時代を描く歴史物語や女流日記、貴族の漢文日記などを参考資料として併読しながら、『平家物語』の叙述の独自性を考え、古典文学作品を読み味わう力を高めることをめざす。	
	平安時代の文学への誘い	平安時代に清少納言によって書かれた『枕草子』の「日記・回想章段」について学び、その文学的背景を複数の資料から読み解くことによって、日本の古典文学および日本文化への理解を深める。 『枕草子』の「日記・回想章段」を可能な限り年代順に取り上げ、清少納言の官仕え人生を辿ってゆく。その際、同時代を描く歴史物語『栄花物語』や『紫式部日記』などを参考資料として比べ読みをしつつ、『枕草子』が書いたもの、書かなかったものを抽出して、その執筆意図を考える。作品の文学的基盤を検討しながら、古典文学作品を読み味わう力を高めることをめざす。	
	日常生活からの哲学入門	西洋と日本の哲学者のさまざまな議論を紹介しながら、「見る」「触れる」「感じる」といった日常にありふれた経験を分析する。これらの経験について考えた哲学者たちの議論の仕方を学ぶことによって、哲学的な考え方・ものの見方を身につけることを目的とする。何気ない日常生活の中にひそむ哲学的な問題を取り上げ、関連する哲学者の議論を学ぶ。まずは、ふだん当たり前のように感じていることに対して疑問を投げかけるところから出発する。その上で、新しい眼差しのもとでこの現実を見つめ直していくような視点を、一つ一つ身につけていく。哲学の枠組みを通して現実を分析することで、日常生活の中にどのような問題が立ち現われてくるのか体験し、理解する。	
	現代フランスの音楽事情	フランスの音楽事情を通してフランスの一側面を学ぶと同時に、音楽と社会について考察できる力を培う。フランスの例から日本の音楽事情にも考えを巡らせることや、更には自らの専門領域に対する深い思考力を身につける。「芸術の都パリ」と言われるが、その表面的な煌びやかさだけでなくそれを支える背景、また社会における芸術の位置づけまで想像できるようにする。まず、フランスに関する基礎知識を学んだ上で、フランスと文化芸術ないしは音楽の関係について学習する。全授業回数のうち2/3程度は、公的な文化支援について学び、関連する事柄について視聴覚資料などを参照する。残りの1/3では、「芸術音楽」と「ポピュラー・ミュージック」というふたつの側面から、音楽作品の鑑賞を中心に行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	基礎 教養 科目 群	人文 科学 科目	ミュージカル歌唱法	音楽によって感受性を豊かにし、表現することで積極性を養うことを目的とする。歌を通じて客観的に自分を理解し、それを表現し伝えることを体感する。 「サウンド・オブ・ミュージック」を教材に、歌唱の基本的なトレーニング、発声練習をし、作品の理解を深めると共に豊かに表現することの実現をめざす。	
			音楽の科学	音楽は今も昔も私たちの生活の一部であり、暮らしに彩りを添えてくれる。近年の研究において、音楽を聴く、歌う、演奏するといった活動を行っている時には、脳の様々な領域が働いていることがわかってきた。本講義では、音や音楽の科学的な側面と社会とのつながりに焦点を当て、音楽を享受する人間の本質の一端を明らかにすることを目的とする。各回の講義についてテーマを設定し、その内容を配信動画で説明する。また、各回のテーマに関する小課題に取り組み提出する。小課題の内容は適宜次回の講義でフィードバックを行い、他の学生の意見やコメントに触れることで視野を広げる。本講義では、高校までの音楽の授業では学習しない内容を多く含んでおり、音楽と脳科学の関係や音楽とともに生きる私たちの暮らしについて、多様な視点から考察していく。	
			フランスの音楽と芸術文化	芸術的創造の拠点となる都市としてパリは人を惹きつけ続けている。音楽を中心とする西洋の芸術文化を社会との関わりという視点を交えて体系的に学ぶことで、芸術文化について考察する力を培う。フランスの例から日本の芸術創造環境にも考えを巡らせ、更には自らの専門領域に対する洞察力を身につける。 先ずフランスに関する基礎知識を学びパリという都市について考える。そして、パリで脚光を浴びた作曲家や作品を追いながら、音楽を中心とする芸術文化と社会の関係について学習する。その際、歴史的には王室などの権力やキリスト教と音楽について見渡し、第五共和制以降は文化芸術政策として行われた具体的施策も紹介する。	
			先端芸術表現	膨大な情報そしてモノが溢れる現代社会において、芸術表現の手段となり得るメディアは多岐にわたる。先端芸術の「今」を理解し自ら表現することを通して、芸術表現の可能性に挑む。原始美術から現代美術に至るまで、人類が飽くことなく続けてきた表現の諸相を概観する。美術史の流れに照らして、現在の様々な表現へとつながる文脈を解説する。その上で、先端芸術表現の背景にある時代性をふまえたいくつかの技法・材料による表現活動を行う。	
			自己発見アート	アート表現を使ったセラピー的学習。ものを創造し、表現していく過程から、普段の生活では自覚しにくい潜在的な自己を発見する。自分自身をうまく表現する術、自発的にものを考える力、さらには、人とうまくコミュニケーションをとる手段などを身につける。様々な方法で自己表現の可能性を追求する。鉛筆を使ったドローイングや、紙を使った造形、プロジェクターを使った現代美術の紹介や、アートや表現についてのディスカッションを行う。	
			未来造形	未来について考え、そのイメージを作品として表現することで、現代を生きる自分自身が未来を構築していくための一員であることを自覚する。既成概念に捕われない発想力や想像力の育成と、基本的な表現技術の習得を目的とする。未来について考え、想像し、そこから生まれるイメージを絵本や作品にして表現する。様々な素材や方法を使い表現の可能性を追求する。	
			歌舞伎鑑賞入門	日本の伝統芸能の一つである歌舞伎について学び、その魅力に触れるとともに、そうした芸能を育んできた我が国の文化についても理解を深めることを目的とする。歌舞伎は、江戸時代以来の歴史を持つ日本独自の演劇であるが、多種多様な娯楽があふれる現代においても、なお多くの観客に支持され続けている。時代の変化と共に新たな要素を盛り込み、現代も生き続けている歌舞伎の魅力を探るとともに、これから歌舞伎を見たい、どんな世界か知りたいといった初心者にも楽しめるよう、代表的な演目について、映像や資料を使い、エピソードも交えて、歌舞伎の見方を解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	基礎 教養 科目 群	人文 科学 科目	日本の文化 I	自国の文化を学び、異なる文化的背景を持つ人々と知識を共有することは、現在のグローバル社会を理解するために有意義なアプローチである。この授業では、伝統的な日本文化と現代の日本文化の両方の重要な概念を学ぶことを目的としている。ディスカッションを通して自分の考えをクラスメートと共有し、日本文化を先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。「Long-Established Businesses」「Uniforms」「Homemakers of Japan」などをテーマとする。	
			日本の文化 II	自国の文化を学び、異なる文化的背景を持つ人々と知識を共有することは、現在のグローバル社会を理解するために有意義なアプローチである。この授業では、伝統的な日本文化と現代の日本文化の両方の重要な概念を学ぶことを目的としている。ディスカッションを通して自分の考えをクラスメートと共有し、日本文化を先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。「Japanized Foreign Dishes」「Voice Actors」「Senior Citizens」などをテーマとする。	
		遊びの人類学	「遊びとは何か」、遊びを文化(約束事)の問題として考えることを目的とする。遊びに凝縮・刻印されている文化と社会を、異文化理解と自文化理解の展望のもとに「調べ・考え・まとめ・実践する」ことを進めてゆく。初めに、J.ホイジンガとR.カイヨワや早くから遊びに注目して教育的価値を見出していたプラトンやソクラテスの遊び論について整理しながら、俯瞰的に見ていく。次いで、人類学、歴史学における世界各地の民族・集団における遊び現象についての豊富な事例研究の蓄積を分析することによって、遊びの当該社会においてもつ意味や価値について明らかにしていく。		
		SNSから日本語を見る	身近な存在であるSNSの言葉そのものに焦点を当て、表現や表記などの用いられ方に一定の法則があることなど、SNSの言葉の面白さと特徴を知ることを第一の目的とする。また、SNSで用いられる言葉の特徴やコミュニケーションのあり方について、その面白さをレポートとして記述できることを第二の目的とする。 SNSで用いられている言葉は、一般的な書き言葉とは異なる表記・表現が多く用いられている。しかし、それらも私たちが日ごろ使っている日本語の一部であることに変わりはない。その特徴的な表記・表現を具体的に取り上げ説明する。そして、それらの多くは無秩序に現れるのではなく傾向が認められることを確認する。また、SNSという身近な言葉の面白さを知るために、ミニ調査を行い、ミニレポートを作成する。		
	社会 科学 科目	現代世界の教育	現代世界の主な教育事情に注目し、それらにみられる特徴を明らかにし、世界の教育の動向を知ることによって、日本の教育の課題についてともに考えることを目的とする科目である。世界の主だった教育事情の概要およびそれとの関連で日本の教育の課題について受講生が理解し、説明できるようになることを到達目標とする。 世界の教育を、できるだけ視覚的、体験的に学習し、他の受講生の意見を共有しながら、世界や日本の教育が有する世界観・教育観の多様性を理解することをめざす。主に、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国や地域を対象とする。		
		差別と暴力のない世界をめざして	急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちと共に新しい人権・平和文化を育むことは、教養教育に課せられた大事な仕事である。そのために、人権・平和に関する諸問題について研究を行い、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成のあり方を探求する。 現代社会を生きる子どもと、子どもたちを取り巻く環境の検討から、人権感覚や平和を阻害している諸矛盾を解明することを目指す。そして、そこで明らかとなった今日的な課題を克服するのにふさわしい人権及び平和問題について研究活動を行い、その教訓を学び取る。そのことを通して、人権・平和文化が根差す新しい社会を形成していくことに貢献する共通教養のあり方を究明する。		

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	メディアに映る女性	様々なメディアが映し出す女性の今を「送り手」と「受け手」の両方の視点から探り、真実に迫るスキルと習慣を養うことを目的とする。新聞を中心に雑誌、インターネット、SNSなど様々なメディアから「女性」をキーワードに記事を取り上げ、同じニュースがメディアによってどのように報じられているか、差異があるならその違いはどこから生まれるのか、それぞれの記事がどのように真実を切り取り、記事として構成されているかを考える。	
			生涯福祉論	学生が、福祉における「ゆりかごから墓場まで」の生涯を通して日常生活で「快い生活とは何か」というサブテーマを考えながら、授業内容に関係する基本の福祉制度を知る。授業の約3分の2は、身近な生活をテーマに生涯福祉を「快い生活とは何か」を考えながら学習する。日本やアメリカでの社会の出来事、講師の経験談、著書、新聞スクラップ、既にサイトに公開されているYouTubeの閲覧、そして他の受講生の一部の匿名の課題等を用いてテーマに関する状況や制度について学習する。そして、自分にとっての「快い生活とは何か」を考え、最終的に授業内容を通して「自分はどう生きるか」を考える。残りは、提示された新聞スクラップ記事を用いて事前・事後学習に取り組む。	
			社会福祉とボランティア	学生が、福祉における医療、高齢者の介護、障がい者、そして貧困の領域で、「よりよい生活の確立」と、そのためのボランティアについて考える。サブテーマである「生きる力」について各領域で考え、ボランティアが「生きる力」にどのように繋がるのか具体的に考えることを目的とする。 ボランティアについての基礎的な知識を学んだ後、ボランティア経験のある学生から実際に経験したことを紹介してもらい、受講生のそれぞれの立場でボランティアの意義や動機など、深く考える時間を設ける。それ以外の授業内容の基礎的な知識、制度や事例については、新聞スクラップ記事、講師の経験談や事例（日本やアメリカでの）、著書、そして既にサイトで公開されているYouTube等を用いて各学習領域について深く考える。	
			福祉レクリエーションの実践	福祉レクリエーションとは、高齢者や障がい者に多く見られる生活支援を必要としている人々に対して、身体的・精神的な健康を意図して行われるレクリエーションの一分野である。とすれば、専門職に就く人間にのみ必要と特別扱いされ敬遠されがちな分野であるが、コミュニケーションやレクリエーションの方法を実際に体験しそのスキルを身につけるとともに、学生自身がおかれている家庭環境や社会環境を通じて、そのスキルや考えがこの社会で生活するすべての人間が必要なことであると理解することを目的とする。前半はレクリエーションゲームを体験しながら、コミュニケーションの変化や自分から他者へのアプローチについて学ぶ。後半は高齢者向けの「作る」レクリエーションを体験しながら、高齢者の理解と関わり方について学ぶ。	
			子育てと家族関係	家族の中には、夫婦、親子、兄弟姉妹などといったさまざまな関係が存在している。将来、親として子どもに接する自分像、あるいは家族像を構築するために、青年期から成人期における女性の発達をこれらの家族関係とのかかわり度とらえることにより、現在の家族の一員としての自分を再確認することを目的としている。 現代社会における「家族」は女性のライフスタイルの変化などの影響を受け、その形態も変化してきている。家族の意味と機能をふまえて、子育てという選択を自らの人生の中でどのように位置づけるのか、また、家族の中の人間関係がどのように影響し合っているのかについて講述する。さらに、家族をとりまく現代的課題を紹介する。	
子育てと母性の気づき	現代は、女性の社会進出によるライフスタイルの変化や、日常生活における乳児との接触機会の減少などの影響により、「産む」「育てる」ことが、個々の選択により委ねられる時代になったといえる。これをふまえた上で、出産というライフイベントに対する興味を喚起することを目的としている。母性本能、育児本能という言葉がある一方で、育児意欲の低下についての問題が世界的に一般化しつつあることも事実である。本講義では前半で子どもの発達について、特に変化の著しい乳幼児の身体発育、運動能力や感情の発達を、後半で母性に関するデータを紹介したり、子育て中の母親の問題をとりあげ、心理学的観点から講述する。				

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	環境心理学入門	学生が身の回りの環境と私たちの心の働きとがどのように関連するのかを学び、理解できるようになることを目的とする。私たちの心の働きは身の回りを取り巻くさまざまなものとの関係から影響を受けているが、その影響は必ずしも意識しやすい「モノ」との関係からとは限らない。人と人との距離、建物や通路の形が作り出す空間、コミュニケーションの方法など、意識化が難しいものからの影響も大きい。この授業では、私たちの心の働きを環境との関わりの中で考察する。その際、環境とは、地理的・物的な環境だけでなく、身の回りの他者に代表される社会的環境、インターネットなどの情報的環境、さらには、環境そのものが持っているシンボリックな意味を指す。授業で取り上げるトピックは、環境の知覚や空間行動などの基礎的な事柄から、環境問題や防犯・防災行動、SNSでの対人行動まで、比較的広範な事柄について取り上げる。	
			現代社会と憲法	日本国憲法の理念、体系について学ぶとともに、日本国憲法が具体的にいかなる形で日常生活に影響を与えているかを知ることによって、法的な思考プロセスの基礎を養うことを目的とする。各回の該当項目につき、パワーポイントで作成した資料を掲げつつ、要点を説明する。主要な論点については、判例等の具体例を示しつつ、掘り下げた説明を行う。必要に応じて最新のトピックにも触れ、憲法の理念を日常生活の具体的事象に落とし込むプロセスを紹介する。	
			教養としての法律	初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。日常生活に根差した具体的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。また、法律は時代とともに変化する学問であることを理解するため、講義では裁判員制度や法改正による選挙権者の年齢の変化など、最新の状況を反映したテーマを扱う。さらに、法律に関する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
			暮らしと法律	初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。日常生活に根差した具体的かつ現実的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。取り上げるテーマは、暮らしと関係をもとに大別して、人権・生活・犯罪の3つに分け、それぞれのテーマについて法律がどのように日常生活と関わっているのかを意識しながら、事例とともに学ぶ。また、法律に関する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
			女性と子どものヘルスケア	(概要) 思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、および健康を増進し、疾病を予防するためのセルフケアについて学ぶ。さらに子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法について学ぶことを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (46 北尾 美香／8回) 子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法について講義する。 (47 南口 陽子／7回) 思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、および健康を増進し、疾病を予防するためのセルフケアについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎 教養 科目 群	社会科学 科目	消費者生活論	学生が充実した消費生活を営むために、確かな目で商品・サービスを選択し、安全・安心な豊かな生活を手にすることができるようになることを主な目的としている。また、自身の消費行動が国内だけでなく世界の経済や環境に影響することについて学び、SDGsを達成するために消費者市民としての行動について考察することにより、卒業後の社会生活に活かせることを目的とする。前半は消費生活における問題やしくみ、対処法について解説する。消費生活に関連した資格取得も視野に入れ、消費者政策や法律を学び、消費者トラブルにあわないための正しい知識を習得できる内容とする。後半は、日常生活に関わりの深いテーマを取り上げ、消費者市民として、一人ひとりが社会でどのように行動するのが望ましいか、具体的に学ぶことができる内容とする。	
			英語で学ぶやさしい経済学	経済学の基礎知識を日本語と英語で学び、将来のキャリアに活かせる教養を身につけることを目的とする。テキストから経済学の基礎知識を学び、それを発展させて日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、グループでリサーチ、ディスカッション、分析を行い、その結果をクラスでシェアする。従来の英語読解の授業ではなく、英語を使って、経済学のコンセプトを学ぶ。	
			英語で学ぶお金の知識	大学生生活や将来のライフイベント、(就職、結婚、育児、老後)などに備えて、必要なお金の知識を日本語と英語で学び、自分の生き方にあったお金の活用方法を身につけ、合理的なライフプランを設計できる、ファイナンシャル・リテラシーを身につけることを目的とする。日本語教材からパーソナルファイナンスの基礎知識を学び、その知識を英語教材を使って発展させる。日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、グループでリサーチ、ディスカッション、分析を行い、その結果をクラスでシェアする。従来の英語読解の授業ではなく、英語を使って、パーソナルファイナンスのコンセプトを学ぶ。	
			我々の暮らしと日本の産業	産業とは何かを経済との関係でとらえた上で、日本の産業の移り変わりについて学ぶ。また、産業に対して政策が果たした役割について考え、日本の産業が抱える問題や課題を浮き彫りにする。さらに日本の第二次産業および第三次産業のなかから特徴的な業種を取りあげ、その歴史、特徴、課題等を学ぶとともに、今後の産業の姿を展望する。まず産業の定義や分類について明確にするとともに、日本において現在に至るまでの産業発展を達成した経緯を歴史的に概観する。次に、日本の主要な産業を取り上げ、各産業特有の現状と課題について解説する。また、産業情報の入手、分析方法についても示し、課題において各受講生が自ら興味ある産業を調査できるようにする。	
			メディア技術と文字デザイン	メディアテクノロジーと文字(書体/タイプデザイン)の歴史を紐解きつつ、メディアテクノロジーの進化が、人々の知覚にどのように関与してきたか考察する。それらを通して、人々の「みる」行為を意識するとともに、自身の情報発信のあり方(デザイン)を見直し、よりよい発信のための思考を身につけることが、本科目の目的である。下記1～4の内容を具体的な事例とともに解説をしていく。 1. 視覚メディアを中心としたメディアテクノロジー史(写真、印刷、映像)、2. グラフィックデザインの基礎(主にタイポグラフィ)、3. 20世紀の表現技術(テクノロジーアート、メディアアートを中心とした現代美術)、4. 21世紀の表現技術(デジタルテクノロジーと表現)	
			まちづくりと地方自治の役割	地方自治制度の概要と住民の暮らしやまちづくりのための取り組みを知り、行政施策の課題と解決策を考察する。地方自治に関する制度の概要について、地方自治法や身近な行政サービスをまじえて解説する。 住民の暮らしやまちづくりのために、地方自治体が果たしている役割や取り組みについて、地方自治体のホームページや公表資料も参考にして理解を深める。地方自治体の仕事が、自らの暮らしと密接なかかわりがあることを実感するとともに、行政施策の問題点や課題を見つけて、その解決策を自己の考えでまとめる。また、地方公務員に求められる地方自治に関する基礎知識を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	基礎 教養 科目 群	自然 科学 科目	文化を創造する数学	文化を創造してきた数学の世界を知的探究することを通して、社会人としての基礎的教養を伸長することを目的とする。具体的には江戸時代の日本の数学「和算」から今日的な数学の話題まで、数学のよさを見出したり、解法を説明したりする数学的活動を通して、大学入学までに学習してきた数学の意味や意義を考察する。前半は、日本が世界に誇り貢献してきた数学の内容（『塵劫記』など）と現代の数学との関連について考察する。後半は、今日的な世界や数学との関連のある話題について考察する。いずれも実際の問題を解決しながら、これまで学んできた数学の意味や意義を問い直す内容である。	
			生命科学入門	「生物」「いきもの」に関わるテーマについて、自分の身の回りの事柄を科学的に考察し、知っている事実からその現象を連想し理解することで、「生物学」「生命科学」に対する探求心を養うことを目的とする。「生命」とは何か？ どのようにできてきたのか？ 自然とどのようにつながっているのか？ など、自分が毎日「生きている」ことをあらためて考えてみるテーマを用意する。ニュースなどで「生命」に関する報道を聞いた時に、考えたり調べたりする初めの一歩になると同時に、専門講義に不安のある学生にとって「生物学」「生命科学」への第一歩となるように講義する。	
			生活の中の物理学	身の回りで見られる題材から、日常生活の素養となる物理学を習得する。論理的／数理的な考え方で自然を眺めたり、応用する力を養う。物理に限らず、科学的なリテラシー能力を得られるような広い話題から講義を進める。虹はどうしてできるのか、飛行機はなぜ飛べるのか、電子レンジのしくみは、など素朴な疑問を大切にしながら、日常生活の基礎に潜んでいる物理法則や理論を、トピックごとに掘り下げて解説する。また、自然現象に対する純粋な興味・疑問を持ち続けることの大切さも伝えたい。	
			最先端物理学が描く宇宙	物理学の歴史的な進展も交え、我々が現在までに得ている「宇宙」の観測的描像と理論的描像を紹介する。論争によって発展をつづけた科学的世界観や、宇宙物理学の諸問題を理解する。現代物理学の2つの柱である相対性理論・量子論を紹介し、宇宙が膨張していること・ブラックホールが存在していることはどうやってわかったのか、素粒子の確率解釈が必要となった理由は何かなど、物理学の根源的な問題を（数式ではなく）論理的な展開を軸に解説する。宇宙の階層構造を説明したのち、歴史的な話に入る。近代科学の発端、そして相対性理論と量子力学が描く現代物理学の内容を紹介し、最先端の宇宙像を紹介する。話題となる科学ニュースの解説も適宜行う。	
			微生物がつくる発酵食品の不思議	私たちの生活の中で当たり前になっている食品が、どのようにして作られているのかについては、あまり知られていない。そこで、“食品がどのように作られているのか？”、“発酵食品とは何か？”、“微生物がどのように食品に関与しているのか？”など不思議な謎を解く講義を通して、食品をより理解することを科目目的とする。「微生物学」「化学」「生物学」「食品学」「食品加工学」の要素を合体させ、“発酵食品がどのように作られるのか？”また、“微生物の発酵作用によってどのような変化が生じているのか？”“そもそも微生物とは？”“私たちの生活に微生物はどのようにかかわっているのか？”などの疑問を明らかにする。さらに、発酵食品以外の身近な加工食品についても学習する。	
			薬の歴史と未来	(概要) 近代から現代にわたる薬学の歴史を通じて、生命現象と薬のかかわり、社会と薬の関わりを理解し、医療における薬の在り方について考える。薬に関する歴史的事項、現在の医療における薬、今後の医療で期待される薬に関するトピックを取りあげ、個人での調査を基にグループワークで内容を掘り下げ、今後の薬のあるべき姿を考える。 (オムニバス方式／全15回) (30 萩森 政頼／3回) 薬の歴史に関する導入講義を行なったのち、薬についての調査研究のグループワーク・発表の演習を行う。 (31 矢野 義明／12回) 現在使用されている薬に関する導入講義を行なったのち、薬についての調査研究のグループワーク・発表の演習を行う。第10回～第15回は、まだこの世には存在しないが未来の医療での使用が期待される薬に関し、研究調査プラス想像力も働かせて、仮想の新薬開発企画の立案を目標にグループワーク・発表の演習を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	基礎 教養 科目 群	自然 科学 科目	<p>(概要) 薬は生きていく上で、多くの人が使用するため、本講義では薬や身体に関する正しい知識を身につけ、医薬品を適切に使用することを目的とする。まず医薬品の概要を示し、各疾患で使われる治療薬やその作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32 吉田 都/8回) 医薬品とは何かについて説明し、神経系に作用する薬、抗炎症薬、骨・カルシウム代謝や免疫・アレルギーに作用する薬の概要を示し、その作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。</p> <p>(51 小島 穂菜美/7回) 循環器系、血液・造血器系、泌尿器系・生殖器系、呼吸器系、消化器系、代謝系、内分泌系、感覚器系、皮膚のそれぞれに作用する薬の概要を示し、その作用メカニズム、それぞれの疾患に合った薬の形、服用方法を説明する。</p>	オムニバス方式
			薬とからだ	<p>(概要) 身近な疾患や治療薬、薬の飲み合わせについて、Q&Aを交えながら概説するとともに、安全かつ効果的にセルフメディケーションを実践するために必要な情報、要指導医薬品・一般用医薬品等について説明する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(34 栗原 晶子/5回) 身近な疾患、治療薬、相互作用、薬の飲み合わせ、患者から多く寄せられる質問に基づく薬の使い方について解説する。</p> <p>(33 田内 義彦/10回) セルフメディケーション、要指導医薬品・一般用医薬品等について解説する。</p>
	国際 理解 科目	韓国文化の理解	<p>韓国の文化と社会について基礎的な知識をはじめ、多様な韓国文化に対する理解を含めることを目標とする。韓国・朝鮮半島における歴史の基礎知識を含め、「文化」というフレーム・ワークに注意を払いながら、韓国におけるサブ・カルチャーというものをテーマ別に分けて取り上げる。特に、現代の韓国文化だけではなく、その源泉ともなる伝統文化にも注目し、「韓国文化」全般に対する理解を深める。</p>	
		中国文化論	<p>豊かな奥深い中国文化の基礎知識を概説することを目的とする。第一部分「風土と民族」(第1～3回)は、多様な環境から生み出された文化、移動と融合によって形成されてきた「中華民族」の変遷を説明する。第二部分「伝承と沈殿」(第4～6回)は、中国文化を伝承する最も重要な媒体である漢字について解説する。第三部分「家族と統合」(第7～9回)は、中国人の家族・宗族制度とこれを基礎とした社会のあり方を解説する。第四部分「教養と娯楽」(第10～12回)は、教養として文学と絵画、人々の心を引きつける演劇の魅力映像によって感じてもらう。第五部分「心と体」(第13～15回)は、中国人の多様な宗教信仰、パワーの源である中華料理の魅力を伝える。</p>	
		国際協力入門	<p>国際協力が何故必要なのか、また国際協力はどのように行われているかについての基本的な知識を提供することを目的としている。前半部に、国際協力が何故必要なのか、その目的は何なのかを検討する。その後、基本的な国際協力の歴史や仕組みを説明していく。後半は、具体的な事象を例として、前半部で修得した国際協力の仕組みが実際にどのように機能しているか、また問題点は何なのかなどを考察する。また、多くの学生が関心を持っている事項があれば、後半の内容を変更して議論することも検討し、学生の関心に応えるようにする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目	世界の中の日本人	普段あまり意識することのない文化が自己形成や心のしくみにどのような影響を与えているのか、また文化の中で生きる人間の生き方が、どのように文化や社会を維持・変革しているのかを分析・考察できるようになることを目的とする。まず、自己イメージや自己形成に文化がどのような影響を与えているのか、また差別や偏見に文化がどのように関わっているのかについて概説する。その後、結婚や育児などの身近な事柄が、文化によってどのように異なるのか、また、日本や日本人は、他国と比較して、どのような特徴があるのかについて考察する。	
		現代トピック科目	モラルジレンマから考える私	日常生活には様々なモラルジレンマがあり、これらは正解がはっきりしないことも多い。社会の中で生活するためには、自分の意見を明確にするとともに、他者との議論を通じて、自分の意見を見つめ直すことも必要となる。本授業ではこのジレンマ過程を実際に経験しながら、自分と異なる意見にも耳を傾ける態度を養い、自分自身について見つめ直すことを目的としている。提示したジレンマ課題について、ランダムに賛成か反対かのどちらかに割り振られる。その立場のデータや資料を集め、レポートを作成する。ディベート判定会では、各自のレポートを公開し、互いに読みあい、クラス全体としてのディベート判定を行う。	
		女性のためのマーケティング	身近な事例にもとづいてマーケティングの基本を習得し、マーケティングへの理解と興味を深めて、将来的にマーケティングに関わる業務で活用できることを目的としている。前半はマーケティングの定義と成り立ち、マーケティングの基本概念（STP、マーケティングミックス4P等）について、後半はマーケティングの応用理論としてマーケティングマネジメント（サプライチェーン・営業・リレーションシップ・ブランド・ソーシャル・サービス等）について学ぶ。講義内容を深く理解する為に、身近な商品・サービス事例を取り上げ、概念・理論と関連付けて説明する。		
		Current Affairs in Japan I	日本の様々な時事問題に関連するトピックを、日本人学生と海外からの学生が共同で学び、考え、議論する機会を提供する。メディアや学術論文を読み、日本が直面している様々な社会的・文化的問題や課題について考察する。「日本の学校教育」や「女性の仕事観や管理職の格差」「日米の医療制度」など様々なテーマを用意し、学生同士の議論を通じて日本と海外の共通点や相違点を検討する。		
		Current Affairs in Japan II	日本の様々な時事問題に関連するトピックを、日本人学生と海外からの学生が共同で学び、考え、議論する機会を提供する。メディアや学術論文を読み、日本が直面している様々な社会的・文化的問題や課題について考察する。テーマは日本のアイドルや教育制度、領土問題など様々ある中から学生の興味関心に応じて設定し、学生同士の議論を通じて日本と海外の共通点や相違点を検討する。		
ジェンダー科目群		セクシュアリティ入門	この科目の目的は、セクシュアリティという概念への着目を通して、性の多様性に関する知識と意識を高め、自分も含めた一人ひとりの違いを尊重できる感覚を培うことである。セクシュアリティに関する基本的用語を説明し、身体的、心理的、社会的などさまざまな側面からセクシュアリティを概観する。また、人権にまつわる歴史的な出来事を示し、多様な性のあり方について考察する。基本的には講義形式で進めるが、リアクションペーパーやレポートの共有を通して、他の人の意見や感想を聞く機会を設け、できる限り対話のある授業とする。		
		女性の身体とセクシュアリティ	ジェンダーの理論やセクシュアリティに関する事柄を理解し、自分の身体や性について考察できるようになることを目的とする。ジェンダーに関する理論や日本社会における女性が抱える問題について概説する。また、セクシュアリティに関する概念や若者の性行動や性意識について考察し、LGBTsについての理解を深める。最後に、女性が罹りやすい障害についての情報を共有し、それらへの対処法について考察する。		
		メディアに見るジェンダー	メディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析することにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考できるようになることを目的とする。女性が被害に合うことが多いドメスティック・バイオレンスや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを、メディアを通して検討する。尚、この授業は双方向型・参加型の手法を用いる。		

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ジェンダー科目群	女性が輝く社会づくり	働く女性を守る法と権利の現状を理解したうえで、その生き方に自信と誇りを持って活躍できる社会への変化の意義と課題を学ぶ。女性活躍推進法の内容を説明し、働く女性の権利を学ぶ。女性が活躍できる社会への変化がなぜ必要なのか、その意義、および、法による権利で十分なのかなどについて考察する。以上を踏まえたうえで、女性にとって働きやすい職場の条件を探り、進路選択に活かすことができるように、アクティブ・ラーニングによって、知識をどう応用していくのかを考える。	
	キャリアデザイン科目群	女性のためのライフプランニング	自らの夢を実現するために、何を学び、いかに自らの能力を伸ばすのかを考える。また、キャリアについてどう戦略的に考え行動するか、女性としてどう生きるかを重要なポイントととらえ、有意義なライフプランを考える。まずライフプランニングの大切さを知り、学生の間にするべきこと、社会人として求められる力を理解して、自分が到達、習得できているかを知る。その後、女性を取り巻く社会環境を学習して、自らの理想のライフプランを確立する。また、円滑なコミュニケーションのためアサーティブコミュニケーションや正しい日本語も学習する。その後、世界の動きを知るため時事問題を学ぶ。	
		自己アピールトレーニング	自分自身を最大にプレゼンテーションすることを目標とするために必要な知識や技能を身につけることを目標とする。まず社会や企業が求める人材を知る。次に自分の長所を明確に出せるプレゼンテーションが面接でできるよう、発声、立ち居振る舞い、ウォーキング、敬語、スピーチトレーニングを行う。実技や実践に重きを置き、ビデオ撮影、フィードバックをすることにより、より確実にスキルを身につける。	
		キャリアビジョンと人物評価	雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。	
言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語コミュニケーションⅠ	英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。授業はすべて英語で行う。講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。	
		英語コミュニケーションⅡ	英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。授業はすべて英語で行う。授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメートと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。	
		英語コミュニケーションⅢ	コミュニケーションスキルを高めることはスピーキングとリスニングの自然な一部である。この科目では旅行、気候、健康、文化、社会に関連するテーマについて知識を深める。批判的思考を通じて様々な集団の人々の持つ視点を見つけることを学ぶ上でコミュニケーションに対する認識が重要視される。興味深い考えが多く含まれるテーマが取り上げられ、受講生は考え、議論することを求められる。	
		英語コミュニケーションⅣ	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。アジア地域の諸問題、特に東アジアに関する問題を取り上げる。テーマは旅行、家族観、環境、都市生活、ビジネス、食文化、娯楽などを扱う。テーマは基本的に授業担当者が選択するが、受講生はテーマの選択と研究、発表をする場合には好きなテーマを選び、「ディスカッションリーダー」として授業内で共有する。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語リーディングⅠ	初級レベルの学生がパラグラフの構造や読み方のコツを知り、効率的、かつ確実に英文の内容を理解できるようになることを目的とする。様々な英文を読み、文のパターンを理解し、英文の論理的な読み方を学ぶ。文法事項や表現を復習するとともに、語彙力も培う。学習したリーディングストラテジーを使用し、多岐にわたるトピックに関する英文を読み、英文読解能力、語彙、文法力を高める。またトピックに関するライティング活動を通してアウトプットも行う。	
			英語リーディングⅡ	様々な話題・形式の英文を読み、長文を理解するトレーニングを行う。パラグラフの要点を読み取る方法(スキミング)を学び、必要な情報を収集する力(スキヤニング)を身につける。専門分野の英語文献を理解するための素地を培うことを目的とする。精読と多読アプローチを組み合わせ、スキミングやスキヤニングなどのリーディングスキルに加えて、短い意味のまとまり毎にスラッシュを入れて前から順に理解するフレーズリーディング(速読)の技術を学ぶ。また、リーディング課題のシャドーイングや音読も行う。	
			英語ライティングⅠ	メールやLINEメッセージなどの日常的なライティングをはじめ、ネット利用の際に発生する「書く」やりとりにも活用できる語彙やフレーズを、「英作文」の練習を繰り返すことで習得し、短いセンテンスを用い、自分の意見を伝えることができるライティングの基礎力を身につけることを目的とする。英語でメールを書く際に様々な状況で役に立つ表現を学ぶ。特に、相手を気遣ったり、相手との人間関係に配慮する「コミュニケーション」を重視し、さらに、英語文化の発想にも留意しライティングに必要な総合的な事柄を学ぶ。	
			英語ライティングⅡ	エッセイやニュース記事など多種多様なジャンルの英文を読みながら、使用語彙・表現・パラグラフの成り立ちなどを学び、自分の意見・提案・説明など様々な状況に応じ、論理的な英文を書くために必要な文章構成力を身につける。	
			TOEIC演習Ⅰ	TOEIC未受験者を含め、初級レベルの学生が、各設問形式に慣れることを目的とする。授業では演習問題を通じて、各パートの設問形式を理解するとともに、TOEICに頻出する単語や表現と基礎的な文法事項を学ぶ。また、リピート練習や音読練習を行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEIC演習Ⅱ	基礎的な英語力があり、TOEICの試験形式にある程度慣れている学生が、多くの模擬問題にふれることで、さらなるスコアアップを目指すことを目的とする。授業では、タイムマネージメントを意識しながら演習問題に取り組み、各パートを解く上での解法スキルをマスターする。また、正答の根拠を明らかにすることで、正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEIC演習Ⅲ	上級レベルを目指す学生が、難易度が高い問題に数多く取り組むことにより、一層のスコアアップを図ることを目的とする。授業では、高度な情報処理能力が問われるPart3、4、7を中心に大量の問題演習を行い、英語の処理スピードを上げることでスコアアップにつなげる。また、不正解の選択肢の間違っている理由を明確化することで正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEFL演習	大学・大学院留学を目指している、あるいは、よりアカデミックな内容の英語を学びたい学生が、TOEFLの問題形式に慣れ、目標点数取得に必要な語彙力・リスニング力・リーディング力を獲得することを目的とする。Section1対策としてリスニングのPartA、B、C、Section 2で問われる文法知識問題、Section 3対策となる300～400wordsの長文読解等を始めとするTOEFL ITP形式の問題に取り組みながら、テストの形式に慣れる。毎回小テストを行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目 言語・ 情報 科目 群	言語 リテ ラシー 科目		
	TOEIC(初級)	TOEIC試験の形式に慣れ、英語力の向上と共に効率よくスコアアップをはかることを目的とする。TOEICの問題形式に慣れるために、よく用いられるテーマや語彙、又どのような状況で使われるのかといった背景知識も併せて学ぶ。スコア500点を取得するために正答しなければならない問題と、現時点では解く必要がないハイスコアを目指すための問題とを瞬時に判断し、限られた試験時間を無駄にしないためのタイムマネジメント力を身に付ける。	
	Basics for Presentation I	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む)＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 550-600点程度の英語力の習得と、腹式呼吸を身につけ適切な音量で話すことができ、英語で簡単な内容のスピーチを行えることを目標とする。「発信するスピーチ」の練習と講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
	Basics for Presentation II	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む)＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 600-650点程度の英語力習得と、英語で即興スピーチを行いながら聴衆の反応をコントロールすることを目標とする。前期に引き続き、短いスピーチを繰り返し行うとともに講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
	Grammar for Communication	英語の読解力、作文力、コミュニケーション能力向上に必要な不可欠な文法・構文の知識を修得する。文法演習により文の構造への理解を深め、情報の意味や意図を正しく把握することができる。また、TOEICの文法・語法問題のスコアアップを目指す。各文法事項の練習問題を解き、理解が不十分な箇所を重点的に学ぶ。また、それらの文法事項に関連したTOEICの文法・語法問題にも取り組む。	
	Reading & Writing	さまざまなトピックやスタイルのリーディング課題を通して、興味や背景知識の幅を広げ、情報量の多い英文を速く、正確に読むことができ、また、英文パラグラフ・ライティングの構成法を学習し、自分の考えを英語で表現することができることを目標とする。英文を短い意味の固まりごとにスラッシュを入れて区切り、前から順に理解するフレーズリーディングのスキルを習得する。また、パラグラフの典型的な文章構成や表現方法を学び、reader-centeredを意識した読みやすい英文を書く練習を行う。授業外では、図書館で自分のレベルに合った多読教材を選び、直読直解を基本にできるだけたくさん読む。	
	Speaking & Listening I	対話を成功させるための様々なコミュニケーション方法を学び、聞きとれるが話せない表現を話せるようにすることを目的とする。学んだ表現をすぐに会話の中で繰り返すことによってスピーキングとリスニングのスキルを向上させる。様々なシチュエーションでのコミュニケーション能力を短期間で身につける。	
	Speaking & Listening II	「Speaking & Listening I」で学んだスキルを使い、コミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。スピーキング力を高め、複雑なシチュエーションでスムーズな会話ができるようになり、またリスニング力を高め、実際に話されているような英会話を聞き取れるようにすることを目的とする。このようなスキルを磨くことで、効果的かつ自信を持ってコミュニケーションがとれることを目標とする。	
Speaking & Listening III	「Speaking & Listening I・II」で学んだコミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。英語で自身の経験やアイデアを用いながら、意見を発する自信をつけていくことを目標とする。学生はスピーキング力の達成状況を記録するツールを使い、学習を進める。授業内だけでなく授業外でも英語を使う機会を増やす。		

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	言語・ 情報 科目 群	言語 リテ ラシー 科目	Presentation	プレゼンテーションは、創造的なアイデアや個人的な意見、興味深い情報を人々に伝えるためのものである。この授業ではメディアと科学技術、社会と人間との関係、健康と環境、旅行と文化、教育などのトピックを取り上げ、効果的なプレゼンテーションスキルを身につける。	
			Writing I	この授業では、英語のライティング能力を向上させ、質の高い文章が書けるようになることを目指す。効果的な文章構成スキルを学び、語彙や表現、文法などライティング能力を身につける。様々なジャンルやスタイルの英語文章を紹介した上で、学生の興味、関心に応じてトピックを設定し、多くの文章を書く。また、学生どうしのディスカッションを通して英語のスピーキングとリスニングも向上させる機会も設ける。	
			Writing II	「Writing I」で学んだライティング能力をさらに発展させ、質の高いエッセイを書く能力を身につける。序文、本文、結論といった英作文の構成に加えて、テーマの立て方や、自らの考えを効果的に表現する方法などを学ぶ。また、実際に英語の文章を作成し、語彙や表現、文法を効果的に使用する方法を学ぶ。様々なトピックについてのエッセイを書くことに加えて、TOEFLなどの資格対策も行う。また、学生どうしのディスカッションを通して英語のスピーキングとリスニングも向上させる機会も設ける。	
			English for Careers	英語を使うのは、英語を母国語とする人々だけではない。外国人と接する機会のあるキャリアでは、英語を母国語としない人々の間でもコミュニケーション言語として英語が使われている。本授業では、日本のさまざまな「仕事の現場」で、英語を使ってコミュニケーションを図っている人々を事例に取り上げる。キャリアで英語を使うにあたって不可欠な単語や言い回しを学習すると同時に、英語がどのような役割を担っているかを理解する。電話・メール対応といった、直接キャリアで英語を使うことを想定した練習も行う予定である。	
			Reading & Discussion	現代社会が抱える様々な問題についてテキストおよび参考資料を読んだ上で、意見を述べたりディスカッションできるようにすることを目標とする。現代の社会問題に関する幅広い知識を「読み」を通して得ると同時に、他の意見を尊重しつつ自分の意見を発信し考えを深める。エネルギー問題、移民問題、女性の社会進出、能力給など現代の社会問題に関するテキストを読み、物事を批判的に考えるスキルを学びつつ、英語で自分の意見をまとめたり、それを基にディスカッションする。	
			Global Communication I	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。世界各地の社会問題をテーマとする。それらのテーマについてディスカッションすることでテーマに対する理解を深めるだけでなく、グローバルなレベルで必要なコミュニケーションのための素養を養うことを目的とする。授業で学ぶべき重要なテーマは講師が選択するが、受講生も自分でテーマを選び、研究して授業で発表することができる。授業で取り上げるリーディング教材は信頼性のある英語のニュース報道を使用する。	
			Global Communication II	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。Global Communication Iのディスカッションのテーマを発展させ、さらに広範囲な世界各地の社会問題をテーマとする。それらのテーマについてディスカッションすることでテーマに対する理解を深めるだけでなく、グローバルなレベルで必要なコミュニケーション力を培うことを目的とする。授業で学ぶべき重要なテーマは講師が選択するが、受講生も自分でテーマを選び、研究して授業で発表することができる。授業で扱うリーディング教材は信頼性のある英語のニュース報道を使用する。	
			Current Events I	時事問題は新聞やネットニュース、ラジオ、テレビなどあらゆる角度から報道されている。受講生が自身の意見の説得力を高めるために情報収集をする際、様々な情報源を活用する力が大事である。この科目では、流行や多数派の意見がどのように自分の考えに影響を及ぼしているか見極めることが主要な学習の一つである。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	言語・ 情報 科目群	言語 リテ ラシー 科目	Current Events II	この授業では教育、雇用、健康、文化、宗教に関する時事問題の肯定的な面と否定的な面について知識を深める。受講生はテーマの内容とそのテーマが誰に関係するかについて発表するが、その際にはコミュニケーションに対する認識が重要視される。受講生は、時事問題に影響を受ける少数派の人々、難民、子ども、高齢者などの特定集団それぞれの視点を理解する。	
			Reading & Critical Thinking	クリティカル・シンキングを踏まえたリーディングトレーニングを行い、より深く「読む」力を身につける。Critical Thinking (CT)とは、「何事も鵜呑みにせず、自分の頭で考えること」である。本授業では、英語リーディングにCTを応用し、科学的・客観的に物事を捉える力を身につけることを目的とする。クリティカル・シンキングをベースにしたリーディングのための語彙を学び、ディクテーションにより、細部まで音の確認をしたのち、リーディング作業に入る。またクリティカル・シンキングとは何かを考え、リーディングやディスカッションを行う。	
			Career Workshop	大学入学後から現在までの自身を振り返り、卒業後の進路についてどのように思いが変化したか(あるいは一貫していたか)について自身の言葉で語り、グループで討論しながら、自らの考えを明確にするとともに仲間の意見を通じて新たな考え方や新領域について学ぶ。自己表現と相互理解のためのコミュニケーション力の総仕上げを行うことを目的とする。	
			ドイツ語 I	学生がドイツ語の骨組みを理解できるようになることを目的とする。テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全体をバランスよく学習する。また対話練習によってコミュニケーション能力を身につける。学生が、ドイツ語圏の文化的背景を具体的に理解できるよう視聴覚教材を使用する。ドイツ語をはじめて学ぶ人に、発音・文法の説明・練習を通じてドイツ語の読解力・コミュニケーション能力を養成する。また、レーゼテキストを活用した会話練習も行う。それと同時に、学生がドイツ語の学習によって、ドイツという国自体、その文化や価値観に興味を持てるように、コラムやビデオ教材を使い様々な情報を積極的に紹介する。	
			ドイツ語 II	ドイツ語コミュニケーション能力を養成し、ドイツ語検定試験4級の合格レベルの実力を養う。教員が各課の文法を説明し、受講者の理解度を確認する。新たに学ぶ文法については練習問題を通じ定着を図る。そのうち、受講生はテーマに沿った対話を作成し、発表する。数課ごとに、小テストを実施し、内容を理解できているかを確認する。また、視聴覚教材を使ってリスニングを鍛錬し、簡単な読み物で読解力や表現力のバリエーションを習得する。	
			フランス語 I	初めてフランス語に触れる学生が、フランス語の基本的な構造を理解することを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。授業では「暗記」よりも学生の「理解」を前提とし、授業の指針としたい。文法については必要に応じてプリントを配布し、練習問題を通じて各文法事項が確実に身につくよう指導していく。	
			フランス語 II	フランス語 I で修得したフランス語の基本の発展を目的とする。文法知識を補うとともに、単語面でも充実をはかることを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。	
			フランス語 I A	初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言葉を通じて、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜履修事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目		
		フランス語 I B	初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言葉や文化を学ぶ事を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜履修事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	
		中国語 I	初級レベルの中国語を習得する。発音、基礎文型を学び、「読む・聞く・書く・話す」の総合的な中国語力を身につけ、実際に中国語を使って基礎的な会話ができることを目的とする。前半は、主に発音方法を学び、音読練習を重ねながら、中国語の正しい発音ができるよう練習する。中盤、後半は、中国語の基本語彙、基本文型・表現を学ぶ。これらの総合的な習得により中国語の活用力を高める。	
		中国語 II	準中級レベルの中国語を習得する。基礎的な中国語力のある学生が、日常より多くの場面で中国語を使って会話できる力を身につけることを目的とする。会話に必要な語彙およびより高度な表現を学習する。前半は、主に「中国語 I」で学習した発音、会話に必要な文法事項の復習、その内容を使っての会話を行う。中盤、後半は、より高度な表現、語彙を学ぶ。中国語の背景にある中国文化、風俗習慣、現代中国事情にも触れ、中国語及び中国への理解を深める。	
		イタリア語 I A	イタリア語の骨組を修得することを目標とし、テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をマスターする。また、イタリアの生活文化に触れることでグローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識を修得する。授業はイタリア語の初歩を、文化的背景を交えつつ、旅行先などでの状況設定を使い、楽しく会話方式で学ぶ。具体的にはカンツォーネやイタリア映画、イタリア語の絵本や新聞記事、Webサイトなどを紹介しながら学ぶ。	
		イタリア語 I B	「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をバランスよく学習し、簡単な日常会話、自己紹介、旅行会話ができるようになるレベルの実力を養うことを目的とする。授業ではロールプレイを設定したコミュニケーションの表現を通して、主体的にイタリア語での会話ができるように導く反復練習を行う。またイタリアの文化に触れ、理解を深め、将来の留学・研修にも役立つ実践的基礎力を培う。	
		スペイン語 I	スペイン語を初めて学習する者を対象に、スペイン語文法の基礎を身につけ、これを用いて平易な文章を理解し、さらにスペイン語による日常会話の習得を目的とする。授業では、スペイン語圏の国々の歴史や文化的背景といったトピックなども適宜取り上げ、学生が語学の外へも興味を広げていくことを目指す。各回で取り上げられるモデル文、および語彙や文法事項を習得し、多くの問題やアクティビティをこなすことによってこれらを定着させる。また、モデル会話を繰り返し聞き、リピートすることで、スペイン語の音に慣れることを目指す。	
		ハングル I	韓国語の基礎を学び、コミュニケーション能力を身につけ、社会的文化的背景を理解する。初めにハングル文字の読み書きを身につけ、ハムニダ体・ヘヨ体の名詞文とその否定、ハムニダ体の用言文、疑問詞の使い方、基本的な助詞、数字を含む表現などを学ぶ。過去形、尊敬形、命令形など、文末の文体や時制の変換、補助語幹の着脱が素早くできるように練習する。発音を重視しながら、身近な会話表現を習得する。	
ハングル II	韓国語での意思疎通に必要な中級の語尾や語彙を習得するとともに韓国語での情報発信能力と聴解能力をつける。合わせて韓国や日本の文化的な内容も学ぶ。 文法は連体形や変則活用の用言を学んだ後に、テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。コンピュータやスマホ上でのハングルの入力の仕方も習得する。韓国語の作文(レポート)を書き、添削を通じて正しい韓国語の書き方を学ぶ。			

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	特別英語演習 I	学生が英語を母語とする社会において英語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。アメリカ分校またはオーストラリアで3週間、集中的に英語および異文化の研修をする。午前中は英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。英語学習や異文化経験を通して欧米の文化・歴史・習慣を調べ、同時に自国の文化と比較する。	集中
		特別英語演習 II	学生が英語を母語とする社会において英語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。アメリカ分校またはオーストラリアで3週間、集中的に英語および異文化の研修をする。午前中は英語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加する。英語学習や異文化経験を通して欧米の文化・歴史・習慣を調べ、同時に自国の文化と比較する。	集中
		特別中国語演習 I	中国語を母語とする社会において中国語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。中国（台湾）の協定大学で2週間、集中的に中国語および異文化の研修をする。午前中は中国語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加したり、現地学生と交流する。言語習得を通して、中国（台湾）の文化、歴史、生活を知り、同時に自国の文化等と比較することができる能力を養う。	集中
		特別中国語演習 II	中国語を母語とする社会において中国語によるコミュニケーション力をつけることを目的とする。中国（台湾）の協定大学で2週間、集中的に中国語および異文化の研修をする。午前中は中国語を中心に学び、午後は文化理解のための授業や文化活動に参加したり、現地学生と交流する。言語習得を通して、中国（台湾）の文化、歴史、生活を知り、同時に自国の文化等と比較することができる能力を養う。	集中
		特別ハングル演習 I	韓国社会において生きた韓国語を学び、文化体験を通してその言語や文化を理解できるようになることを目的とする。韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国の伝統文化を実体験する。韓国の人々の考え方・感じ方について考察し、東アジアにおける日本文化の位置づけを再認識する。	集中
		特別ハングル演習 II	韓国社会において生きた韓国語を学び、文化体験を通してその言語や文化を理解できるようになることを目的とする。韓国の協定大学で韓国語および韓国文化の研修を3週間行う。授業は韓国語の会話、聴き取り、読解、作文の4技能を集中的に学習する。午前中は韓国語授業を受講し、午後には韓国の伝統文化を実体験する。韓国の人々の考え方・感じ方について考察し、東アジアにおける日本文化の位置づけを再認識する。	集中
	情報リテラシー科目	Accessデータベース基礎	データベースソフト、Microsoft Accessの操作方法と活用方法およびタッチタイプを修得する。データベースの設計から基本的なデータベースの作成、データベースの活用までを、実習を交えて学ぶ。毎回10分程度タッチタイプの練習を行い、キーボードを見なくてもタイプできるよう練習する。	
		情報社会を生きる技術	パソコンやスマートフォンでインターネットを利用する上での情報セキュリティについて学習する。情報セキュリティやインターネットで使用されている技術など、授業で提示されるテーマについて自ら調べ、講義でまとめる。その時々に応じてトレンドな項目について取り上げ、問題点を考え、対処方法を調べる。授業中に数回小テストを実施する。	
		Webデザイン基礎	この科目では、ホームページの作成に利用されるHTML言語の基礎を学び、ホームページの仕組みを理解することが目的である。さらに、HTML言語を用いて、オリジナルのホームページが作成できるようになることが、この科目の目的となる。毎回の授業では、Webページを作成する際に利用するHTML言語の基本を段階を追って学習する。具体的には、Webページ作成に用いるHTML言語の命令であるタグを基礎的なものから応用的なものまで学習する。多数の例題演習を通じて段階的に学習し、その成果物としてオリジナルのWebページを制作する。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	Webデザイン応用	Web制作の基礎知識を土台にして、CSSを利用した実践的なWebサイトの制作技術を学ぶ。Webサイト制作の実習を行い、サイトコンセプトに応じたWebページを効率よく構築する技法を学習する。これにより今日のWebサイトの仕組みを理解し、仕様に応じたWebサイトを構築する手法を習得する。前半はWebサイト制作例題にそって、Webサイトの制作手法と、CSSによる効率的なデザイン手法を中心に学ぶ。後半はWebサイト掲載用の写真編集、JavaScriptなどインタラクティブ要素の導入、CSSレイアウト機能とレスポンシブデザインについて実習する。	
			Scratchによるプログラミング	プログラミングを学習することにより論理的思考ができるようになり、問題解決能力を高めることを目標とする。授業で使用するプログラミング学習環境は、米国MITで開発されたScratchとよばれるものである。簡単なスカッシュゲームなどを作成しながら論理的な考え方の学習を行う。	
			グラフィックデザイン基礎	DTPなどグラフィックデザイン分野で、必要不可欠な技術となったコンピュータによるデザイン描画について、その基礎技法を習得する。DTP業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のIllustratorを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。Illustratorでの描画操作の実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は図形描画技法を実習し、オリジナルマークを制作、中期は文字・段落の表現技法を実習し、オリジナルCDラベルを制作する。後期は立体表現やグラフ描画など発展的な制作手法を学び、オリジナルのカタログを制作する。	
			フォトレタッチ基礎	写真表現において、必要不可欠な技術となったコンピュータによるフォトレタッチについて、その基礎技法を習得する。写真業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のPhotoshopを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。Photoshopでの写真加工実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は描画機能と文字機能を実習し、オリジナルバナーを制作、中期は写真の合成手法を実習し、オリジナルのファンタジー写真を制作する。後期は汚れの除去や色調の補正手法を実習し、オリジナルの合成写真を制作する。	
			データサイエンスの基礎とExcel	データサイエンスの基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても重要となる統計学の基本的な考え方と統計解析の手法を演習形式で習得することを目的とする。前半の授業では、設定されたテーマについて内容を配信動画で説明する。また、テーマに関するExcelの演習問題に取り組み提出する。授業の後半では、実際に行われたアンケート調査データを分析し、データの可視化から現状を分析したり、課題の解決策を提案するなど、課題演習に取り組む。また、それらの内容からレポート (Word) およびプレゼンテーション資料 (PowerPoint) を作成し、第三者にわかりやすく説明する表現内容について学習する。	
			データサイエンスの応用とExcel	「データサイエンスの基礎とExcel」の発展科目として、推測統計学と多変量解析の基礎について学習する。また、ビッグデータ時代の到来により、大量なデータを活用する能力が必要とされているが、本講義ではデータによる問題の発見、調査の計画、データの収集と分析、結論の導出など、一連の過程を体験し、データに基づいて課題を解決する能力を身に付けることを目的とする。前半の授業では、配付資料をもとに説明を行い、Excelを用いた統計解析を実施する。後半の授業では、地域企業と連携し、企業から提供されたデータセットを小グループで分析する課題演習を行う。また、その分析結果をパワーポイントにまとめ、最後にグループ全員でプレゼンテーション発表を実施する。課題演習を行うにあたり、必要に応じて現地調査を行う場合もある。	
データリテラシー・AIの基礎	AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養を習得し、日常や仕事で使いこなせるようになる。本授業は、eラーニングシステムを利用し、自身で広い様々な視点からデータサイエンス・AIに関しての基礎的な知識を学習する。社会で起きている変化について学び、データ・AIの活用領域や技術、利活用の最新動向について学んだあと、実際にデータを扱う。また、データを守る上での留意事項を学ぶ。	メディア			

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	スポーツ選手における体力の維持、競技成績向上のために、トレーニングとともに適切な食事が重要である。そのために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、競技スポーツ、健康の維持・増進のためのスポーツにおける食事に関しても理解を深める。知識の習得と共に、指導の場での応用方法や必要となるスキルを会得する。栄養学の基礎から学び、運動時に利用される栄養素について理解を深める。目的に合わせた食事計画について、スポーツ指導者として理解すべき科学的根拠から学習する。アスリートに多い栄養障害、ジュニア期の栄養教育などを踏まえた実践方法を習得する。	
		スポーツと栄養		
		生涯スポーツ論	この授業の第一の目的はスポーツに関するさまざまな視点からの知識を学び獲得すること。さらに、今後のライフステージにおける豊かな社会生活にそれらの知識を活かすことである。スポーツに関する知識の伝達が授業の中心となる。基本的な事柄から、今まで考えることがなかったようなスポーツに関するトピックスを提供していく。毎回提示された資料を「熟読」し、自己の理解に基づく小レポートを期限内に提出する。担当者とのやりとりやディスカッション、アクティブラーニングとして各自の資料検索を通してさらに理解を深めていく。	
		スポーツと現代社会	スポーツの歴史や文化現象を通して、スポーツの文化的特質や社会的役割を理解する。スポーツの成り立ちや文化的特性等の基礎的内容の確認後、学校体育との相違や運動部活動の諸問題など身近なスポーツ活動の問題からオリンピックやドーピングなどのスポーツの社会的問題に関わる事象を取り上げ、その文化現象の課題を批判的に考える。スポーツに関わる文化的な諸問題を取り上げるが、それら諸問題を通して日本社会のあり方を問う。	
	スポーツ実技科目	スポーツ実技 (テニス)	授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。グランドストローク (フォアハンド・バックハンド)、ボレー (フォアハンド・バックハンド)、スマッシュ、サーブの技術を習得する。各ショットに適したグリップの説明やシングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方について学ぶ。	
		スポーツ実技 (ゴルフ)	担当講師考案の『ゴルフスイング体操』によって、ゴルフスイングにおける安全で効率的な身体の動かし方を学ぶ。自身の身体を正しく動かすために必要となる機能解剖の基礎を学ぶ。ゴルフスイングの練習の仕方を覚えてボールを打つ技術を向上させる。ゴルフゲームをおこなってスコアのつけ方やゴルフ用語を学ぶ。プレー中のエチケットやマナーなどを知り、ゴルフを自立的に楽しめるようになるための基礎を構築する。	
		スポーツ実技 (バレーボール)	基本技術の習得やルールおよび審判方法など種目の特性を知ることができる。また、仲間と楽しみながらゲーム体験をし、生涯において健康的な生活を送るための健康づくりや生涯スポーツへきっかけとなる運動体験ができる。本授業では、授業前半において主に基礎的なボールコントロール (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び) や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能およびルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。	
		スポーツ実技 (バドミントン)	生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーションにも競技的にも楽しむことのできるバドミントンの特性を、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツとして等、様々な角度から理解し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。前半は、バドミントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、後半は試合に関するルールの理解、試合をする・観る・支えるということを多角的な学び、レベル別ダブルスの試合を通して仲間との協力から課題発見・解決・向上を目指していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	健康・ スポーツ 科目 群	ス ポ ー ツ 実 技 科 目		
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (ジャズダンス)	ジャズダンスの中でも、王道のミュージカルダンス、観客に感動を与えるテーマパークダンス、そして現代のアイドルブームによりジャンル化されてきたアイドルダンスの3スタイル (ミュージカルダンス・アイドルダンス・テーマパークダンス) を学ぶ。まず、有名なミュージカルナンバーを使用し、ジャズダンスの基礎的な立ち振る舞い、ステップを学ぶ。次に韓国アイドル/日本アイドルのナンバーを使用し、その特徴を実践で学ぶ。最後にテーマパークで上演されるショーナンバーを使用し、状況設定も踏まえながら「観客に感動を与える踊り方」(ホスピタリティ) を学ぶ。踊りの中には、近年のテーマパークショーでも頻出するようになったストリートダンスも盛り込む。	
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (エアロビクス)	音楽に合わせて、リズムカルに楽しく身体を動かし、健康・体力づくりができるのがエアロビックダンスである。本授業では、健康・体力づくりに役立つ知識を学び、エアロビックダンスで身体を動かし、生涯に渡って楽しくフィットネスライフを継続できるようになることが目的である。日常生活に取り入れられる運動や知識を紹介し、健康・体力づくりに役立つレクチャーを並行して行う。	
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (スリムエアロ)	健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、体力向上、シェイプアップを中心に楽しくエアロビックダンスを行い、学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (ダンスエアロ)	健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、様々なリズムの音楽を使ったダンス要素の動きを取り入れたエアロビックダンスを中心に学び、ダンス初心者でも取り組むことができる内容とする。学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (水泳)	水泳の基本的技術と水泳に関する知識を理解し、自己の水泳能力を高める。この授業を通じて得られた水泳の知識・技能を生涯にわたる健康的なスポーツライフに活かせることが目的である。水泳の特性・技術を理解し、それを再現することが求められる。そのためには、水泳動作として指先から頭の位置、体幹、脚、足先までも意識化することが重要となる。毎回の授業時に他者へのアドバイスを積極的に行うことで自己の泳ぎへの視点も明確になる。	
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (軽スポーツ)	トランポリン運動により空中で自分の体を動かし、新たな身体能力を発見することを目指す。各自のレベルに合わせて、全身運動により美しいプロポーション作り、脳の活性化・持久力・瞬発力・バランス感覚を養う。まず、器具の特性を知ったうえで基本動作を身につけ、日本トランポリン協会バッチテスト (5級・4級) に挑戦する。	
ス ポ ー ツ 実 技 科 目	スポーツ実技 (ヨガ)	ヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディショニングワークとして身につけることを目的とする。授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディショニングワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組め爽快感と達成感が得られる。フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルベダ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディショニングアップに繋がる要点を学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技 (サッカー)	サッカーのルールや特性を学び、個人技術を向上させチームスポーツとしてゲームを楽しめるようにする。本授業ではサッカーの技術、ルール、ゲームの進め方を学びながら個人だけではなくグループ・チームでの活動や取り組みの中でコミュニケーションを積極的に取りながら、ゲームを自立的に楽しめるようにする。毎回取得する技術のテーマを設定する。簡単なボール扱いから、ドリブル、パス、シュートと段階を踏んで技術を取得する。雨天時等でグラウンドでの実技が開催できない場合は、サッカーの知識や観戦する際の観る視点等について学ぶ。	
		からだと気づきと姿勢法	ネヘミア・コーヘン氏によってカナダで開発された姿勢調整法であるミツヴァ・テクニックを中心に、その基本的概念と実践の方法を学ぶ。授業では基本エクササイズを体得すること、またその過程において自己のからだの在り方に目を向け、耳を傾けることで、からだへの気づきを促すことを目的とする。ミツヴァ・テクニックの基本である座る・立つ・歩く・触れあうことを、一つ一つ丁寧にからだに向き合いながら練習する。床でのエクササイズでは日常生活の中で生じる無駄な緊張からからだを解放する。椅子を使ったエクササイズでは背骨の動きと頭の位置をバランスの良い状態に調整する。これらをくり返し練習することで、本来生まれ持った自然の防衛・調整機能を取りもどすよう「からだ」を再教育していく。	
		スポーツ実技 (スタイルジャズ)	スタイルジャズを学ぶことにより今日の理解を深め、身体表現の幅を豊かにすることを目的とする。本授業で、洋楽・邦楽(J-Pop)の歌詞に合わせたスタイルジャズの表現のしかた、アップテンポ・スローテンポの身体の使い方の違いを学ぶ。ジャズダンスの中でも、スタイルジャズは流行や話題になった曲で表現することにより、表現の幅が無限にある。さらに、2012年より義務教育で「現代的なリズムのダンス」が必修となり、新学習指導要領への対応として HIP HOP の基礎的な動きも取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	初期演習 I	社会情報学科の初年次学生が4年間の大学生活を意義あるものにしていくために、本学の「立学の精神」および学科の学習・教育到達目標を理解させていくように導いていく。具体的には、グループディスカッション等を通じて、社会情報学科の3つのポリシーに基づき、学生自らが4年間の学習行動計画を立てる。また、学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、良識ある行動をとるための自己規範を構築していくためのトレーニングを行う。	
	初期演習 II (社会情報入門)	「初期演習 I」で学習してきたことを踏まえ、これから本格化していく専門教育に関する理解を深めていくとともに、今後のキャリア形成について、主体的に考えさせるように導いていく。具体的には、専門領域への導入として、「専門教育の概要説明と履修計画」「アカデミックライティングスキル」「学科の学びと資格取得」について解説していく。また、グループディスカッションを通じて、自己分析をもとに自分の適性や進路について考え、学習計画と関連させながら自らのキャリアパスを確立していく。	
	データ・情報リテラシー	近年、第四次産業革命と言われる、AI、ビッグデータ、IoTをはじめとするデータ利活用に関連する新技術が進展している。たとえば、産業用機械、家電、自動車等のモノがインターネットに接続する技術が可能となり、社会や産業に大きな変革が起こっている。本授業では、データ分析に必要な基礎知識とコンピュータを活用した分析方法を学んでいく。具体的には、Excelを使って、データを加工し、分析する手法を学び、グラフ作成などの表現できる力を養っていくことを目標とする。	
	Oral Communication I	基本的な日常の英語会話がができることと、英語の基礎文法や語彙を理解することを目標とし、実際に「英語を使う」ことを経験することによって、コミュニケーション能力を養っていく。具体的には、コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業において小テストまたはユニットテストを実施する。また、ペアワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。	
	Oral Communication II	様々な場面での基本的な英語会話がができることと、英語の基礎文法や語彙を理解することを目標とし、様々な場面設定の中で、実際に「英語を使う」ことを経験することによって、コミュニケーション能力を養っていく。具体的には、コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業において、小テストまたはユニットテストを実施する。また、ペアワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。	
専門 教育 科目	生活と文化科目群 メディア論	メディアの近現代史をたどりながら、メディアの発展はいかに要請され、情報の流通や表現を変容させ、それがどのような社会変化や生活文化の変遷をもたらしたのかを考える。さらに、メディア表現と社会の相関を、メディア表現とファッション等、生活文化との相関に注目して考察する。メディア論の基礎的素養を学び、メディアと生活、社会との関係を理解できるようになることを目的とし、メディアと社会の動きを関連づけて捉える視座を獲得することを到達目標とする。	
	コンセプトデザイン論	商品・事業・TV番組などのプロジェクトにおいて、きわめて重要な意味を持つのがコンセプトの設定である。この科目の目標は、コンセプトデザインについての基本的な考え方を学び、体得することにある。生活の中で接することの多い商品や放送番組等を事例に、それらのコンセプトデザインの分析を通して、コンセプトについての理解を深める。プロジェクトにおけるコンセプトの重要性を理解し、自ら設計する視点を獲得することを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 生 活 と 文 化 科 目 群	科学技術と社会	第四次産業革命の進展に伴い、人工知能 (AI) やモノのインターネット (IoT) に代表されるような様々な科学技術が急速に発展しつつある。本講義では、現代社会のあらゆる面に影響を及ぼしている科学技術とは何か?ということ、科学技術の歴史及び科学技術の知的財産権に関する訴訟を中心に、科学技術が社会に及ぼした影響に関する具体例を通して理解すること、そして、私たちは科学技術とどのように関わり合うべきなのかを考察することを目的とする。	
	メディアと生活文化	本科目はメディアと生活文化の関わりを社会学・生活文化研究の観点から考察することを目的とする。メディアが生活文化の変容・受容にどのように関係してきたのかについて、代表的な理論と具体的な事例を学ぶ。講義では、テレビ、新聞、雑誌、SNSなどで扱われる食文化における表象、表現などを中心に取り上げる。メディア環境と自分の日常生活とのかかわりについて具体的・客観的に考察できるようにすることを到達目標とする。	
	メディア産業論	デジタル化、ネットワーク化の進展に伴い、メディアの世界は大きく変わろうとしている。本科目では、特にマスメディアの産業的側面に着目する。メディアとは何かをまず考えたうえで、メディア産業の全体像、各メディアの現状、ジャーナリズムにおけるメディアの役割、インターネットやSNSの生活文化に与える影響などについて考察する。大きな変革期にあるメディア産業について理解を深め、メディアの社会的意義と私たちの生活に与える影響について自らの視点を持つことを目標とする。	
	メディアカルチャー論	メディアの普及は、ハードウェアの発明だけでなく、カルチャーの変遷によって牽引されてきた。そこには、①軍事段階、②ビジネス段階、③社交・遊戯段階という三段階の法則がある。電信電話からSNSまで、その法則性によって生まれ、発展してきた。われわれの現代生活におけるメディア体験は、第三段階の社交・遊戯カルチャーの只中にあるが、それ以前の軍事・ビジネス段階のカルチャーをも継承してきている。古くはモールス信号から最新のYouTube/Instagramまで、多様なカルチャー様式に触れることで、メディア普及の本質と社会生活における意味を明らかにする。	
	情報とコミュニケーション	コミュニケーションの媒体としての情報の概念を明らかにするとともに、「コミュニケーションをどう捉え、それにどうアプローチするか」という問いを、生活のさまざまなシーンを事例に、社会学的視座から考察する。日常的なコミュニケーションを観察・記録し、アカデミックな視点から考察する思考を獲得することをこの科目の目的とする。日常的「コミュニケーション」を理論的に考察し、各種の思考ツール(関連する諸概念、モデル、パースペクティブ等)を習得することを到達目標とする。	
	ネットワーク社会論	伝統的な暮らしにおいては家族/親族(血縁)、近隣/地域共同体(地縁)といった非選択縁と並び、仕事縁・経済縁という半選択縁が、人々を強く結びつけてきた。さらに近代以降の生活では、宗教・趣味・スポーツ・観光・ボランティアといった「結社」的な中間集団に基づく、選択縁が無数に派生してきた。とくに現代生活におけるつながりは、電子媒体やSNSを介し、国境や言語を超えて構築する、オンライン上の共同体(コミュニティ)として重要性を増している。こうした新旧ネットワークと共同体のありようを知ることを目的とする。	
	SNSリテラシー演習	ソーシャルメディアを中心としたコミュニケーション環境の発展過程を把握し、ネット社会に生きる生活者として、その原理と指針を学ぶことを目的とする。とくにフェイスブック以降、現代人の社会生活に必携となったSNS(ソーシャルネットワークサービス)の利用にまつわる各種リテラシーを、OMOや拡張現実など最新の利用実践を交えて、演習形式で体得させる。デジタル技術の発達に伴う生活様式の変化や、個人情報利活用のメリットとリスクについて考え、日常生活におけるSNSに関する知見と技術を高めることを狙いとする。	集中

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	生活 と 文 化 科 目 群	映像文化史	映画は芸術文化の中で最も若いジャンルのひとつであるが、100年以上の歴史と、浩瀚なアーカイブを持つ。そこから派生した現代の映像文化は、娯楽から日常生活・ビジネスに至るまで、多彩な裾野を広げている。リュミエールからキューブリックまでスペクタクルの歴史をたどるとともに、最新の「ライフログ」（人間の日常生活体験・ライフヒストリーを、映像・音声などの形でデジタルデータ化する）の方法論に基づいて学ぶ。トータルな映像文化の本質を、その身体（声/表情/動作）と社会生活に関連づけて把握する。	集中
	文化社会学	文化とは「生活様式 (way of life) 」であり、個人ごと、集団ごとに千差万別でありつつ、同時に共通の要素も多く見られる。身近な文化現象として、衣食住遊の事例を取り上げ、その社会学的な意味に迫ることを目的とする。アプローチとしては、日常生活における多彩な文化現象に理論・実証両面から迫る、社会学的な方法論に立つ。ただし伝統的な社会学説史や古典的理論枠組にこだわることなく、生活や文化そのものの本質に、新しい仮説構築と思考実験を通して気づかせることを狙いとする。		
	文化社会学演習	文化社会学理論の実践的演習として、衣食住遊の生活文化の意味を体得することを目的とする。とくに、身近な生活文化現象として、食文化や嗜好現象を取り上げ、自らの主体的・積極的な思考力を錬成するアクティブ・ラーニングによって、日常的な経験知を、文化社会学的な学問知として、実証的・経験的に再構築する方法論を学ぶ。具体的なフィールドワーク対象として、カフェ・コンビニ・家庭生活等における外食・中食・肉食文化現象などを取り上げ、その中に潜む社会学的な知見を、自ら修得できるよう指導する。		
生 活 と 経 済 科 目 群	マーケティング論	マーケティングは「組織体を取り巻く環境（顧客、ライバル企業、社会）に対する企業の適応行動」と定義され、マーケティング目標の決定、標的市場の設定、マーケティングミックスの策定という3つの主要領域をもつマーケティングマネジメントはその中心領域である。本講義では、企業経営および消費生活におけるマーケティングの役割を考察し、マーケティングの基本的概念であるSTPマーケティング（Segmentation, Targeting, Positioning）とマーケティングミックス（製品戦略、プロモーション戦略、価格戦略、流通戦略の4P）を理解していく。		
	グローバルビジネス論	現代社会においては、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を超えて移動し、海外取引や国際関係を意識しないビジネスは存在しないほどグローバル化が進展している。更に新興国の台頭やブロック経済化の進展などマクロ経済環境が大きく変化している。また、多様性や気候変動など社会課題への取り組みもグローバルビジネスにおいて求められるようになってきている。これら企業・生活者を取り巻く社会・経済・生活環境の変化がビジネスやマーケティングコミュニケーションにどのような影響を及ぼしているかを学ぶ。		
	マーケティング戦略論	今目的な競争関係およびそこでのマーケティング戦略を、競争地位別戦略から考察していく。この戦略は「当該市場の中で競争地位を占めている企業（リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの4類型）が、その地位に応じてどのような戦略を採用すれば最適な成果が期待しうるか」を明らかにしていくことである。本講義では、競争地位別戦略の概念を、ファストフード市場やビール市場などの事例をあげながら、解説していく。		
	コンテンツプランニング演習	現代生活における営利的・非営利的、個人的・集团的、理論的・技能的の別を問わない、商品企画・事業企画・起業提案など、企画すること（プランニング）の意味を理解させる。とくに五感や全身を通じて、体験的・実践的な演習形式で、プランニングの本質と技法を修得する。現代社会に生きる「プロシューマー」（生産者兼消費者・生活者）として、コンテンツのニーズやポジショニングを理解した上で、現実に通用する企画を試行する。モノを作る・売ることによって社会課題解決を図る「ソーシャルプロダクト」の意義とプランニング実践とを学ぶ。	集中	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 生 活 と 経 済 科 目 群	企業経営論	近年、企業の多角化、顧客ニーズの変化、社会の枠組みの変化という大きな時代の変化の中で、企業自身が己の存在を見失うようになってきた。そこで一体わが社はいかなる存在なのか、社会の中でどう位置づけられるかを考えていくことが、企業の存続にとって重要なテーマとなってきた。これがCI（コーポレート・アイデンティティ）と戦略ドメインである。このCIと戦略ドメインの観点から近年の企業のあり方について考察し、企業経営についての理解を深めていく。	
	マーケットデザイン演習	マーケット（市場）のニーズ、つまり消費者がどのような製品やサービスを欲しているかを探ることは、企業戦略の根幹にある重要な要素である。本講義においては、これまで学習してきた市場調査や統計的手法に関する基本的な知識をベースとして、企業の新製品開発、特に市場のニーズを認識する考え方や方法を学習する。具体的には、任意の製品カテゴリー（例えば、清涼飲料や化粧品）を取り上げ、そこでの新ブランドの比較を、多変量解析を用いて行い、効果的な新製品開発戦略のあり方を考察していく。	
	経営情報論	ICTと称される情報通信技術は、企業経営にとって不可欠なものとなり、もはや特別のものではなくなった今日、情報技術そのものよりも、情報技術をどのように活用するかが重要になってきた。本講義においては、企業は戦略としてどのように情報を活用してきたのかを、工業化社会／サービス化社会／情報化社会の時代区分の中で考察していくことによって、今日的な企業経営における情報の意味を理解していく。	
	経営情報演習	ICTと称される情報通信技術は、企業経営にとって不可欠なものとなり、もはや特別のものではなくなった今日、情報技術そのものよりも、情報技術をどのように活用するかが重要になってきた。本講義においては、「経営情報論」において学習した企業戦略としての情報活用の意味を、さらに理解を深めていくために、ケーススタディを中心に進め、理論と実践との相互作用という点についても検討していく。	
	組織コミュニケーション論	人は一人では対処できない仕事を手がけるために複数の人で構成される組織をつくり、その組織の中では互いに役割を果たして助け合いながら事業が営まれている。その組織では、たとえ同じ目標をかなえる同僚であっても、意見の調整や活動内容の意志決定に伴う指示が必要であり、そこでは適切な意思疎通を図る必要がある。本授業では、組織の中でのコミュニケーションに関する基礎理論を学びながら、お互いにわかり合うために必要なコミュニケーションとはいかなるものかを理解していく。	
	広告メディア論	日常生活における商品やサービス選択に大きな影響を与える広告の基礎について学ぶ。経済発展や社会構造の変化によるコミュニケーションの役割の変化、メディアの発達による情報探索プロセス、生活者の意識・態度・行動の変化、世相を反映したクリエイティブ表現の変遷など、社会と生活者の「関係性」からマーケティングコミュニケーションを理解する。「IT活用とビジネス」へつながる授業であるためデジタルメディアを除いた伝統的媒体（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌）と屋外・交通広告などのプロモーションメディアを中心とした内容である。	
	広告メディア演習	広告は日常生活において商品やサービス情報の獲得や購買決定に重要な役割を果たしている。マーケティングのプロモーション機能である広告の役割、広告制作のフローを理解した上で、企業の課題をコミュニケーションで解決することを目指し、インターネットを含めたクロスメディア展開のための広告計画と広告表現（クリエイティブ）戦略を検討する。本授業は京阪神地域の企業との協働プロジェクトとして行われ、生活者へのアンケート調査やヒヤリングなどのフィールドワークが求められるアクティブラーニングを基盤としたPBL型授業である。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	生活 と 経 済 科 目 群	地域産業論	中小企業を中心とした地域における産業活動と、地域発展との関連について学ぶ。まず、中小企業及び地域産業についての基本的な考え方を習得するとともに、日本において現在に至るまでの産業発展を達成した経緯を歴史的に概観する。各種指標を用いて、地域における産業の現状を分析する手法についても理解する。さらに、地方自治体の産業政策など地域産業振興の主体や取り組みについても理解する。特に、グローバル化との関連及びICTの進展が地域産業に与える影響や機会に着目して議論する。
	IT活用とビジネス	急速に進化・発展する情報通信技術など、様々なイノベーションが生活者の情報探索および購買プロセスに影響を与えている。その結果、伝統的なマスメディアを活用した情報提供からソーシャルメディアを活用した「生活者主体」のコミュニケーションにシフトするなど、企業や組織のマーケティングコミュニケーションの取組みも大きく変化している。本講義では、社会の変化に対応したデジタル化(DX)とデジタル技術のビジネスへの活用事例を通してIT /デジタル時代の広告プロモーションやデジタルマーケティング施策の理論と実践を学ぶ。	
	コミュニティビジネス論	社会的課題をビジネスの手法を用いて解決するソーシャルビジネス・コミュニティビジネスについて理解し、自身で事業計画書を作成、発表できるようにする。映像等を用いて実際に行われている数多くの例に触れることにより、社会起業家の活動を将来のキャリアプランにおける選択肢の一つとしても捉えられるようにする。そのうえで、受講生自らを取り巻く社会的課題を検討し、その問題解決に向けたビジネスの立案に向けて、事業計画書の作成について学ぶ。さらに、事業計画書を発表し、受講生相互に議論することによりその改善を図る。	
	消費者経済学	消費者の立場から現在の経済環境とその動向を読み、状況の変化に適応した合理的な行動ができるよう、必要な知識を身につけつつ能力を養う。価格の決定理論、社会保障と財政、貨幣と金融、貿易、労働問題といった、現在の日本経済及び世界経済を取り巻く消費生活と密接に関連する問題を考える上で、重要な考え方やデータの見方を学ぶ。また、経済という側面から様々な問題とその原因を考える。受講生が、経済紙に書かれている内容を理解しながら、そのまま鵜呑みにせず批判的に考えることができるようになることを目指す。	
	衣生活情報論	ヒトの生活の基本として衣・食・住があるが、「衣」とはヒトにのみ見られる営みであり、衣生活とはヒトが衣服を着用し社会生活を営むことである。そこで、商品としての衣服の情報、機能性、安全性、企画・生産・販売、さらに衣服の管理や環境問題などの基礎的知識と感性的側面からの衣服に対する生活者の意識に関する知識を修得する。そして、ヒトと衣服の間にはどのような関係が生じているか課題も含め抽出することで、社会や技術の進展とともに変わりゆく個人の衣生活をどのように創造すべきかを考察する力を養うことを目的とする。	
情 報 科 学 科 目 群	情報科学入門	情報化社会は情報科学なしでは成立しえない。本科目の目標は情報科学における重要な項目の本質と技術を理解し、情報科学に対する正しい理解と視点を得ることである。具体的には、2進数によるコンピュータ内部の情報の表現、コンピュータの構成と動作原理、オペレーティングシステムの機能と役割、アルゴリズムとデータ構造の基礎、プログラミング言語とプログラムの基本構造、オブジェクト指向の基本概念、ソフトウェア工学の基礎などについて学ぶ。	
	プログラミング入門	プログラミングはコンピュータを操作するための技術であり、プログラミングを学ぶことは現代社会で生き抜くための大きなアドバンテージとなる。本科目では、プログラミングの基礎知識と動作原理を学び、より高度なプログラミングに向けた知識・技術の習得を目的とする。具体的には、主要なプログラミング言語に共通する基本的な知識や概念として変数・繰り返し・条件分岐・配列・関数といったプログラミングの要素を段階的に学ぶことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 情 報 科 学 科 目 群	プログラミング演習Ⅰ	本科目はプログラミング入門で学んだプログラミングの基礎知識・技術を前提に、オブジェクト指向プログラミングなどの応用的なプログラミングの理論と技術を実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、オブジェクト指向の重要な概念であるクラス・オブジェクト・インヘリタンス・ポリモルフィズムなどを理解するとともに、クラスライブラリを用いた実践的なプログラムの作成を通じてデバッグやコーディング技術についても習得することを目標とする。	
	プログラミング演習Ⅱ	本科目はプログラミング演習Ⅰで学んだプログラミングの基礎知識・技術を前提に、データサイエンスで多用される機械学習・ディープラーニングについてプログラミングを通し実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、機械学習・ディープラーニングの基礎概念・アルゴリズムなどについて段階的に学ぶとともに、それらの著名なライブラリやフレームワークなどを用いたデータサイエンスのプログラムを実際に作成できる知識と技術の習得を目標とする。	
	ユーザインタフェース論	人間とコンピュータとの相互的な作用において、ユーザ中心設計の基本的な考え方、様々なインタフェースの活用方法や設計方法、評価方法を学ぶ。人間工学や脳内の情報処理モデルおよび人の意思を効率よく機械に伝える技術やユーザの行動に合わせた使い易さを考えるユーザビリティエンジニアリングについて理解し、ユーザ経験を活かしたユーザ中心設計の手順と関連ツールや技術を適用し、インタラクティブなアプリケーションを設計できる様になることを目標とする。また、VRなど最新のインタラクション技術についても言及する。	
	アルゴリズム論	本科目は問題を解くための計算手順であるアルゴリズムについて学び、プログラムの作成において適切なアルゴリズムを選択できる知識の習得を目的とする。具体的には、アルゴリズムの計算量や停止性といった基礎知識をはじめ、ソート（並べ替え）や探索などの著名なアルゴリズムについて、効率的なプログラムを実装する視点から学ぶ。また、アルゴリズムと密接に関係する基本的なデータ構造についても学び、プログラミングの技能向上を目指す。	
	ソフトウェア工学	コンピュータソフトウェアを対象とする工学について、すなわち品質と生産性をともに向上させるため、トレードオフを解決しバランスをとって最適化する方法と技術を学ぶ。分析・設計・実装・保守というステージの認識、構造化・抽象化・階層化、粒度やスコープの概念、機能中心と対象中心、トップダウンとボトムアップのアプローチなどが含まれるが、これらはソフトウェア開発に限定的な考え方ではなく、人間の活動すべてにわたって適用可能なものであることを理解する。	
	ソフトウェア工学演習	ソフトウェアエンジニアリングは、技術的知識体系だけではなく、作業の協働性、ヒューマンファクタや、製品と工程の管理的側面が大きな要素としてある。これは実際に開発作業をやらなければ、なかなか実感できない。そのためには対象業務が必要であるが、受講者になじみのあるものでなければ進みにくいので、ここでは大学教務・学修管理システムをとりあげ、要求分析と仕様化を中心に、一部設計のフェーズに至るまで演習を行う。	
	システム設計	本科目はソフトウェアシステムを設計するために必要となるモデリング技法の習得を目的とする。具体的には、オブジェクト指向モデリング言語UMLのダイアグラムを用いたソフトウェアシステムのモデリングについてソフトウェアプロセスの段階ごとに学ぶ。また、モデリングしたソフトウェアシステムから実際のプログラムへの変換について、現実的な例題を通して実践的に学ぶことで、ソフトウェアシステムの設計から実装に渡る技術力の養成を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 情 報 科 学 科 目 群	システム設計演習	本科目は、「システム設計」で学んだシステム設計論や技法を用いて、情報システムのモデリングや設計および構築について実践的に学ぶ。具体的には、実用的な情報システムを例題として、その設計プロセスの段階ごとに演習を行う（要求分析：アクティビティ図、設計：クラス図、実装：シーケンス図など）。また、本演習はグループワークを取り入れ、各人の進捗状況を把握し共有する協働作業やプロジェクト管理の重要性についても体験する。	
	情報基礎数学	本科目では、線形代数および解析学入門について学ぶ。線形代数はベクトルと行列の計算によって連立方程式など多変量の方程式解法や固有値問題などを扱い、統計分析やデータサイエンスへ応用するための基礎数学を学ぶ。解析学入門では数列と連続性、微分・積分、偏微分、べき級数や微分方程式の初歩について扱い、システム解析や数値解析を学ぶための基礎とする。出来るだけ演習問題等に取り組んでもらい、内容理解を深め、計算力をつけさせる。	
	情報数学	ゲームプログラムを構成するさまざまな理論を題材に情報数学の基本を扱う。グラフ理論は様々なデータ構造やニューラルネットワークなど計算機を応用する上で幅広い分野の基礎となる数学である。前半では迷路探求に至るまでのグラフ理論の基礎知識やデータの視覚化および3次元形状による立体視技術の基礎を理解するための3次元グラフィックスの数理を学ぶ。後半では、科学や工学のさまざまな求解を計算機で表現するための数値計算法や数値解析について学び、誤差解析など計算誤差についても言及する。	
	データベース入門	データベース技術を利用する立場から、データベースの基礎的な知識、概念および動作原理について理解することを目標とする。身近なデータベース例を題材に、データベースおよびリレーショナルデータモデルの概念について学び、データベースを構築する基礎的な理論について理解する。データベースの構築を通してデータベースの定義、SQLによるデータベース操作を行い、正規化理論、リレーショナルデータベースについて理解を深める。	
	コンピュータネットワーク入門	コンピュータとネットワークは本来別物であるが、いまやそれらが一体となることによって強力な情報通信技術を提供している。その歴史や基本的しくみ、活用の実態について学ぶ。プログラム（命令）とデータとメモリ、数値・文字・メディア、パケット交換、モバイル常時接続、ソーシャルネットワーク、デジタル移行などがトピックスの一例である。社会情報学の観点から、技術そのものだけでなく、それが文化に与える恩恵と危険性についても考える。	
	コンピュータネットワーク演習	本科目の目的はコンピュータネットワークの基本的な技術について学び、コンピュータネットワークの正しい理解と利用を可能にすることである。具体的には、コンピュータネットワークの基礎となるレイヤーモデル（OSI参照モデル）を中心に、各レイヤーの機能や役割を段階的に学び、コンピュータネットワークの仕組みを概観する。また、コンピュータネットワークに流れるデータの解析を通して通信プロトコルの働きを実践的に理解することを目指す。	
	コンピュータネットワーク論	本科目はコンピュータネットワーク演習で学んだ基本的な知識・技術を前提に、コンピュータネットワークの応用事例について学ぶことを目的とする。具体的には、モバイルネットワークやアドホックネットワークなどの技術・仕組みについて理解するとともに、それらの効果的な利用とトラブルシューティングを可能とする知識・技術の習得を目指す。さらに、セキュリティの観点からコンピュータネットワークの安全な利用に関する技術についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 情 報 科 学 科 目 群	ウェブ入門	WWWに関する基本的な知識（ブラウザやウェブサーバの仕組みなど）、及び、HTML5・CSS3による基礎的なコーディング技術を学ぶ。表示メディア・サイズに対応した構造的に誤りのない複数ページで構成されたウェブサイトを一から制作できるようになることを目標とする。数多くあるHTML要素とCSSプロパティから主要なものを使用してその一般的な意味・構造を理解し、目的に応じて自分で調べながら応用できるようにする。	
	ウェブプログラミング	プログラミングを用いたインタラクティブなウェブページの制作技術を学ぶ。ブラウザ上で動作するプログラミング言語であるJavaScriptの基礎的な文法とDocument Object Model (DOM)の仕組み、及び、JavaScriptからDOMを操作する基本的な方法を扱う。マウスやキーボードからのイベントやフォーム入力に応じてHTMLを動的に変更するイベント駆動型プログラミングを実践し、アプリケーション開発の基礎となる技術・知識を身につける。	
	ウェブアプリケーション設計	JavaScriptのフロントエンド開発フレームワークを用いたウェブアプリケーションの設計・制作を通して、アプリケーション開発の基礎を学ぶ。HTMLへのJavaScriptの変数・関数のバインディング、HTMLへの制御構文の組み込み、HTMLのフォーム入力とJavaScriptの変数の双方向バインディング、HTML5標準APIのWebStorageやサードパーティのWeb APIを使用して、ブラウザ単体で完結する簡易なアプリケーションの設計・制作ができることを目標とする。	
	ウェブアプリケーション開発演習	ウェブアプリケーションの企画から開発までのプロセスを通して、アイデア創発のためのディスカッション法やチーム開発で必須となるバージョン管理システムの扱い方を学ぶ。技術的にはGitの扱い方の習得を主な目的とし、リポジトリやブランチ等の概念を理解した上で、複数人で同じソースコードを修正しながら共同開発ができるようにする。一からアプリケーションを開発することにより、「ウェブアプリケーション設計」で学んだ技術の応用力を高める。	
	ウェブエンジニアリング	ウェブアプリケーションのバックエンド開発の基本的な知識と技術を学ぶ。サーバサイドで動作するJavaScriptランタイムを用いてウェブサーバやアプリケーションサーバを作成し、その動作を理解する。また、コマンドラインインタフェースを用いたフロントエンド開発や、クラウドで提供されるバックエンドサービスを用いたサーバレスでのウェブアプリケーション開発など、近年の主要なウェブ技術の基礎に触れる。	
	ウェブコンピューティング論	ウェブ技術に関する応用知識（ウェブアーキテクチャやセキュリティなど）や最新動向（WebAssemblyやWeb3.0など）について知り、また自ら調べてきた内容を発表・議論することで学びを深める。WebAssemblyなど、実際に動作させることで理解が深まるものについては演習も取り入れる。広範囲に及ぶウェブ技術を網羅的に把握し、用途に応じて鳥瞰的な視野から技術を選定することのできる力を身につけることを目標とする。	
	プラットフォーム概論	ユーザの目の前で動くのはアプリケーション・ソフトウェアであるが、これはコンピュータ（ハードウェア）で直接実行されているのではない。間にはさまるプラットフォーム、とくにオペレーティングシステムというソフトウェアが存在する。なぜそうなのか、プロセスという抽象概念、資源割付や仮想化、状態や優先度の考え方と実現などが必要だからであるが、これらは計算機技術に限定的な考え方ではなく、人間の活動すべてにわたって適用可能なものであることを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	情報 科 学 科 目 群	システムセキュリティ入門	<p>情報化社会において、セキュリティの問題は重大かつ深刻である。本科目の目的はセキュリティに関する重要な項目を学び、その本質と技術を理解することである。具体的には、ワーム・ウイルス・トロイの木馬などに代表されるマルウェアの概要、DOS攻撃などの手法、フィッシングに代表されるなりすましの手法などについて学ぶ。さらに、Webサイトやスマホを利用する際に注意すべきことやネットワーク社会で求められるリテラシーについても学ぶ。</p>
	情報セキュリティ論	<p>本科目はシステムセキュリティ入門で学んだセキュリティの基礎知識とウェブプログラミングなどの演習で培った技術を前提に、情報セキュリティの技術を習得する。具体的には、ウェブのセキュリティを中心に、クッキーによるセッション管理、XSS攻撃とその対策、SQLインジェクションとその対策などを実践的に学ぶ。さらに、暗号技術、認証技術、セキュリティプロトコルについても学び、現代社会で求められる情報セキュリティ技能の習得を目指す。</p>	
デ ー タ サ イ エ ン ス 科 目 群	統計学 I	<p>本講義では、記述統計によって要約されたデータから母集団全体の特徴や性質を推測する「推測統計」を扱う。推測統計学の主題である「推定論」と「検定論」の諸手法、およびその基礎にある統計的思考を解説する。具体的には推測統計学の中で基本である「正規分布」および社会科学で頻繁に使われる「t分布」を中心に、「標本から母集団の分布の様子を推定する」と「仮説を立ててその仮説を検定する」ことができるようになることを目標とする。</p>	
	統計学 II	<p>「統計学 I」で学習した推測統計学の基礎をベースとし、本講義では、多くの要因が複雑にからみ合った現象を科学的に解明していくための統計的方法として「多変量解析」を扱う。データの性質や目的、課題によって、採用すべき分析手法が異なるため、重回帰分析、因子分析、主成分分析、分散分析、クラスター分析などの主要な計量モデルについて学ぶとともに、統計学分野やデータサイエンス分野において標準的なソフトウェアの一つである統計解析ソフトRを利用して、統計データ解析ができることを目標とする。</p>	
	AI入門	<p>AI（人工知能）とは何かについて、その歴史・背景からAIの目標や情報科学における位置づけ、そして、これまでに確立されたAIの技術と動向について学び、AIに関する正しい理解と視点を得ることが本科目の目的である。また、現代社会におけるAIの活用事例について、さまざまな分野から概観する。具体的には、医療・教育・広告・物流・エンターテインメントなどの分野におけるAIの活用事例を学ぶとともに、AIの新しい活用事例・領域について考える。</p>	
	AI概論	<p>本科目はAI入門で学んだ基礎知識を踏まえ、AIの基礎として確立された理論・技術について習得することを目的とする。具体的には、問題解決の形式化と基本的な探索法（縦型探索、横型探索、山登り法、最良優先探索、A*アルゴリズムなど）、ゲームの理論（ゲーム木、先読み、ミニマックス法、アルファベータ法など）、知識ベースシステム、記号論理、プロダクションシステム、意味ネットワークなどを学ぶとともに、AIを用いたプログラミングについても学ぶ。</p>	
	AI演習	<p>本科目はAI概論で学んだAIの基礎知識とプログラミング演習 I IIで培ったプログラミングの基礎技能を前提に、機械学習・ディープラーニングを用いた実践的なプログラミング技術の習得を目的とする。具体的には、大規模なデータとディープラーニングのライブラリなどを用いたモデルの構築およびデータへの適用方法について学ぶことで、AIを用いた知的システムの構築に必要なディープラーニングへの理解を深め、実践的なAI技術の習得を目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	データサイエンス科目群		
	データサイエンス基礎演習	データサイエンスとは、大量のデータからできるだけ確かな事実を抽出する方法と技術を求めるものである。この領域への導入としてその実情をつかむため、実社会における事例（商取引、物流・人流、医療、教育など）にあたって、データを収集、調整、解析、可視化、解釈する演習を行う。データ処理・統計処理・機械学習のツールを活用しながら、基礎知識・要素技術を修得するとともに、データの種類や様相の多様性、およびそれに応じた処理・解析方法の適合性について理解をすすめる。	
	データサイエンス演習<A>	データサイエンスの適用により、実際の課題（例えば需要予測、混雑緩和、効果測定など）をいかに有用性をもって解決できるか、あるいは満足な結果が得られないとすればその原因は何かについて、具体的な知見を獲得するための演習を行う。とくにここでは、シミュレーションのツールを活用して、データ・パラメータ・伝達関数の選択・調整により、対象システムの振舞いがどのように変化するかを見ながら、シミュレーションの実課題対応への有効性を確認する。	
	データサイエンス演習	データサイエンスの適用により、実際の課題（例えば需要予測、混雑緩和、効果測定など）をいかに有用性をもって解決できるか、あるいは満足な結果が得られないとすればその原因は何かについて、具体的な知見を獲得するための演習を行う。とくにここでは、金融を対象領域とし、資産の運用・取引・投資やリスク管理の課題が、データ統計処理や目標値推移の確率的予測によって、いかに妥当な意思決定に結びつくかについて、実験をとおして知識体系化する。	
	データサイエンス演習<C>	データサイエンスの適用により、実際の課題（例えば需要予測、混雑緩和、効果測定など）をいかに有用性をもって解決できるか、あるいは満足な結果が得られないとすればその原因は何かについて、具体的な知見を獲得するための演習を行う。とくにここでは、医療情報を対象とし、医療管理、公衆衛生などの領域に現れるデータを解析することにより、治療予後、予防効果、医療業務量などの推測を可視化し、客観的判断基準を示すことを体験させる。	
	データサイエンス演習<D>	データサイエンスの適用により、実際の課題（例えば需要予測、混雑緩和、効果測定など）をいかに有用性をもって解決できるか、あるいは満足な結果が得られないとすればその原因は何かについて、具体的な知見を獲得するための演習を行う。とくにここでは、経営情報を対象とし、企業組織内におけるコミュニケーションやカルチャーといった質的情報を分析する。そのために、数量化や多変量解析の手法を実データに適用しながら学ぶ。	
	データサイエンス論<A>	情報化の時代では作業や操作の自動化が推進されてきたが、それに続くデータ駆動の時代では「判断」の自動化が機械的に行われる。まだ10年程度の歴史しかないデータサイエンスは、知識体系の確立もこれからであるので、一般原理発見の糸口を個別の適用領域から探ることになる。ここでは、コンピュータ出現当初からの歴史があるシミュレーションをその有力な手立てと考え、現実をモデリングする手法およびそれを実装する技法について体系的に解説する。	
データサイエンス論	情報化の時代では作業や操作の自動化が推進されてきたが、それに続くデータ駆動の時代では「判断」の自動化が機械的に行われる。まだ10年程度の歴史しかないデータサイエンスは、知識体系の確立もこれからであるので、一般原理発見の糸口を個別の適用領域から探ることになる。ここでは、判断の基礎となる予測ということの属性について、対象範囲の大小、時間の長短やフィードバックの有無によってどのように変質するか、経済活動を事例として考察する。		

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	データサイエンス科目群	社会調査入門	<p>本科目では、社会調査とは何か、どのようなことをして、何かわかるのかなど、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶことを目的とする。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を習得することを到達目標とする。</p>
	社会調査 I	<p>本科目では、社会調査によって資料やデータを収集し、得られた質的データ・量的データを具体的に分析していくための基礎的方法を学ぶことを目的とする。調査目的と調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定方法、サンプリング法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理など調査設計と実施について学ぶ。現状をデータ化し、そのデータを通じて社会の構造と動態を探るための方法の基礎を習得することを到達目標とする。</p>	
	社会調査 II	<p>社会調査の第一段階は既存資料の検討・分析である。本科目は、公的統計や調査報告等先行調査・研究を検討するために必要な量的データ（記述統計）と質的データに関する基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、一変数の情報を記述する方法と二変数間の情報を記述する方法、そして、さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を学ぶ。量的データ、質的データそれぞれの特徴と分析方法を理解し、統計分析を含んだ資料を適切に評価できるようになることを到達目標とする。</p>	
	社会調査演習	<p>本科目では実践をとおして、社会調査の全過程を学ぶことを目的とする。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定、サンプリング、調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までの全過程に携わることで、社会調査の基礎的技法と遂行能力を習得する。社会調査のプロセスと方法を理解し、実際に調査の企画・設計・実査データの整理を行うことができるようになることを授業の到達目標とする。</p>	
表 現 実 習 ／ 研 究 手 法 科 目 群	デジタル表現入門	<p>職業や年齢に関係なく、誰もが各種メディアを活用した情報発信者となりうる。本科目では的確に情報を発信するために必要な、情報リテラシーとしての視覚情報（静止画像、動画像）の表現技術（加工・編集）および情報デザインの基礎の習得を目的とする。DTP、ウェブデザインに必要なファイル形式や圧縮形式、RGB・CMYKなどの色情報の数値表現などの基礎知識やプロセスなどの知識の獲得とともに、ベクターイメージ編集ソフトウェアやビットマップ画像編集ソフトウェアの基礎技術を習得する。</p>	
	デジタル表現	<p>職業や年齢に関係なく、誰もが各種メディアを活用した情報発信者となりうる。本科目では的確に情報を発信するために必要な、情報リテラシーとしての視覚情報（動画、音声）の表現技術（撮影・編集の基礎技術）と発信方法の習得を目的とする。視聴者にとってわかりやすい映像を作り上げるために、カメラやレンズの構造、動画ファイルの仕組み、カメラワーク、ライティング、映像構成、フレーム内の情報デザインにも焦点をあてる。</p>	
	ウェブデザイン演習	<p>情報デザイン、UI/UX、動画活用など、ユーザ視点に立ったウェブサイトのプロトタイプ制作技術を身につけることを目的とする。印刷メディアとの相違点、ワークフロー、最新のウェブテクノロジーを理解するとともに、生活者（ユーザ）の購買行動、情報収集のプロセスについて、事例を用いて今日のウェブデザインを考察する。プロトタイプ設計にはプロトタイピングツールやビットマップ画像編集ソフトウェアを用いる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 表 現 実 習 ／ 研 究 手 法 科 目 群	ICT社会のビジネス	あらゆる業種・職種において、ICT（情報通信技術）と経営全般に関する総合的知識は不可欠な時代である。さらに、グローバル化とともにICT化が進展していく中で、ICT力を持った人材を社会は求めている。本講義では、これから社会人となる学生が備えておくべきICTに関する基礎的知識を身につけるとともに、ビジネスにおいてICTがいかに活用されているかを、顧客対応および顧客と企業との関係性、企業間のコミュニケーション、社内における情報共有およびコミュニケーションなどの観点から正しく理解することを目的とする。	
	オフィスツールの活用	社会生活を営む上でICTを活用する能力を体得することの重要性は年々高まり、情報リテラシーに関する知識と情報活用力の修得は必要不可欠な時代である。本講義では、「データ・情報リテラシー」で修得したアプリケーションの操作技術の理解を深めるとともに、実際に簡単な研究テーマを設定し、調査・分析を行い資料作成することで、プレゼンテーションに用いる各種機器やアプリケーションの基礎的・基本的な知識と技能を修得することを目的とする。	
	色彩情報論	色彩は、自宅や店舗、マスメディアやWebメディアなど、あらゆる場所に溢れている。世相が流行色に反映され、商品やデザインの色により大ヒットが生まれるなど、色彩は文化や時代の流れに大きな影響を与えてきた。本講義では、われわれの生活環境の中で色彩が如何に重要な役割を果たしているのかを、多角的な視点（感覚的側面、生理学的側面、光学的側面、心理学的側面）から考察し、色彩の基本的な知識を修得することで理論的に色彩を理解することを目的とする。	
	色彩情報演習	生活者が生活を営みやすいよう彩るカラープランニングの現場では、色彩情報を、直面する状況に応じて適切に取り扱うことが必要である。そのためには、色彩を客観的に捉え、分析する力が重要となる。そこで、「色彩情報論」で学修した色彩の基礎知識を基に、実際に測色器を用いて色を計測し、色を客観的に捉える手法と結果を分析する方法とを学ぶことで、クライアントの要望に対し適切な提案（視覚表現と根拠の提示）を行う技術を体得することを目標とする。	
	情報英語Ⅰ	グローバルに活躍できる情報スペシャリストおよび情報ゼネラリストとなるために、現代のICT社会に必要な基本的な語彙を英語で学ぶとともに、読む・聞く・話す・書くといった4技能の中でも、特に英語を読む能力を高めていく。英語を読む力があれば、インターネットを通して世界中の社会、経済、ビジネスに関する情報を、とりわけマスコミや引用者といった第三者を介していない一次情報を獲得することが可能になり、情報の範囲や質的側面において大きなアドバンテージとなる。	
	情報英語Ⅱ	「情報英語Ⅰ」に引き続き、グローバルに活躍できる情報スペシャリストおよび情報ゼネラリストとなるために、現代のICT社会に必要な基本的な語彙を英語で学ぶとともに、読む・聞く・話す・書くといった4技能の中でも、特に英語を読む能力を高めていく。英語を読む力があれば、インターネットを通して世界中の社会、経済、ビジネスに関する情報を、とりわけマスコミや引用者といった第三者を介していない一次情報を獲得することが可能になり、情報の範囲や質的側面において大きなアドバンテージとなる。	
	情報倫理	今日の情報社会では、情報技術に加え、技術者としての行動規範や情報技術に関する法的・倫理的な理解が極めて重要となっている。本科目は情報技術者の行動規範や関連する法律・倫理などについて学ぶことを目的とする。具体的には、情報技術が社会や人に及ぼす影響を理解し、倫理的な行動規範を遵守することについて学ぶとともに、技術文書・ウェブのコンテンツの書き方や公開などについても著作権法などを踏まえた正しい知識の養成を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 総 合 科 目 群	社会情報学概論	<p>(概要) 社会情報学とは、コンピュータサイエンスが中核であった情報科学とは違って、それによって扱われる情報がいかに経済社会や市民生活を改善するか、場合によっては新たな課題を持ち込むかを考察するものである。本科目はその基本姿勢を理解させるとともに、いくつかの具体的な局面において、情報が社会や生活に影響を及ぼす実態を、下記5つのサブテーマから解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鯨坂 恒夫/3回) 人間にとっての情報(言語的意味)と機械にとっての情報(データ分画)を比較する。</p> <p>(4 大野 ゆう子/3回) データサイエンスと人工知能がもたらす利益と課題について考える。</p> <p>(3 天野 憲樹/3回) 情報科学が社会にもたらすイノベーションについて考察する。</p> <p>(5 大森 いさみ/3回) メディアという視点から社会を分析・理解するメディアスタディーズについて学ぶ。</p> <p>(2 赤岡 仁之/3回) マーケティングの観点から企業情報が社会や消費生活に与える影響と課題を抽出する。</p>	オムニバス方式
	プロジェクト演習入門	<p>学生生活のなかで、身近に接することが多い大学のコミュニケーションプラットフォームを題材にグループワークを行う。まずは学術、ビジネスプロジェクトにおけるプロセスを実感・体験することに主眼をおく。情報収集→分析→課題発見→テーマ・コンセプト設定→手法の選択までを1年次で体験することを目的とし、これからの学びの必要性を理解し、主体的に取り組む態度を身につけることを到達目標とする。2年次以降のプロジェクト演習のための入門科目と位置づける。</p>	
	プロジェクト演習Ⅰ	<p>社会調査は、量的調査(アンケート調査やビッグデータ解析)と、質的調査(参与観察やインタビュー/聞き書き)から、成り立つ。本演習では、質的調査の基本手法を学ぶ。事前の調査計画から調査倫理や対外折衝法、調査項目策定から分析/考察/発表法、得た知見の日常生活・地域社会への還元方法までを、一貫したプロジェクトを通じて学ぶ。近隣社会における自らの消費生活の場である商業施設への参与観察に始まり、習俗や祭礼など地域生活共同体のフォークロアに目を向け、フィールドワーク調査を実施し、主体的な学びを喚起する。</p>	
	プロジェクト演習Ⅱ	<p>企業にとって、Webサイトは、伝統的なマスメディアとの連動を深めていく中で、広報活動の重要な役割を担っている。本プロジェクトにおいては、現実に企業がどのようにWebマーケティングを行い、社会や生活者に情報を発信しているのか、そしてそこにはいかなる課題があるのかを、マーケティングおよびコミュニケーション戦略の観点から考察していく。具体的には、協賛企業(ホテルチェーン企業を予定)のWebマーケティングを事例にして、グループワーク形式で進めていく。</p>	共同(一部)
	プロジェクト演習Ⅲ	<p>本授業では、学生たちがさまざまなプロジェクトに参加し、学術的な知見をもって現実社会の課題にアプローチする視点を獲得することを目的とする。プロジェクト型の学びのなかで、これまでに習得した専門的知識や技術と、コミュニケーション力や行動力を高次に統合し、プロジェクト遂行力を養うことを目指す。指導には専門分野が異なる複数の教員があたり、それぞれの専門性をいかしたプロジェクトを少人数制で実施する。3年次以降の卒業研究につながる実践演習と位置付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(社会情報学部 社会情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	総合 科目 群		
	ハッカソン	ハッカソンとは、ハッキングとマラソンを組み合わせた造語であり、一定期間集中的にシステム設計・開発などの共同作業を行い、その成果を競うPBL活動である。具体的には、数名のチームに分かれ、提示されたテーマについて期間内に実装可能なサービスを考案し、実際にアプリケーションを構築する。本科目では、使用する技術の選定や実装工程・コストの見積もりができ、それを実際にモックアップの形で実装してみせる総合力の養成を目標とする。	集中
	卒業基礎研究	これまで修得してきた現代のICT社会を取り巻く「社会・経済・情報」に関する知識や、「社会・経済・情報」が複雑に絡み合った問題状況をベースにし、演習担当の指導教官のもとに、受講者は各自の関心と興味にしたがって研究対象を決定していく。また、研究計画の立て方、データの取得方法、議論の進め方などの各自の研究を深めるための方法論を学んでいくとともに、卒業研究の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得していく。	
	卒業研究	3年次開講の「卒業基礎研究」「卒業基礎演習Ⅰ」「卒業基礎演習Ⅱ」における学習成果をベースにしなが、演習担当の指導教官のもとに、受講者は各自の研究テーマを決定し、卒業論文とりまとめを念頭にした研究計画を作成する。また、先行研究のレビューを行うことにより、研究テーマを掘り下げていくとともに、独自性のある卒業論文を作成していくことを目指していく。各自が研究の進捗状況をプレゼンテーションし、その内容を受講者全員でディスカッションすることを繰り返すという方法によって、互いの研究の質を高め合っていく。	
	卒業基礎演習Ⅰ	演習担当の指導教官のもとに、各自の研究を深めるための方法論を学んでいくとともに、研究対象の基礎的知識や技術を高めしていくために、関連する研究の調査として、文献レビューやフィールドワークなどを行っていく。また、研究内容をまとめ上げ、発表するスキルを身につけるために、受講者全員でプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し行い、互いの研究の質を高め合っていく。とりわけ、継続的に学習できる能力や自律的に研究活動ができる能力を培う。	
	卒業基礎演習Ⅱ	「卒業基礎演習Ⅰ」に引き続き、演習担当の指導教官のもとに、各自の研究を深めるための方法論を学んでいくとともに、研究対象の基礎的知識や技術を高めしていくために、関連する研究の調査として、文献レビューやフィールドワークなどを行っていく。また、研究内容をまとめ上げ、発表するスキルを身につけるために、受講者全員でプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し行い、互いの研究の質を高め合っていく。とりわけ、継続的に学習できる能力や自律的に研究活動ができる能力を培う。	
キ ャ リ ア	キャリア プランニング	「キャリア」とは、就職に関することだけでなく、これからの人生の中で「どのように働くのか」や「どのような生活を送るのか」を含めた「生き方」のすべてである。本講義では、キャリア形成に必要な不可欠である①自己理解、②社会理解、③目標の設定、④行動計画の作成などの「キャリアプランニングプロセス」を身に付けていく。そのために、グループワークや演習を多く取り入れるとともに、社会の各分野で活躍する卒業生にも講義をしてもらう。	
	生涯学習論	「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる」生涯学習社会の実現が求められている。本講義では、人の生涯にわたる発達と生涯学習との関わり、社会における生涯学習の重要性、生涯学習施設やNPO法人における科学コミュニケーションを中心とした生涯学習の実践例について理解し、自ら積極的に生涯にわたる学びを実践していくことのできる素養を身に付けることを目的とする。	

学校法人武庫川学院 設置認可等に関わる組織の移行表

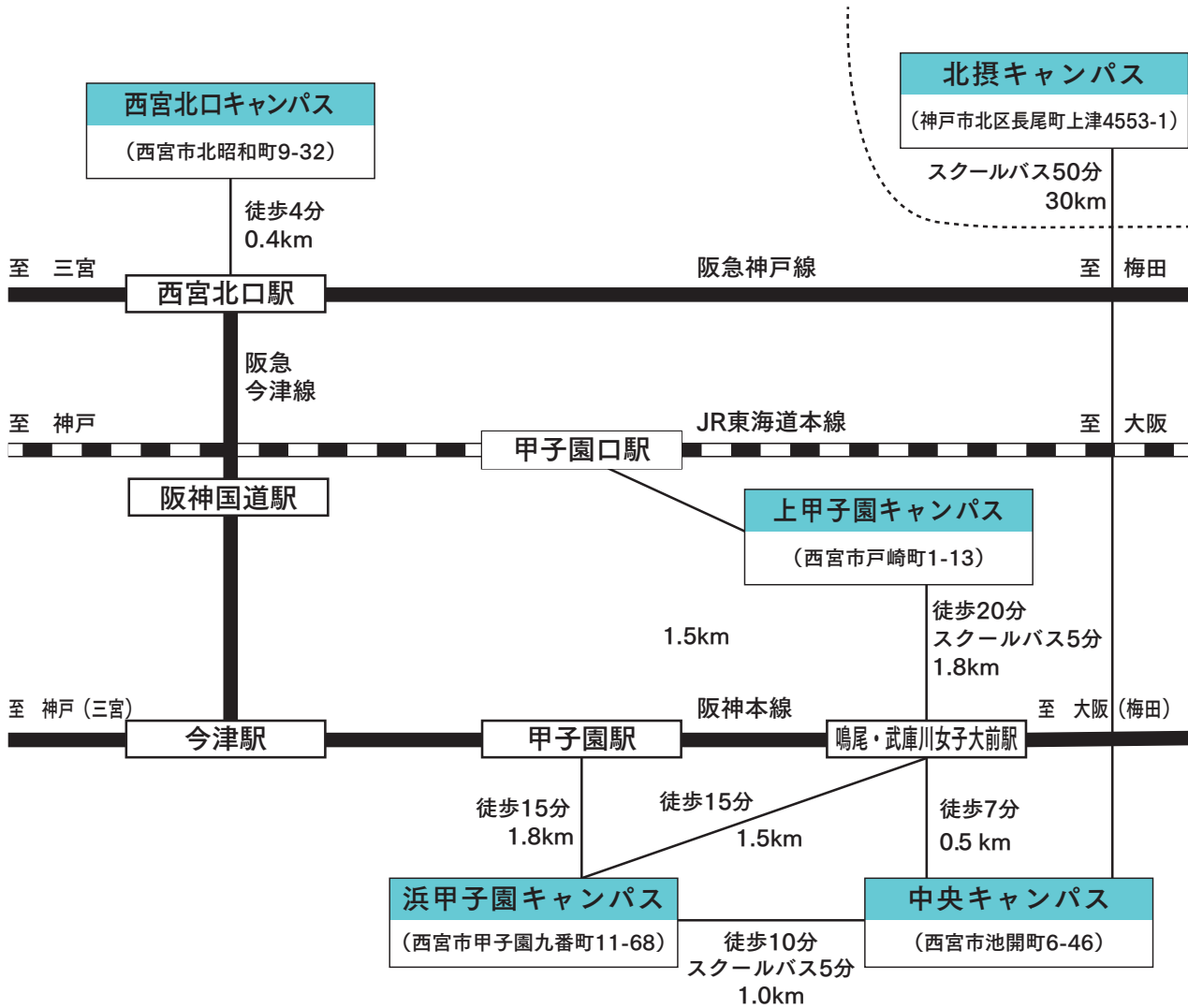
令和4年度				令和5年度				変更の事由
入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	収容定員		
武庫川女子大学				武庫川女子大学				名称変更(予定) 令和5年4月学生募集停止 3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止 学部の設置(届出) 学部の設置(届出) 学部の設置(届出)
文学部				文学部				
日本語日本文学科	150	3年次 25	650	日本語日本文学科	150	3年次 25	650	
英語文化学科	200	3年次 25	850	<u>英語グローバル学科</u>	200	3年次 25	850	
心理・社会福祉学科	160	3年次 17	674	0	—	0		
教育学部				教育学部				
教育学科	240	3年次 25	1,010	教育学科	240	3年次 25	1,010	
健康・スポーツ科学部				<u>心理・社会福祉学部</u>				
健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	<u>心理学科</u>	150	—	600	
				<u>社会福祉学科</u>	70	—	280	
生活環境学部				健康・スポーツ科学部				
生活環境学科	165	3年次 20	700	健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	
情報メディア学科	150	—	600	<u>スポーツマネジメント学科</u>	100	—	400	
食物栄養科学部				生活環境学部				
食物栄養学科	200	3年次 10	820	生活環境学科	165	3年次 20	700	
食創造科学科	80	3年次 5	330	0	—	0		
建築学部				<u>社会情報学部</u>				
建築学科	45	—	180	<u>社会情報学科</u>	180	—	720	
景観建築学科	40	—	160	食物栄養科学部	200	3年次 10	820	
音楽学部				食物栄養科学部				
演奏学科	30	—	120	食創造科学科	80	3年次 5	330	
応用音楽学科	20	—	80	建築学部	45	—	180	
薬学部				建築学部				
薬学科(6年制)	210	—	1,260	建築学科	45	—	180	
健康生命薬科学科	40	—	160	景観建築学科	40	—	160	
看護学部				音楽学部				
看護学科	80	—	320	演奏学科	30	—	120	
経営学部				応用音楽学科				
経営学科	200	—	800	20	—	80		
計				計				
2,190	147	9,474	2,380	3年次 130	10,200			
武庫川女子大学大学院				武庫川女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
日本語日本文学専攻(M)	12	—	24	日本語日本文学専攻(M)	12	—	24	
日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	
英語英米文学専攻(M)	12	—	24	英語英米文学専攻(M)	12	—	24	
英語英米文学専攻(D)	3	—	9	英語英米文学専攻(D)	3	—	9	
教育学専攻(M)	6	—	12	教育学専攻(M)	6	—	12	
臨床心理学専攻(M)	20	—	40	臨床心理学専攻(M)	20	—	40	
臨床教育学研究科				臨床教育学研究科				
臨床教育学専攻(M)	16	—	32	臨床教育学専攻(M)	16	—	32	
臨床教育学専攻(D)	6	—	18	臨床教育学専攻(D)	6	—	18	
健康・スポーツ科学研究科				健康・スポーツ科学研究科				
健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40	健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40	
生活環境学研究科				生活環境学研究科				
生活環境学専攻(M)	6	—	12	生活環境学専攻(M)	6	—	12	
生活環境学専攻(D)	2	—	6	生活環境学専攻(D)	2	—	6	
食物栄養科学研究科				食物栄養科学研究科				
食物栄養学専攻(M)	8	—	16	食物栄養学専攻(M)	8	—	16	
食物栄養学専攻(D)	2	—	6	食物栄養学専攻(D)	2	—	6	
食創造科学専攻(M)	4	—	8	食創造科学専攻(M)	4	—	8	
食創造科学専攻(D)	2	—	6	食創造科学専攻(D)	2	—	6	
建築学研究科				建築学研究科				
建築学専攻(M)	22	—	44	建築学専攻(M)	22	—	44	
建築学専攻(D)	2	—	6	建築学専攻(D)	2	—	6	
景観建築学専攻(M)	6	—	12	景観建築学専攻(M)	6	—	12	
景観建築学専攻(D)	1	—	3	景観建築学専攻(D)	1	—	3	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	2	—	8	薬学専攻(4年制D)	2	—	8	
薬科学専攻(M)	30	—	60	薬科学専攻(M)	30	—	60	
薬科学専攻(D)	2	—	6	薬科学専攻(D)	2	—	6	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	15	—	30	看護学専攻(M)	15	—	30	
看護学専攻(D)	5	—	15	看護学専攻(D)	5	—	15	
計				計				
207	—	446	207	—	446			
武庫川女子大学短期大学部				武庫川女子大学短期大学部				
日本語文化学科	100	—	200	日本語文化学科	100	—	200	
英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200	英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200	
幼児教育学科	150	—	300	幼児教育学科	150	—	300	
心理・人間関係学科	100	—	200	0	—	0		
健康・スポーツ学科	80	—	160	0	—	0		
食生活学科	80	—	160	食生活学科	80	—	160	
生活造形学科	90	—	180	生活造形学科	90	—	180	
計				計				
700	—	1,400	520	—	1,040			

(1) 都道府県（兵庫県）内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面 武庫川女子大学キャンパス関係図

(注：本図は、校地面積不算入施設用地を除く。)



(3) 校舎、運動場等の配置図

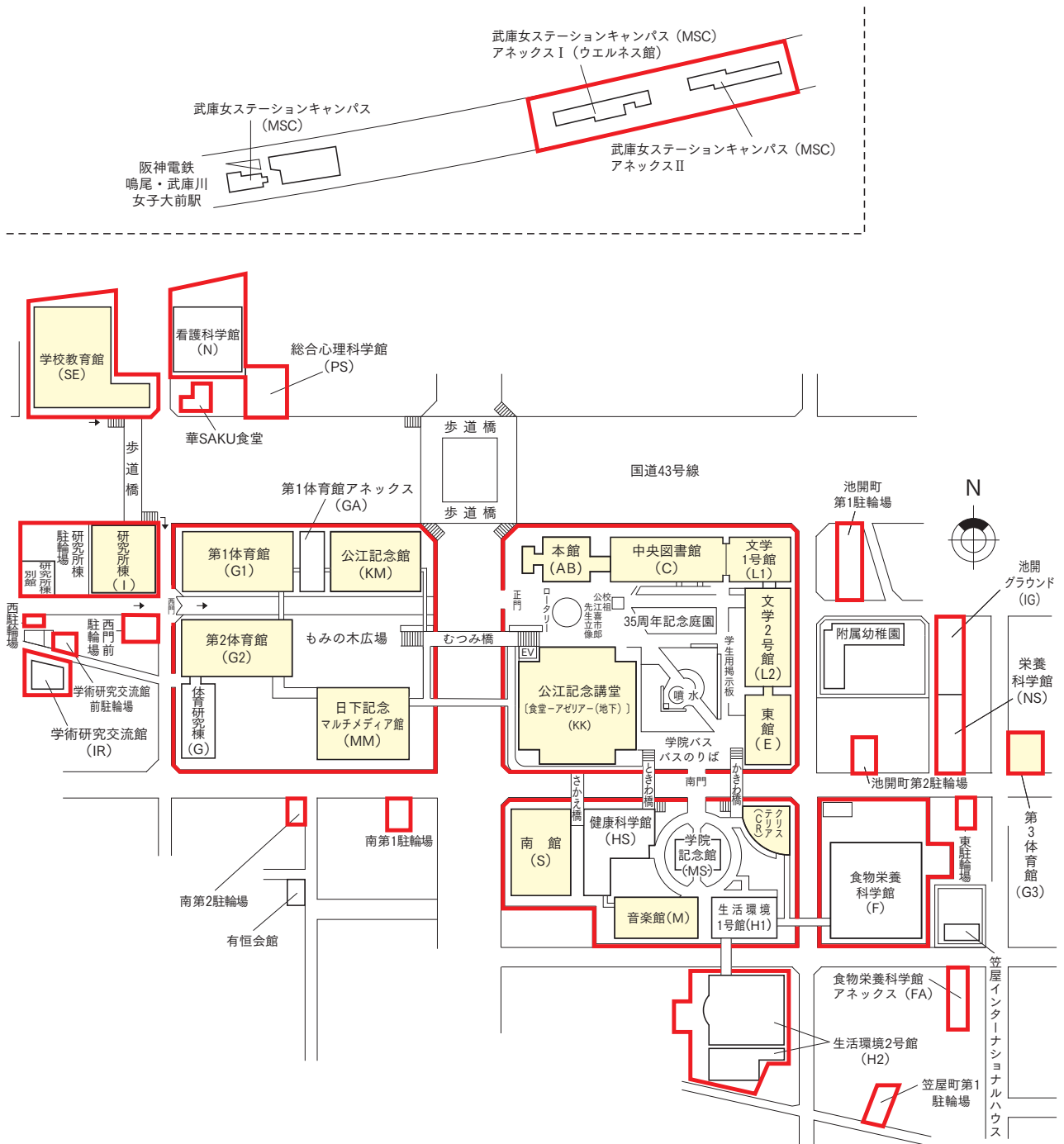
中央キャンパス

(西宮市池開町他)

	校地面積	校舎面積
専用	2,316.11m ²	20,490.22m ²
共用*	113,987.05m ²	109,280.38m ²
(うち借用1,129.19m ²)		
合計	116,303.16m ²	129,770.60m ²

※武庫川女子大学短期大学部との共用



校地面積算入部分
 社会情報学部が使用する校舎

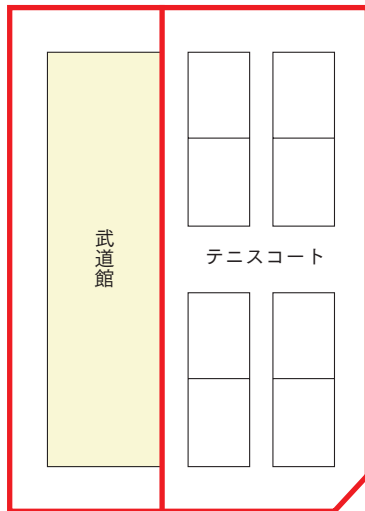


(中央キャンパス) 上田テニスコート

(西宮市上田西町)

大学・短大共用

 校地面積算入部分
 社会情報学部が使用する校舎

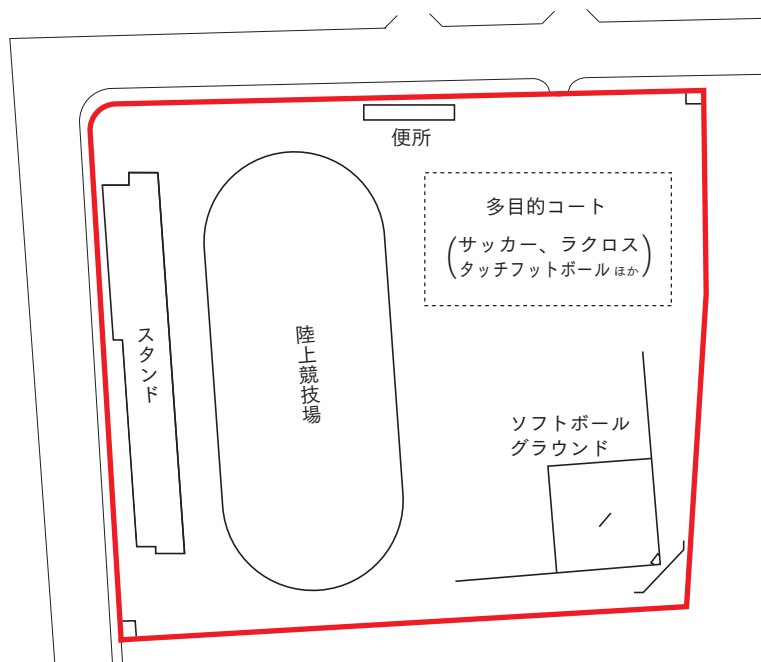


〈中央キャンパスから徒歩5分〉

(中央キャンパス) 総合スタジアム

(西宮市鳴尾浜)

大学・短大共用



〈中央キャンパスからスクールバス10分〉

浜甲子園キャンパス

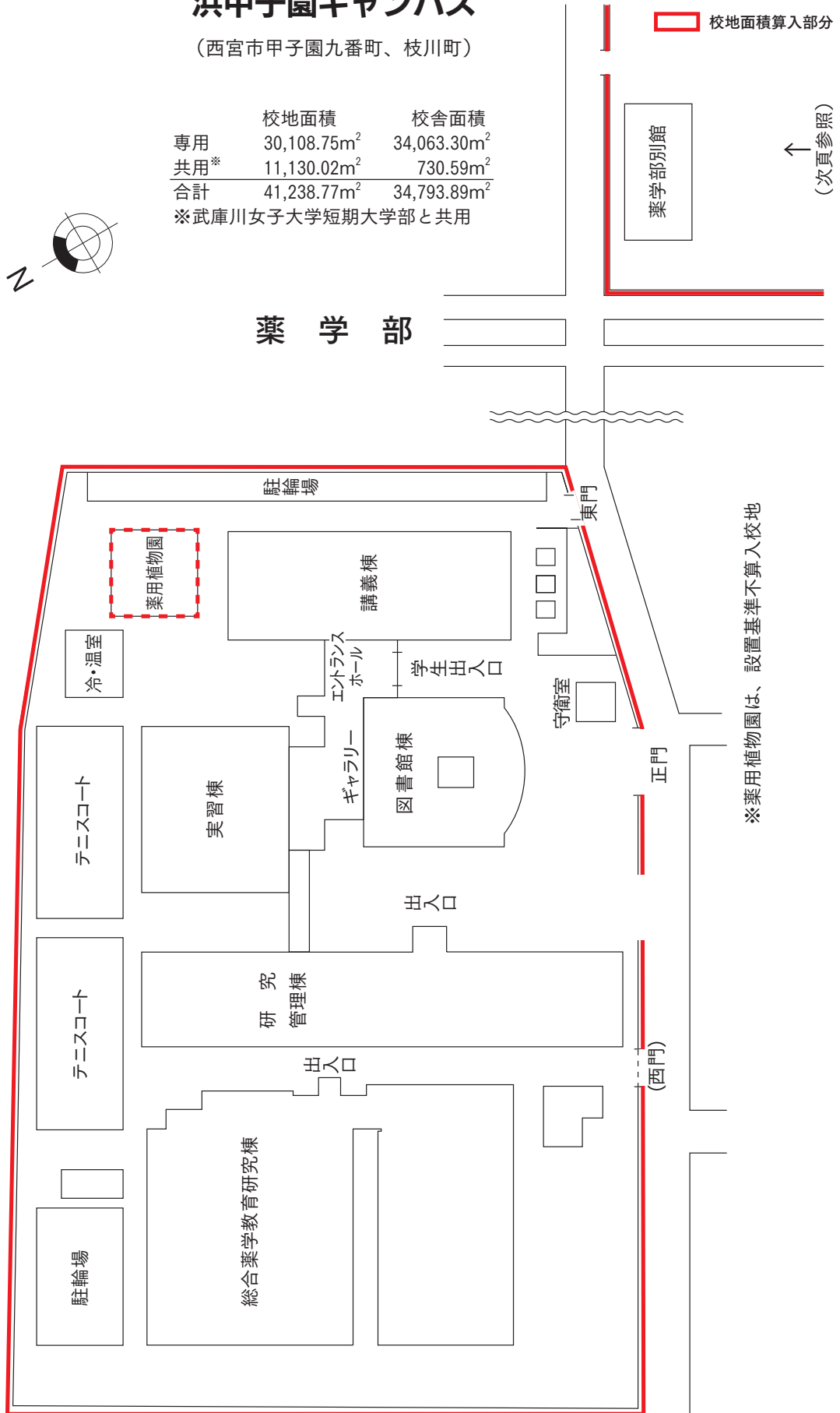
(西宮市甲子園九番町、枝川町)

	校地面積	校舎面積
専用	30,108.75m ²	34,063.30m ²
共用 [※]	11,130.02m ²	730.59m ²
合計	41,238.77m ²	34,793.89m ²

※武庫川女子大学短期大学部と共用



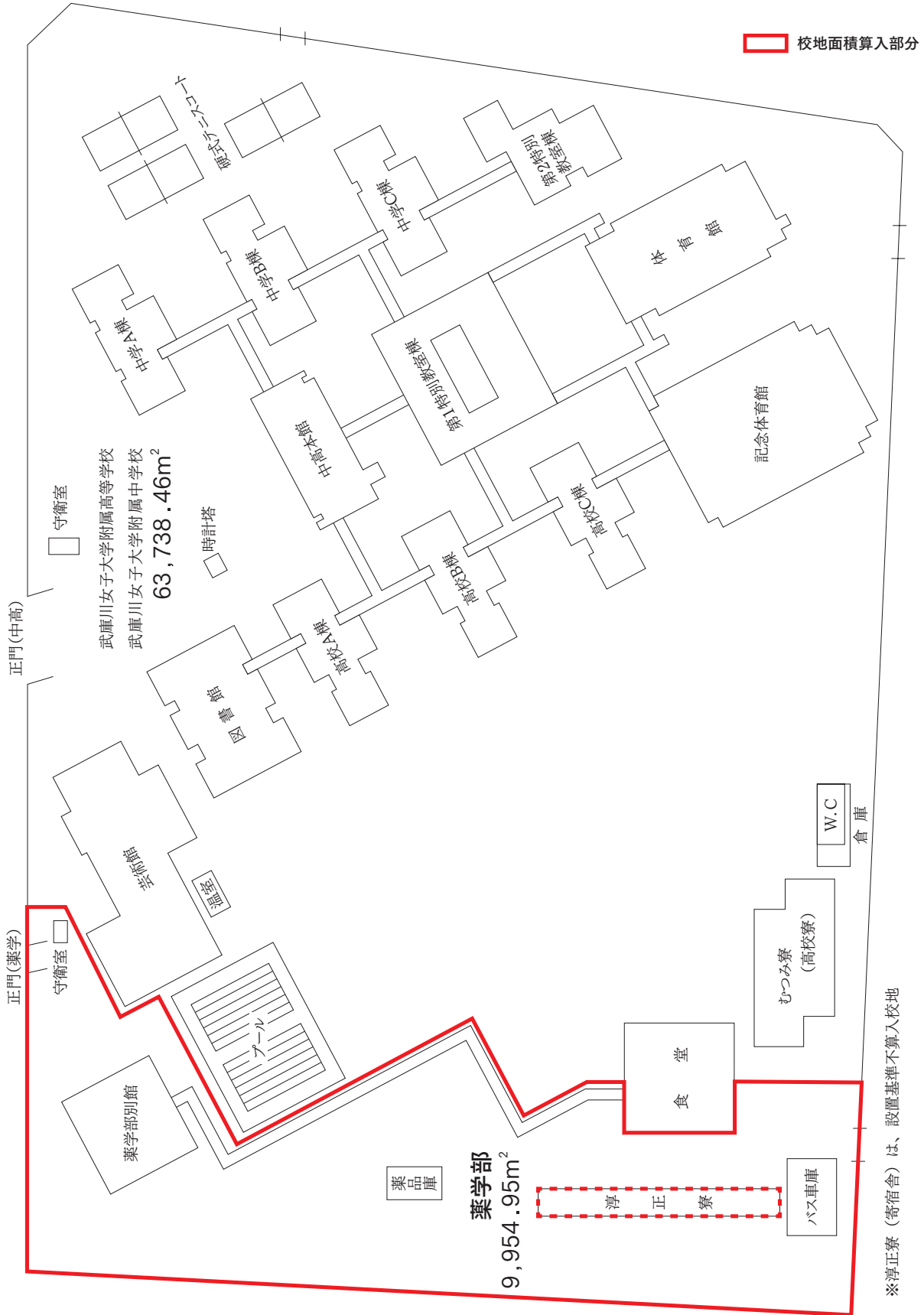
薬学部



※薬用植物園は、設置基準不算入校地

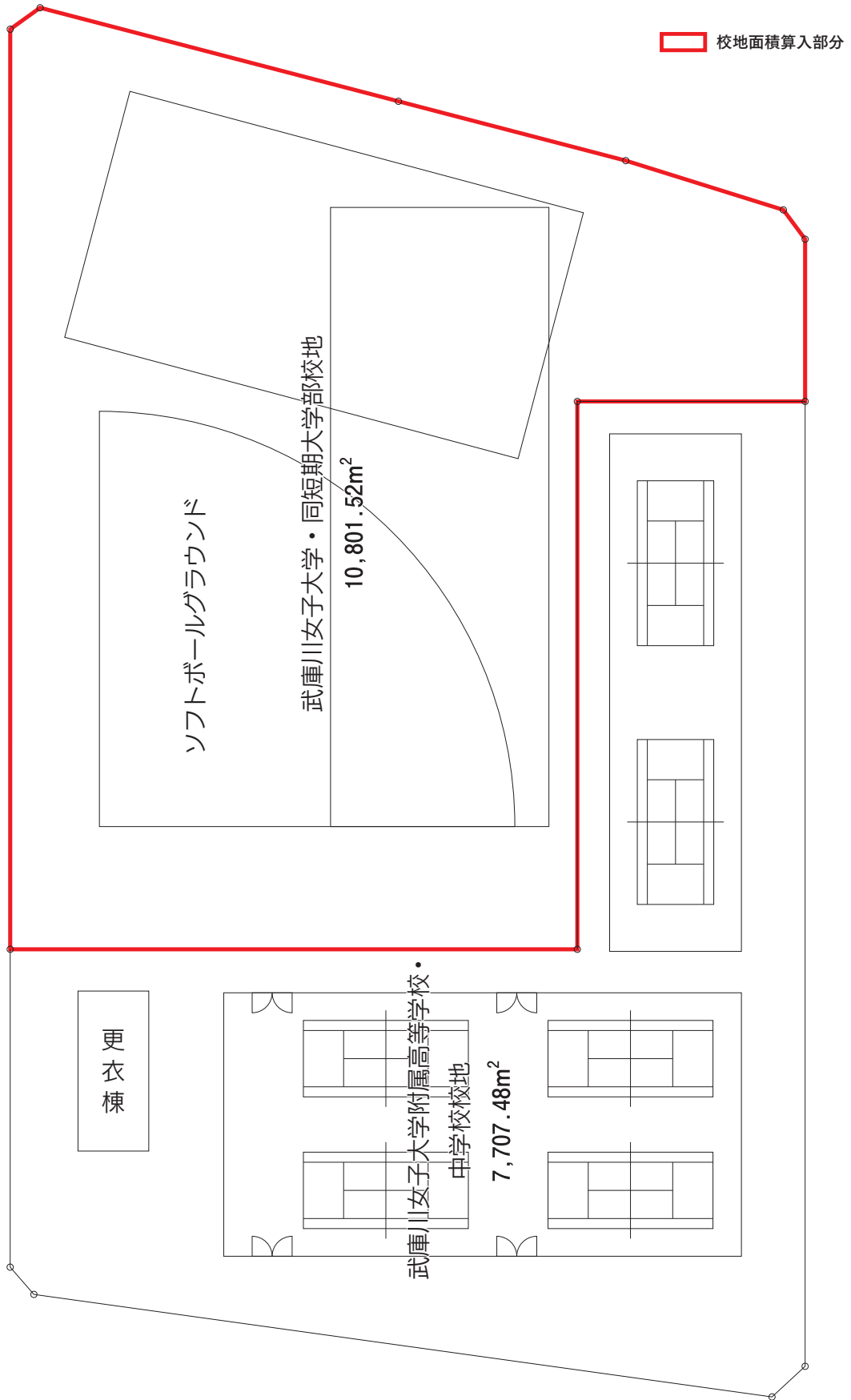
(浜甲子園キャンパス)

(西宮市枝川町)



(浜甲子園キャンパス) 浜甲子園グラウンド

(西宮市枝川町)



校地面積算入部分

上甲子園キャンパス

(西宮市戸崎町)



校地面積 校舎面積
専用 35,614.74m² 17,388.59m²

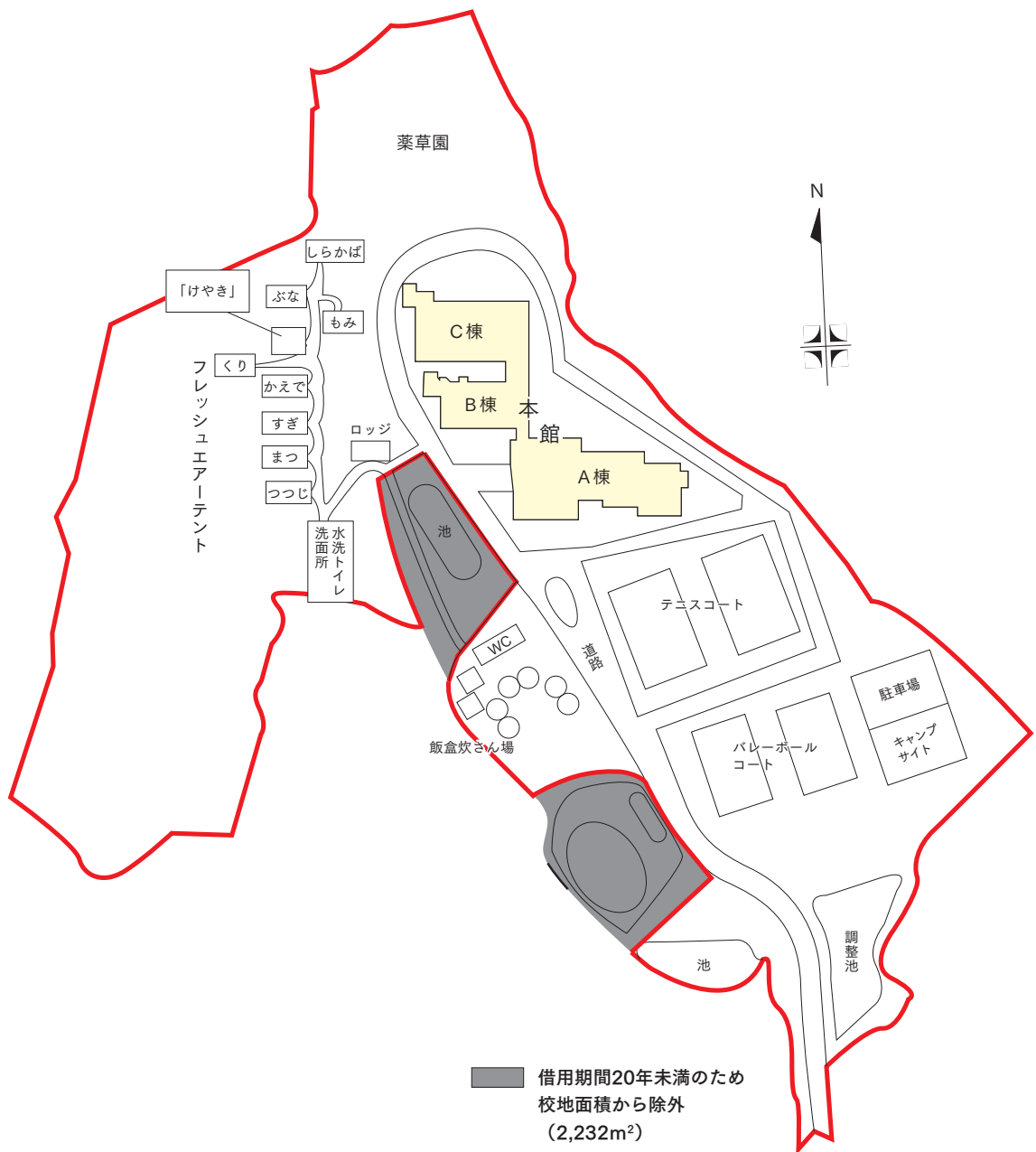


北摂キャンパス

(神戸市北区長尾町)

校地面積 校舎面積
共用* 40,220.00m² 4,313.18m²
※武庫川女子大学短期大学部と共用

-  校地面積算入部分
-  社会情報学部が使用する校舎

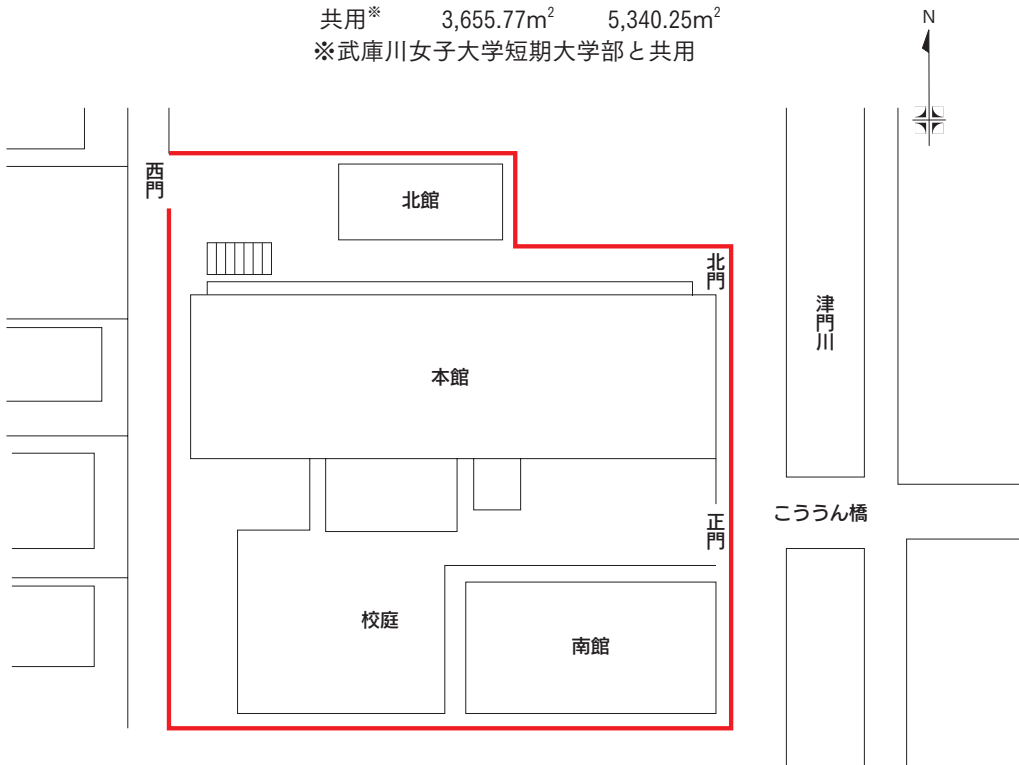


 校地面積算入部分

西宮北口キャンパス

(西宮市北昭和町)

校地面積 校舎面積
共用* 3,655.77m² 5,340.25m²
*武庫川女子大学短期大学部と共用



令和5年4月1日 改正

学 則 (案)

武庫川女子大学

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。

(名称)

第2条 本学は、武庫川女子大学と称する。

(所在地)

第3条 本学は、兵庫県西宮市池開町6番46号に設置する。

(自己点検及び評価)

第4条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努める。

2 前項の点検及び評価の実施に関して必要な事項は、別に定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第4条の2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、本学における研修及び研究を組織的に実施するものとする。

2 前項の教育内容等の改善のための組織的な研修等の実施に関して必要な事項は、別に定める。

第2章 学部・学科・収容定員・目的及び修業年限

(学部・学科及び収容定員)

第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	150	3年次 25	650
	英 語 文 化 学 科	200	3年次 25	850
教 育 学 部	教 育 学 科	240	3年次 25	1,010
心 理 ・ 社会福祉学部	心 理 学 科	150	—	600
	社 会 福 祉 学 科	70	—	280
健康・スポーツ 科学部	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科	180	3年次 20	760
	ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト 学 科	100	—	400
生活環境学部	生 活 環 境 学 科	165	3年次 20	700
社会情報学部	社 会 情 報 学 科	180	—	720
食物栄養科学部	食 物 栄 養 学 科	200	3年次 10	820
	食 創 造 科 学 科	80	3年次 5	330
建 築 学 部	建 築 学 科	45	—	180
	景 観 建 築 学 科	40	—	160
音 楽 学 部	演 奏 学 科	30	—	120
	応 用 音 楽 学 科	20	—	80
薬 学 部	薬 学 科	210	—	1,260
	健 康 生 命 薬 科 学 科	40	—	160
看 護 学 部	看 護 学 科	80	—	320
経 営 学 部	経 営 学 科	200	—	800

(目的)

第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。

2 文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 日本語日本文学科は、日本語日本文学の教育研究を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 英語文化学科は、英語英米文化文学の教育研究を通して、言語や文化、文学を深く理解し、自文化のみならず異文化の優れた理解者として、実践的に英語を使って国際社会で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

3 教育学部教育学科は、立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える有為な女性の育成を目的とする。

この目的を実現するために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる優れた実践的指導力、高い意欲及び創造性を養う。

4 心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない (leave no one behind) 世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。

(1) 心理学科は、自身の理想を探求・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に発見し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。

(2) 社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人たちと共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。

5 健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通

して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。

(2) スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。

6 生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

7 社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかに発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

8 食物栄養科学部は、栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。

(1) 食物栄養学科は、食物栄養の分野にとどまらず、公衆衛生学、臨床医学、栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学分野等の専門的な知識と技術を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、管理栄養士として必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけることを目的とする。

(2) 食創造科学科は、初年次よりキャリア意識を育みながら、栄養士関連科目を修得して専門性を高め3年次後期には全員に食産業企業へのインターンシップ参加を義務づける。在学中の就業体験を通じて、実践的な知識を深め、人間形成・キャリア形成を図り、次世代の食産業を牽引する女性人材の輩出を目的とする。

9 建築学部は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。

(1) 建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応した世界基準の学びを通して培うことを目的とする。

(2) 景観建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、自然との共生や景観映像情報技術の幅広い学びを通して培うことを目的とする。

10 音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求

するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。

(1) 演奏学科は、音楽演奏を通して、豊かな人間性と幅広い教養、高い専門知識・技術を養い、演奏家、指導者として文化・社会の発展に寄与する有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 応用音楽学科は、豊かな人間性と幅広い教養、音楽専門知識・技術に基づく音楽の応用によって、地域・社会の活性化及び人間の心身の健康の維持・安定に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

11 薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。

(1) 薬学科は、薬剤師として高度な臨床能力と実践力を有し、医療人としての使命感を持ち、病院・薬局などの医療機関をはじめ、薬の専門家としてあらゆる場面で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 健康生命薬科学科は、健康科学、生命科学を重視した薬科学教育によって、研究機関、医薬品関連業界、環境衛生行政など、薬と健康に関連した多彩な分野で社会に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

12 看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。

13 経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

(大学院及び専攻科)

第6条 本学に大学院及び専攻科を置く。

2 大学院の学則並びに専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第7条 本学の修業年限は4年とする。ただし、薬学部薬学科については6年とする。

2 第16条の規定により編入学した者、再入学及び転入学した者の修業年限の取扱いについては、別に定める。

3 在学年限は、修業年限の2倍を超えることができない。

4 本条第3項のほか、薬学部薬学科においては、同一学年に在学することができる年数は2年を限度とする。

第3章 学年・学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第9条 学年を次の3学期に分ける。

前学期 4月1日より8月31日まで

後学期 9月1日より1月31日まで

特別学期 2月1日より3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 創立記念日 2月25日
- (3) 日曜日
- (4) 夏季休業 8月5日より9月14日まで
- (5) 冬季休業 12月25日より翌年1月7日まで
- (6) 春季休業 3月20日より4月2日まで

2 学長は、必要がある場合、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 学長は、第1項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第4章 入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍

(入学の時期)

第11条 入学期日は学年の始めとする。ただし、後学期の始めに入学させることができる。

(入学資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 大学入学資格検定規程により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (6) 文部科学大臣が高等学校若しくは中等教育学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学において、相当の年齢に達し高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選抜)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選抜を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

3 入学を許可された者は、所定の期日までに、入学誓書兼同意書・保証書・その他本学所定の書類を提出しなければならない。

4 前項の保証書の保証人は、独立の生計を営む満25歳以上の者で、確実に保証人の責務を履行し得るものでなければならない。若し、本学において不相当と認められたときは、保証人の変更を命ずることがある。

5 保証人が死亡又はその他の理由で、その責をつくし得ないときは、新たに保証人を選定して、直ちに届け出なければならない。

6 保証人が転居した場合は、直ちにその旨を届け出なければならない。

(編入学)

第16条 本学に、編入学を志願する者があるときは、編入学定員を定める学科等のほかは、欠員のある場合に限り、選抜の上、入学を許可することがある。

2 編入学の入学資格は、次の各号の一に該当するものとする。

(1) 短期大学を卒業した者

(2) 大学に2年以上在学し、本学が定める所定の単位を修得した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 学校教育法第132条の規定により、大学に編入学することができる者

3 第1項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

4 編入学について必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第16条の2 本学に、再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

3 再入学について必要な事項は、別に定める。

(留学)

第16条の3 本学と交換留学協定又は派遣留学に関する協定を締結している外国の大学に留学を志願する者があるときは、選考の上、留学を許可する。

2 前項により留学した期間は、第7条に規定する修業年限及び在学年限に算入する。

3 留学に関する規定は、別に定める。

(転学部・転学科)

第17条 本学学生が、同一学部に属する他の学科へ転学科を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

2 本学学生が、他学部に属する学科へ転学部を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

3 転学部又は転学科した者の在学年数には、転学部又は転学科前の在学年数の全部又は一部を通算することができる。

(他大学等からの転学)

第18条 他の大学等の学生が、正当な理由により、本学に転学を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

2 前項の転学生については、第16条第3項の規定を準用する。

(他大学等への転学)

第19条 他の大学等に転学を志望する者があるときは、やむを得ない事情のある場合にのみ許可することがある。

(退学)

第20条 退学しようとする者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。

2 第7条第4項の規定に基づき、在学することができない者は退学とする。

(休学)

第21条 疾病その他やむを得ない事情により、2か月以上修学することのできない者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 疾病のため、修学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることがある。

(休学の期間)

第22条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。

3 休学の期間は、第7条第3項及び第4項の在学年限に算入しない。

(復学)

第23条 休学期間中に、その理由が消滅した場合は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署

の上、願い出て、復学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

(除籍)

第24条 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 第7条第3項に規定する在学年限を超えた者
- (2) 第22条第2項に規定する休学の期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 休学期間満了後正当な理由なくして、復学、休学の継続、退学のいずれかの願い出がない者
- (4) 学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (5) 長期間にわたり所在不明の者
- (6) 法に定める在留資格が得られない者
- (7) 死亡した者

第25条 入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍する者は、教授会の意見を聴いて、学長が定める。

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第26条 授業科目を分けて、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目とする。

- 2 前項の授業科目のほか、本学独自の教育目標を達成するため、特別教育科目を置く。特別教育科目は、原則として特別学期に開講する。
- 3 共通教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第1のとおりとする。
- 4 基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第2のとおりとする。
- 5 特別教育科目の授業科目並びにその授業時間数は、別表第3のとおりとする。

第27条 前条に規定するもののほか、教職、司書、司書教諭及び学芸員に関する専門教育科目を置く。

- 2 前項の各授業科目並びにその単位数は、別表第4から第7のとおりとする。

(教育職員免許状)

第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法（別表第1、第2の備考）、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

- 2 本学で開設する教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」の授業科目並びにその単位数は、別表第4のとおりとする。ただし、教育学部教育学科においては別表第2のとおりとする。健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科における教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」は別表第4のとおり、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」は別表第2のとおりとする。
- 3 食物栄養科学部食物栄養学科の学生で栄養教諭一種免許状授与の所要資格を得ようとする者は、

第1項によるほか、栄養士法、同法施行規則及び管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科又は領域
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	中学校教諭一種免許状	国 語
		高等学校教諭一種免許状	国語・書道
	英 語 文 化 学 科	中学校教諭一種免許状	英 語
		高等学校教諭一種免許状	英 語
教 育 学 部	教 育 学 科	幼稚園教諭一種免許状	—
		小学校教諭一種免許状	—
		中学校教諭一種免許状	国語・英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者 肢体不自由者 病弱者
健康・スポーツ 科 学 部	健康・スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭一種免許状	保 健 体 育
	スポーツマネジメント学科	中学校教諭一種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭一種免許状	保 健 体 育
生活環境学部	生 活 環 境 学 科	中学校教諭一種免許状	家 庭
		高等学校教諭一種免許状	家 庭
社会情報学部	社 会 情 報 学 科	高等学校教諭一種免許状	情 報
食物栄養科学部	食 物 栄 養 学 科	栄養教諭一種免許状	—
音 楽 学 部	演 奏 学 科	中学校教諭一種免許状	音 楽
	応 用 音 楽 学 科	高等学校教諭一種免許状	音 楽
薬 学 部	健 康 生 命 薬 科 学 科	中学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	理 科

(図書館司書、学校図書館司書教諭)

第27条の3 図書館司書課程履修可能な学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、図書館法及び同法施行規則に定める単位を別表第5に従い修得しなければならない。

2 学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件取得可能な学科において学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状授与の所要資格を得るために必要な単位を修得するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に定める単位を別表第6に従い修得しなければならない。

(博物館学芸員)

第27条の4 博物館学芸員課程履修可能な学科において博物館学芸員の資格を得ようとする者は、

第35条の規定によるほか、博物館法及び同法施行規則に定める単位を別表第7に従い修得しなければならない。

(保育士)

第27条の5 教育学部教育学科の学生で保育士証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、児童福祉法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 教育学部教育学科の指定養成施設としての定員は100名である。
- 3 履修方法は別に定める。

(栄養士、管理栄養士)

第27条の6 食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学科の学生で栄養士免許証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、栄養士法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 食物栄養科学部食物栄養学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、前項の規定により栄養士免許証交付の資格要件を得るとともに、管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。
- 3 履修方法は別に定める。

(建築士)

第27条の7 生活環境学部生活環境学科及び建築学科、建築学部建築学科及び景観建築学科の学生で本学を卒業後2年以上の実務の経験を経て一級建築士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、建築士法第14条第1号に基づき、国土交通大臣の指定する建築に関する科目の単位を修得しなければならない。

- 2 履修方法は別に定める。

(社会福祉士、精神保健福祉士)

第27条の8 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。
- 3 心理・社会福祉学部社会福祉学科の定員は70名である。
- 4 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。
- 5 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は40名である。
- 6 履修方法は別に定める。

(看護師)

第27条の9 看護学部看護学科の学生で、看護師国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める所定の単位を修得しなければ

ならない。

2 履修方法は別に定める。

(単位の計算方法)

第28条 第26条第1項並びに第27条第1項に規定する各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容に応じ、教育効果を考慮して、20時間又は30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容に応じ、授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容及び授業の方法に応じ、教育効果を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。音楽の個人指導による実技の授業については、特に授業時間外に必要な学修を考慮して、5時間又は10時間の授業をもって1単位とすることができる。なお、社会福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ」、精神保健福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅳ」、保育士資格に係る「保育実習、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ」、及び公認心理師国家試験受験資格に係る「心理実習」として開設の授業科目のうち実習施設における授業時間数については、厚生労働省がそれぞれの指定基準に定める実習時間数に基づき、40時間又は45時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 1の授業科目について、講義、演習、実験又は実習のうち2以上の方法により行なう場合については、その組み合わせに応じ、前3号に規定する基準により算定した時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 特別教育科目のうち、ボランティア活動及びインターンシップ活動による単位認定は30時間の活動をもって1単位とする。対象となる活動については、別に定める。

(多様なメディアを高度に利用した学修)

第28条の2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前条に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(1年間の授業期間)

第29条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の授与)

第30条 特別教育科目を除く授業科目にあつては、その授業科目を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。ただし、第28条第2項の授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与えることができる。

2 第28条第3項の基準に従って認定された者には所定の特別単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第31条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の協定した他の大学又は短期大学の授業科目を履修し修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が第16条の3の規定により外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第32条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 第1項に規定する学修に対する単位の認定等について必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第33条 本学の第1年次に入学した学生が、入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について、修得した単位(科目等履修生により修得した単位を含む。)を、本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学の第1年次に入学した学生が、入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第31条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第34条 試験等成績の評価は、S、A、B、C、不合格、E、F、認をもって表わし、S、A、B、

C、認を合格とする。

2 この学則に定めるもののほか、成績の評価に関する必要な事項は、別に定める。

第6章 卒業及び学位の授与

(卒業の要件)

第35条 本学の卒業要件は、第7条に規定する修業年限以上在学し、別表第1、第2に掲げる授業科目の中から、同表に定める履修方法に従い、124単位以上を修得しなければならない。ただし、生活環境学部建築学科及び建築学部の学生は128単位以上を、薬学部薬学科の学生は190単位以上を、看護学部看護学科の学生は127単位以上を修得しなければならない。

2 前項に規定するもののほか、別表第4から第7に掲げる授業科目を履修し、単位を修得した場合、20単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位数に含めることができる。

(卒業)

第36条 本学に第7条に規定する修業年限以上在学し、前条に規定する所定の単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第37条 学長は、卒業を認定した者に対して、武庫川女子大学学位規程の定めるところにより、学士の学位を授与する。

第38条 削除

第7章 入学検定料・入学金・学費

(入学検定料等の金額)

第39条 本学の入学検定料・入学金及び学費は、別表第8のとおりとする。

(学費の納入期)

第40条 学費は次の2回に分けて納入しなければならない。

第1回 4月20日まで

第2回 10月11日まで

2 学長は、必要に応じて前項の期日を臨時に変更することができる。

(納入した入学検定料等)

第41条 納入した入学検定料及び入学金は、事情の如何にかかわらず返還しない。

2 納入した授業料・教育充実費及び学生研修費等の取扱いについては、別に定める。

(退学・停学・休学・復学の場合の学費)

第42条 退学・停学・休学・復学の場合の学費の納入方法については、別に定める。

2 休学中は、学費の納入は免除する。ただし、休学中は、休学在籍料を納入しなければならない。

休学在籍料に関する必要な事項は、別に定める。

(留年・卒業延期の場合の学費)

第42条の2 留年・卒業延期の場合の学費に関する必要な事項は、別に定める。

第8章 教職員組織

(教職員組織)

第43条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、副手、事務職員、技術職員、その他必要な職員を置く。

(学長)

第44条 学長は本学の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(副学長)

第45条 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

2 学長に事故あるときは、その職務を代行する。

(学部長)

第46条 本学に学部長を置く。

2 学部長は、当該学部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(共通教育部長)

第46条の2 本学に共通教育部長を置く。

2 共通教育部長は、共通教育部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(学科長)

第47条 本学に学科長を置く。

2 学科長は、当該学科の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(共通教育科長)

第47条の2 本学に共通教育科長を置く。

2 共通教育科長は、共通教育の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(幹事教授)

第48条 本学に幹事教授を置く。

2 幹事教授は、学科長を補佐する。

第9章 学部教授会、共通教育部教授会及び評議会

(学部教授会)

第49条 本学に学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

(共通教育部教授会)

第49条の2 本学に共通教育部教授会を置く。

(教授会の構成)

第50条 教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、当該学部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

(共通教育部教授会の構成)

第50条の2 共通教育部教授会は、当該部の専任教授をもって構成する。ただし、共通教育部長が

必要と認めるときは、当該部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 共通教育部教授会は、共通教育部長が招集し、その議長となる。

(教授会の審議事項)

第51条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(共通教育部教授会の審議事項)

第51条の2 共通教育部教授会は、学長が、共通教育に係る教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

2 共通教育部教授会は、学長及び共通教育部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる共通教育に係る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(評議会)

第52条 本学に大学評議会（以下「評議会」という。）を置き、全学部を横断する事項について審議する。

(評議会の構成)

第53条 評議会は、開設する学部・学科を代表する者を含む学長の申請に基づき理事長が任命した次に掲げる評議員をもって構成する。

- (1) 学 長
- (2) 副 学 長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 各学科長
- (6) 教育研究所長
- (7) 附属図書館長
- (8) その他、学長が必要と認めたる者

2 評議会は、学長が招集し、その議長となる。

(評議会の審議事項)

第54条 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する全般的事項

- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
 - (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
 - (5) 教育、研究に関する全般的事項
 - (6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項
- (その他)

第55条 本章に定めるもののほか、教授会、共通教育部教授会及び評議会に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生

(科目等履修生・特別聴講生)

第56条 本学において、特定の授業科目の履修を志望する者があるときは、本学の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生として在籍を許可することがある。科目等履修生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

2 他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の学生が、本学の授業科目について履修を願い出たときは、選考の上、これを特別聴講生として履修を許可することができる。特別聴講生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

3 科目等履修生の履修料等は、別表第9のとおりとし、特別聴講生の聴講料等は、別に定める。

(研究生)

第57条 本学において、特に研究を志望する者があるときは、その願い出により、研究生として許可することがある。

2 研究生の研究料は、別表第10のとおりとする。

(研修員)

第58条 本学以外の機関に所属する者で、その所属機関の長の委託により、大学において特定事項について研修しようとするときは、願い出により、研修員として許可することがある。

2 研修員の研修料は、別に定める。

(外国人留学生)

第59条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、選抜の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

(その他)

第60条 科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生の許可については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

2 科目等履修生・特別聴講生・研究生及び外国人留学生の本学則の適用については、修学上必要な事項のほか第62条並びに第63条の規定を準用する。

3 この学則に定めるもののほか、科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

第61条 削除

第11章 賞罰

(表彰)

第62条 学生として全学生の模範となる善行のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が表彰する。

(懲戒)

第63条 本学の規則、命令に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学・停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 前2項により停学となった期間は、第7条に規定する修業年限に含めることはできない。

5 この学則に定めるもののほか、懲戒に関する必要な事項は、別に定める。

第12章 附属図書館

(附属図書館)

第64条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規定は、別に定める。

第13章 スポーツセンター

(スポーツセンター)

第65条 本学にスポーツセンターを置く。

2 スポーツセンターに関する規定は、別に定める。

第14章 研究所

(研究所)

第66条 本学に教育研究所、発達臨床心理学研究所、言語文化研究所、生活美学研究所、情報教育研究センター、バイオサイエンス研究所、国際健康開発研究所、トルコ文化研究センター、健康運動科学研究所、栄養科学研究所、学校教育センター、女性活躍総合研究所及び附属総合ミュージアムを置く。

2 研究所に関する規定は、別に定める。

第15章 公開講座

(オープン・カレッジ)

第67条 本学にオープン・カレッジを置く。

2 オープン・カレッジに関する規定は、別に定める。

第16章 学寮

(学寮)

第68条 本学に学寮を置く。

2 学寮に関する規定は、別に定める。

第17章 改廃

(改廃)

第69条 本学則の改廃は、評議会の意見を聴いて、理事会において決定する。

附 則

この学則は、昭和24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和33年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和34年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和38年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和39年8月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和40年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の4の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の博物館学芸員の資格を得ることができる学科については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の8の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の社会福祉士国家試験受験資格及び精神保健福祉士国家試験受験資格の指定養成施設としての定員については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。
- 6 第42条第2項の規定にかかわらず、平成23年度以前の入学生の休学中の学費の納入については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成24年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目

の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。

- 3 第35条の規定にかかわらず、平成24年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第35条の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成26年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 第7条第4項、第20条第2項及び第22条第3項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の在学年限、退学及び休学の期間については、なお従前のおりとする。
- 3 第26条第4項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の2第2項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」の授業科目並びにその単位数（別表第4）については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成27年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の3第1項及び第2項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。

- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の2の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の中学校・高等学校教諭「教職に関する科目」の授業科目及びその単位数（別表第4）、並びに教育職員免許状授与の所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域については、なお従前のおりとする。
- 4 第28条第1項第3号の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 文学部教育学科は、平成31年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第26条第4項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の2、第27条の5及び第27条の8の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学科の収容定員は、令和2年度から令和4年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		収容定員	収容定員	収容定員
食物栄養科学部 食物栄養学科		200	400	610
食物栄養科学部 食創造科学科		80	160	245

- 3 生活環境学部食物栄養学科は、令和2年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 第5条に規定する建築学部建築学科及び景観建築学科の収容定員は、令和2年度から令和4年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		収容定員	収容定員	収容定員
建築学部 建築学科		45	90	135
建築学部 景観建築学科		40	80	120

- 5 生活環境学部建築学科は、令和2年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 6 第5条に規定する経営学部経営学科の収容定員は、令和2年度から令和4年度までの間、次の

とおりとする。

学部・学科	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		収容定員	収容定員	収容定員
経営学部 経営学科		200	400	600

- 7 第5条の2第6項、第7項及び第11項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。
- 8 第26条第4項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のおとりとする。
- 9 第27条の2第3項及び第4項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。
- 10 第27条の6の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおとりとする。
- 3 第27条の2（別表第4）の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生については、なお従前のおとりとする。
- 4 第35条の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおとりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおとりとする。
- 3 第27条の2の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の各教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目の授業科目並びにその単位数（別表第4）については、なお従前のおとりとする。
- 4 第35条の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおとりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する心理・社会福祉学部心理学科及び社会福祉学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
心理・社会福祉学部心理学科		150	300	450

心理・社会福祉学部社会福祉学科	70	140	210
-----------------	----	-----	-----

3 文学部心理・社会福祉学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4 第5条に規定する健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科		100	200	300

5 第5条に規定する社会情報学部社会情報学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
社会情報学部 社会情報学科		180	360	540

6 生活環境学部情報メディア学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする

7 第5条の2第4項、第5項及び第7項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

8 第26条第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のとおりとする。

9 第27条の2第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

10 第27条の8の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

11 第35条の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

別表第1

共通教育科目

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目				現代社会と憲法		2	
神話・伝説の世界から		2		教養としての法律		2	
平安朝文学の世界		2		暮らしと法律		2	
鎌倉時代の文学への誘い		2		女性と子どものヘルスケア		2	
平安時代の文学への誘い		2		消費者生活論		2	
日常生活からの哲学入門		2		英語で学ぶやさしい経済学		2	
現代フランスの音楽事情		2		英語で学ぶお金の知識		2	
ミュージカル歌唱法		1		我々の暮らしと日本の産業		2	
音楽の科学		2		メディア技術と文字デザイン		2	
フランスの音楽と芸術文化		2		まちづくりと地方自治の役割		2	
先端芸術表現		1		基礎教養科目群 自然科学科目			
自己発見アート		1		文化を創造する数学		2	
未来造形		1		生命科学入門		2	
歌舞伎鑑賞入門		2		生活の中の物理学		2	
日本の文化 I		2		最先端物理学が描く宇宙		2	
日本の文化 II		2		微生物がつくる発酵食品の不思議		2	
遊びの人類学		2		薬の歴史と未来		2	
SNSから日本語を見る		2		薬とからだ		2	
基礎教養科目群 社会科学科目				医薬品概論		2	
現代世界の教育		2		基礎教養科目群 国際理解科目			
差別と暴力のない世界をめざして		2		韓国文化の理解		2	
メディアに映る女性		2		中国文化論		2	
生涯福祉論		2		国際協力入門		2	
社会福祉とボランティア		2		世界の中の日本人		2	
福祉レクリエーションの実際		2		基礎教養科目群 現代トピック科目			
子育てと家族関係		2		モラルジレンマから考える私		2	
子育てと母性の気づき		2		女性のためのマーケティング		2	
環境心理学入門		2		Current Affairs in Japan I		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
Current Affairs in Japan II		2		Speaking & Listening III		1	
ジェンダー科目群				P r e s e n t a t i o n		1	
セクシュアリティ入門		2		W r i t i n g I		1	
女性の身体とセクシュアリティ		2		W r i t i n g II		1	
メディアに見るジェンダー		2		English for Careers		1	
女性が輝く社会づくり		2		Reading & Discussion		1	
キャリアデザイン科目群				Global Communication I		1	
女性のためのライフプランニング		2		Global Communication II		1	
自己アピールトレーニング		2		Current Events I		1	
キャリアビジョンと人物評価		2		Current Events II		1	
言語・情報科目群 言語リテラシー科目				Reading & Critical Thinking		1	
英語コミュニケーションI		2		Career Workshop		1	
英語コミュニケーションII		2		ド イ ツ 語 I		2	
英語コミュニケーションIII		1		ド イ ツ 語 II		2	
英語コミュニケーションIV		1		フ ラ ン ス 語 I		2	
英語リーディングI		1		フ ラ ン ス 語 II		2	
英語リーディングII		1		フ ラ ン ス 語 I A		1	
英語ライティングI		1		フ ラ ン ス 語 I B		1	
英語ライティングII		1		中 国 語 I		2	
T O E I C 演 習 I		1		中 国 語 II		2	
T O E I C 演 習 II		1		イ タ リ ア 語 I A		1	
T O E I C 演 習 III		1		イ タ リ ア 語 I B		1	
T O E F L 演 習		1		ス ペ イ ン 語 I		2	
T O E I C (初級)		1		ハ ン グ ル I		2	
Basics for Presentation I		1		ハ ン グ ル II		2	
Basics for Presentation II		1		特 別 英 語 演 習 I		4	
Grammar for Communication		1		特 別 英 語 演 習 II		4	
Reading & Writing		1		特 別 中 国 語 演 習 I		2	
Speaking & Listening I		1		特 別 中 国 語 演 習 II		2	
Speaking & Listening II		1		特 別 ハ ン グ ル 演 習 I		4	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
特別ハンゲル演習Ⅱ		4		スポーツ実技（ゴルフ）		1	
日 本 語 初 級 A		3		スポーツ実技（バレーボール）		1	
日 本 語 初 級 B		3		スポーツ実技（バドミントン）		1	
日 本 語 初 級 C		3		スポーツ実技（ジャズダンス）		1	
日 本 語 初 級 D		3		スポーツ実技（エアロビクス）		1	
日 本 語 中 級 A		3		スポーツ実技（スリムエアロ）		1	
日 本 語 中 級 B		3		スポーツ実技（ダンスエアロ）		1	
日 本 語 中 級 C		3		ス ポ ー ツ 実 技 （ 水 泳 ）		1	
日 本 語 中 級 D		3		スポーツ実技（軽スポーツ）		1	
日 本 語 ・ 上 級 I		2		ス ポ ー ツ 実 技 （ ヨ ガ ）		1	
日 本 語 ・ 上 級 II		2		スポーツ実技（サッカー）		1	
日 本 語 ・ 上 級 III		2		からだと気づきと姿勢法		1	
日 本 語 ・ 上 級 IV		2		スポーツ実技（スタイルジャズ）		1	
言語・情報科目群 情報リテラシー科目							
Access データベース基礎		2					
情報社会を生きる技術		2					
Web デ ザ イ ン 基 礎		2					
Web デ ザ イ ン 応 用		2					
Scratch によるプログラミング		2					
グラフィックデザイン基礎		2					
フォトレタッチ基礎		2					
データサイエンスの基礎と Excel		2					
データサイエンスの応用と Excel		2					
データリテラシー・AIの基礎	2						
健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目							
ス ポ ー ツ と 栄 養		2					
生 涯 ス ポ ー ツ 論		2					
ス ポ ー ツ と 現 代 社 会		2					
健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目							
ス ポ ー ツ 実 技 （ テ ニ ス ）		1					

別表第2

基礎教育科目及び専門教育科目

文学部 日本語日本文学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				日 本 語 学 特 講 I		2	
初 期 演 習 I	1			日 本 語 学 特 講 II		2	
初期演習Ⅱ(日本語日本文学)	1			社 会 言 語 学		2	
古 文 入 門	2			言 語 学 I		2	
漢 文 入 門	2			言 語 学 II		2	
日 本 語 表 現 入 門		2		日 本 語 教 育 学 入 門		2	
日 本 語 表 現 演 習 I	1			日 本 語 教 授 法		2	
日 本 語 表 現 演 習 II	1			日 本 語 教 材 研 究 I		2	
情報リテラシー I	2			日 本 語 教 材 研 究 II		2	
情報リテラシー II	2			日 本 語 教 授 法 実 習		1	
Oral Communication		2		日 本 語 教 育 史		2	
TOEIC 認定英語 I		2		日 本 語 教 育 特 講		2	
TOEIC 認定英語 II		2		言 語 発 達 論		2	
TOEIC 認定英語 III		2		言 語 と 心 理		2	
TOEIC 認定英語 IV		2		異文化間コミュニケーション		2	
専門教育科目				多 文 化 共 生 論		2	
日 本 語 学 概 論 I	2			日 本 語 教 育 イ ン タ ー ナ ー シ ッ プ		2	
日 本 語 学 概 論 II	2			日 本 古 典 文 学 概 論	2		
音 声 ・ 音 韻 論		2		日 本 近 代 文 学 概 論	2		
語 彙 ・ 意 味 論		2		日 本 古 典 文 学 史		2	
文 法 ・ 文 体 論		2		日 本 近 代 文 学 史		2	
文 字 ・ 表 記 論		2		上 代 文 学 講 読 I		2	
談 話 研 究		2		上 代 文 学 講 読 II		2	
日 本 語 学 文 献 講 読 I		2		中 古 文 学 講 読 I		2	
日 本 語 学 文 献 講 読 II		2		中 古 文 学 講 読 II		2	
日 本 語 史 I		2		中 世 文 学 講 読 I		2	
日 本 語 史 II		2		中 世 文 学 講 読 II		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
近世文学講読Ⅰ		2		日本の芸能		2	
近世文学講読Ⅱ		2		日本の伝統文化		2	
近代文学講読Ⅰ		2		日本の現代文化		2	
近代文学講読Ⅱ		2		知的財産論		2	
上代文学研究Ⅰ		2		書道Ⅰ		2	
上代文学研究Ⅱ		2		書道Ⅱ		2	
中古文学研究Ⅰ		2		書道Ⅲ		2	
中古文学研究Ⅱ		2		書道Ⅳ		2	
中世文学研究Ⅰ		2		書道史Ⅰ		2	
中世文学研究Ⅱ		2		書道史Ⅱ		2	
近世文学研究Ⅰ		2		書論・鑑賞学		2	
近世文学研究Ⅱ		2		身体表現法		2	
近代文学研究Ⅰ		2		プレゼンテーション技法		2	
近代文学研究Ⅱ		2		情報デザイン		2	
児童文学論		2		文芸創作		2	
現代文学論Ⅰ		2		コンピュータ概論		2	
現代文学論Ⅱ		2		言語データ処理		1	
日本文学特講Ⅰ		2		情報検索法		2	
日本文学特講Ⅱ		2		情報処理特論Ⅰ		2	
漢文学講読Ⅰ		2		情報処理特論Ⅱ		2	
漢文学講読Ⅱ		2		言語情報・文献管理特論Ⅰ		2	
東アジア思想文学Ⅰ		2		言語情報・文献管理特論Ⅱ		2	
東アジア思想文学Ⅱ		2		中国語概説		2	
国語教育実践研究Ⅰ		2		韓国語概説		2	
国語教育実践研究Ⅱ		2		英語で読む日本Ⅰ		2	
国語教育実践研究Ⅲ		2		英語で読む日本Ⅱ		2	
国語教育実践研究Ⅳ		2		海外文化体験演習		4	
阪神間の文化		2		演習Ⅰ	2		
文化交流史		2		演習Ⅱ	2		
美術史		2		卒業論文(卒業制作)	4		

文学部 英語文化学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				Basic Preparation for English Proficiency Tests FF (資格英語演習 FF)		1	
初 期 演 習 I	1			リーディング・ライティング IA	1		
初期演習Ⅱ (海外留学に向けて)	1			リーディング・ライティング IB	1		
情報リテラシー I	2			リーディング・ライティングⅡA	1		
情報リテラシーⅡ		2		リーディング・ライティングⅡB	1		
リスニング I A	1			オーラルコミュニケーション IA	1		
リスニング I B	1			オーラルコミュニケーション IB	1		
リスニングⅡ	1			オーラルコミュニケーションⅡA		1	
スピーキング I A	1			オーラルコミュニケーションⅡB		1	
スピーキング I B	1			専門教育科目			
スピーキングⅢ	1			英語の発音 A	1		
リーディング I A	1			英語の発音 B	1		
リーディング I B	1			活用文法 A	2		
リーディングⅢ	1			活用文法 B	2		
ライティング I A	1			英米文学入門		2	
ライティング I B	1			American Culture (アメリカの文化)		4	
ライティングⅢ	1			American Society (アメリカの社会)		4	
TOEIC/TOEFL 演習 I	1			American Literature (アメリカの文学)		4	
TOEIC/TOEFL 演習Ⅱ	1			Business English Writing (ビジネス・イングリッシュ)		2	
TOEIC/TOEFL 演習Ⅲ		1		The Culture of the American Southwest (アメリカ南西部の文化)		4	
検定英語演習		1		Academic Writing (英文論文の書き方)		1	
資格認定英語 I		2		Public Speaking (パブリック・スピーキング)		2	
資格認定英語Ⅱ		2		University Preparation (ユニバーシティ・プレパレーション)		2	
資格認定英語Ⅲ		2		英米文学鑑賞		2	
資格認定英語Ⅳ		2		英語学入門		2	
SpeakingⅡF (スピーキングⅡF)		3		ビジネスコミュニケーション入門		2	
ReadingⅡF (リーディングⅡF)		3		Business English FF (ビジネス・イングリッシュFF)		2	
WritingⅡF (ライティングⅡF)		3		American Culture FF (アメリカ文化FF)		4	
Reading and Writing FF (リーディング・ライティングFF)		2		Academic Writing FF (英語論文作成法FF)		1	
Oral Communication FF (オーラルコミュニケーションFF)		2		Public Speaking FF (パブリック・スピーキングFF)		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
University Preparation FF (ユニバーシティ・プレパレーションFF)		2		児 童 英 語 教 育 B		2	
English and American Literature FF (英 米 文 学 FF)		2		卒 業 研 究 I A	2		
Introduction to English Linguistics FF (英 語 学 FF)		2		卒 業 研 究 I B	2		
Business Communication FF (ビジネスコミュニケーションFF)		2		卒 業 研 究 II	4		
G e r m a n F F (ド イ ツ 語 FF)		2		翻 訳 ワークショップ A		1	
F r e n c h F F (フ ラ ン ス 語 FF)		2		文 学 作 品 演 習 I A		1	
ド イ ツ 語 I		2	} ※必修6	文 学 作 品 演 習 II A		1	
ド イ ツ 語 II		2		イギリス文化と文学の流れA		2	
ド イ ツ 語 III		2		翻 訳 ワークショップ B		1	
ド イ ツ 語 IV A		1		文 学 作 品 演 習 I B		1	
ド イ ツ 語 IV B		1		文 学 作 品 演 習 II B		1	
ドイツ文化と文学A		2		イギリス文化と文学の流れB		2	
ドイツ文化と文学B		2		文 学 作 品 演 習 III A		1	
フ ラ ン ス 語 I		2	} ※必修6	アメリカ文化と文学の流れA		2	
フ ラ ン ス 語 II		2		英 語 児 童 文 学 A		2	
フ ラ ン ス 語 III		2		文 学 作 品 演 習 III B		1	
フ ラ ン ス 語 IV A		1		アメリカ文化と文学の流れB		2	
フ ラ ン ス 語 IV B		1		英 語 児 童 文 学 B		2	
フランス文化と文学A		2		現代コミュニケーション英語IA		1	
フランス文化と文学B		2	現代コミュニケーション英語IIA		1		
国際社会と英語情報		2	※「ドイツ語I・II・III」または「フランス語I・II・III」のいずれか6単位を必修	英 語 の 構 造 A		2	
ビジネス・ライティングA		2		英 語 の 歴 史 A		2	
ビジネス・ライティングB		2		現代コミュニケーション英語IB		1	
英語データベース活用法		1		現代コミュニケーション英語IIB		1	
インタラクティブ・ウェブ		1		英 語 の 構 造 B		2	
メディア英語A		2		英 語 の 歴 史 B		2	
メディア英語B		2		英 語 の 談 話 分 析 A		1	
最新の企業実務A		2		現代コミュニケーション英語IIIA		1	
最新の企業実務B		2		英 語 の 文 化 的 背 景 A		2	
児童英語教育A		2		英 語 の 談 話 分 析 B		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
現代コミュニケーション英語ⅢB		1					
英語の文化的背景 B		2					
ビジネス・イングリッシュⅠA		1					
ビジネスコミュニケーション演習		1					
ビジネス通訳基礎 A		1					
国際関係論 A		2					
ビジネス・イングリッシュⅠB		1					
ホスピタリティ英語		1					
ビジネス通訳基礎 B		1					
国際関係論 B		2					
ビジネス翻訳 A		1					
ビジネス・イングリッシュⅡA		1					
ツーリズム概論		2					
ビジネス翻訳 B		1					
ビジネス・イングリッシュⅡB		1					
グローバルビジネス論		2					
英米文化・文学演習 A		1					
英語学演習 A		1					
グローバル化と日本 A		1					
英米文化・文学演習 B		1					
英語学演習 B		1					
グローバル化と日本 B		1					
会議通訳 A		1					
国際関係論講義		2					
会議通訳 B		1					
グローバルビジネス研究		2					

教育学部 教育学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				発 達 心 理 学		2	
初 期 演 習 I	1			教 育 行 政 学	2		
初 期 演 習 II	1			特 別 支 援 教 育 総 論	2		
日 本 国 憲 法		2		国 際 教 育 論		2	
英 語 I	2			教 育 学 へ の 招 待		2	
英 語 II	2			器 楽 基 礎		1	
教 育 と I C T	2			子 ども 家 庭 福 祉		2	
体 育 I		1		理 科 内 容 論		1	
体 育 II		1		音 楽 科 内 容 論		1	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		体 育 科 内 容 論		1	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		外 国 語 科 内 容 論		1	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		国 語 科 教 育 法		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		算 数 科 教 育 法		2	
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I		1		社 会 科 教 育 法		2	
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II		1		理 科 教 育 法		2	
専門教育科目				生 活 科 教 育 法		2	
2 年 次 演 習	1			音 楽 科 教 育 法		2	
教 育 演 習	2			図 画 工 作 科 教 育 法		2	
卒 業 研 究	2			家 庭 科 教 育 法		2	
国 語 科 内 容 論		1		体 育 科 教 育 法		2	
算 数 科 内 容 論		1		外 国 語 科 教 育 法		2	
社 会 科 内 容 論		1		教 育 課 程 論		2	
生 活 科 内 容 論		1		道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践		2	
家 庭 科 内 容 論		1		教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	2		
図 画 工 作 科 内 容 論		1		生 徒 指 導 ・ 進 路 指 導 の 理 論 と 実 践		2	
保 育 内 容 総 論		2		教 育 相 談 の 理 論 と 実 践	2		
教 職 入 門		2	} 必修 2	特 別 活 動 の 指 導 法		2	
保 育 者 論		2		総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法		2	
教 育 原 理	2			学 校 教 育 参 加 実 習		1	
教 育 心 理 学 総 論	2			教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 I (小 幼)		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
教育実習Ⅰ（小幼）		4		教室で使う英語表現		1	
教 職 実 践 演 習		2		教育プログラミング		2	
教 育 社 会 学		2		学 級 担 任 論		2	
教 育 史		2		教 科 指 導 演 習		1	
教 育 哲 学		2		教 職 総 合 実 践		1	
人権教育と福祉		2		教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1	
子ども理解と教育		2		教 育 実 習 Ⅱ（小）		2	
社 会 調 査 法 Ⅰ		1		知的障害者の心理・生理・病理		2	
学校教材としての文学		1		肢体不自由者の心理・生理・病理		2	
児 童 文 学 論		2		病弱者の心理・生理・病理		2	
日本現代文学の探究		2		L D 等 教 育 総 論		2	
言 語 学 概 論		2		教育課程・保育計画論		2	
英 語 文 法 論 Ⅰ		2		子 ど も と 健 康		1	
異文化理解とコミュニケーション		2		子 ど も と 人 間 関 係		1	
英 語 文 学 入 門		2		子 ど も と 環 境		1	
英 語 児 童 文 学		2		子 ど も と 言 葉		1	
時事問題と英語表現		2		保 育 内 容 ・ 健 康		2	
国際教育フィールドワークⅠ		1		保 育 内 容 ・ 環 境		2	
国際教育フィールドワークⅡ		1		保 育 内 容 ・ 人 間 関 係		2	
海外教育参加実習指導		1		保 育 内 容 ・ 言 葉		2	
海外教育参加実習		1		保 育 内 容 ・ 表 現 Ⅰ		1	
世界の子どもたち		1		保 育 内 容 ・ 表 現 Ⅱ		1	
子 ど も と 数 学		1		子 ど も 理 解 と 幼 児 教 育		2	
理 科 教 育 実 践		1		教育実習事前事後指導Ⅱ(幼)		1	
音 楽 科 教 育 実 践		1		教 育 実 習 Ⅱ（幼）		2	
子 ど も と 音 楽 表 現		1		特 別 支 援 教 職 論		2	
子 ど も と 造 形 表 現		1		知 的 障 害 教 育		2	
調理と裁縫の生活スキル		1		障 害 児 指 導 法		2	
子 ど も と 身 体 表 現		1		肢 体 不 自 由 教 育		2	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 演 習		1		病 弱 教 育		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
知的障害教育総論		2		ライティング I A		1	
肢体不自由教育総論		2		ライティング I B		1	
病弱教育総論		2		中等英語科教育法 I		2	
視覚障害教育総論		2		中等英語科教育法 II		2	
聴覚障害教育総論		2		中等英語科教育法 III		2	
重複障害等教育総論		2		中等英語科教育法 IV		2	
特別支援学校教育実習事前事後指導		1		教育実習事前事後指導(中)		1	
特別支援学校教育実習		2		教育実習(中)		4	
日本語表現 I		2		日本古典文学の探究 I		2	
日本語表現 II		2		日本古典文学の探究 II		2	
日本語学概論 I		2		日本近代文学の探究		2	
日本語学概論 II		2		英語文法論 II		2	
日本語文法		2		英語文学の探究		2	
日本語の歴史		2		外国語コミュニケーション V		1	
日本古典文学概論		2		教育実習事前事後指導 I (幼小)		1	
日本近代文学概論		2		教育実習 I (幼小)		4	
日本古典文学史		2		保育・教職実践演習(幼)		2	
日本近代文学史		2		教職総合実践(幼)		1	
漢文入門		2		学級担任論(幼)		2	
漢文学		2		幼児教育実践演習		1	
中等国語科教育法 I		2		運動遊び演習		1	
中等国語科教育法 II		2		アンサンブルと弾き歌い		1	
中等国語科教育法 III		2		保育原理		2	
中等国語科教育法 IV		2		社会福祉		2	
英語学		2		子ども家庭支援論		2	
英語文学と日本		2		子ども家庭支援の心理学		2	
英語文学と世界		2		社会的養護 I		2	
異文化間教育 I		2		子どもの保健		2	
外国語コミュニケーション III		1		子どもの食と栄養		2	
外国語コミュニケーション IV		1		乳児保育 I		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
乳 児 保 育 Ⅱ		1		その他の卒業非算入科目			各授業科目は、小学校・幼稚園等でのボランティア活動30時間に対して1単位を認定する。この科目は、自由科目として扱い、修得した単位は、卒業要件の単位に含めない。
子どもの健康と安全		1		書 道 I		2	
障害児保育		2		書 道 II		2	
社会的養護Ⅱ		1		リーディング I A		1	
子育て支援		1		リーディング I B		1	
教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1		教育ボランティア活動2022A			
教育実習Ⅱ(小)		2		教育ボランティア活動2022B			
地域福祉論		2		教育ボランティア活動2023A			
施設経営論		2		教育ボランティア活動2023B			
家庭支援論演習		1		教育ボランティア活動2024A			
保育実習指導 I A		1		教育ボランティア活動2024B			
保育実習指導 I B		1		教育ボランティア活動2025A			
保育実習 I (保育所)		2		教育ボランティア活動2025B			
保育実習 I (施設)		2					
保育実習指導Ⅱ		1					
保育実習Ⅱ		2					
保育実習指導Ⅲ		1					
保育実習Ⅲ		2					
国際教育フィールドワークⅢ		1					
国際教育フィールドワークⅣ		1					
国際教育フィールドワークⅤ		1					
社会調査法Ⅱ		1					
共生社会論		2					
シティズンシップ教育		2					
グローバル社会論		2					
メディアリテラシーと教育		2					
異文化間教育Ⅱ		2					
環境教育論		2					
地域問題研究		2					
データリテラシーと教育		2					

心理・社会福祉学部 心理学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				福 祉 心 理 学		2	
人間と社会 (HEARTプログラムコア)	2			教育・学校心理学		2	
初 期 演 習 I	1			健康・医療心理学		2	
初期演習Ⅱ (心理学実験演習)	1			産業・組織心理学		2	
英 語 I	2			司法・犯罪心理学		2	
英 語 II	2			心理的アセスメント(概論)		2	
Oral Communication I		1		心理的アセスメント(実習)		2	
Oral Communication II		1		公認心理師の職責		2	
T O E I C 認定英語 I		2		関 係 行 政 論		2	
T O E I C 認定英語 II		2		心 理 演 習		2	
T O E I C 認定英語 III		2		心 理 実 習		1	
T O E I C 認定英語 IV		2		心 理 実 習 指 導		1	
専門教育科目				リ ス ク 心 理 学		2	
心 理 学 史		2		コミュニケーション論		2	
心 理 学 概 論	2			グループダイナミクス		2	
臨 床 心 理 学 概 論	2			プロジェクトマネジメントの実践		2	
知 覚 ・ 認 知 心 理 学		2		行 動 変 容 ・ ナ ッ ジ		2	
学 習 ・ 言 語 心 理 学		2		消 費 者 心 理 学		2	
感 情 ・ 人 格 心 理 学		2		社 会 実 践 実 習 I		1	
神 経 ・ 生 理 心 理 学		2		社 会 実 践 実 習 II		1	
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学		2		マ ー ケ テ ィ ン グ 論		2	
発 達 心 理 学 I		2		認 知 心 理 学		2	
発 達 心 理 学 II		2		言 語 心 理 学		2	
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病		2		感 性 心 理 学		2	
精 神 疾 患 と そ の 治 療		2		臨 床 社 会 心 理 学		2	
障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学		2		コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学		2	
臨 床 人 格 心 理 学		2		経 済 心 理 学		2	
神 経 心 理 学		2		環 境 心 理 学		2	
心 理 学 的 支 援 法 I		2		メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー		2	
心 理 学 的 支 援 法 II		2		心 理 学 研 究 法		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
臨床心理学研究法		2					
社会調査概論		2					
心理学日本語文献講読		2					
心理学英語文献講読		2					
心理学統計法		2					
応用心理学統計法		2					
心理学実験		2					
社会調査実習		2					
データ処理論Ⅰ		2					
データ処理論Ⅱ		2					
データ解析法		2					
質的データ解析法		2					
専門演習ⅠA	1						
専門演習ⅠB	1						
専門演習ⅡA	1						
専門演習ⅡB	1						
卒業研究	6						
多文化社会概論		2					
社会貢献とボランティア		2					
虐待とソーシャルワーク		2					
スーパービジョン論		2					
スクールソーシャルワーク		2					
多文化社会のコミュニケーション		2					
NGO・NPO 概 論		2					
ソーシャルビジネス概論		2					
フェアトレード概論		2					
共生の社会心理		2					
ジェンダーと開発		2					

心理・社会福祉学部 社会福祉学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				福祉サービスの組織と経営		2	
人間と社会 (HEART プログラムコア)	2			更生保護制度		2	
初期演習 I	1			社会保障論 A		2	
初期演習 II (社会福祉)	1			社会保障論 B		2	
心理学概論	2			保健医療サービス		2	
ソーシャルワーク概論 A	2			ソーシャルワーク論 I A		2	
ソーシャルワーク概論 B	2			ソーシャルワーク論 I B		2	
人体の構造と機能及び疾病		2		ソーシャルワーク論 II A		2	
社会学		2		ソーシャルワーク論 II B		2	
多文化社会概論	2			ソーシャルワーク演習 I A		2	
社会貢献とボランティア		2		ソーシャルワーク演習 I B		2	
英語 I	2			ソーシャルワーク演習 II A		2	
英語 II	2			ソーシャルワーク演習 II B		2	
Oral Communication I		1		ソーシャルワーク演習 III		2	
Oral Communication II		1		ソーシャルワーク実習指導 I		1	
TOEIC 認定英語 I		2		ソーシャルワーク実習指導 II		1	
TOEIC 認定英語 II		2		ソーシャルワーク実習 I		1	
TOEIC 認定英語 III		2		ソーシャルワーク実習 II		5	
TOEIC 認定英語 IV		2		医療ソーシャルワーク		2	
専門教育科目				虐待とソーシャルワーク		2	
権利擁護と成年後見制度		2		スーパービジョン論		2	
児童・家庭福祉論		2		スクールソーシャルワーク		2	
障害者福祉論		2		社会福祉事業史		2	
高齢者福祉論		2		社会福祉特講		2	
地域福祉論 A		2		専門演習 I A	1		
地域福祉論 B		2		専門演習 I B	1		
社会調査法		2		専門演習 II A	1		
現代社会と福祉 A		2		専門演習 II B	1		
現代社会と福祉 B		2		卒業論文	6		
公的扶助論		2		精神保健 A		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
精 神 保 健 B		2		フイールド調査の基礎	2		
精神保健福祉の原理 A		2		フイールドワーク演習 I	1		
精神保健福祉の原理 B		2		フイールドワーク演習 II	1		
精神障害リハビリテーション論		2		フイールドワーク実習指導 I		1	
精神保健福祉制度論		2		フイールドワーク実習指導 II		1	
精神疾患とその治療 A		2		フイールドワーク実習指導 III		1	
精神疾患とその治療 B		2		フイールドワーク実習		1	
ソーシャルワークの理論と方法 (専門) A		2		知覚・認知心理学		2	
ソーシャルワークの理論と方法 (専門) B		2		学習・言語心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) A		2		感情・人格心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) B		2		神経・生理心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) C		2		社会・集団・家族心理学		2	
ソーシャルワーク実習指導 III		1		発達心理学 I		2	
ソーシャルワーク実習指導 IV		1		障害者・障害児心理学		2	
ソーシャルワーク実習 III		3		心理学的支援法 I		2	
ソーシャルワーク実習 IV		2		リスク心理学		2	
多文化社会実践論		2		コミュニケーション論		2	
多文化社会のコミュニケーション		2		グループダイナミクス		2	
多文化社会のソーシャルワーク I		2		消費者心理学		2	
多文化社会のソーシャルワーク II		2		マーケティング論		2	
NGO・NPO 概 論	2						
NGO・NPO マネジメント演習		1					
ソーシャルビジネス概論	2						
ソーシャルビジネス・マネジメント		2					
ソーシャルビジネス計画演習		1					
フェアトレード概論		2					
共生の社会心理		2					
コミュニティメディア論		2					
コミュニティ防災論		2					
ジェンダーと開発		2					

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				バイオメカニクス		2	
初 期 演 習 I	1			学 校 保 健		2	
初期演習II (健康・スポーツ)	1			公 衆 衛 生 学		2	
健康・スポーツ科学論	2			発 育 発 達 ・ 老 化 論		2	
スポーツの文化・歴史	2			ス ポ ー ツ 指 導 論		2	
スポーツビジネス論	2			ス ポ ー ツ 社 会 学		2	
情報リテラシー	2			スポーツ行政・法規		2	
基 礎 英 語 I	1			スポーツ経営管理学		2	
基 礎 英 語 II	1			体力の測定評価演習		2	
Oral Communication I	1			スポーツ心理学実験		1	
Oral Communication II	1			運 動 生 理 学 実 験		1	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		バイオメカニクス実験		1	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		専 門 英 語 A		1	} 必修2
T O E I C 認 定 英 語 III		2		専 門 英 語 B		1	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		専 門 英 語 C		1	
健 康 科 学 I		2		専 門 英 語 D		1	
専門教育科目				コ ー チ ン グ 論		2	
ス ポ ー ツ 心 理 学		2		健康・スポーツカウンセリング		2	
ス ポ ー ツ 栄 養 学		2		生 活 習 慣 病 論		2	
運 動 生 理 学		2		運 動 処 方		2	
ス ポ ー ツ 医 学		2		フ ィ ッ ト ネ ス 指 導 法		2	
ス ポ ー ツ 運 動 学		2		介 護 法 ・ 介 護 予 防 演 習		2	
体 育 原 理		2		運 動 療 法 演 習		2	
運動器の解剖と機能I		2		健康行動科学・演習		2	
運動器の解剖と機能II		2		健康・スポーツ実践実習		1	
スポーツ傷害の基礎知識I		2		レクリエーション論		2	
スポーツトレーニングの科学I		2		レクリエーション指導法演習		1	
アスレティックトレーニング論		2		レクリエーション指導法実習		1	
コンディショニング論		2		障がい者スポーツ論I		2	
救 急 処 置 演 習	1			障がい者スポーツ論II		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
障がい者スポーツ指導法		2	} 必修1	海外の健康・スポーツの研究		2	} 必修1
スポーツマネジメント論		2		マリンスポーツ実習		1	
スポーツビジネス最前線		2		キャンプ実習		1	
スイミング		1		スノースポーツ実習		1	
トラックアンドフィールド		1	} 必修1	健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
体 操		1		2 年 次 演 習	1		
器 械 運 動		1	} 必修1	健康・スポーツ科学演習	2		
バレーボール		1		卒 業 研 究	4		
バスケットボール		1		教 職 入 門		2	
ハンドボール		1	} 必修1	教 育 原 理		2	
柔 道		1		教 育 史		2	
剣 道		1		教 育 心 理 学		2	
ダンスⅠ	1			発 達 心 理 学		2	
ダンスⅡ		1		教 育 行 政 学		2	
ダンスⅢ		1		教 育 課 程 総 論		2	
卓 球		1		教育方法の理論と実践		1	
バドミントン		1		ICT活用の理論と実践		1	
保健体育科指導法Ⅰ		2		道 徳 教 育 指 導 論		2	
保健体育科指導法Ⅱ		2		生徒指導・進路指導		2	
保健体育科指導法Ⅲ		2		教育相談の理論と方法		2	
保健体育科指導法Ⅳ		2		教育実習事前事後指導(中高)		1	
保健体育科指導法(水泳)		1		教育実習Ⅰ(中高)		2	
保健体育科指導法(球技)		1		教育実習Ⅱ(中高)		2	
保健体育科指導法(ダンス)		1		教職実践演習(中高)		2	
保健体育科指導法(武道)		1		特 別 支 援 教 育 論		2	
保健体育科指導法(体づくり運動)		1		総合的な学習の時間と特別活動		2	
保健体育科指導法(器械運動)		1		教育実習事前指導(中高)		1	
保健体育科指導法(陸上競技)		1		健 康 科 学 Ⅱ		2	
エアロビックダンス		1		スポーツ傷害の基礎知識Ⅱ		2	
アクアエクササイズ		1		コンディショニング指導論		2	
				コンディショニング指導演習Ⅰ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
コンディショニング指導演習Ⅱ		2					
検査・測定評価実習Ⅰ		1					
保健の授業研究		2					
保健体育科教材演習Ⅰ		1					
保健体育科教材演習Ⅱ		1					
教科外体育論		2					
パフォーマンス向上論		2					
パフォーマンス向上演習		1					
ジュニアスポーツ指導論		2					
ジュニアスポーツ指導演習		1					
健康管理とスポーツ医学		2					
A T 実 践 実 習		2					
スポーツトレーニングの科学Ⅱ		2					
検査・測定評価実習Ⅱ		1					
アスレティックトレーニングⅠ		2					
アスレティックトレーニングⅡ		2					
アスレティックトレーニングⅢ		2					
スポーツの心理と栄養		2					
簿 記		2					
スポーツマーケティング論		2					
消費者行動論		2					
スポーツイベントの企画運営		2					
販 売 管 理 論		2					
実務技能対策論		2					
ファシリティマネジメント		2					
スポーツビジネス学内演習		1					
スポーツビジネス学外実習		1					
プレプロフェッショナル教育		2					

健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				アカウンティングⅠ		2	
初 期 演 習 Ⅰ	1			アカウンティングⅡ		2	
初期演習Ⅱ(スポーツマネジメント)	1			実務技能対策論		2	
健康・スポーツ科学論	2			経 営 組 織 論		2	
スポーツの文化・歴史	2			ファイナンシャルマネジメント		2	
情報リテラシー	2			消費者行動論		2	
基礎英語Ⅰ	1			販 売 管 理 論		2	
基礎英語Ⅱ	1			マーチャンダイジング		2	
Oral CommunicationⅠ	1			ヒューマンリソースマネジメント		2	
Oral CommunicationⅡ	1			スポーツマネジメント学内演習	2		
TOEIC認定英語Ⅰ		2		スポーツマネジメント学外実習		1	
TOEIC認定英語Ⅱ		2		専 門 英 語 A		1	
TOEIC認定英語Ⅲ		2		専 門 英 語 B		1	
TOEIC認定英語Ⅳ		2		海外のスポーツビジネス研究		2	
専門教育科目				ス ポ ー ツ 心 理 学		2	
スポーツビジネス最前線	2			ス ポ ー ツ 栄 養 学		2	
スポーツ産業と政策		2		運 動 生 理 学		2	
スポーツビジネス論	2			ス ポ ー ツ 医 学		2	
スポーツマネジメント論	2			ス ポ ー ツ 運 動 学		2	
スポーツマーケティング論	2			体 育 原 理		2	
スポーツガバナンス論		2		運動器の解剖と機能		2	
スポーツ情報・メディア論		2		スポーツトレーニングの科学		2	
スポーツイノベーション論		2		救 急 処 置 演 習	1		
ホスピタリティマネジメント論		2		バイオメカニクス		2	
地域スポーツマネジメント論		2		学 校 保 健		2	
スポーツイベントの企画・運営		2		公 衆 衛 生 学		2	
スポーツ施設マネジメント論		2		発 育 発 達 ・ 老 化 論		2	
トップスポーツ経営論		2		ス ポ ー ツ 指 導 論		2	
スポーツ・ヘルスツーリズム論		2		ス ポ ー ツ 社 会 学		2	
ヘルスケアマネジメント論		2		ス ポ ー ツ 行 政 ・ 法 規		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
スポーツ経営管理学		2		バドミントン		1	
体力の測定評価演習		2		保健体育科指導法Ⅰ		2	
コーチング論		2		保健体育科指導法Ⅱ		2	
健康・スポーツカウンセリング		2		保健体育科指導法Ⅲ		2	
生活習慣病論		2		保健体育科指導法Ⅳ		2	
運動処方		2		保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)		1	
フィットネス指導法		2		保健体育科指導法(陸上競技・水泳)		1	
介護法・介護予防演習		2		保健体育科指導法(球技)		1	
運動療法演習		2		保健体育科指導法(武道・ダンス)		1	
健康行動科学・演習		2		エアロビックダンス		1	
健康・スポーツ実践実習		1		アクアエクササイズ		1	
レクリエーション論		2		マリンスポーツ実習		1	
レクリエーション指導法演習		1		キャンプ実習		1	
レクリエーション指導法実習		1		スノースポーツ実習		1	
障がい者スポーツ論Ⅰ		2		健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
障がい者スポーツ論Ⅱ		2		卒業研究Ⅰ	2		
障がい者スポーツ指導法		2		卒業研究Ⅱ	4		
スイミング		1					
トラックアンドフィールド		1					
体操		1					
器械運動		1					
バレーボール		1					
バスケットボール		1					
ハンドボール		1					
柔道		1					
剣道		1					
ダンスⅠ	1						
ダンスⅡ		1					
ダンスⅢ		1					
卓球		1					

生活環境学部 生活環境学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				統 計 調 査 演 習		2	
初 期 演 習 I	1			阪 神 間 文 化 論		2	
初期演習Ⅱ（生活環境）	1			生 活 美 学		2	
情 報 リ テ ラ シ ー	2			生 活 文 化 演 習 I		2	
Oral Communication		2		生 活 文 化 演 習 II		2	
生 活 環 境 英 語		2		生 活 文 化 演 習 III		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		界 面 科 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		界 面 科 学 実 験		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		織 維 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		織 維 科 学 実 験		2	
専門教育科目				織 維 製 品 材 料 学		2	
生 活 環 境 論		2		織 維 製 品 材 料 学 実 験		2	
基 礎 造 形 実 習		2		工 芸 染 色 実 習		2	
生 活 科 学		2		被 服 学 総 合 演 習 I		2	
ファッションビジネス論		2		被 服 学 総 合 演 習 II		2	
ア パ レ ル 構 成 学		2		衣 環 境 学		2	
住 居 学		2		衣 環 境 実 験		2	
建 築 概 論		2		染 色 加 工 学		2	
基 礎 ・ 設 計 製 図 演 習		2		染 色 加 工 学 実 験		2	
生 活 科 学 演 習		2		衣 料 分 析 法		2	
服 飾 デ ザ イン 論		2		衣 料 分 析 実 験		2	
アパレル構成学実習Ⅰ		2		品 質 管 理		2	
インテリアデザイン論		2		消 費 科 学		2	
グラフィックデザイン基礎実習		2		消 費 生 活 論		2	
環 境 共 生 概 論		2		アパレル設計生産論		2	
環 境 デ ザ イン 演 習		2		アパレル生産実習A		2	
建 築 設 計 基 礎 実 習		2		アパレル生産実習B		2	
まちづくり基礎演習		2		アパレル構成学実習Ⅱ		1	
色 彩 学		2		アパレル企画論		2	
統 計 学		2		ス タ イ ル 画 実 習		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
テキスタイルデザイン実習Ⅰ		2		福祉住環境実習		2	
テキスタイルデザイン実習Ⅱ		2		建築設備		2	
ドラフティングCAD実習Ⅰ		1		建築材料学		2	
ドラフティングCAD実習Ⅱ		1		建築材料学実験		2	
ドレーピング実習		2		建築施工		2	
ファッションコンピュータ実習		2		建築計画学Ⅰ		2	
V M D 演 習		2		建築計画学Ⅱ		2	
服 飾 史		2		住宅設計		2	
現代ファッション論		2		建築CAD実習		2	
ファッションデザイン演習		2		建築・インテリア設計Ⅰ		4	
生活デザイン論		2		建築・インテリア設計Ⅱ		3	
生活デザイン実習Ⅰ		2		都市・建築設計		3	
生活デザイン実習Ⅱ		2		世界建築史		2	
生活デザイン実習Ⅲ		2		日本建築史		2	
生活デザイン実習Ⅳ		2		近代建築論		2	
デザイン技法Ⅰ		2		現代建築論		2	
デザイン技法Ⅱ		2		建築一般構造Ⅰ		2	
デザインリサーチ実習		2		建築一般構造Ⅱ		2	
視 覚 文 化 論		2		構造力学Ⅰ		2	
インテリアテキスタイル概論		2		構造力学Ⅰ演習		1	
人 間 工 学		2		構造力学Ⅱ		2	
人間工学実験Ⅰ		2		構造力学Ⅱ演習		1	
人間工学実験Ⅱ		2		建築法規		2	
環境計画Ⅰ		2		測量実習		2	
環境計画実習Ⅰ		2		景 観 論		2	
環境計画Ⅱ		2		まちづくり論Ⅰ		2	
環境計画実習Ⅱ		2		まちづくり論Ⅱ		2	
環境計画Ⅲ		2		フィールドデザイン演習Ⅰ		2	
環境計画実習Ⅲ		2		フィールドデザイン演習Ⅱ		2	
環境リスク学		2		フィールドデザイン演習Ⅲ		3	
福祉生活環境概論		2		フィールドデザイン特別演習		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
フィールド・サーヴェイ実習		1					
プレゼンテーション演習		2					
造園学・同演習		2					
家庭生活論		2					
保 育 学		2					
調理学実習		2					
家庭工学		2					
食 物 学		2					
テキスタイルアドバイザー実習		1					
海外語学研修		3					
海外の生活環境研修Ⅰ		1					
海外の生活環境研修Ⅱ		2					
卒業基礎演習	2						
卒業研究		6					

社会情報学部 社会情報学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				経 営 情 報 演 習		2	
初 期 演 習 I	1			組 織 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2	
初期演習Ⅱ (社会情報入門)	1			広 告 メ デ ィ ア 論		2	
データ・情報リテラシー	2			広 告 メ デ ィ ア 演 習		2	
Oral Communication I		1		地 域 産 業 論		2	
Oral Communication II		1		I T 活 用 と ビ ジ ネ ス		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		コ ミ ュ ニ テ ィ ビ ジ ネ ス 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		消 費 者 経 済 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		衣 生 活 情 報 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		情 報 科 学 入 門	2		
専門教育科目				プ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門		2	
メ デ ィ ア 論		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 I		2	
コンセプトデザイン論		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 II		2	
科学技術と社会		2		ユ ー ザ イン タ フ ェ ー ス 論		2	
メディアと生活文化		2		ア ル ゴ リ ズ ム 論		2	
メディア産業論		2		ソ フ ト ウ ェ ア 工 学		2	
メディアカルチャー論		2		ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習		2	
情報とコミュニケーション		2		シ ス テ ム 設 計		2	
ネットワーク社会論		2		シ ス テ ム 設 計 演 習		2	
SNSリテラシー演習		2		情 報 基 礎 数 学		2	
映像文化史		2		情 報 数 学		2	
文化社会学		2		デ ー タ ベ ー ス 入 門		2	
文化社会学演習		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 入 門		2	
マーケティング論		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 演 習		2	
グローバルビジネス論		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 論		2	
マーケティング戦略論		2		ウ ェ ブ 入 門		2	
コンテンツプランニング演習		2		ウ ェ ブ プ ロ グ ラ ミ ン グ		2	
企業経営論		2		ウ ェ ブ ア プ リ ケ ー シ ョ ン 設 計		2	
マーケットデザイン演習		2		ウ ェ ブ ア プ リ ケ ー シ ョ ン 開 発 演 習		2	
経営情報論		2		ウ ェ ブ エ ン ジ ニ ア リ ン グ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
ウェブコンピューティング論		2		社会情報学概論	2		
プラットフォーム概論		2		プロジェクト演習入門		2	
システムセキュリティ入門		2		プロジェクト演習Ⅰ		2	
情報セキュリティ論		2		プロジェクト演習Ⅱ		2	
統計学Ⅰ	2			プロジェクト演習Ⅲ		2	
統計学Ⅱ		2		ハッカソン		2	
AⅠ入門		2		卒業基礎研究	4		
AⅠ概論		2		卒業研究	4		
AⅠ演習		2		卒業基礎演習Ⅰ	2		
データサイエンス基礎演習		2		卒業基礎演習Ⅱ	2		
データサイエンス演習<A>		2		キャリアプランニング		1	
データサイエンス演習		2		生涯学習論		2	
データサイエンス演習<C>		2					
データサイエンス演習<D>		2					
データサイエンス論<A>		2					
データサイエンス論		2					
社会調査入門		2					
社会調査Ⅰ		2					
社会調査Ⅱ		2					
社会調査演習		2					
デジタル表現入門		2					
デジタル表現		2					
ウェブデザイン演習		2					
ICT社会のビジネス	2						
オフィスツールの活用		2					
色彩情報論		2					
色彩情報演習		2					
情報英語Ⅰ		2					
情報英語Ⅱ		2					
情報倫理		2					

食物栄養科学部 食物栄養学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				生 化 学 II		2	
初 期 演 習 I	1			生 化 学 実 験	1		
初期演習Ⅱ(食物栄養学入門)	1			臨床病原微生物学		2	
食物栄養科学概論	1			臨床医学 I	2		
管理栄養士論	1			臨床医学 II		2	
基礎化学	2			臨床学実習		1	
基礎化学実験	1			食 品 学	2		
栄養学の基礎	2			食品学実験	1		
食品素材学	2			食品加工学実験		1	
微生物学	2			食品機能学		2	
食文化論	2			食品機能学実験		1	
TOEIC Preparation I		1		食品衛生学	2		
TOEIC Preparation II		1		食品衛生学実験	1		
栄養学英語 I	2			調 理 学	2		
栄養学英語 II	2			調理学実習 I		1	
予防医学概論	1			調理学実習 II		1	
栄養統計学	2			基礎栄養学	2		
疫 学	1			基礎栄養学実験	1		
食事調査法演習	1			応用栄養学 I	2		
食事摂取基準論	1			応用栄養学 II		2	
健康科学 I		2		応用栄養学 III		2	
専門教育科目				応用栄養学実習	1		
公衆衛生学	2			栄養教育論 I	2		
公衆衛生学実習		1		栄養教育論 II	2		
環境科学		2		栄養教育論 III		2	
社会福祉概論	2			栄養教育論実習 I	1		
解剖生理学 I	2			栄養教育論実習 II	1		
解剖生理学 II	2			臨床栄養学 I	2		
解剖生理学実習	1			臨床栄養学 II	2		
生 化 学 I	2			臨床栄養学 III		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
臨 床 栄 養 学 IV		2					
臨 床 栄 養 学 実 習 I	1						
臨 床 栄 養 学 実 習 II	1						
公 衆 栄 養 学 I	2						
公 衆 栄 養 学 II		2					
公 衆 栄 養 学 実 習	1						
給 食 経 営 管 理 論 I	2						
給 食 経 営 管 理 論 II	2						
給 食 経 営 管 理 学 実 習	1						
管 理 栄 養 総 合 演 習 I		1					
管 理 栄 養 総 合 演 習 II		1					
臨 地 実 習 I	1						
臨 地 実 習 II		2					
臨 地 実 習 III	1						
分 子 栄 養 学		2					
在 宅 栄 養 ケ ア 支 援 論		2					
リハビリテーション栄養学		1					
健 康 ス ポ ー ツ 栄 養 学		2					
国 際 栄 養 学 演 習		4					
食 糧 経 済 学		2					
卒 業 英 語 演 習 I	1						
卒 業 英 語 演 習 II	1						
卒 業 研 究 方 法 論	1						
卒 業 論 文		6	} 必修6				
卒 業 演 習		6					
学 校 栄 養 教 育 ・ 指 導 論 I		2					
学 校 栄 養 教 育 ・ 指 導 論 II		2					
健 康 科 学 II		2					
プレプロフェッショナル教育		2					

食物栄養科学部 食創造科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				臨床栄養学概論	2		
初期演習Ⅰ	1			臨床栄養学実習	1		
初期演習Ⅱ(食創造の可能性)	1			栄養教育論Ⅰ	2		
基礎化学	2			栄養教育論Ⅱ	2		
食品化学	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
食品化学実験	1			栄養教育論実習Ⅱ	1		
食物栄養科学概論	1			公衆栄養学	2		
統計学	2			調理学	2		
実践TOEIC演習Ⅰ	1			調理学実習Ⅰ	1		
実践TOEIC演習Ⅱ	1			調理学実習Ⅱ	1		
専門教育科目				給食管理論	2		
社会福祉概論	2			給食管理学実習	2		
公衆衛生学	2			校外実習	1		
解剖生理学	2			食品産業論実習Ⅰ	1		
解剖生理学実習	1			食品産業論実習Ⅱ	1		
臨床医学	2			食品製造学Ⅰ	2		
生化学Ⅰ	2			食品製造学Ⅱ	2		
生化学Ⅱ	2			食品産業論	2		
生化学実験	1			異文化コミュニケーション論	2		
食品学	2			フードサイエンス英語Ⅰ	2		
食品学実験	1			フードサイエンス英語Ⅱ	2		
食品加工学	2			食品開発論	2		
食品加工学実習	1			栄養資源開発論		2	
食品衛生学	2			調理科学	2		
食品衛生学実験	1			調理科学実験	1		
基礎栄養学	2			バイオテクノロジー概論		2	
基礎栄養学実験	1			食品機能学	2		
応用栄養学Ⅰ	2			官能評価・鑑別論		2	
応用栄養学Ⅱ	2			食品安全学Ⅰ	2		
応用栄養学実習	1			食品安全学Ⅱ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考	
	必修	選択			必修	選択		
食 品 安 全 学 実 験	1			実 践 英 会 話 I		2	※選必	
グローバルレギュラトリーサイエンス		2		実 践 英 会 話 II		2		
H A C C P 管理実践論		2		実 践 英 会 話 III		2		
マーケットリサーチ法	1			実 践 英 会 話 IV		2		
フードビジネス論 I	2			実 践 英 会 話 V		2		
フードビジネス論 II	2			卒業演習 (国際インターンシップ含む)		6	※※選必	
補 完 代 替 医 学		2						
比 較 食 文 化 論		2						
卒 業 英 語 演 習 I		1	※選必					
卒 業 英 語 演 習 II		1	※選必					
卒 業 論 文		6	※※選必					
卒 業 演 習		6	※※選必					
食 経 営 学		2						
フードデザイン演習		1	※「卒業英語演習 I」、「卒業英語演習 II」、「実践英会話 I」のうち2単位必修。					
メニュー企画・開発論		2						
メニュー企画・開発実習		1						
食マーケティング演習 I		1						
食マーケティング演習 II		1						
インターンシップ (フードマネジメント)		2						
食 品 機 器 分 析 学		2		※※「卒業論文」、「卒業演習」、「卒業演習 (国際インターンシップ含む)」のうち6単位必修。				
食品機器分析学実験 I		1						
食品機器分析学実験 II		1						
実験計画法演習		1						
インターンシップ(フードイノベーション)		2						
グローバルフード研修事前演習		1						
食 の 国 際 理 解		2						
グ ロー バ ル フ ード 学		2						
国 際 食 流 通 論		2						
国 際 食 科 学		2						
国 際 食 科 学 演 習		1						

建築学部 建築学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				建築環境工学Ⅰ	2		
初期演習Ⅰ	1			建築環境工学Ⅱ	2		
初期演習Ⅱ（建築入門）	1			建築環境工学実験	2		
建築英語Ⅰ	2			建築環境工学Ⅲ		2	※選必
建築英語Ⅱ	2			建築設備Ⅰ	2		
建築英語Ⅲ	2			建築設備Ⅱ		2	※選必
建築英語Ⅳ	2			建築構造力学Ⅰ	2		
建築数学	2			建築構造力学Ⅱ	2		
建築物理	2			地盤・振動論		2	※選必
専門教育科目				建築一般構造Ⅰ	2		
空間表現演習Ⅰ	5			建築一般構造Ⅱ	2		
空間表現演習Ⅱ	5			建築各種構造		2	※選必
建築設計演習Ⅰ	5			建築材料	2		
建築設計演習Ⅱ	5			建築構造材料実験	2		
建築設計演習Ⅲ	6			建築生産	2		
建築設計演習Ⅳ	6			建築施工	2		
建築設計演習Ⅴ	6			建築法規Ⅰ	2		
図学・情報基礎演習Ⅰ	2			建築法規Ⅱ	2		
図学・情報基礎演習Ⅱ	2			都市計画・デザイン論	2		
CAD・CG応用演習Ⅰ	2			造園学		2	※選必
CAD・CG応用演習Ⅱ	2			測量実習	2		
卒業研究	6			建築フィールドワークⅠA		1	
現代建築論	2			建築フィールドワークⅠB		1	
建築設計計画Ⅰ	2			建築フィールドワークⅡA		1	
建築設計計画Ⅱ	2			建築フィールドワークⅡB		1	※選必から8単位を必修
建築設計計画Ⅲ	2			建築フィールドワークⅢA		1	
建築設計計画Ⅳ	2			建築フィールドワークⅢB		1	
日本建築史	2			建築フィールドワークⅣ		1	
世界建築史	2			海外研修		2	
近代建築史	2						

建築学部 景観建築学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				構 造 力 学 I	2		
初 期 演 習 I	1			構 造 力 学 II	2		
初期演習II (景観建築入門)	1			建 築 一 般 構 造 I	2		
景 観 建 築 英 語 I	2			建 築 一 般 構 造 II	2		
景 観 建 築 英 語 II	2			建 設 材 料	2		
景 観 建 築 英 語 III	2			建 築 生 産	2		
景 観 建 築 英 語 IV	2			建 築 施 工		2	※選必
景 観 建 築 数 学	2			建 築 法 規 I	2		
景 観 建 築 物 理	2			建 築 法 規 II		2	※選必
生 態 学	2			測 量 学	2		
専門教育科目				都 市 計 画	2		
表 現 基 礎 演 習	4			環 境 職 業 倫 理	2		
設 計 基 礎 演 習	4			土 質 力 学		2	※選必
景観建築設計演習I	4			水 理 学		2	※選必
景観建築設計演習II	4			自 然 環 境 保 全 学	2		
景観建築設計演習III	6			文 化 遺 産 保 全 学		2	※選必
景観建築設計演習IV	6			流 域 保 全 学		2	※選必
景観建築設計演習V	6			日 本 庭 園 史	2		
景観映像情報基礎	2			世 界 庭 園 史	2		
測 量 学 実 習	2			景 観 建 築 原 論	2		
景観映像情報演習I	2			景 観 緑 地 計 画 論	2		
景観映像情報演習II	2			景 観 設 計 施 工 技 術		2	※選必
卒 業 研 究	6			景 観 建 築 植 物 学	2		
日 本 建 築 史	2			景 観 建 築 植 物 実 習 I		1	※選必
世 界 建 築 史	2			景 観 建 築 植 物 実 習 II		1	※選必
近 代 建 築 史	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 I		1	※選必
建 築 計 画	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 II		1	※選必
建 築 環 境 工 学 I	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 III		1	※選必
建 築 環 境 工 学 II		2	※選必	建 築 都 市 緑 化 実 習 IV		1	※選必
建 築 設 備	2			景 観 建 築 特 別 実 習 I		1	※選必

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
景観建築特別実習Ⅱ		1	※選必				
景観建築フィールドワークⅠA		1					
景観建築フィールドワークⅠB		1	※選必から14単位を必修				
景観建築フィールドワークⅡA		1					
景観建築フィールドワークⅡB		1					
景観建築フィールドワークⅢA		1					
景観建築フィールドワークⅢB		1					
景観建築フィールドワークⅣ		1					

音楽学部 演奏学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				副専声楽実技ⅢA		1	
初 期 演 習 I	1			副専声楽実技ⅢB		1	
初期演習Ⅱ(音楽探求への誘い)	1			副専ピアノ実技ⅢA		1	
2 年 次 演 習	1			副専ピアノ実技ⅢB		1	
英 語 A	1			副専ピアノ実技ⅣA		1	
英 語 B	1			副専ピアノ実技ⅣB		1	
Oral Communication		2		ソルフェージュⅠA	2		
情報リテラシーⅠ	2			ソルフェージュⅠB	2		
情報リテラシーⅡ		2		ソルフェージュⅡ		4	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		和 声 法 A	2		
TOEIC認定英語Ⅱ		2		和 声 法 B	2		
TOEIC認定英語Ⅲ		2		指 揮 法 I		1	
TOEIC認定英語Ⅳ		2		指 揮 法 II		1	
専門教育科目				作家作品研究Ⅰ		2	
主 専 実 技 I A	2			作家作品研究Ⅱ		2	
主 専 実 技 I B	2			即 興 演 奏 A		2	
主 専 実 技 II A	2			即 興 演 奏 B		2	
主 専 実 技 II B	2			作 ・ 編 曲 法 A	2		
主 専 実 技 III A	2			作 ・ 編 曲 法 B	2		
主 専 実 技 III B	2			旋 律 と 和 声 A		2	
主 専 実 技 IV	2			旋 律 と 和 声 B		2	
卒 業 演 奏	3			教 育 伴 奏 法		2	
副専声楽実技ⅠA		1		楽 曲 研 究 A		2	
副専声楽実技ⅠB		1		楽 曲 研 究 B		2	
副専ピアノ実技ⅠA		1		電 子 楽 器		2	
副専ピアノ実技ⅠB		1		音 楽 史 I	4		
副専声楽実技ⅡA		1		音 楽 史 II	4		
副専声楽実技ⅡB		1		合 唱 I	2		
副専ピアノ実技ⅡA		1		合 唱 II	2		
副専ピアノ実技ⅡB		1		合 唱 III		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
学 内 演 奏 I	1						
学 内 演 奏 II	1						
学 内 演 奏 III	1						
器 楽 合 奏		1					
邦 楽		2					
副 科 器 楽 A		1					
副 科 器 楽 B		1					
イタリア語表現演習		2					
声 楽 演 奏 研 究 I A		1					
声 楽 演 奏 研 究 I B		1					
声 楽 演 奏 研 究 II A		1					
声 楽 演 奏 研 究 II B		1					
声 楽 演 奏 研 究 III A		1					
声 楽 演 奏 研 究 III B		1					
演 技 演 習		2					
オ ペ ラ		2					
合 唱 指 導 法		2					
協 奏 曲 I		2					
協 奏 曲 II		2					
伴 奏 法		2					
ピアノアンサンブル		2					
ピ ア ノ 指 導 法		2					
チ ェ ン バ ロ		2					
重 奏 演 習		2					
合 奏 指 導 法		2					
合 奏 I		2					
合 奏 II		2					
合 奏 III		2					
合 奏 IV		2					

音楽学部 応用音楽学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				ソルフェージュⅠA	2		
初 期 演 習 Ⅰ	1			ソルフェージュⅠB	2		
初期演習Ⅱ(音楽探求への誘い)	1			ソルフェージュⅡ		4	
2 年 次 演 習	1			和 声 法 A	2		
英 語 A	1			和 声 法 B	2		
英 語 B	1			指 揮 法 Ⅰ		1	
応 用 英 語 Ⅰ A		1		指 揮 法 Ⅱ		1	
応 用 英 語 Ⅰ B		1		即 興 演 奏 A		2	
応 用 英 語 Ⅱ A		1		即 興 演 奏 B		2	
応 用 英 語 Ⅱ B		1		作 ・ 編 曲 法 A		2	
Oral Communication		2		作 ・ 編 曲 法 B		2	
情報リテラシーⅠ	2			旋 律 と 和 声 A		2	
情報リテラシーⅡ	2			旋 律 と 和 声 B		2	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		教 育 伴 奏 法		2	
TOEIC認定英語Ⅱ		2		実 用 楽 器 入 門		2	
TOEIC認定英語Ⅲ		2		音 楽 史 Ⅰ	4		
TOEIC認定英語Ⅳ		2		音 楽 史 Ⅱ	4		
専門教育科目				合 唱 Ⅰ	2		
ピアノ実技ⅠA	2			合 唱 Ⅱ	2		
ピアノ実技ⅠB	2			合 唱 Ⅲ		2	
ピアノ実技ⅡA	2			学 内 演 奏 Ⅰ	1		
ピアノ実技ⅡB	2			学 内 演 奏 Ⅱ		1	
ピアノ実技ⅢA		2		学 内 演 奏 Ⅲ		1	
ピアノ実技ⅢB		2		イタリヤ語表現演習		2	
ピアノ実技ⅣA		2		楽 器 ・ 合 奏 指 導 法		2	
ピアノ実技ⅣB		2		歌 唱 ・ 合 唱 指 導 法		2	
声 楽 実 技 Ⅰ A	2			器 楽 合 奏		1	
声 楽 実 技 Ⅰ B	2			邦 楽		2	
声 楽 実 技 Ⅱ A		2		演 習	2		
声 楽 実 技 Ⅱ B		2		卒 業 論 文	4		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
音 楽 療 法 論 I	2			表 現 技 術 演 習		4	
音 楽 療 法 論 II		2		音 楽 文 化 創 造 学		4	
発 達 心 理 学		2		音 楽 文 化 事 業 企 画 演 習		2	
音 楽 心 理 学		2		音 楽 活 用 実 習		2	
臨 床 心 理 学 I		4		プレプロフェッショナル教育		2	
臨 床 心 理 学 II		2					
社 会 福 祉 論		2					
障 害 児 教 育		2					
介 護 論		2					
レパートリーラーニング		2					
ダ ン ス と 動 き		2					
医 学 概 論		2					
音 楽 療 法 各 論 I		2					
音 楽 療 法 各 論 II		2					
音 楽 療 法 各 論 III		2					
臨 床 医 学 各 論 I		2					
臨 床 医 学 各 論 II		2					
音 楽 療 法 演 習		4					
音 楽 療 法 実 習 I	1						
音 楽 療 法 実 習 II		2					
音 楽 療 法 実 習 III		2					
音 楽 療 法 実 習 IV		2					
音 楽 療 法 研 究 法		4					
音 楽 療 法 総 論		1					
音 楽 社 会 学 概 論	4						
音 楽 教 育 学 研 究		4					
環 境 と 音 楽		4					
生 涯 学 習 関 係 論 I		2					
生 涯 学 習 関 係 論 II		2					
音 楽 と マ ル チ メ デ ィ ア		2					

薬学部 薬学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				物 理 化 学 I	2		
初 期 演 習 I	1			物 理 化 学 II	2		
初期演習II (薬の世界へ)	1			物 理 化 学 III	2		
Oral Communication I		1		分 析 化 学 I	2		
Oral Communication II		1		分 析 化 学 II	2		
基 礎 英 語	1			分 析 化 学 III	2		
英 語 I	1			医 薬 品 試 験 法		1	
英 語 II	1			放 射 化 学	2		
英 語 III	1			有 機 化 学 I	2		
発 展 英 語 I	1			有 機 化 学 II	2		
基 礎 化 学	2			有 機 化 学 III	2		
基 礎 生 物	2			スペクトル構造解析学	2		
基礎数学・物理	2			医 薬 品 化 学	2		
情報リテラシー I	2			発 展 有 機 化 学		1	
情報リテラシー II		2		発 展 医 薬 品 化 学		1	
TOEIC 認定 英語		2		薬 用 植 物 ・ 生 薬 学	2		
専門教育科目				天 然 物 化 学	2		
薬 学 へ の 招 待	2			生 化 学	2		
早期体験学習 I	0.5			代 謝 生 化 学	2		
早期体験学習 II	0.5			分 子 生 物 学	2		
ヒューマニズム論 I	2			免 疫 学	2		
ヒューマニズム論 II	2			細 胞 生 物 学	2		
薬剤師のための生涯教育		1		病 原 微 生 物 学	2		
医療コミュニケーション		1		解 剖 学	2		
感染制御とがん医療		1		生 理 学	2		
医薬品開発論	2			生体恒常性のメカニズム		1	
医療保険と地域医療	2			薬 学 基 礎 演 習 I		1	
薬事関係法規	2			薬 学 基 礎 演 習 II		1	
薬剤師のリスクマネジメント		1		薬 学 基 礎 演 習 III		1	
地域医療における薬剤師		1		薬 学 基 礎 演 習 IV		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
公 衆 衛 生 学	2			実 践 治 療 学		1	
栄 養 ・ 食 品 衛 生 学	2			薬 学 臨 床 実 習 概 論	2		
環 境 衛 生 学	2			処 方 解 析 学 演 習	1		
臨 床 栄 養 学		1		医 薬 品 の 適 正 使 用 I		1	
国 民 衛 生 の 最 新 動 向		1		医 薬 品 の 適 正 使 用 II		1	
基 礎 薬 理 学 I	2			一 般 用 医 薬 品 総 論		1	
基 礎 薬 理 学 II		1		薬 剤 師 の 職 能 と 業 務		1	
臨 床 薬 理 学 I	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 I	1		
臨 床 薬 理 学 II	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 II	1		
臨 床 薬 理 学 III	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 III	1		
臨 床 薬 理 学 IV		1		薬 学 臨 床 実 習	20		
疾 患 か ら み た 薬 理 学		1		薬 学 臨 床 演 習		1	
薬 物 動 態 学 I	2			有 機 化 合 物 を つ く る	1		
薬 物 動 態 学 II	2			医 薬 品 を つ く る	1		
臨 床 統 計 学 I	2			生 薬 ・ 天 然 物 医 薬 品 を 取 扱 う	1		
臨 床 統 計 学 II		1		物 質 の 特 性 を 調 べ る	1		
物 理 薬 剤 学	2			物 質 を 解 析 す る	1		
製 剤 学	2			生 体 成 分 と 免 疫 を 調 べ る	1		
薬 物 代 謝 論		1		体 の 成 り 立 ち と 働 き を 調 べ る	1		
薬 物 送 達 シ ス テ ム 学		1		薬 の 働 き を 調 べ る	1		
臨 床 薬 物 動 態 学		1		薬 物 を 製 剤 化 し 体 内 動 態 を 調 べ る	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 I	2			人 と 環 境 へ の 影 響 と 細 菌 を 調 べ る	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 II	2			発 展 英 語 II	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 III	2			基 礎 薬 学 英 語 演 習		2	
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 IV	2			薬 学 英 語 演 習		4	
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 V	2			卒 業 研 究 I	2		
症 例 解 析 学	2			卒 業 研 究 II	2		
医 薬 品 情 報 学	2			総 合 演 習 I	2		
漢 方 治 療 学		1		総 合 演 習 II	2		
化 粧 品 学 概 論		1					

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
卒 業 研 究 Ⅲ		1	} 必修1				
総 合 演 習 Ⅲ		1					
プレプロフェッショナル教育		2					

薬学部 健康生命薬科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				バイオメディカル分析化学		2	
初 期 演 習 I	1			基 礎 有 機 化 学	2		
初期演習Ⅱ(薬科学への第一歩)	1			応 用 有 機 化 学 I		2	
健康生命薬科学概論	2			応 用 有 機 化 学 II		2	
実 験 基 礎	1			薬 品 合 成 化 学		2	
生 命 倫 理 学	2			反 応 開 発 論		2	
Oral Communication I		1		薬 用 植 物 学		2	
Oral Communication II		1		天 然 物 化 学		2	
基 礎 薬 学 英 語 I	1			基 礎 生 化 学	2		
基 礎 薬 学 英 語 II	1			応 用 生 化 学 I		2	
基 礎 数 学	2			応 用 生 化 学 II		2	
基 礎 生 物 学	2			分 子 生 物 学	2		
情報リテラシー I	2			微 生 物 学		2	
情報リテラシー II		2		遺 伝 学		2	
健 康 科 学 I		2		細胞の情報伝達と疾患		2	
T O E I C 認 定 英 語		2		遺伝子情報リテラシー		2	
専門教育科目				免 疫 学 総 論		2	
薬 学 英 語 I	1			基 礎 解 剖 生 理 学	2		
薬 学 英 語 II	1			機 能 生 理 学		2	
薬 学 英 語 III	1			基 礎 薬 理 学		2	
キ ャ リ ア 英 語	1			応 用 薬 理 学		2	
実 践 薬 学 英 語	2			病 態 疾 病 学		2	
物 理 学		2		薬 物 動 態 学		2	
地 学		2		基 礎 統 計 学	2		
薬 学 化 学 I	2			物 理 薬 剤 学・製 剤 学 I		2	
基 礎 物 理 化 学	2			物 理 薬 剤 学・製 剤 学 II		2	
応 用 物 理 化 学		2		衛 生 薬 学 I		2	
基 礎 分 析 化 学	2			衛 生 薬 学 II		2	
応 用 分 析 化 学		2		実 践 薬 物 治 療 学		2	
機 器 分 析 学		2		皮 膚 科 学		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
化粧品学総論		2		薬剤学実験		1	
化粧品製造学		2		基礎薬学英語演習		2	
実践化粧品学		2		卒業研究Ⅰ	2		
東洋美容学基礎		2		卒業研究Ⅱ	8		
臨床化粧品学		2		健康科学Ⅱ		2	
応用化粧品学		2		プレプロフェッショナル教育		2	
臨床検査総論		2					
臨床免疫学		2					
脳神経科学		2					
腫瘍生物学		2					
医薬品開発論		2					
化粧品開発論		2					
保健食品機能学		2					
健康サポート論		2					
統合医療概論		2					
薬事関係法規		2					
医薬品情報学		2					
物理学実験		1					
地学実験		1					
臨地体験学習	0.5						
早期体験学習	0.5						
創薬体験学習Ⅰ	1						
創薬体験学習Ⅱ	1						
基礎有機化学実験		1					
生化学実験Ⅰ		1					
化粧品学実験		1					
分析化学実験		1					
解剖生理学実験		1					
衛生薬学実験		1					
薬理学実験		1					

看護学部 看護学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				地 域 看 護 学	2		
初 期 演 習 I	1			地域・在宅看護学実習	2		
初期演習Ⅱ（生活と看護）	1			成人看護学概論	1		
医 学 英 語	2			成人看護学ⅠA	2		
看 護 英 語 基 礎	1			成人看護学ⅠB	2		
情 報 活 用 の 基 礎	2			成人看護学Ⅱ（慢性期）	1		
看 護 応 用 統 計 学	2			成人看護学Ⅱ（急性期）	1		
解 剖 生 理 学 I	2			サポーターケア	1		
解 剖 生 理 学 II	2			成人看護学実習（慢性期）	3		
栄 養 代 謝 学	2			成人看護学実習（急性期）	3		
臨 床 病 態 栄 養 学	2			老年看護学概論	1		
微 生 物 学 と 感 染 防 御	2			老年看護学Ⅰ	2		
看 護 薬 理 学	2			老年看護学Ⅱ	1		
疾 病 治 療 概 論	2			アクティブエイジング	1		
リハビリテーション学	2			老年看護学実習	3		
保健医療福祉制度	2			小児看護学概論	1		
チ ー ム 医 療 論	2			小児看護学Ⅰ	2		
疫 学	2			小児看護学Ⅱ	1		
専門教育科目				チャイルドデイベロップメンタルアプローチ	1		
看 護 学 概 論	2			小児看護学実習	2		
看 護 援 助 論	2			母性看護学概論	1		
基礎看護技術演習Ⅰ	2			母性看護学Ⅰ	2		
基礎看護技術演習Ⅱ	2			母性看護学Ⅱ	1		
基礎看護技術演習Ⅲ	2			ウイメンズヘルスケア	1		
看護アセスメント演習	1			母性看護学実習	2		
基礎看護学実習Ⅰ	1			精神看護学概論	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2			精神看護学Ⅰ	2		
在宅看護学概論	1			精神看護学Ⅱ	1		
在宅看護学Ⅰ	2			グループアプローチ	1		
在宅看護学Ⅱ	1			精神看護学実習	2		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
統 合 看 護 学 実 習	3						
看 護 マ ネ ジ メ ン ト	1						
家 族 看 護 学	1						
看 護 研 究 方 法	2						
卒 業 演 習	2						
災 害 ・ 国 際 看 護 論	1						

経営学部 経営学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				ネットビジネス入門		2	
初 期 演 習 I	1			ク ラ ウ ド 入 門		2	
初期演習Ⅱ（経営）	1			企業情報システムⅠ		2	
経営課題演習Ⅰ	2			経 済 学 入 門		2	
経営課題演習Ⅱ	2			ヴィジュアルマーチャンダイジング		2	
Oral Communication	2			パブリックマネジメント入門	2		
Business English I	2			法 律 入 門 I		2	
Business English II		2		法 律 入 門 II		2	
情報リテラシーⅠ	2			民 法 入 門 I		2	
情報リテラシーⅡ	2			民 法 入 門 II		2	
経 営 学 入 門	2			地 域 振 興 論		2	
経 営 組 織 論		2		中小企業イノベーション論		2	
ビジネスプラン構築論		2		企業 の 社 会 連 携 論		2	
経営戦略論入門		2		公共総合基礎演習Ⅰ		2	
経 営 環 境 論		2		公共総合基礎演習Ⅱ		2	
労使コミュニケーション論		2		C S R		2	
協働プロジェクト論		2		ビジネスシンキング	2		
組 織 行 動 論		2		論 理 と 数 理 入 門		2	
会 計 入 門	2			消 費 者 行 動 論		2	
商 業 簿 記 I		2		デ ザ イン 思 考		2	
商 業 簿 記 II		2		ロジカルシンキング		2	
原 価 計 算 I		2		社 会 心 理 学		2	
原 価 計 算 II		2		キャリアデザイン特講Ⅰ	2		
企 業 財 務 論		2		キャリアデザイン特講Ⅱ		2	
マーケティング入門	2			実践へのいざない	2		
マーケティングリサーチ		2		インターンシップⅠ		1	※選必
デジタルマーケティング		2		インターンシップⅡ		1	※選必
消費者思考の製品開発		2		インターンシップⅢ		1	※選必
統 計 入 門		2		サービ斯拉ーニングⅠ		1	※選必
統 計 解 析		2		サービ斯拉ーニングⅡ		1	※選必

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
サービ斯拉ーニングⅢ		1	※選必	W r i t i n g		3	※※※選必
フィールドワークⅠ		1	※選必	R e a d i n g		3	※※※選必
フィールドワークⅡ		1	※選必	C o n v e r s a t i o n		3	※※※選必
フィールドワークⅢ		1	※選必	M i c r o e c o n o m i c s		2	※※※選必
専門教育科目				Financial Accounting		2	※※※選必
経 営 管 理 論		2	※※選必	C o r p o r a t e F i n a n c e		2	※※※選必
流 通 小 売 論		2	※※選必	ビジネスライティング		2	※※※選必
財 務 会 計 論 Ⅰ		2	※※選必	スピーチプレゼンテーション		2	※※※選必
管 理 会 計 論 Ⅰ		2	※※選必	経験価値マネジメント		2	※※※選必
経 営 戦 略 論 Ⅰ		2	※※選必	グ ローバル 経 営 論		2	※※※選必
マーケティング戦略論		2	※※選必	グ ローバル 製 品 開 発 論		2	※※※選必
A I 戦 略 論		2	※※選必	ブ ラ ン ド 戦 略 論		2	※※※選必
商 品 企 画 論		2	※※選必	企業 の 投 資 意 思 決 定		2	※※※選必
ビジネスモデル論		2	※※選必	M & A と 企 業 価 値 評 価		2	※※※選必
中 小 企 業 論		2	※※選必	新 興 国 企 業 論		2	※※※選必
財 務 会 計 論 Ⅱ		2	※※選必	パブリックマネジメント		2	※※※選必
人的資源管理論		2	※※選必	産 学 教 育 連 携 論		2	※※※選必
対 人 関 係 論		2	※※選必	環 境 マーケティング		2	※※※選必
労 働 経 済 論		2	※※選必	公 共 政 策 論		2	※※※選必
ベンチャービジネス論		2	※※選必	地 域 産 業 論		2	※※※選必
企業情報システムⅡ		2	※※選必	地 方 財 政 論		2	※※※選必
管 理 会 計 論 Ⅱ		2	※※選必	市 民 協 働 参 画 論		2	※※※選必
経 営 戦 略 論 Ⅱ		2	※※選必	行 政 法		2	※※※選必
デ ジ タ ル 戦 略 論		2	※※選必	福 祉 経 営 論		2	※※※選必
パブリックリレーションズ		2	※※選必	地 域 政 策 論		2	※※※選必
広告・セールスプロモーション		2	※※選必	情 報 政 策 論		2	※※※選必
サプライチェーンマネジメント		2	※※選必	地 域 ブ ラ ン ド 論		2	※※※選必
上 級 財 務 会 計 論		2	※※選必	地 域 防 災 ・ 復 興 論		2	※※※選必
イノベーションプロセス論		2	※※選必				

※選必から4単位を必修 ※※選必から12単位を必修 ※※※選必から6単位を必修
※※※選必から6単位を必修

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
美 容 業 界 論		2	※※※※選必				
健康ヘルスケア産業論		2	※※※※選必				
流 通 産 業 論		2	※※※※選必				
ファッション・アパレル業態論		2	※※※※選必				
情 報 通 信 産 業 論		2	※※※※選必				
ホテル・ホスピタリティ産業論		2	※※※※選必				
フードサービス産業論		2	※※※※選必				
レジャー・エンターテインメント産業論		2	※※※※選必				
専 門 演 習 I	2						
専 門 演 習 II	2						
専 門 演 習 III	2						
専 門 演 習 IV	2						
卒 業 研 究	4						

※※※※選必から4単位を必修

履 修 方 法 （別表第1、第2の備考）

1. 卒業までに修得すべき最低単位数

学生は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から124単位（建築学科・景観建築学科は128単位、薬学科は190単位及び看護学科は127単位）以上を修得しなければならない。ただし、下記の学部、学科においては、それぞれに規定する単位を含めて修得しなければならない。なお、編入学生の履修方法については、別に定める。

文学部 日本語日本文学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計2単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

文学部 英語文化学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から30単位以上
- 4 専門教育科目の中から60単位以上

教育学部 教育学科

- 1 共通教育科目の中から12単位以上
（ただし、次の2の共通教育科目で修得した外国語の単位を含めることができる）
- 2 共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から、外国語科目8単位以上（英語Ⅰ・英語Ⅱの4単位を含む）
- 3 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」から2単位以上を含み、『基礎教養科目群』から合計8単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 4 基礎教育科目及び専門教育科目から81単位以上

心理・社会福祉学部 心理学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から8単位以上
- 4 専門教育科目の中から54単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

心理・社会福祉学部 社会福祉学科

- 1 共通教育科目の中から10単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から16単位以上
- 4 専門教育科目の中から46単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』、『ジェンダー科目群』、『学び発見ゼミ』から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から12単位以上
- 4 専門教育科目の中から62単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から12単位以上
- 4 専門教育科目の中から62単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

生活環境学部 生活環境学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上

- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

社会情報学部 社会情報学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

食物栄養科学部 食物栄養学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から25単位以上
- 4 専門教育科目の中から90単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

食物栄養科学部 食創造科学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目12単位
- 4 専門教育科目の中から90単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

建築学部 建築学科

- 1 共通教育科目6単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から14単位
- 4 専門教育科目の中から108単位以上

建築学部 景観建築学科

- 1 共通教育科目6単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から16単位
- 4 専門教育科目の中から106単位以上

音楽学部 演奏学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」（ドイツ語又はフランス語）から合計4単位以上及び「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から7単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 上記2のドイツ語又はフランス語の4単位以上を含む学科指定外国語科目の中から8単位以上

音楽学部 応用音楽学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から9単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

薬学部 薬学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎・専門教育科目の中から174単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

薬学部 健康生命薬科学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎・専門教育科目の中から116単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

看護学部 看護学科

- 1 共通教育科目の中から21単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」か

ら合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」、「ジェンダー科目群」、「キャリアデザイン科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計5単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎（2単位・必修）」、『健康・スポーツ科目群』から合計1単位以上

- 3 基礎教育科目31単位
- 4 専門教育科目の中から75単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

経営学部 経営学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『ジェンダー科目群』、『キャリアデザイン科目群』から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」、『健康・スポーツ科目群』、『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から40単位以上
- 4 専門教育科目の中から50単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

2 教育職員免許状取得に必要な単位数

教育職員免許状を取得するためには、第27条の2に定められた要件を充足する必要がある。また、各学科において定められた履修要項に従って、必要単位を修得しなければならない。

別表第 3

特別教育科目

1 全学プログラム

区分	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	区分	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
教 養 講 座 (講義、実習)	日 本 酒 入 門	2	選 択	キ ャ リ ア 教 育 講 座	教員・保育士等採用試験音楽実技対策講座	12	選 択
	高齢化社会と相続について	2	選 択		教員・保育士等採用試験音楽実技対策講座	10	選 択
	SDGs2「飢餓ゼロ」を目指して	2	選 択		教員・保育士等採用試験音楽実技対策講座	2	選 択
	日 本 酒 の 魅 力 と は	2	選 択				
	就活で役立つ企業の見方	2	選 択				
	内定が取れる就職活動講座	2	選 択				
	税務署の仕事と納税者サービス	2	選 択				
	国税庁の使命と税務署の仕事	2	選 択				
	若手行員による就活体験談	2	選 択				
資 格 対 策 講 座	「日本語検定」2級に挑戦	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(子どもの保健)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(子ども家庭福祉)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(保育原理)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(社会福祉)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(子どもの食と栄養)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(教育原理)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(社会的養護)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(保育実習理論)	2	選 択				
	保育士試験対策特別講座(保育の心理学)	2	選 択				
キ ャ リ ア 教 育 講 座	教員採用試験対策をはじめよう	2	選 択				
	教員採用選考試験対策(英語面接指導)	12	選 択				
	教員採用選考試験対策(実技)	44	選 択				
	教員採用選考試験対策(個人面接)	96	選 択				
	教員採用選考試験対策(集団討論)	32	選 択				
	教員採用選考試験対策(模擬授業)	16	選 択				
	教員採用選考試験対策(模擬授業、個人面接)	120	選 択				
	教員採用選考試験対策(個人面接他)	60	選 択				

2 学科プログラム

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
(日本語日本文学科)			国家試験対策冬合宿	20	選 択
予 備 演 習 I	4	選 択	国家試験対策夏合宿	20	選 択
予 備 演 習 II	4	選 択	国家試験対策(模試講評)	6	選 択
卒 業 演 習	6	選 択	特別ガイダンス	2	選 択
研 究 へ の い ざ な い	4	選 択	福祉実習オリエンテーション	2	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	進路ガイダンス	2	選 択
			心理学研究法演習	2	選 択
(英語文化学科)			入 学 前 教 育	8	選 択
英語科教員採用試験対策講座 I	18	選 択			
英語科教員採用試験対策講座 II	18	選 択	(健康・スポーツ科学科)		
入 学 前 教 育	8	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 II	4	選 択
			健康・スポーツ科学予備演習 1	2	選 択
(教育学科)			健康・スポーツ科学予備演習 2	2	選 択
小学校教員採用試験対策講座	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 3	2	選 択
幼・保採用試験対策講座	4	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 4	2	選 択
幼稚園教員採用試験対策講座	4	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 5	2	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 6	2	選 択
			健康・スポーツ科学予備演習 7	2	選 択
(心理・社会福祉学科)			健康・スポーツ科学予備演習 8	2	選 択
「心理実習」事前指導	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習 9	2	選 択
「心理演習」履修ガイダンス	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習10	2	選 択
ゼミ配属説明会(心理コース)	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習11	2	選 択
ゼミ配属説明会(福祉コース)	2	選 択	健康・スポーツ科学予備演習12	2	選 択
公 務 員 対 策 講 座	20	選 択	健康・スポーツ科学予備演習13	2	選 択
卒 業 論 文	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習14	2	選 択
卒業論文中間報告会	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習15	2	選 択
卒業論文予備演習	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習16	2	選 択
卒業論文最終審査会	6	選 択	健康・スポーツ科学予備演習17	2	選 択
国家試験ガイダンス	4	選 択	健康・スポーツ科学予備演習18	2	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
健康・スポーツ科学予備演習19	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンB	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習20	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンC	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習21	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンD	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習22	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンE	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習23	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンF	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習24	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンG	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習25	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンH	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習26	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンI	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習27	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンJ	4	選 択
健康・スポーツ科学予備演習28	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンK	4	選 択
健康・スポーツ科学演習	8	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンL	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅠA	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンM	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅠC	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンN	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡA	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンO	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡB	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンP	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡC	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンQ	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡD	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンR	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡE	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンS	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡF	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンT	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡG	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンU	4	選 択
健康運動実践指導者試験対策ⅡH	4	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンV	4	選 択
健康運動指導士試験対策A	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンW	4	選 択
健康運動指導士試験対策B	2	選 択	卒業論文・研究発表のプレゼンX	4	選 択
健康運動指導士試験対策C	2	選 択	教員採用試験対策講座(水泳実技編)	4	選 択
健康運動指導士試験対策D	2	選 択	教員採用試験対策講座(武道実技編)	16	選 択
健康運動指導士試験対策E	2	選 択	教員採用試験対策講座(器械運動編)	24	選 択
健康運動指導士試験対策F	2	選 択	教員採用試験対策講座(バスケットボール編)	32	選 択
健康運動指導士試験対策G	2	選 択	教員採用試験対策講座(ハードル編)	32	選 択
健康運動指導士試験対策H	2	選 択	教員採用試験専門教養対策講座B	32	選 択
卒業論文・研究発表のプレゼンA	4	選 択	日ス協公認AT資格対策講座A	6	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
入 学 前 教 育	8	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野5	12	選 択
(生活環境学科)			卒業研究論文演習 NCM 分野6	12	選 択
キッズドリームウエア	12	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野7	12	選 択
卒業研究特別演習	18	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野8	12	選 択
生活環境特別演習	12	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野9	12	選 択
生活環境特別演習	18	選 択	卒業研究論文演習 NCM 分野10	12	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野1	12	選 択
(食物栄養学科)			卒業研究論文演習 NS 分野2	12	選 択
卒業演習基礎演習Ⅰ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野3	12	選 択
卒業演習基礎演習Ⅱ	4	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野4	12	選 択
国家試験対策ガイダンスⅠ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野5	12	選 択
国家試験対策ガイダンスⅡ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野6	12	選 択
国家試験対策ガイダンスⅢ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野7	12	選 択
基礎学力向上演習Ⅰ	2	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野8	12	選 択
基礎学力向上演習Ⅱ	4	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野9	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野1	12	選 択	卒業研究論文演習 NS 分野10	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野2	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野1	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野3	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野2	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野4	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野3	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野5	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野4	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野6	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野5	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野7	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野6	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野8	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野7	12	選 択
卒業研究論文演習 FS 分野9	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野8	12	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野1	12	選 択	卒業研究論文演習 PN 分野9	12	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野2	12	選 択	国家試験受験ガイダンスⅠ	2	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野3	12	選 択	国家試験受験ガイダンスⅡ	2	選 択
卒業研究論文演習 NCM 分野4	12	選 択	国家試験受験ガイダンスⅢ	2	選 択
			国試対策・公衆栄養学Ⅰ	2	選 択
			国試対策・公衆衛生学Ⅰ	2	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
国試対策・公衆衛生学 2	2	選 択	国 試 対 策 (夏 季)	2	選 択
国試対策・基礎栄養学 1	2	選 択	国試対策 (直前対策模試Ⅰ)	2	選 択
国試対策・基礎栄養学 2	2	選 択	栄養士免許申請ガイダンス	2	選 択
国試対策・応用栄養学 1	2	選 択	栄養士実習事前ガイダンス	4	選 択
国試対策・応用栄養学 2	2	選 択	管栄国家試験申請ガイダンス	2	選 択
国試対策・栄養教育論 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅰ	2	選 択
国試対策・栄養教育論 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-1	4	選 択
国試対策・栄養教育論 3	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-2	4	選 択
国 試 対 策・生 化 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-3	4	選 択
国 試 対 策・生 化 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-4	4	選 択
国試対策・病原微生物学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-5	4	選 択
国試対策・給食経営管理学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-6	4	選 択
国試対策・給食経営管理学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-7	4	選 択
国 試 対 策・臨 床 医 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-8	4	選 択
国 試 対 策・臨 床 医 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-9	4	選 択
国 試 対 策・臨 床 医 学 3	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-10	4	選 択
国 試 対 策・臨 床 栄 養 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-11	4	選 択
国 試 対 策・臨 床 栄 養 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-12	4	選 択
国 試 対 策・解 剖 生 理 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-13	4	選 択
国 試 対 策・解 剖 生 理 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-14	4	選 択
国 試 対 策・調 理 科 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-15	4	選 択
国 試 対 策・調 理 科 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-16	4	選 択
国 試 対 策・調 理 科 学 3	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅱ-17	4	選 択
国 試 対 策・食 品 加 工 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅲ	4	選 択
国 試 対 策・食 品 加 工 学 2	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅳ-1	4	選 択
国 試 対 策・食 品 学 1	2	選 択	管理栄養総合演習事前演習Ⅳ-2	4	選 択
国 試 対 策・食 品 学 2	2	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
国 試 対 策・食 品 学 3	2	選 択			
国 試 対 策・食 品 衛 生 学 1	2	選 択	(食創造科学科)		
国 試 対 策・食 品 衛 生 学 2	2	選 択	栄養士実習事前ガイダンス	4	選 択

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
入 学 前 教 育	8	選 択	卒 業 研 究 発 表 会 1	4	選 択
(情報メディア学科)			卒 業 研 究 発 表 会 2	4	選 択
			卒 業 研 究 発 表 会 3	4	選 択
入 学 前 教 育	8	選 択	卒 業 研 究 発 表 会 4	4	選 択
(建築学科)			数 学 演 習	16	選 択
			物 理 ゼ ミ	16	選 択
「 建 築 材 料 」 補 習	4	選 択	物 理 演 習	16	選 択
「 建 築 材 料 実 験 」 補 習	2	選 択	特 別 学 期 ガ イ ダ ン ス	2	選 択
「 建 築 法 規 Ⅱ 」 補 習	4	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
「 建 築 生 産 」 補 習	2	選 択			
「 建 築 設 計 演 習 Ⅲ 」 補 習	6	選 択	(景観建築学科)		
「 建 築 設 計 演 習 Ⅳ 」 補 習	6	選 択	「 世 界 庭 園 史 」 補 習	2	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅴ 」 補 習	6	選 択	「 建 築 計 画 」 補 習	4	選 択
「 建 築 構 造 力 学 Ⅰ 」 補 習	4	選 択	「 景 観 建 築 原 論 」 補 習	4	選 択
「 建 築 構 造 力 学 Ⅱ 」 補 習	4	選 択	「 景 観 建 築 英 語 Ⅲ 」 補 習	2	選 択
「 建 築 法 規 Ⅰ 」 補 習	4	選 択	「 景 観 建 築 設 計 演 習 Ⅰ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 環 境 工 学 Ⅰ 」 補 習	2	選 択	「 景 観 建 築 設 計 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 環 境 工 学 Ⅱ 」 補 習	2	選 択	「 景 観 映 像 情 報 演 習 Ⅰ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 環 境 工 学 実 験 」 補 習	2	選 択	「 景 観 映 像 情 報 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択
「 建 築 英 語 Ⅲ 」 補 習	2	選 択	「 構 造 力 学 Ⅱ 」 補 習	2	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅰ 」 補 習	10	選 択	「 自 然 環 境 保 全 学 」 補 習	4	選 択
「 建 築 設 計 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択	「 近 代 建 築 史 」 補 習	2	選 択
「 建 築 設 計 計 画 Ⅱ 」 補 習	4	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 1	4	選 択
「 都 市 計 画 ・ デ ザ イ ン 論 」 補 習	2	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 2	4	選 択
「 CAD ・ CG 応 用 演 習 Ⅰ 」 補 習	6	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 3	4	選 択
「 CAD ・ CG 応 用 演 習 Ⅱ 」 補 習	6	選 択	修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 4	4	選 択
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 1	4	選 択	特 別 学 期 ガ イ ダ ン ス	2	選 択
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 2	4	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 3	4	選 択			
修 士 設 計 ・ 修 士 論 文 発 表 会 4	4	選 択			

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考	授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
(演奏学科、応用音楽学科)			(経営学科)		
応 用 音 楽 へ の 誘 い I	2	選 択	入 学 前 教 育	8	選 択
応 用 音 楽 へ の 誘 い II	2	選 択			
音 楽 療 法 士 試 験 対 策	4	選 択			
音 楽 療 法 士 (補) 試 験 に 向 け て	4	選 択			
音 楽 科 模 擬 授 業 演 習	6	選 択			
入 学 前 教 育	8	選 択			
(薬学科、健康生命薬科学科)					
卒 論 発 表 会 へ の 参 加	8	選 択			
基 礎 薬 学 入 門	32	選 択			
研 究 の 手 引 き	24	選 択			
薬 学 化 学 入 門	30	選 択			
薬 学 生 物 入 門	30	選 択			
薬 学 科 1 年 次 の ま と め	14	選 択			
薬 学 科 2 年 次 の ま と め	14	選 択			
薬 学 科 3 年 次 の ま と め	28	選 択			
入 学 前 教 育	8	選 択			
(看護学科)					
国 際 看 護 学	2	選 択			
災 害 看 護 学	2	選 択			
第 1 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	2	選 択			
第 2 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	2	選 択			
第 3 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	4	選 択			
第 4 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	4	選 択			
第 5 回 国 試 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	2	選 択			
入 学 前 教 育	8	選 択			

3 ボランティア活動

ボランティア活動	(注)	選 択			
----------	-----	-----	--	--	--

(注) ボランティア活動30時間に対して1単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

4 インターンシップ活動

インターンシップ活動	(注)	選 択			
------------	-----	-----	--	--	--

(注) インターンシップ活動30時間に対して1単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

別表第4

教育職員免許状

(中学校・高等学校教諭、栄養教諭 教育職員免許法施行規則第66条の6「日本国憲法」)

免許法施行規則に定める科目	修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一種免	必修単位 高一種免	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	2	

【履修方法】

- (1) その他の教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（本学では「教職基礎科目」と称する。）については、別表第1・別表第2より履修すること。

(中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」)

免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一種免	必修単位 高一種免	備考
第二欄	左の科目に含めることが 必要な事項						
教科及び教科の指導法に関する科目	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中 8 ・ 高 4	国語科指導法Ⅰ	2	2	2	各自が取得する免許状の教科に応じて修得すること
			国語科指導法Ⅱ	2	2	2	
			国語科指導法Ⅲ	2	2	2	
			国語科指導法Ⅳ	2	2	2	
			書道科指導法Ⅰ	2	—	2	
			書道科指導法Ⅱ	2	—	2	
			英語科指導法Ⅰ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅱ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅲ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅳ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅰ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅱ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅲ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅳ	2	2	2	
			情報科指導法Ⅰ	2	—	2	
			情報科指導法Ⅱ	2	—	2	
			音楽科指導法Ⅰ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅱ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅲ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅳ	2	2	2	
理科指導法Ⅰ	2	2	2				
理科指導法Ⅱ	2	2	2				
理科指導法Ⅲ	2	2	2				
理科指導法Ⅳ	2	2	2				
合計		中 8 ・ 高 4	計		8	8	

【履修方法】

- (1) 「各教科の指導法」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
 (2) 上表の科目のうち、各自が取得する免許状の教科に応じて8単位（書道科指導法・情報科指導法は4単位）を修得すること。

(中学校・高等学校教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」)

免許法施行規則に定める科目		左の科目に含めることが 必要な事項	修得 法定 単位 最低	本学の開設授業科目	単 位 数	必 修 単 位 中 一 種 免	必 修 単 位 高 一 種 免	備考
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目							
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	2	2	
				教育史	2			
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門	2	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学	2	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学	2	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論	2	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中 10 ・ 高 8	道徳教育指導論	2	2	—	
		・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		総合的な学習の時間と特別活動	2	2	2	
		・教育の方法及び技術		教育方法の理論と実践	1	1	1	
		・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と実践	1	1	1	
		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導・進路指導	2	2	2	
		・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談の理論と方法	2	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・教育実習	中 5 ・ 高 3	教育実習事前指導(中高)	1	1	1	事前事後指導
				教育実習事前事後指導(中高)	1	1	1	
				教育実習Ⅰ(中高)	2	2		
				教育実習Ⅱ(中高)	2	2	2	
	・教職実践演習	2	教職実践演習(中高)	2	2	2		
合計			中 27 ・ 高 23	計	34	30	26	

【履修方法】

- (1)「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで中学校教諭30単位以上、高等学校教諭26単位以上。
- (3)「教育実習事前事後指導(中高)」「教育実習Ⅰ(中高)」「教育実習Ⅱ(中高)」「教職実践演習(中高)」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。
- (4)「道徳教育指導論」は、高等学校教諭においては「大学が独自に設定する科目」として開設する。
- (5)「教育の基礎的理解に関する科目等」として修得した単位数のうち中学校教諭27単位、高等学校教諭23単位を超えて修得した単位数を「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含めることができる。

(中学校・高等学校教諭「大学が独自に設定する科目」)

免許法施行規則に定める科目	修得単位 法定最低	算入可能な科目 及び 本学の開設授業科目	単位数	中一種免		高一種免		備考
				必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中4 ・ 高12	① 中学校教諭：28単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・27単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						いずれかの単位で、中学校教諭4単位以上、高等学校教諭12単位以上修得すること
		① 高等学校教諭：24単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・23単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						
	② 道徳教育指導論	2	—		2			

【履修方法】

- (1) 「大学が独自に設定する科目」②の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の①②いずれかの単位で、中学校教諭4単位以上、高等学校教諭12単位以上。
- (3) 「道徳教育指導論」は、中学校教諭においては「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設する。

(栄養教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」)

	免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	栄教一種免 必修単位	備考
	左の科目に含めることが必要な事項						
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理*	2	2	
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門*	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学*	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学*	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論*	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論*	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育指導論*	2	2	
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		総合的な学習の時間と特別活動*	2	2	
		・生徒指導の理論及び方法		教育方法の理論と実践*	1	1	
		・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		ICT活用の理論と実践*	1	1	
				生徒指導の理論と方法	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・栄養教育実習	2	栄養教育実習事前事後指導	1	1	事前事後指導
		・教職実践演習		2	2		
		合計	18	計	26	26	

【履修方法】

- (1) 「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。
- (3) 「栄養教育実習(学校現場)」「教職実践演習(栄教)」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。
- (4) *の科目は、中学校・高等学校教職課程と共通開設。

別表第 5

図書館司書専門教育科目

図書館法施行規則に規定する科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	必修単位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2
図書館概論	2	図書館概論	2	2
図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2
図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2
図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2
情報サービス論	2	情報サービス論	2	2
児童サービス論	2	児童サービス論	2	2
情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	1	1
		情報サービス演習Ⅱ	1	1
図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	1	1
		情報資源組織演習Ⅱ	1	1
図書館基礎特論	2	図書館基礎特論	2	4
図書館サービス特論		図書館サービス特論	2	
図書館情報資源特論		図書館情報資源特論	2	
図書・図書館史		図書・図書館史	2	
図書館実習		図書館実習	1	
図書館施設論		—		
図書館総合演習		—		
	24	計	31	26

【履修方法】

- (1) 図書館司書専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「図書館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。

別表第 6

学校図書館司書教諭専門教育科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	司書教諭必修
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	10	計	10	10

【履修方法】

- (1) 学校図書館司書教諭専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「学校図書館司書教諭講習規程に定める科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで10単位以上。

別表第 7

博物館学芸員専門教育科目

博物館法施行規則 に規定する科目	必 要 単位数	左記に相当する 本学の開講科目	単位数	必 修 単 位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2
博物館概論	2	博物館概論	2	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2
博物館実習	3	博物館実習 A	2	2
		博物館実習 B	1	1
	19	計	19	19

【履修方法】

- (1) 博物館学芸員専門教育科目を履修するために必要な手続きは別に定める。
- (2) 上表の「博物館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を19単位取得。

別表第8（第39条関係）

令和5年度の入学生

学部・学科		費目	※1 入学検定料	入学金	学 費（年 額）			
					授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	975,000	200,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	240,000	—	—
社会福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	230,000	—	—
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	230,000	—	—
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	270,000	※2 26,000	—
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	270,000	※2 26,000	—
環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	250,000	—	—
報社会情学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,060,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	0
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	—	—	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	—	—	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。

※2 野外実習費 1・2年次のみ

令和4年度の入学生

学部・学科		費目	※1 入学検定料	入学金	学 費 (年 額)			
					授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000 ^円	200,000 ^円	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	—	—	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	240,000	—	—
健康・スポーツ学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	270,000	※3 26,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	250,000	—	—
	情報メディア学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	400,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	—	—	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	—	—	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	—	—	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。

※2 野外実習費

※3 野外実習費 2年次のみ

令和2～3年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—
	景観建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	1,000,000	200,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

令和元年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—	
	2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	362,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

平成30年度の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	200,000	—	—	—	
	教育学科	995,000	230,000	—	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	230,000	—	—	—	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	230,000	—	*1 20,000	—	
生活環境学部	生活環境学科	995,000	250,000	—	—	—	
	食物栄養学科	995,000	250,000	—	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	250,000	—	—	—	
	建築学科	1,100,000	300,000	—	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1,370,000	330,000	—	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	330,000	—	—	*2 20,000	
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	—	0	—
		2~6年次	1,502,000	362,000	—	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	—	0	—
		2~4年次	1,130,000	370,000	—	160,000	—
看護学部	看護学科	1,347,000	300,000	3,000	—	—	

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

平成26～29年度の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	895,000 ^円	175,000 ^円	3,000 ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	175,000	3,000	—	—	
	教育学科	995,000	205,000	3,000	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	205,000	3,000	—	—	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	205,000	3,000	*1 20,000	—	
生活環境学部	生活環境学科	995,000	225,000	3,000	—	—	
	食物栄養学科	995,000	225,000	3,000	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	225,000	3,000	—	—	
	建築学科	1,100,000	275,000	3,000	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1,370,000	305,000	3,000	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	305,000	3,000	—	*2 20,000	
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	337,000	3,000	0	—
		2～6年次	1,502,000	337,000	3,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	345,000	3,000	0	—
		2～4年次	1,130,000	345,000	3,000	160,000	—
看護学部	看護学科	1,347,000	300,000	3,000	—	—	

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

・看護学部看護学科は平成27年度開設

平成25年度以前の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文 学 部	日本語日本文学科	895,000 ^円	150,000 ^円	3,000 ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	150,000	3,000	—	—	
	教 育 学 科	995,000	180,000	3,000	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	180,000	3,000	—	—	
健康・ スポーツ 科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	180,000	3,000	*1 20,000	—	
生 活 環 境 学 部	生活環境学科	995,000	200,000	3,000	—	—	
	食物栄養学科	995,000	200,000	3,000	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	200,000	3,000	—	—	
	建 築 学 科	1,100,000	250,000	3,000	60,000	—	
音 楽 学 部	演 奏 学 科	1,370,000	280,000	3,000	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	280,000	3,000	—	*2 20,000	
薬 学 部	薬 学 科 (平成23年度以前の入学生)	1,502,000	320,000	3,000	—	80,000	
	薬 学 科 (平成24・25年度の入学生)	1年次	1,502,000	320,000	3,000	0	—
		2～6年次	1,502,000	320,000	3,000	96,000	—
	健康生命薬科学科 (平成23年度以前の入学生)	1,250,000	320,000	3,000	—	—	
	健康生命薬科学科 (平成24・25年度の入学生)	1年次	1,130,000	320,000	3,000	0	—
		2～4年次	1,130,000	320,000	3,000	160,000	—

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

別表第9（第56条関係）

区 分		金 額	備 考
科目等履修生	選 考 料	10,000円	本学卒業生は免除
	登 録 料	15,000円	本学卒業生は半額
	履 修 料	1単位 30,000円 ただし、薬学部基礎・専門教育科目のうち講義科目 1単位 60,000円 「臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修料は 1単位 60,000円 「薬学臨床実習」の履修料は750,000円 〔健康生命薬科学科卒業生の薬剤師国家試験 受験資格取得に関する経過措置対応のため〕	単位不要の場合は半額

別表第10（第57条関係）

区 分		金 額	備 考
研 究 生	研 究 料	日本語日本文、英語文化 月額 25,000円	
		教育学部、健康・スポーツ科学部、 心理・社会福祉 月額 29,000円	
		生活環境学部、食物栄養科学部 月額 29,000円	
		建築学部 月額 32,000円	
		音楽学部 月額 39,000円	
		薬学 月額 43,000円	
		健康生命薬科 月額 32,000円	
		経営学部 月額 23,000円	

変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

令和5年4月、心理・社会福祉学部、社会情報学部及び健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科を設置する。また同時に文学部心理・社会福祉学科及び生活環境学部情報メディア学科の学生募集を停止する。以上に伴い、学則の一部を変更する。

(1) 新設する学部・学科

心理・社会福祉学部	心理学科	入学定員 150 人	収容定員 600 人
心理・社会福祉学部	社会福祉学科	入学定員 70 人	収容定員 280 人
社会情報学部	社会情報学科	入学定員 180 人	収容定員 720 人
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	入学定員 100 人	収容定員 400 人

(2) 学生募集を停止する学部・学科

文学部	心理・社会福祉学科	入学定員 160 人	3 年次編入学定員 17 人
		収容定員 674 人	
生活環境学部	情報メディア学科	入学定員 150 人	収容定員 600 人

2. 変更点

- (1) 第5条（学部・学科及び収容定員）、第5条の2（目的）、第27条の2（教育職員免許状）、第27条の8（社会福祉士、精神保健福祉士）において、新設する学部・学科の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。
- (2) 附則において施行日を明確にし、完成年度までの移行措置を追加する。
- (3) 別表第1（共通教育科目の授業科目及びその単位数）、別表第2（基礎教育科目及び専門教育科目）、履修方法において、新設する学部・学科の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。
- (4) 別表第8（入学検定料・入学金及び学費）において、新設する学部・学科の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。

3. 変更の時期

令和5年4月1日

武庫川女子大学学則 変更部分の新旧対照表

新(変更案)					旧(現行)				
第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする					第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする				
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650	文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650
	英語文化学科 (削除)	200	3年次25	850		英語文化学科	200	3年次25	850
教育学部	教育学科	240	3年次25	1,010	教育学部	教育学科	240	3年次25	1,010
心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600	(新設)				
	社会福祉学科	70	—	280	健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科 (新設)	180	3年次20	760
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	3年次20	760	生活環境学部	生活環境学科	165	3年次20	700
	スポーツマネジメント学科	100	—	400		情報メディア学科	150	—	600
生活環境学部	生活環境学科 (削除)	165	3年次20	700	(新設)				
社会情報学部	社会情報学科	180	—	720	食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820
食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820	建築学部	建築学科	45	—	180
	食創造科学科	80	3年次5	330		景観建築学科	40	—	160
建築学部	建築学科	45	—	180	音楽学部	演奏学科	30	—	120
	景観建築学科	40	—	160		応用音楽学科	20	—	80
音楽学部	演奏学科	30	—	120	薬学部	薬学科	210	—	1,260
	応用音楽学科	20	—	80		健康生命薬科学科	40	—	160
看護学部	看護学科	80	—	320	看護学部	看護学科	80	—	320
経営学部	経営学科	200	—	800	経営学部	経営学科	200	—	800
<p>第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。</p> <p>2 文学部は、人間の本质と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(削除)</p> <p>(略)</p> <p>4 心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない(leave no one behind)世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。</p> <p>(1) 心理学科は、自身の理想を探究・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に見出し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人々と共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。</p> <p>5 健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成することを目的とする。</p> <p>(1) 健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。</p> <p>(2) スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。</p>					<p>第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。</p> <p>2 文学部は、人間の本质と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(新設)</p> <p>(3) 心理・社会福祉学科は、実力あるところの専門家、福祉のスペシャリストを養成することにより、共に生きる人びとに共感できるやさしさと強さをあわせもち、人・社会の幸福の実現に寄与することのできる実力のある女性の育成を目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>4 健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>				

新(変更案)

6 生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

(削除)

(削除)

7 社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結ぶ実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかに発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

8～13(略)

第27条の2 教育職員免許授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

2～3(略)

4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域
(略)			
健康・スポーツ学部	健康・スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
	スポーツマネジメント学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
生活環境学部	生活環境学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
	(削除)		
社会情報学部	社会情報学科	高等学校教諭一種免許状	情報
(略)			

第27条の8 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。

3 心理・社会福祉学部社会福祉学科の定員は70名である。

4 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。

5 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は40名である。

附 則

1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。

2 第5条に規定する心理・社会福祉学部心理学科及び社会福祉学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
心理・社会福祉学部 心理学科		150	300	450
心理・社会福祉学部 社会福祉学科		70	140	210

3 文学部心理・社会福祉学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

旧(現行)

5 生活環境学部は、人間が生活空間において生き、情報を利用して多様な生活を選び、さらに快適で美的な生活環境を築く知識と知恵を生み出すことのできる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

(2) 情報メディア学科は、個人の生活に及ぼす情報の力が増大する高度情報化社会において、さまざまな情報を利用・活用して最も適切な生活行動を設計し、他人と協働しながら社会的な営みに積極的・主体的に参画し、個性を活かしつつ、自立して人生を切り開くために、知識と技術と感性と行動力を身に付けた有為な女性を育成することを目的とする。

(新設)

6～11(略)

第27条の2 教育職員免許授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

2～3(略)

4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域
(略)			
健康・スポーツ学部	健康・スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
	〔新設〕		
生活環境学部	生活環境学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
	情報メディア学科	高等学校教諭一種免許状	情報
(新設)			
(略)			

第27条の8 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。

3 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの定員は70名である。

4 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。

5 文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は30名である。

(略)

(新設)

新(変更案)

4 第5条に規定する健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
健康・スポーツ科学部		100	200	300
スポーツマネジメント学科				

5 第5条に規定する社会情報学部社会情報学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
社会情報学部		180	360	540
社会情報学科				

6 生活環境学部情報メディア学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

7 第5条の2第4項、第5項及び第7項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

8 第26条第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数(別表第2)については、なお、従前のとおりとする。

9 第27条の2第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

10 第27条の8の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。

11 第35条の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

別表第1

共通教育科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
日本の文化Ⅰ		2	
日本の文化Ⅱ		2	
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
鎌倉時代の文学への語り		2	
平安時代の文学への語り		2	
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
現代フランスの音楽事情		2	
先端芸術表現		1	
ミュージカル歌唱法		1	
(削除)			
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日常生活からの哲学入門		2	
(削除)			
歌舞伎鑑賞入門		2	
遊びの人類学		2	
(削除)			
(削除)			
(削除)			
(削除)			
SNSから日本語を見る		2	
音楽の科学		2	
(削除)			
(削除)			
フランスの音楽と芸術文化		2	

旧(現行)

別表第1

共通教育科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目			
日本語の世界		2	
英語圏の文学・文化		2	
建築と歴史		2	
生活の中の心理学		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1	
英語を学問するー理論と実践		2	
日本の文化Ⅰ		2	
日本の文化Ⅱ		2	
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
(新設)			
(新設)			
芭蕉をめぐる人々		2	
雨月物語に込められた情念		2	
芭蕉と旅		2	
「心中天網島」の女房「おさん」		2	
現代フランスの音楽事情		2	
先端芸術表現		1	
ミュージカル歌唱法		1	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1	
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日常生活からの哲学入門		2	
音楽の科学		2	
歌舞伎鑑賞入門		2	
遊びの人類学		2	
心理学入門		2	
人間関係の心理学		2	
日本近代文学の魅力Ⅰ		2	
日本近代文学の魅力Ⅱ		2	
SNSから日本語を見る		2	
(新設)			
日本語と英語の比較		2	
建築文化論		2	
フランスの音楽と芸術文化		2	

新(変更案)				旧(現行)			
基礎教養科目群 社会科学科目				基礎教養科目群 社会科学科目			
(削除)				現代の教育・保育事情			2
(削除)				建築と社会			2
(削除)				聴覚障害者の理解と手話言語			2
(削除)				カウンセリングの実際			2
(削除)				実践カウンセリング			2
現代世界の教育		2		(新設)			
子育てと家族関係		2		子育てと家族関係			2
子育てと母性の気づき		2		子育てと母性の気づき			2
福祉レクリエーションの実際		2		福祉レクリエーションの実際			2
差別と暴力のない世界をめざして		2		差別と暴力のない世界をめざして			2
生涯福祉論		2		生涯福祉論			2
社会福祉とボランティア		2		社会福祉とボランティア			2
(削除)				「ふつう」を考える社会学			2
(削除)				現代世界の教育			2
消費者生活論		2		消費者生活論			2
メディアに映る女性		2		(新設)			
(削除)				日本経済のしくみ			2
(削除)				外国から見た日本社会のしくみ			2
女性と子どものヘルスケア		2		女性と子どものヘルスケア			2
英語で学ぶやさしい経済学		2		英語で学ぶやさしい経済学			2
英語で学ぶお金の知識		2		英語で学ぶお金の知識			2
(削除)				情報化と教育			2
現代社会と憲法		2		現代社会と憲法			2
我々のくらしと日本の産業		2		我々のくらしと日本の産業			2
環境心理学入門		2		環境心理学入門			2
教養としての法律		2		教養としての法律			2
暮らしと法律		2		暮らしと法律			2
メディア技術と文字デザイン		2		メディア技術と文字デザイン			2
まちづくりと地方自治の役割		2		まちづくりと地方自治の役割			2
基礎教養科目群 自然科学科目				基礎教養科目群 自然科学科目			
(削除)				はたらく細胞とくすり			2
(削除)				身近にある科学			2
(削除)				発達障害の理解とリエゾン支援			2
文化を創造する数学		2		(新設)			
生命科学入門		2		(新設)			
(削除)				エコロジーと私たちのくらし			2
(削除)				健康を支える仕組み			2
(削除)				環境問題の歴史			2
(削除)				科学技術の歩み			2
(削除)				生命科学の基礎			2
(削除)				色彩情報			2
(削除)				生命科学入門			2
生活の中の物理学		2		生活の中の物理学			2
最先端物理学が描く宇宙		2		最先端物理学が描く宇宙			2
微生物がつくる発酵食品の不思議		2		(新設)			
(削除)				科学から考える衣服と生活			2
(削除)				数や図形の科学			2
(削除)				科学への入門			2
(削除)				生活習慣と脳と心と身体の科学			2
薬とからだ		2		薬とからだ			2
(削除)				健康生活とライフステージ			2
医薬品概論		2		医薬品概論			2
薬の歴史と未来		2		薬の歴史と未来			2
基礎教養科目群 国際理解科目				基礎教養科目群 国際理解科目			
(削除)				音楽から見る人と世界			2
韓国文化の理解		2		韓国文化の理解			2
(削除)				韓流ブーム			2
世界の中の日本人		2		世界の中の日本人			2
(削除)				World English I			2
(削除)				World English II			2
中国文化論		2		中国文化論			2
国際協力入門		2		国際協力入門			2

新(変更案)				旧(現行)			
基礎教養科目群 現代トピック科目				基礎教養科目群 現代トピック科目			
(削除)				現代社会と保健医療			2
(削除)				心理学トピックス			2
(削除)				社会福祉の学び			2
(削除)				スポーツツーリズムと地域創生			2
(削除)				大学生生活入門			2
モラルジレンマから考える私		2		モラルジレンマから考える私			2
女性のためのマーケティング		2		女性のためのマーケティング			2
(削除)				テレビ映像と現代社会			2
Current Affairs in Japan I		2		Current Affairs in Japan I			2
Current Affairs in Japan II		2		Current Affairs in Japan II			2
ジェンダー科目群				ジェンダー科目群			
セクシュアリティ入門				セクシュアリティ入門 I			
(削除)			2	(新設)			
(削除)				セクシュアリティ入門 II			2
(削除)				女性と教育			2
(削除)				ジェンダーとアイデンティティ			2
(削除)				ジェンダーと社会			2
女性の身体とセクシュアリティ		2		女性の身体とセクシュアリティ			2
メディアに見るジェンダー		2		メディアに見るジェンダー			2
女性が輝く社会づくり		2		女性が輝く社会づくり			2
キャリアデザイン科目群				キャリアデザイン科目群			
(削除)				教員から見た社会人基礎力			2
(削除)				ベンチャービジネス概論			2
(削除)				ビジネスプラン構築概論			2
(削除)				SOAR 人生100年をきり拓く力			2
(削除)				ヒューマンスキル入門			2
女性のためのライフプランニング		2		女性のためのライフプランニング			2
自己アビリティトレーニング		2		自己アビリティトレーニング			2
(削除)				パーソナルコミュニケーション			2
(削除)				キャリアと学び			2
(削除)				仕事力を考える			2
(削除)				企業の見方			2
(削除)				卒業生が語る仕事と人生			2
(削除)				企業での女性活躍と働き方改革			2
(削除)				企業で役に立つ情報収集と企画力			2
(削除)				グローバル化と企業の海外展開			2
(削除)				文章表現の基礎			2
(削除)				プレゼンテーションの基礎			2
(削除)				チームで学ぶ課題解決			2
キャリアビジョンと人物評価		2		キャリアビジョンと人物評価			2
(削除)				公務員の魅力			2
言語・情報科目群 言語リテラシー科目				言語・情報科目群 言語リテラシー科目			
(削除)				海外演習 I (韓国)			1
(削除)				海外演習 I (台湾)			1
(削除)				海外演習 I (タイ)			1
(削除)				海外演習 I (臺州)			1
(削除)				海外演習 II (韓国)			2
(削除)				海外演習 II (台湾)			2
(削除)				海外演習 II (タイ)			2
(削除)				海外演習 II (臺州)			2
特別英語演習 I		4		特別英語演習 I			4
特別英語演習 II		4		特別英語演習 II			4
(削除)				特別英語演習Ⅶ			2
特別ハンブル演習 I		4		特別ハンブル演習 I			4
特別ハンブル演習 II		4		特別ハンブル演習 II			4
(削除)				ハンブル検定演習			1
特別中国語演習 I		2		特別中国語演習 I			2
特別中国語演習 II		2		特別中国語演習 II			2
(削除)				Reading & Structure I			1
(削除)				Reading & Structure II			1
Current Events I		1		(新設)			
Current Events II		1		(新設)			
(削除)				Current Events			1
(削除)				Leadership Development			1
(削除)				Global Issues I			1
(削除)				Global Issues II			1
Grammar for Communication		1		(新設)			
Reading & Writing		1		(新設)			
Reading & Critical Thinking		1		Reading & Critical Thinking			1

新(変更案)				旧(現行)			
English for Careers		1		English for Careers		1	
Reading & Discussion		1		Reading & Discussion		1	
Career Workshop		1		Career Workshop		1	
Speaking & Listening I		1		Speaking & Listening I		1	
Speaking & Listening II		1		Speaking & Listening II		1	
Basics for Presentation I		1		Basics for Presentation I		1	
Basics for Presentation II		1		Basics for Presentation II		1	
Speaking & Listening III		1		Speaking & Listening III		1	
Writing I		1		Writing I		1	
Writing II		1		Writing II		1	
Global Communication I		1		(新設)			
Global Communication II		1		(新設)			
Presentation		1		Presentation		1	
ドイツ語 I		2		ドイツ語 I		2	
ドイツ語 II		2		ドイツ語 II		2	
フランス語 I		2		フランス語 I		2	
フランス語 II		2		フランス語 II		2	
中国語 I		2		中国語 I		2	
中国語 II		2		中国語 II		2	
スペイン語 I		2		スペイン語 I		2	
ハンブル I		2		ハンブル I		2	
ハンブル II		2		ハンブル II		2	
フランス語 I A		1		フランス語 I A		1	
フランス語 I B		1		フランス語 I B		1	
英語コミュニケーション I		2		英語コミュニケーション I		2	
英語コミュニケーション II		2		英語コミュニケーション II		2	
英語コミュニケーション III		1		英語コミュニケーション III		1	
英語コミュニケーション IV		1		英語コミュニケーション IV		1	
英語リーディング I		1		英語リーディング I		1	
英語リーディング II		1		英語リーディング II		1	
英語ライティング I		1		英語ライティング I		1	
英語ライティング II		1		英語ライティング II		1	
TOEIC演習 I		1		TOEIC演習 I		1	
TOEIC演習 II		1		TOEIC演習 II		1	
TOEIC演習 III		1		TOEIC演習 III		1	
TOEFL演習		1		TOEFL演習		1	
TOEIC(初級)		1		TOEIC(初級)		1	
イタリア語 I A		1		イタリア語 I A		1	
イタリア語 I B		1		イタリア語 I B		1	
日本語初級A		3		日本語初級A		3	
日本語初級B		3		日本語初級B		3	
日本語初級C		3		日本語初級C		3	
日本語初級D		3		日本語初級D		3	
日本語中級A		3		日本語中級A		3	
日本語中級B		3		日本語中級B		3	
日本語中級C		3		日本語中級C		3	
日本語中級D		3		日本語中級D		3	
日本語・上級 I		2		日本語・上級 I		2	
日本語・上級 II		2		日本語・上級 II		2	
日本語・上級 III		2		日本語・上級 III		2	
日本語・上級 IV		2		日本語・上級 IV		2	
言語・情報科目群 情報リテラシー科目				言語・情報科目群 情報リテラシー科目			
データリテラシー・AIの基礎 (削除)	2			データリテラシー・AIの基礎 データリテラシー・AI入門	2	2	
Accessデータベース基礎		2		Accessデータベース基礎		2	
情報社会を生きる技術		2		情報社会を生きる技術		2	
Webデザイン基礎		2		Webデザイン基礎		2	
Webデザイン応用		2		Webデザイン応用		2	
Scratchによるプログラミング		2		Scratchによるプログラミング		2	
グラフィックデザイン基礎		2		グラフィックデザイン基礎		2	
フォトタッチ基礎		2		フォトタッチ基礎		2	
データサイエンスの基礎とExcel		2		データサイエンスの基礎とExcel		2	
データサイエンスの応用とExcel		2		(新設)			
健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目				健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目			
生涯スポーツ論		2		生涯スポーツ論		2	
スポーツと栄養		2		スポーツと栄養		2	
スポーツと現代社会 (削除)		2		スポーツと現代社会 知っておきたい応急処置		2	2

新(変更案)				旧(現行)			
健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目				健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目			
(削除)				スポーツ実技(フットサル)			1
スポーツ実技(テニス)		1		スポーツ実技(テニス)		1	
スポーツ実技(ゴルフ)		1		スポーツ実技(ゴルフ)		1	
スポーツ実技(バレーボール)		1		スポーツ実技(バレーボール)		1	
スポーツ実技(バドミントン)		1		スポーツ実技(バドミントン)		1	
スポーツ実技(ジャズダンス)		1		(新設)			
スポーツ実技(エアロビクス)		1		スポーツ実技(エアロビクス)		1	
スポーツ実技(軽スポーツ)		1		スポーツ実技(軽スポーツ)		1	
スポーツ実技(ヨガ)		1		スポーツ実技(ヨガ)		1	
からだど気づきと姿勢法		1		からだど気づきと姿勢法		1	
スポーツ実技(水泳)		1		(新設)			
スポーツ実技(スリムエアロ)		1		スポーツ実技(スリムエアロ)		1	
スポーツ実技(ダンスエアロ)		1		スポーツ実技(ダンスエアロ)		1	
スポーツ実技(サッカー)		1		(新設)			
(削除)				スポーツ実技(バンジーエクササイズ)		1	
(削除)				スポーツ実技(エアリアルワーク)		1	
スポーツ実技(スタイルジャズ)		1		スポーツ実技(スタイルジャズ)		1	
(削除)				大学学び発見ゼミ		2	
単位互換協定科目				単位互換協定科目			
(削除)				近代建築の歴史を辿る		2	
(削除)				グローバル食糧生産の裏側を探る		2	
(削除)				音楽ア・ラ・カルト		2	
(削除)				ムーヴメントとダンスの探究		2	
履修方法(別表第1、第2の備考) (略)				履修方法(別表第1、第2の備考) (略)			
(削除)				文学部 心理・社会福祉学科 1 共通教育科目の中から10単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から16単位以上 4 専門教育科目の中から46単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上			
心理・社会福祉学部 心理学科 1 共通教育科目の中から6単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から8単位以上 4 専門教育科目の中から54単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上				(新設)			
心理・社会福祉学部 社会福祉学科 1 共通教育科目の中から10単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から16単位以上 4 専門教育科目の中から46単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上				(新設)			
健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 1 共通教育科目の中から8単位以上 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎Ⅰ(2単位・必修)」 3 基礎教育科目の中から12単位以上 4 専門教育科目の中から62単位以上 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上				(新設)			

○武庫川女子大学学部教授会規程

平成2年3月26日

規程第2号

改正 平成3年4月1日

平成4年4月1日

平成5年4月1日

平成7年4月1日

平成10年4月1日

平成18年4月1日

平成19年4月1日

平成27年4月1日

令和3年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学学部教授会（以下「教授会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部の教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、准教授、講師及び助教を加えることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(招集)

第4条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。学部長に事故あるとき、又は学部長が欠けたときは、学部長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を

行う。

(定足数及び議決)

第5条 教授会の定足数は、委任状の提出者を含め構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

3 議長は、教授会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

(非構成員の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第7条 人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密を漏らしてはならない。

(議事録)

第8条 議事録は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室職員が作成し、学長の確認を得なければならない。ただし、前条に定める事項の議事録は公開しない。

(庶務)

第9条 教授会の庶務は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第11条 学部長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附 則

1 この規程は、平成2年4月1日から施行する。

2 武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部教授会規程（昭和45年4月1日）は、これを廃止する。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学評議会規程

平成2年3月26日

規程第4号

改正 平成10年4月1日

平成21年4月1日

平成27年4月1日

平成31年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学評議会（以下「評議会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 評議会は、開設する学部・学科を代表する者を含む次に掲げる評議員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 各学科長
- (6) 教育研究所長
- (7) 附属図書館長
- (8) その他、学長が必要と認めた者

(任命)

第3条 評議員は、学長の申請に基づき理事長が任命する。

(審議事項)

第4条 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する全般的事項
- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
- (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
- (5) 教育、研究に関する全般的事項
- (6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

(招集)

第5条 評議会は、学長が招集し、その議長となる。学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を行う。

(定足数及び議決)

第6条 評議会の定足数は、構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

3 議長は、評議会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

(非構成員の出席)

第7条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(議事録)

第8条 議事録は、教務部教務課長が作成し、学長の確認を得なければならない。

2 議事録は、評議会の上を承を得ないで外部に漏らしてはならない。

(庶務)

第9条 評議会の庶務は、教務部教務課が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第11条 学長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

武庫川女子大学大学 社会情報学部設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	……………p.2
2. 学部・学科等の特色	……………p.5
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	……………p.6
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	……………p.7
5. 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件	……………p.11
6. 多様なメディアを高度に利用して, 授業を教室以外の場所で履修 させる場合の具体的計画	……………p.12
7. 実習の具体的計画	……………p.13
8. 取得可能な資格	……………p.15
9. 入学者選抜の概要	……………p.16
10. 教員組織の編制の考え方及び特色	……………p.18
11. 施設, 設備等の整備計画	……………p.21
12. 管理運営	……………p.24
13. 自己点検・評価	……………p.26
14. 情報の公表	……………p.27
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	……………p.28
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	……………p.30

1. 設置の趣旨及び必要性

武庫川女子大学は、昭和 14 年に公江喜市郎によって創設された武庫川学院を母体とし、戦後間もない昭和 24 年に武庫川学院女子大学（昭和 33 年に武庫川女子大学に改称）として開学した。「武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献する。」（学則第 1 条）ことを目的とし、創立 75 年以上にわたって社会に有為な女性を育成してきた。

開学当初は学芸学部のみであったが、常に時代や社会の要請に応え得る進取の精神と学問探究の姿勢を堅持しつつ、教育研究体制の整備と充実に邁進してきた結果、令和 4 年度現在で大学には文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、建築学部、音楽学部、薬学部、看護学部および経営学部の 10 学部 17 学科、大学院には文学研究科、臨床教育学研究科、健康・スポーツ科学研究科、生活環境学研究科、食物栄養科学研究科、建築学研究科、薬学研究科及び看護学研究科の 8 研究科 14 専攻を有する全国最大規模の女子総合大学へと発展を遂げている。

【資料 1：武庫川女子大学教学組織図】

これまで既存の生活環境学部情報メディア学科は、情報化社会において最も適切な生活行動を設計し、かつ採用し得る知識技術・技術を身に着けた人材を養成してきたが、この度、次項の理由及び必要性から、生活環境学部情報メディア学科を発展改組させるかたちで、兵庫県西宮市の武庫川女子大学中央キャンパスに「社会情報学部社会情報学科」（入学定員 180 人）を令和 5 年 4 月に設置する。

（1）設置の理由及び必要性

平成 6 年に、生活環境学部生活情報学科はインターネット時代の幕開け（Windows95 発売の平成 7 年）、そしてインターネットが広く社会に普及していく時代を背景に、「人間の生活と情報化社会との関連を理解するとともに、情報やマルチメディアの知識・技能を活かし、人々の豊かな暮らしを創造していくことができる人物を養成すること」を目的に開設された。

21 世紀に入ると、ICT 技術がさらなる発展を遂げ、人々も技術の進歩にキャッチアップし、日常生活に新しい ICT ツールを取り入れる中、それらが個人に浸透、深化していくようになる。とりわけ、タブレット PC やスマートフォンなどのモバイル機器の普及により、人々は独自の情報を発信するようになる。換言すれば、「情報の受信者」としての側面が強かった生活者が「情報の発信者」としても社会的に大きな影響を果たすようになった。このような変化に対応するため、「パソコンを駆使したプログラム、CG の開発、実写映像や写真、音楽、イラストレーション、WEB デザインの制作、新商品や文化イベント、広報・マーケティングの企画、空間プロデュース・都市計画立案に至るまで、多岐にわたる、独創

的で多彩なコンテンツを開発し、広く世界へ情報発信できる能力を身につけること」を人材育成の新しい要素として拡充していくことを目的に、平成 15 年に現在の情報メディア学科に改称し、カリキュラムの再編成を行った。学科の卒業生は、IT 業界の企画・営業職や Web デザイナー、システムエンジニア、旅行業界の企画・営業職、金融機関のデジタル職、教員（高校情報科）などで活躍している。

しかしながら、今日、「Society4.0（情報化社会）」からさらに進んで、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画(2021 年 3 月閣議決定)でも目標とする超スマート社会「Society5.0」が到来しつつある。これは、フィジカル（現実）空間にサイバー（仮想）空間が重畳・融合したもので、その実現には情報ネットワークのいっそうの大容量化と Internet of Things（IoT）による精細化がまず求められるとともに、ビッグデータ解析と人工知能（AI）による判断と意思決定の自動化が必須である。このような情報の世紀からデータの世紀への進展を支える人材は、最新の情報通信技術だけでなく、データサイエンスという発展途上領域の知識や技術に追随できなければならない。人と機械（コンピュータ）が協働するには、両者の意味理解の仕方の違いを仲介する必要がある。人間は情報を言語的意味で理解するが、機械にとっては多次元空間上のデータ値群の切り分けが意味である。社会から発生する膨大なデータを機械が処理してその分割（機械的意味）を提示し、その結果を人間が言語的解釈に基づいた情報（規則や指針）として社会に実装するというサイクルが円滑にまわることが望まれる。

現在ないし近未来の社会がかかえるこのような課題を解決し、より良い社会を牽引する人材を育成するため、情報科学と社会科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する新しい教育研究体系を編成したのが「社会情報学部社会情報学科」である。

（２）養成する人材像

社会情報学部社会情報学科で養成する人材像、教育上の目的は以下のとおりである。

国が推進する仮想空間と現実空間を高度に融合した超スマート社会「Society5.0」の実現に向けて、新たな価値の創造を目指す情報のスペシャリストを育成し、社会に貢献する。

本学科が育成する情報のスペシャリストとは、

(1)プログラミング、情報ネットワーク、情報セキュリティなどの情報科学の観点から ICT に関する知識や技能を有し、(2)メディア、コミュニケーション、マーケティングなどの社会的・経済的観点から ICT 社会における問題を発見できる能力を有し、(3)データサイエンスの観点、すなわち膨大なデータから価値を創出する能力を有しているとともに、(1)情報科学、(2)社会科学、(3)データサイエンスの総合的見地から社会的な課題に答えを出すことができる人材である。

加えて、社会情報学部において養成する人材像に基づいて、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、高度化していく ICT 社会で活躍できる女性を育成する。

(3) 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本学の立学の精神には「高い知性と善美な情操と高雅な徳性」を兼ね具えた有為な女性の育成が謳われている。社会情報学部社会情報学科では、この立学の精神に基づいて、ディプロマ・ポリシーを以下の通り定めている。

[社会情報学部社会情報学科のディプロマ・ポリシー]

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。卒業が認定された者には、学士（社会情報学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- 1-1 社会生活に関わる事象に対し、社会的・経済的な観点から専門的な知識を有している。
- 1-2 社会生活に関わる事象に対し、情報科学の観点から専門的な知識を有している。
- 1-3 社会生活に関わる事象に対し、データサイエンスの観点から専門的な知識を有している。

2. 技能・表現

- 2-1 ソーシャルネットワークを活用するためのコミュニケーションやプレゼンテーションに関する技術を有している。
- 2-2 コンピュータ等の ICT 機器を活用して、情報を加工・分析するための技術を有している。
- 2-3 社会における様々なデータを収集し、数理的なアプローチからデータを分析する技術を有している。

3. 思考・判断

- 3-1 社会的・経済的な観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT 社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。
- 3-2 情報科学の観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT 社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。
- 3-3 データサイエンスの観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT 社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。

4. 態度・志向性

- 4-1 ICT 社会における課題を自ら発見し、他人との協働を通して解決しようとする積極的な態度を修得している。
- 4-2 生涯にわたって自分の社会的キャリアを開拓し、社会の発展に貢献する意欲と向上心を修得している。

5. 統合的能力

5-1 文理にわたる専門的知識・技術の統合を図り、ICT 社会において、新しい価値を創出できる能力を修得している。

(4) 研究対象とする中心的な学問分野

本学部が研究対象とする中心的な学問分野は、「情報学」である。それは、「ソフトウェア」「情報ネットワーク」「情報セキュリティ」「データベース」「ウェブ情報学」「知能情報学」「統計科学」等から構成されている。またその周辺領域として、「社会学」「商学」「経営学」等がある。そのため、分野を超えた学際的研究も視野に入れている。

2. 学部・学科等の特色

本学部では、さまざまな分野を融合した領域で、ICT 社会の複雑な問題の解決に貢献できる人材を育成するためのカリキュラムで構成されており、それを整理すると下記のようなになる。

1. 文理を問わない学びの領域

①情報通信技術の本質的理解

情報通信技術を組織や社会に正しく適用するには、技術を成り立たせている考え方を知らなければならない。例えば、コンピュータの概念的動作原理、ネットワークの階層的实现、オペレーティングシステムの資源管理ポリシー、ソフトウェアの構造的形成と抽象化概念といった基本的原理を理解することは、技術を的確に活用する上で重要である。知識体系の把握および現実的課題に対する演習を相補的に組み合わせた教育課程によって、この能力を獲得させる。

②社会科学からの幅広い知識と分析視点の獲得

メディア、コミュニケーション、マーケティング、経営などの社会科学の観点から社会(人間集団)の仕組みやその社会で営まれる生産・消費活動を理解していく。それは、社会科学の複合的な知見の中で、社会の構成主体である人間や人間集団の「行動」だけでなく、行動の背後にある「意図」(思想や価値)明らかにすることによって、ICT 社会における課題の本質を理解し、それを解決する方向性を見つけることができる能力を獲得させていく。

③データサイエンス教育

情報化社会では処理や操作の自動化が進んだが、ビッグデータ解析が可能となった現在では、判断と意思決定が自動化されようとしている。機械学習に基づく人工知能は判断の理由を言語化できないので、人間は統計的思考を道具として、その意思決定の当否を考察することになる。また、データ分析の要諦であるデータの整形についても、実問題に依存した検討が必要である。このように、情報科学と社会科学の連携のもとに、データサイエンスの実践的教育を行うことが特色である。

2. 社会実装を目指した実践的教育

①地域や企業と連携した PBL

1年生から始まる「プロジェクト演習入門」(1年前期)、「プロジェクト演習Ⅰ」(1年後期)、「プロジェクト演習Ⅱ」(2年前期)、「プロジェクト演習Ⅲ」(2年後期)では、企業や地域と連携したさまざまなプロジェクトに参加し、実社会における本物の課題に向き合い、その課題を解決するための方策を考えていく。これらは、グループワークを通して実施され、協業の重要性を理解するとともに、社会で生きていく実践力を養うことを目的としている。

②ハッカソン

ハッカソンとは、ハッキングとマラソンを組み合わせた造語であり、提示されたテーマについて短期間に実装可能なサービスを考案し、実際にプロトタイプ(試作品)を作成する実践的な PBL である。このようなハッカソンを本学科の特徴的な PBL として実施することで、IT に関する知識だけでなく、高い実装力、とりわけプログラミング技能を持つ IT 人材を育成する。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称

【学部名称】 社会情報学部 School of Social informatics

【学科名称】 社会情報学科 Department of Social informatics

学部学科名称は、豊かな暮らしと社会を情報技術で創造する人材を育成するため、「社会情報学部社会情報学科」とする。

また学部学科の英語名称については、国際的な通用性に考慮し、社会情報学部を“School of Social informatics”、社会情報学科を“Department of Social informatics”とする。

(2) 学位に付記する専攻分野の名称

【学位名称】 学士(社会情報学) Bachelor of Social informatics

学位の名称は、組織として研究対象とする学問分野をより具体的に反映させるために、本学では学科の名称と連動させている。従って学位の名称は「学士(社会情報学)」、英語名称は“Bachelor of Social informatics”とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部では、本学が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、社会情報学部の養成する人材像、ディプロマ・ポリシーによって定めた資質・能力を有する人材育成が、卒業時に達成できるよう、教育課程を編成する。そのためのカリキュラム・ポリシーを次のとおり策定している。

[社会情報学部のカリキュラム・ポリシー]

本学部のカリキュラム編成は、まず、全学の方針に従い「共通教育科目」「基礎教育科目」及び「専門教育科目」から編成する。

共通教育科目は、歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化の激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の修得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立を目指している。さらに専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することも目的として編成する。

基礎教育科目ならびに専門教育科目は、社会情報学部社会情報学科の教育目的を実現するために、文理融合型の特色を活かし、「情報科学系」と「社会科学系」「データサイエンス系」を軸にしながら、ICT 社会の中の生活に関する幅広い分野の知識や技能を修得できるという方針に基づき、専門的かつ体系的な教育課程を設ける。

カリキュラムの編成は、講義・演習を中心に知識・技能を修得し、探求力と活用力を高める「専門科目群」と、実技を中心に技術を修得し、実践力を高めていく「表現実習・研究手法科目群」、総合力と主体性を養い、思考力・行動力を身につける「総合科目群」を並立させ、相互にバランスよく補完させることによって、単なる机上の知識・技能ではなく、実際の問題解決に活かせる生きた知識・技能を修得できるように工夫する。

(2) 科目区分の設定及びその理由、各科目区分の科目構成とその理由

(1)で述べた本学部のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、各教育科目区分で開講する授業科目数及び単位数を、以下の通りとする。

○教育課程編成の区分と開講科目数、単位数

社会情報学部社会情報学科

区分	開講科目数			単位数		
	必修	選択	計	必修	選択	計
共通教育科目	1	135	136	2	227	229
基礎教育科目	3	2	5	4	2	6
専門教育科目	8	83	91	20	165	185
合計	12	220	232	26	394	420

(参考：既設の生活環境学部情報メディア学科の開講科目数)

区分	開講科目数			単位数		
	必修	選択	計	必修	選択	計
共通教育科目	1	217	218	2	384	386
基礎教育科目	4	2	6	6	2	8
専門教育科目	10	73	83	24	146	170
合計	15	292	307	32	532	564

各教育科目区分の科目構成とその理由を以下に述べる。

共通教育科目

中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」によれば、教養教育については、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養を可能にする制度設計が求められている。

共通教育科目は、本学で開設する全ての学部・学科の学生が自由に選択できる科目である。歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の習得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立をめざしている。共通教育では以下に示された5つの教育目標(MW教養コア)を定め、学生がバランスのとれた学習と研鑽に努力するよう、指導を行っている。

1. 人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
2. 心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
3. ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
4. 自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
5. 異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の習得

具体的には、①共通教育デー（月曜日の終日及び水曜日の午後）を設け、この曜日・時間帯にはできる限り基礎教育科目及び専門教育科目は開講しない、②学生の自律性を重んじ、履修は学生の自由選択制としている、③学部・学科・学年を超えて履修できるシステムとしており、4年間にわたって履修できる、教育効果を高めるために科目ごとに履修定員を設定する、などの方針を堅持、実践してきている。

共通教育を所管する組織として、学部と独立した共通教育部を設けている。また共通教育部長を委員長とし、各学科及び共通教育部の教員の代表によって構成される共通教育委員会が設置されており、共通教育の運営にあたっている。

『共通教育科目』は、科目の性格によって5つの群（「基礎教養科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」）に分かれ、合計136科目・232単位（1科目が必須、その他は全て選択科目）を開講する。「基礎教養

科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」はさらに下表の通り細分化されている。

○『共通教育科目』の開講科目・単位数

基礎教養科目群	人文科学科目	17 科目 30 単位
	社会科学科目	19 科目 38 単位
	自然科学科目	8 科目 16 単位
	国際理解科目	4 科目 8 単位
	現代トピック科目	4 科目 8 単位
ジェンダー科目群		4 科目 8 単位
キャリアデザイン科目群		3 科目 6 単位
言語・情報科目群	言語リテラシー科目	50 科目 75 単位
	情報リテラシー科目	10 科目 20 単位
健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	3 科目 6 単位
	スポーツ実技科目	14 科目 14 単位
合 計		136 科目 229 単位

本学部では共通教育科目から 16 単位以上、うち「データリテラシー・AI の基礎」(2 単位) は全学部・学科において必須科目、『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」「社会科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計 4 単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」「現代トピック科目」、『キャリアデザイン科目群』から合計 2 単位以上を修得することを義務づける。しかし共通教育科目においても学生が各自の興味、関心に応じ、すべての科目を選択できるようにし、より教養を深められるよう配慮する。

基礎教育科目

基礎教育科目は、専門教育で求められる基礎的学習能力の向上やキャリア形成を目的とした初期演習と、本学部の専門分野と連携した言語、情報・データの基礎教育によって、専門教育への導入をはかる科目群である。

初期演習は、1 年前期に、本学の全ての学部・学科に共通した内容の導入教育を行う「初期演習Ⅰ(1 単位)」を必修科目として開講する。1 年後期は、社会情報学科では「初期演習Ⅱ(社会情報入門)(1 単位)」を必修科目として開講し、専門分野に特化した内容の導入教育を行うとともに、キャリア形成も行う。

言語に関しては、1 年前期に「Oral CommunicationⅠ」、1 年後期に「Oral CommunicationⅡ」を開講し、英語でのコミュニケーション力を養う。さらに英語力を伸ばしたい学生、英語以外の第二外国語を学習したい学生は、前述の共通教育科目において、全ての学年で言語リテラシー科目を選択できる。

情報・データに関しては、1 年前期に「データ・情報リテラシー」を必修科目として開講

し、データ分析に必要な基礎知識とコンピュータを活用した分析方法を学ぶことによって、専門教育科目の基礎とする。

以上、この『基礎教育科目群』で開講する授業科目数・単位数は5科目・6単位、うち3科目・4単位が必修科目である。

専門教育科目

専門教育科目のカリキュラムの編成は、講義・演習を中心に知識・技能を修得し、探求力と活用力を高める「専門科目群」と、実技を中心に技術を修得し、実践力を高めていく「表現実習・研究手法科目群」、総合力と主体性を養い、思考力・行動力を身につける「総合科目群」を並立させ、相互にバランスよく補完させることによって、単なる机上の知識・技能ではなく、実際の問題解決に活かせる生きた知識・技能を修得できるようにする。

専門科目群は、下記の4つで編成する。

①生活と文化科目群

人間の生活と情報化社会との関わりを理解し、ソーシャルネットワークを編集・設計・演出する力を養うことを目的に、コミュニケーション、メディア、ネットワークに関連する基礎科目や演習科目を配置する。

1年次は2科目(4単位)、2年次は4科目(8単位)、3年次は3科目(6単位)、4年次は3科目(6単位)の計12科目(24単位)である。

②生活と経済科目群

生涯にわたって社会の一員として自分のキャリアを形成し、自己実現を図ることができるよう、マーケティング・広告、マネジメントを理解するための基礎科目や演習科目に加え、社会課題の認識とその解決に向けた対応力を身に付けるための科目を配置する。

1年次は2科目(4単位)、2年次は5科目(10単位)、3年次は8科目(16単位)、4年次は1科目(2単位)の計16科目(32単位)である。

③情報科学科目群

ICT機器を操作して情報を利・活用する能力を高めることを目的に、コンピュータ、プログラミング、ネットワーク、セキュリティなどに関連する科目を配置する。

1年次は5科目(10単位)、2年次は9科目(18単位)、3年次は8科目(16単位)、4年次は3科目(6単位)の計25科目(50単位)である。

④データサイエンス科目群

ICT社会において、溢れているデータの中から価値のある情報を取り出し、それを利・活用する能力を身につけることを目的に、統計学、AI、データサイエンス演習などの科目を配置する。

1年次は3科目(6単位)、2年次は5科目(10単位)、3年次は6科目(12単位)、4年次は2科目(4単位)の計16科目(32単位)である。

また、本学科は【情報メディア専攻】と【情報サイエンス専攻】の2専攻を置き、学生は

興味・関心によっていずれかの選考を選択する。

【情報メディア専攻】

生活と文化科目群と生活と経済科目群の科目を中心に、ICT 社会について、コミュニケーション、メディア、マーケティングなどの視点から学ぶとともに、ICT 社会を、コンピュータ、プログラミングなどの情報科学と、統計学、AI などのデータサイエンスの視点からも掘り下げることによって、より深く理解していく。

【情報サイエンス専攻】

情報科学科目群の科目を中心に、ICT 社会の仕組みや ICT に関する知識や技能を学ぶとともに、ICT 社会を、コミュニケーション、メディア、マーケティングなどの社会科学と、統計学、AI などのデータサイエンスの視点からも掘り下げることによって、より深く理解していく。

5. 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業内容に応じた授業の方法、学生数、配当年次の設定について

①クラス担任制

本学では、全学的に「クラス担任制」を採っており、本学部では、入学定員 180 人に対して、4 クラス（1 クラス 45 人）で編成し、それぞれに専任教員 1 人（計 4 人）を担任として担当する。

担任は、履修指導や生活指導等のサポートに加え、「初期演習Ⅰ」（1 年前期、必修 1 単位）と「初期演習Ⅱ」（1 年後期、必修 1 単位）の授業科目を担当することになっている。

②授業の方法、受講人数

本学部の授業は、講義、演習の方法によって行う。

「共通教育科目」については、学部・学科・学年を超えて履修できるシステムで科目ごとに履修定員を設定しているため、本学部を含む全学部・学科の履修希望者と一緒に受講することになる。

「基礎教育科目」「専門教育科目」の授業については、原則として、クラス単位の時間割を編成して実施し、少人数教育を実現している。

(2) 履修指導

本学の履修指導は、入学時にオリエンテーションを実施し、また初期演習Ⅰを通じて、履修指導を行う。さらに 2 年次以降においても、前期及び後期の授業開始日までに、ガイダンスを実施している。教員のオフィスアワーは、全学生に周知されており、この時間を活用して必要な学生への個別指導や助言を行っている。学生への個別指導などの中心的な役割は担任が担っている。また、学生への履修指導等においては、事務局関連部局とも密接な連携を図って、学生が無理なく卒業できるように配慮した履修計画を実現している。

加えて学生が履修登録した科目のうち、卒業非算入科目を除く科目の成績の平均を数値で表したGPA（Grade Point Average）を算出し、学生自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習への取り組みに役立つようにしている。

なお本学では開学以来、効果的な学修を達成するための方策として、履修規程で授業出席ならびに定期試験の受験資格について、次のとおり規定し、日々の勉学の重要性を徹底させている。

・授業出席

「講義・演習においては、毎回出席、欠席、遅刻、早退の調査を受けなければならない」と規定し、学生の授業への出席を義務づけ、全ての授業において厳格な出席確認を実施している。

・定期試験の受験資格

基礎教育科目及び専門教育科目の前期・後期の定期試験を受けるための受験資格について、「週1回の各期15回の開講科目では、その欠席回数が4回以下の者のみ受験資格を与える」と規定しており、受講（履修）科目で4回を超える欠席があった者は、当該科目の定期試験は受験できない。

（3）卒業要件

卒業の要件は、4年以上在学し、共通教育科目16単位以上、基礎教育科目4単位以上、専門教育科目から80単位以上、合計124単位以上修得しなければならない。また、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目にて開講される外国語科目から合計で8単位以上を修得しなければならない。

（4）履修科目の年間登録上限

本学部の各学年の履修の登録単位数の上限は、全学的なルールに従い、年間50単位未満（前期25単位以下、後期25単位以下）とする。

例えば、前期で25単位を履修した場合は後期登録単位の上限は24単位となる。

ただし、2年次以上で履修登録時までの累計GPAが3.00以上の学生は、当該学期については30単位まで履修登録することができる。

【資料2：履修モデル】

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修

させる場合の具体的計画

（1）学則における規定

学則第28条の2では「文部科学大臣が別に定めるところにより、前項に規定する講義、

演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定されており、昨今のコロナ禍にあって対面授業とメディアを利用した遠隔授業を併用して教育効果を高めている。社会情報学部的基础教育科目及び専門教育科目における指導は、本学設備を使用する研究や教育目的に基づく直接的な指導を重視する立場から、対面を原則としている。その上で、共通教育科目ではウィズコロナの時代に対応した授業運営方法として、一部科目では多様なメディアを高度に利用した授業を実施する。

(2) 実施方法

本学ではコロナ禍以前から遠隔授業を可能とする体制や設備の整備を進めている。学内教室、研究室での Wi-Fi 環境の充実により、授業の配信と学生の受講環境に問題はない。ソフト面では、平成 28 年から Google 社の提供するクラウド型アプリケーション「Google Apps for Education」を全学に導入しており、同アプリ内の Classroom 機能を用いた授業課題提供、動画を配信、学生からの質問対応など、双方向コミュニケーションが可能となっている。本学部では、共通教育科目「データリテラシー・AI の基礎」を e-Learning 教材を活用したオンデマンド授業として開講する。オンライン上で学習し、Classroom など電子的手段によりフィードバックする。担当教員のほか、データサイエンス学習支援ルームがサポートにあたる。

その他、Zoom や Google Meet といったテレビ会議システムを用いた遠隔指導やディスカッションを導入しており遠隔であっても対面授業と同程度の教育効果を得られる環境を整備している。当該システムの利用は文部科学省告示の要件を満たす「同時かつ双方向」の遠隔授業を実現し、また柔軟で密度の濃い指導が実行できることから、対面授業と同等の質の高い指導ができることが見込まれる。

7. 実習の具体的計画

高等学校教諭一種免許状(情報)を取得するための教育実習を以下のように計画している。

ア 実習の目的

実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤—知識・技術・意欲・態度を修得することにある。

イ 実習先の確保の状況

本学部の教育実習では、地元の西宮市教育委員会及び近隣自治体(兵庫県教育委員会)の公立学校、本学の附属高等学校の協力を得て実習を行う。

実習先の配当については、学校園の規模や学生の通勤時間等を配慮し、学校教育センターが実習先・人数等を決定する。

【資料 3 : 教育実習受入承諾書】

ウ 実習先との契約内容

教育委員会や学校長会（場合によっては、直接実習学校）を通じ、実習生の受入人数、実習期間を明記した依頼状及び必要な検査等に関する調査票を送付する。実習学校が承諾書を返送した時点で実習受入の契約が成立する。なお実習依頼時に実習学校からの要望に応じて、個人情報の保護、服務規程の遵守等契約の遵守等に関する取り決め（学生と実習施設）を規定した契約書を取り交わす。

エ 実習水準の確保の方策

教育実習科目の履修条件として、①事前指導の科目及び必修の情報科指導法を修得済みであること、②①を含めて3年次末までに修得総単位が75単位以上であること、③事前ガイダンスに出席していることの3点が大前提になるほか、各コースでの履修要件を満たした者に対して、「学校教育センター」で組織する常任委員会及び同委員会が科目履修の可否の判定を行い、その結果を通知する。

なお教育実習の実習期間・総時間数は、高等学校で2週間・80時間である。

オ 実習前の準備の状況

学科長をはじめ、本学部の専任教員や学校教育センター常任委員会が中心となって都道府県・市町村教育委員会等との連絡調整機能を果たし、教育実習のあり方や実習施設の状況について共有できるようにしている。

【資料4：教育実習ハンドブック（中学校・高等学校実習用）】

カ 実習前の準備の状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学校保健安全施行規則に規定する学校伝染病の予防対策に努めている。

本学では、入学時に麻疹・風疹の罹患歴及び予防接種状況について調査しており、罹患歴又は要望摂取を受けていない学生に対しては、ワクチン接種を受けておくよう指導し、実習先の求めに応じて、大学から特定の感染症の抗体検査及びワクチン接種等も指示している。

さらに、各学年の初めに本学にて実施する「定期健康診断」において、胸部エックス線撮影、内科健診、身体測定、視力検査、尿検査を行う。異常がある場合は、再検査等を勧めている。教育実習前には、各校園の指示に従って検便（検査項目はサルモネラ、O-157等）を行う。また、本学学生（実習生）は、大学として団体に賠償責任保険（対人対物）に加入している。学生本人が事故により、負傷した場合は、本学の「学生障害見舞金制度」による見舞金が支払われる場合がある。

キ 事前・事後における指導計画

事前指導は3年次の後期に16時間、事前事後指導は4年次の前・後期に16時間実施する。

実習の事前指導の内容は、教育実習の目的と意義を理解し、実習で行う上で必要となる基礎的・予備的な知識や技能の習得をめざすとともに、発表やグループディスカッション、模擬授業、ロールプレイなど具体的な活動を通して実践的指導力の基礎を養う。事後については、実習の振り返りを行いつつ、教職への認識を確かなものとする指導を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

科目担当教員が指導にあたることとし、実習学校ごとに巡回指導教員を配置し、必要に応じて実習期間中に実習施設に派遣する。その際、授業参観と学生への面談を通しての指導、実習指導者との情報共有を図る。また実習期間中、学生からの質問や相談に対しても随時受け付け、科目担当教員や「学校教育センター」のメンバーが指導助言する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

実習学校での教育実習指導者については、指導力に長けた教員の配置を教育委員会や学校長に依頼する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

成績は、実習先の学校長と指導教員から提出される評価 50 点（10 項目 5 段階）と実習記録をもとに科目担当教員が評価する 50 点の合計 100 満点で構成され、これらを科目担当教員が総合的に評価する。単位は、100 点満点の 60 点以上をもって認定する。

【資料 5：教育実習成績通知票】

8. 取得可能な資格

本学部で取得可能な資格は以下のとおりである。

資格名	国家資格か 民間資格か	資格取得か 受験資格か	修了要件か 追加履修必要か
高等学校教諭一種免許状（情報）	国家資格	資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要だが資格取得は卒業の必須条件ではない。
社会調査士	民間資格	資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会調査士関連科目の履修が必要だが資格取得は卒業の必須条件ではない。

9. 入学者選抜の概要

(1) 学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

[社会情報学部社会情報学科のアドミッション・ポリシー]

本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求める。

- ①文系・理系という枠にとらわれず、幅広い教科・科目を履修し、確かな基礎知識を備えている。
- ②ICT 社会におけるコンピュータや情報、生活に強い興味や関心を持ち、生活への深い洞察力と多様なメディアを使いこなす技能を習得する能力の基盤を有している。
- ③入学後に修得した知識や技能を活かして、情報化社会の健全な発展に貢献したいという意欲を持っている。

(2) 選抜方法

入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学部が求める知識と技能、意欲等を多様な角度から評価し、さらには受験生のニーズに応えるために、一般選抜A（前期）では3科目型と2科目型を設定し、3科目型では同一配点方式や高得点傾斜配点方式を取り入れて実施する。一般選抜B（中期）と一般選抜C（後期）は2科目型を実施する。また、一般選抜D（大学入学共通テスト利用型）、公募制推薦入試（前期及び後期）、指定校推薦入試、附属高校推薦入試及び社会人特別選抜も実施する。なお志願者の便宜を図るために複数回の受験機会を設ける。

学生募集については、ホームページをはじめキャンパスガイド、学生募集要項の配布等の多様な広報活動を展開して、アドミッション・ポリシーに適合する情熱・意欲ある優秀な女子学生を確保する。

出願方法は、インターネットによる出願方式を採用し、複数回の受験機会をまとめて出願する場合は入学検定料の併願割引制度などの利便性を図るとともに、一般選抜D（大学入学共通テスト利用型）において、入学試験成績優秀者には奨学金（年間授業料の半額～最大50万円）を給付する。

○令和5年度 実施案

・公募制推薦入試（前期）

試験科目：2科目型

国語(1)・英語・【数学(1)または数学(2)】・【化学または生物】から2科目選択

- 情報サイエンス専攻のみ、数学(1)と数学(2)の組合せも可
試験実施：11月上旬、合格発表：11月中旬、
募集人員：47人（情報メディア専攻35人、情報サイエンス専攻12人）
- ・公募制推薦入試（後期）
試験科目：公募制推薦入試（前期）と同じ
試験実施：11月下旬、合格発表：12月上旬
募集人員：20人（情報メディア専攻14人、情報サイエンス専攻6人）
 - ・一般選抜A（前期）
試験科目：
 - ・3科目型：英語(必)、【国語(1)または国語(2)】・【数学(1)または数学(2)】・
世界史・日本史・化学・生物から2科目
 - ・2科目型：【国語(1)または国語(2)】・英語・【数学(1)または数学(2)】・
世界史・日本史・化学・生物から2科目情報サイエンス専攻は2科目型のみ実施
試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬
募集人員：56人（情報メディア専攻46人、情報サイエンス専攻10人）
 - ・一般選抜B（中期）
試験科目：一般選抜A（前期）の2科目型と同じ
情報サイエンス専攻のみ、数学(1)と数学(2)の組合せも可
試験実施：2月中旬、合格発表：2月下旬
募集人員：18人（情報メディア専攻14人、情報サイエンス専攻4人）
 - ・一般選抜C（後期）
試験科目：2科目型
国語(1)・英語・数学(2)・【化学または生物】から2科目選択
試験実施：3月上旬、合格発表：3月中旬
募集人員：5人（情報メディア専攻3人、情報サイエンス専攻2人）
 - ・一般入試D（大学入学共通テスト利用型）
試験科目：
 - ・3教科型：英語、国語・数学、地理歴史・公民、理科から3科目選択試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬
募集人員：9人（情報メディア専攻7人、情報サイエンス専攻2人）
 - ・指定校推薦入試・附属高校推薦入試
試験科目：学校長の推薦、書類審査、口頭試問
試験実施
指定校推薦入試：11月下旬、合格発表：12月上旬
附属高校推薦入試：1月下旬、合格発表：2月上旬

募集人員：25人（情報メディア専攻21人、情報サイエンス専攻4人）

・社会人特別選抜入試

試験科目：英語、小論文、口頭試問、書類審査

試験実施：11月上旬、合格発表：11月中旬

募集人員：若干名

※社会人の定義：生涯学習への関心が高まる中、高等学校や大学等を卒業後、一定の期間にわたり社会人として活動し、その結果さらに専門的、系統的な学問研究を希望する勉学意欲旺盛な23歳以上の女性

（※各科目の出題範囲）

国語（1）：国語総合（現代文のみ）、現代文B

国語（2）：国語総合、現代文B、古典B（いずれも漢文を除く）

英語：コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ

数学（1）：数学Ⅰ、数学Aの全範囲

数学（2）：数学Ⅰ・Ⅱの全範囲、数学Aの全範囲、B（数列・ベクトル）

化学：「化学基礎」の全範囲および「化学」（「高分子化合物の性質と利用」を除く）の全範囲

生物：「生物基礎」の全範囲および「生物」（「生体と環境」、「生物の進化と系統」を除く）の全範囲

世界史：世界史B

日本史：日本史B

（3）選抜方法

合格者の決定は、「入学者選抜規程」に基づき、各入学者選抜試験終了後に開催するアドミッション協議会（判定会議）を実施し、学部教授会を経て学長が行う。

10. 教員組織の編制の考え方及び特色

（1）教員配置の考え方

本学部の専任教員は20人（教授11人、准教授7人、講師1人、助教1人）で構成される。大学設置基準に定める専任教員数（基準数）は17人であるが、それを上回る配置としている。

中心となる研究教育分野は①情報科学、②生活と文化、③生活と経済、④データサイエンスの4つであり、この4つの領域における教員構成は①6人、②5人、③5人、④4人となっている。それぞれの分野における主要科目の担当者はすべて専任教員である。なお、20人の専任教員のうち11人が民間企業や研究所などでの勤務経験を有することが特徴である。

また、社会情報学科の専任教員 1 人当りの収容定員に対する学生数 (S T 比) は 36 人 (720 ÷ 20) となる。3 年次、4 年次のゼミにおいても、1 ゼミあたり 9 人程度の学生となり、きめ細やかな指導が可能となるように配置している。

専任教員の男女の内訳については、男性 13 人、女性 7 人で、女性教員の比率 35%、職位の構成は、教授 11 人、准教授 7 人、講師 1 人、助教 1 人で、教授・准教授職に重きを置いた望ましい構成と考えている。

(2) 中心となる研究分野、研究体制

(1)において述べた 4 つの研究教育分野は、20 人の所属教員のうち、教授 (11 人) と准教授 (7 人) を主要な科目に配置し、以下の研究体制で臨んでいく。

①情報科学

ソフトウェア工学関連分野を鯨坂恒夫教授 (主要担当科目:「ソフトウェア工学」「ソフトウェア工学演習」)、システム関連分野を天野憲樹教授 (主要担当科目:「システム設計」「プログラミング入門」)、ネットワーク関連分野を萩原淳一郎教授 (主要担当科目:「コンピュータネットワーク論」「コンピュータネットワーク演習」)、ウェブ関連分野を尾関基行准教授 (主要担当科目:「ウェブ入門」「ウェブプログラミング」)、情報数学関連分野を福井哲夫教授 (主要担当科目:「情報基礎数学」「情報数学」) が担当する。

②生活と文化

メディア関連分野を大森いさみ教授 (主要担当科目:「メディア論」「メディアと生活文化」) と株本訓久准教授 (主要担当科目:「科学技術と社会」)、コミュニケーション関連分野を藤本憲一教授 (主要担当科目:「ネットワーク社会論」「文化社会論」) と中野邦彦准教授 (主要担当科目:「情報とコミュニケーション」) が担当する。

③生活と経済

マーケティング関連分野を赤岡仁之教授 (主要担当科目:「マーケティング論」「マーケティング戦略論」) と井上重信准教授 (主要担当科目:「広告メディア論」「広告メディア演習」)、経営情報関連分野を奥居正樹教授 (主要担当科目:「経営情報論」「経営情報演習」) と平井拓己准教授 (主要担当科目:「消費者経済学」「地域産業論」) が担当する。

④データサイエンス

統計学分野を庄野宏教授 (主要担当科目:「統計学 I」「統計学 II」)、数理デザイン関連分野を大野ゆう子教授 (主要担当科目:「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス論」)、AI 関連分野を新田直子教授 (主要担当科目:「AI 入門」「AI 演習」) が担当する。

上記のように 4 つの分野に分かれ、20 人の専任教員がそれぞれの専門分野の研究教育を行うとともに、共同担当や科目連携による領域横断的な研究教育を行っていく。

社会情報学科の学位の保有状況は下表の通りである。本学では、修士学位及び学士学位の保有者に対して、勤務しながら大学院への修学や博士の学位取得を奨励する「在職研修制度」があり、専任教員全員の博士号の取得 (論文博士含む) を目指している。

【資料6 武庫川学院在職研修規程】

○専任教員が保有する学位

	博士の学位	修士の学位	学士の学位	計
教授	9	2	0	11
准教授	3	4	0	7
講師	1	0	0	1
助教	1	0	0	1
計	14	6	0	20

(3) 年齢構成

専任教員の年齢構成は下表の通りであり、バランス的に教育研究の活性化には支障がないと思われる。

○専任教員の年齢構成（完成年度終了時点：令和9年3月末）

職位	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60～66歳	67歳以上	計
教授	—	—	3	4	4	11
准教授	—	3	3	1	—	7
講師	—	1	—	—	—	1
助教	—	1	—	—	—	1
合計	0	5	6	5	4	20
	0%	25%	30%	25%	20%	100%

教員の定年については武庫川学院職員就業規則第17第1項第1号において満66歳に達した年度末をもって定年退職となることが定められており、完成年度には本学科専任教員20人中4人（20%）が定年年齢を超える。ただし、同第4項において必要があると認めるときは定年を延長することが可能とされており、該当する4人については、この規定を適用して完成年度末までの定年延長・雇用継続することが令和4年2月28日の理事会において承認されていることから、教育研究活動の継続に問題はない。

完成年度以降の教員組織については、後述する大学の基本的な将来計画に則り、教育研究領域の分野での退職者補充、年齢構成の低年齢化に取り組む。開設以降は、専任教員全員に対して教育方法の工夫や改善、教材の開発など教育上の能力向上とともに、若手教員の育成のため、研究活動への支援、特に、学術論文の執筆、学術雑誌への投稿、著書の出版、学会発表等に重点をおいて研究予算を配分し、上位職位への昇格基準に達する実績が得られるよう、積極的な研究支援を行い、次代を担う教授へとつながる後継者育成にも力を注いでいく。

【資料7：定年に関する規定】

11. 施設、設備等の整備計画

本学では開学以来、教育研究環境の整備・充実には不断の努力を傾けており、学内には全学部学科の学生が使用する中央図書館や講堂、体育館、マルチメディア館など最新の設備を備えた大型施設があり、様々な分野の学びに対応した環境が整っている。近年においては、アクティブ・ラーニングに対応した図書館や各教室のリニューアル、スマートキャンパスを目指した学内 Wi-Fi 環境整備、学生の安全安心のための各建物の耐震工事、学生満足度向上のためのキャリアセンター移転・機能拡充、食堂改装など大規模な施設・設備改修を行っている。

本学の教育研究環境の整備に関する方針を、以下のとおり定め、ホームページで公表し、周知している

1. 施設・設備の整備

学生及び教職員等、全ての大学施設利用者が快適かつ安全で安心して教育研究等に取り組める環境の構築に配慮した施設・設備の整備を図る。

2. 教員の教育・研究等環境の整備

教員が教育・研究を行うのに適した研究室の整備や、研究時間及び研究費の確保に努めるとともに、各種競争的研究資金獲得支援、研究助成・奨励金制度の拡充に努める。

3. 情報環境の整備

ネットワーク環境や情報通信技術(ICT)機器を十分に整備・管理し、その活用の促進を図る。教育・研究のために、信頼性の高い安全で快適な学内ネットワークの整備を推進する。

4. 図書館、学術情報サービスの整備

教育・研究に必要な専門書、学術雑誌等の図書資料を広範囲に取りそろえるとともに、十分な座席数と開館時間を確保する。

(1)校地、運動場の整備計画

令和5年度の学部等設置により、設置基準上必要となる校地・校舎面積(本学及びキャンパスを共用している併設の武庫川女子大学短期大学部の合計)は、校地 112,400 m²に増加することになるが、開設時の面積は校地 237,032.44 m²と、設置基準の2倍を上回る十分な面積を有している。近年は、令和元年10月には中央キャンパス最寄りの阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅の高架下空間に「武庫女ステーションキャンパス」を開設、さらに令和4年4月には西宮市内に「西宮北口キャンパス」を開設するなど、大学の定員規模拡大にあわせて校地拡充にも力を入れている。

本申請に係る学部学科を置く「中央キャンパス」(兵庫県西宮市池開町)は、校地約 116,303.16 m²、校舎 129,770.60 m²と、大学と併設短期大学部あわせて約1万人の学生が学ぶ大学のメインキャンパスに相応しい規模である。中央キャンパスには、大学設置基準第34

条に定められる「学生が休息その他に利用するのに適当な空地」として、噴水、35周年記念庭園、もみの木広場が整備されている。また、その周辺には各種のオブジェ、植樹、休憩用ベンチ等も配置され、学生の憩いの場となっている。大学設置基準第35条に定められる運動場についても、中央キャンパス隣接のグラウンド、テニスコート、浜甲子園キャンパス隣接の浜甲子園グラウンド、中央キャンパスからスクールバスで南に約10分の場所にある総合スタジアムがあり、運動場の面積は合計9万㎡を超える十分な面積を有している。

(2)校舎等施設の整備計画

本学部の開設時の校舎面積は191,559.06㎡と、設置基準上の必要面積80,136㎡を上回る十分な面積を有している。

本学部は日下記念マルチメディア館6階から8階を専用で使用するが、学部開設にあたって大規模な改修工事を行う。近年では、学生の自律的に学ぶ力を育成するために、ノートパソコン等を持参して学ぶBYOD (Bring Your Own Device)が主流となりつつあり、従来のコンピュータを固定設置したコンピュータ実習室の大部分を、アクティブ・ラーニングなど幅広い用途に使える演習室へと置き換える。具体的には現在、同館6・7・8階にコンピュータ設置の演習室が4部屋（合計の最大収容人数300人）あるが、コンピュータ設置の演習室を1室（最大収容人数60人）と多用途の演習室を6室（各室の最大収容人数60人）の計7室（合計の最大収容人数420人）を設置することによって対応していく。

また、研究室は専任教員数に応じて1室あたり25㎡の広さを確保した20部屋を増やし、新たにゼミ室10室を研究室に近接して配置することによって学生指導も密に行うことが可能になる。

【資料8：時間割】

(3)図書等の資料及び図書館の整備計画

①図書館の概要及び整備計画

本学附属図書館は、中央キャンパスの「中央図書館」、上甲子園キャンパスの「甲子園会館分室」、浜甲子園キャンパスの「薬学分館」から構成されており、中央図書館が管理・運営の中心となって連携し、図書館システムを活用して図書資料の相互貸借業務を行っており、各キャンパスの図書資料を利用できる。中央キャンパスの中央図書館は平成25年に大幅にリニューアルした。授業開講期は毎日8時30分から21時30分まで開館しており、館内にはアクティブ・ラーニングや実習・演習に役立つラーニング・コモンズの設置、インターネットWi-Fi環境、マルチスクリーン、音響設備、貸出用ノートパソコン、TV会議システム等、多彩なメディアが利用できる環境を整備し、学生の学習活動のサポート及び教員の教育・研究活動の支援を行っている。本学部では、本学部の学びに関連する分野の以下の雑誌等を整備する。

■国内雑誌：

電子情報通信学会誌、Software design、Web+DB press、Wired、Mac fan、ソシオロジ、放送研究と調査、ビデオ salon、流行色、CG world & digital video.

■外国雑誌：

Computing in science & engineering, Consumer Behavior in Tourism and Hospitality, International journal of mobile communications.

■電子ジャーナル：

ACM Computing Surveys, ACM Transactions on Information Systems, ACM Transactions on Programming Languages and Systems, Communications of the ACM, Journal of the ACM, IEEE Applications & Practice, IEEE Communications Surveys, IEEE Open Journal of the Communications Society, IEEE Open Journal of the Computer Society, IEEE Transactions on Emerging Topics in Computing, Mathematics of computation, SIAM Journal on Applied Mathematics, SIAM Journal on Computing, SIAM Journal on Numerical Analysis, Journal of media & cultural studies, The American Journal of Economics and Sociology, The Journal of Popular Culture, The British Journal of Sociology, Media, Culture and Society, Journal of Media and Communication studies, Art +Media Journal of Art & Media Studies, Journal of advertising, Journal of Marketing, Journal of marketing research, Harvard business review, 社会学評論.

②データベース、電子ジャーナル等の整備

データベースは、国立情報学研究所等が作成する文献検索データベースのほか、「JDream III」「医中誌 Web」「化学書資料館」「Academic Search Premier」「Web of Science」といった専門データベースを完備している。新聞についても「聞蔵II ビジュアル」「日経テレコン」「毎索」「ヨミダス歴史館」「Global Newsstream」等、国内外の各紙電子版を購入し、文献検索ツールのリンクリゾルバ「SFX」も導入している。これらの各種有料データベース・電子ジャーナルは VPN 接続での環境を構築し、学外からでも利用できるようにしている。

③閲覧室等について

大学全体で図書館の閲覧座席数は 1,716 席ある。本学で所蔵していない資料については、24 時間いつでもウェブ上で文献複写と貸借の申込みができる。ほかにも「E-CatsLibrary」の「マイライブラリ」機能では、直接利用者が貸出・予約状況の確認と延長処理ができ、自身の研究・学習分野に関係のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成や、研究分野に応じた電子ジャーナルリンク集の作成、SDI (Selective Dissemination Information) サービスの登録・確認、複数のデータベースを利用した横断検索ができるよ

うになっている。仮に開館時間内に来館することが難しい状況であっても、ウェブ・ベースの利点を活かして通常と変わらぬ学習環境を提供している。

④他大学の図書館等との協力について

国公立の大学図書館協会、兵庫県下の大学図書館協議会はもとより、国立国会図書館、各公共図書館等あらゆる関係諸機関との連携強化を図り、相互利用サービスを推進している。これらは国立情報学研究所の ILL システムに参加することによって料金の支払いが簡便になり、図書の貸借、文献複写の相互協力業務の効率化を図っている。

12. 管理運営

(1) 教授会

本学では、学部ごとに「学部教授会」（以下、教授会という）を置いており、スポーツマネジメント学科における学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、学位の授与に関する事項、その他の教育研究に関する重要な事項は、教授会において審議し、決定者である学長に意見を述べるものとする。

学則及び武庫川女子大学学部教授会規程に定める審議事項、構成員、役割は以下のとおり。なお、学部教授会の議事概要については大学ホームページに掲載し、情報公表にも配慮している。

(役割)

平成 27 年 4 月 1 日改正の学校教育法第 93 条で、教授会の役割について明確されたことを受け、本学においても学則、学部教授会規程を改正し、「学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べる」「学長及び学部長等がかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長及び学部長等の求めに応じ、意見を述べることができる」機関であることを明確にしておき、適切に運用している。

(構成員)

当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めるときは、専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

(開催頻度)

月 1 回程度の頻度で開催し、学部長が議長にあたる。

(審議事項)

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(2) 関連する委員会等

○大学評議会

学部教授会や共通教育部教授会の上位機関として、大学全体の重要事項を審議する「大学評議会」を設置している。学則 52、53、54 条及び武庫川女子大学評議会規程を根拠とし、学長、副学長、各学部長、共通教育部長、各学科長、教育研究所長、附属図書館長、その他学長が必要と認めた者によって構成され、毎月1回 学長が議長となって、以下の事項を審議している。本学部設置後は、本学部より学部長、学科長が大学評議会評議員として出席する。

評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当り意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する事項
- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
- (4) 教育、研究に関する全般的事項
- (5) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

○人事委員会

教員人事に関しては、理事会の諮問に応じるため、武庫川女子大学人事委員会規程を根拠に、学院長、学長、副学長及び全学部の専任教授によって構成される「人事委員会」を置き、教授・准教授・講師・助教及び助手の任用並びに昇格等に関する事項を審議している。

○教学局各種委員会

教学上の各種ニーズに対応する組織として「教学局」を設けている。教学局には、教務部、入試センター、学生部、学生相談センター、キャリアセンター、学校教育センター、国際センター、外国語教育推進室、研究開発支援室及び教育研究社会連携推進室で組織される。各部署には、専任教員の中から学長によって任命される部長職、次長職及び常任委員と事務職の管理職で構成される常任委員会を設置している。常任委員会では、議案の事前協議、自部署の運営方針の企画立案及び業務計画に関すること等を審議。常任委員会で検討された事項が、それぞれの委員会に提案されるシステムとなっている。これらの委員会には、各学部・学科から推薦された専任教員が委員として参加し、それぞれ当該部署の課題について、

各学部・学科の意見を参考にしながら、全学的な視点で審議している。審議結果は、委員がそれぞれの所属学科に持ち帰り、学科会議に提案・報告され、所属の全専任教員に周知して、全学的な調整を図っている。

この教学局には、教学局長を置き、定例で毎月1回、教学局全体の問題や教学局各部署の業務と各部署の連携を密にするために、教学局会議を開催している。

13. 自己点検・評価

(1) 実施方法

本学では、学則第4条において、その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努めると規定している。

実施の方法としては、公益財団法人大学基準協会が示す10の大学基準の項目①理念・目的、②内部質保証、③教育研究組織、④教育課程・学習成果、⑤学生の受け入れ、⑥教員・教員組織、⑦学生支援、⑧教育研究等環境、⑨社会連携・社会貢献、⑩大学運営・財務に沿って各部署で点検・評価活動を実施している。その一環として全卒業生を対象とした卒業時アンケートを全学で実施しており、「教育活動に対する満足度」「在学中の学びを通じた知識・能力の修得状況」「立学の精神や3つのポリシーの浸透度」「学位授与方針等の達成状況」を調査している。アンケート結果は、教育の改善や質向上の推進、及び、学修成果の測定のための参考資料として活用しており、経年比較により本学の長所やさらなる向上が必要だと考えられる項目を明らかにしている。

(2) 実施体制

学長を委員長とする自己評価委員会を置き、自己点検・評価の基本方針、実施組織及び体制、自己点検・評価報告書の作成、自己点検・評価結果に基づく改善・改革の取り組みに関する事項、自己点検・評価結果の公表に関する事項などについて審議している。また、各学部に自己点検・評価を実施するために「学部自己評価委員会」を置き、各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて自己評価委員会に報告することとしている。本学部設置後は、学部長を委員長とする「社会情報学部自己評価委員会」において組織的な自己点検・評価を行っていく。

(3) 結果の活用・公表及び評価項目等

各学部自己評価委員会での点検・評価結果や卒業時アンケート結果及び認証評価において指摘のあった事項については、自己評価委員会において検討がなされ、各部署に改善・改革の取り組みに役立てられる。なお、これまでの点検・評価報告書、認証評価機関からの評価結果、評価における助言等に対する改善・改革の取り組み、改善報告書をはじめ、本学独

自で実施した「卒業生アンケート」「卒業時アンケート」や「在学生満足度アンケート」についての調査結果や改善方策については、ホームページで公開し、積極的に情報公表を行っている。

【資料 9：武庫川女子大学自己評価委員会規則】

【資料 10：武庫川女子大学学部自己評価委員会規程】

14. 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、主としてインターネットホームページを通して広く社会に教育研究活動等の情報を公表している。本学ホームページ内の「大学情報の公表」を中心に、学校教育法施行規則に定められる 9 項目をはじめ各種情報を積極的に公表している。

「大学情報の公表」 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>
(武庫川女子大学 ホームページトップ>大学情報の公表)

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

教育目的 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html

イ 教育研究上の基本組織に関すること

教学組織図 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyogakusoshiki.pdf>

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員情報 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/gyoseki/gyoseki.html>

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者受入れ方針 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html>

収容定員 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/teiin.html>

進路 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~syusyoku/data/gyousyu.htm>

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

大学院カリキュラム https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/in_curriculum.html

シラバス https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2020/syl_2020.htm

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

履修便覧 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/binran-frame.htm>

成績評価 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/seiseki01.pdf>

大学院学位授与状況 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/gakui.pdf>

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の面積 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/files/pdf/site_building/site_building.pdf

校舎耐震化率 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/sisetu/taishinkaritu.pdf>

キャンパスマップ <https://www.mukogawa-u.ac.jp/campus/index.html>

交通アクセス <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/campus/access.html>

ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

大学院学費 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/g_school/pdf/g_school_nyugaku.pdf#page=2

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生支援部署一覧 https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/student_support.html

進路支援 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/career/carrier.html>

コ その他

学則 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/gakusoku.html>

設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/application.html>

自己点検・評価報告書 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html>

認証評価の結果 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

本学の教育理念及び学部等の教育目標の実現をめざし、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上（FD）に努めている。

平成20年1月には各学部及び事務部門から選出された委員で構成される「武庫川女子大学FD推進委員会」を設置し、“学生の主体性・論理性・実行力を培う教育”を推進するために、授業内容及び方法の改善と向上に資する全学的な取り組みを行っている。大学・大学院全体のFD活動はこのFD推進委員会が中心となり、進められている。委員会では、各学科のFD状況を把握するとともに全学的なFD活動計画を立案している。

①教育改革講演会の実施

令和3年度は「大学の授業運営における著作権の考え方について」をテーマに開催。コロナ禍においてオンライン授業が急速に普及する中、教材データ作成にあたっての留意点について外部の専門機関から講師を招いて実施した。

②授業公開制度

他の教員の授業参考に、自身の授業運営や授業方法の改善・向上を図ることを目的に授業公開制度を設けている。全ての授業について本学教職員、附属中高教職員を対象に公開することとしており、「他の教員の授業を参考に、自身の授業運営や授業方法の改善・向上を図る」「他学科における教育活動の理解を促進し、学科間での連携、総合大学としての一体感を高める」ことを目的に、授業公開・参観を促進している。

③授業改善奨励制度

大学としての教育の質向上を図る観点から、「より良い授業のための工夫と実践」に対する奨励制度を設けている。令和3年度は「with コロナ、after コロナを見据えた新たな授業方法の工夫」をテーマに取組みの募集を行い、表彰された科目担当者は学長より表彰を受けた。

④FDニュース発行

FDに関する様々な情報を掲載した冊子を定期的に発行している。全教職員に配付することでFDの重要性についての啓蒙に努めている。

以上の活動のほか、就任1年目教員を対象に「新任教員研修プログラム」を実施しており、本学就任初年度の4～7月の毎週水曜日の2時限目を「新任教員研修プログラム」の時間とし、本学に関する知識の定着、授業設計、教育方法、教育評価、授業運営、提案資料作成等のテーマについて、合計15回の集合研修を実施している。

【資料11：武庫川女子大学FD推進委員会規程】

【資料12：新任教員研修プログラム内容】

(2) 大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

本学では、「SD推進委員会」を設置し、大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させることを目指している。SDの対象となる「職員」には事務職員のほか、教員等も含まれることから、FD推進委員会とSD推進委員会が連携した活動を行い、教育職員・事務職員がともに必要な知識・技能の習得及び向上の取組み、「教職協働」を実現している。具体的には、全教職員に共通する今日的テーマ（ハラスメント、大学の授業運営における著作権の考え方）や本学のブランディング化推進への取組みに関する調査結果等についての研修を行っている。

事務職員に対しては教職協働を実現させる職員育成のため、体系的な研修体系を構築しており、具体的には、キャリアに応じて新任職員、中堅職員、管理職、監督職を対象に「階層別研修」を実施し、その内容はビジネスマナーやパソコン知識、データリテラシー、ロジカルシンキングといった汎用的なものから大学職員として必要な知識である教育関係の法令や諸規則といった専門的スキルの修得まで多岐に及ぶ。なお、通信教育、在職研修等の修了者、学位取得者に対しては受講料の一部を補助する等のインセンティブを制度として設け受講を喚起している。

令和元年度からは、新任職員研修が充実し、新任職員向けの3年間の体系的な研修プログラム「新任職員育成制度 Rising3」がスタートした。大学職員としての基礎知識習得はもちろんのこと、教職協働で授業運営に参画したり幅広い視野・専門性を高めたりする機会を設けている。

その他、教育職員、事務職員が日本私立大学協会など外部団体主催の就職支援や厚生補導等の分野別の研修会へ参加するなどして、大学運営に必要な基礎力、応用力及びマネジメント力の向上を目指している。

【資料 13：SD 推進委員会規程】

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組み

「4. 教育課程の編成の考え方及び特色」で述べたとおり、本学における「共通教育科目」は、MW教養コアと呼ぶ5つの教育目標を掲げ、その中に自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力育成のためのキャリアデザイン科目群を設けている。

開講科目は、「女性のためのライフプランニング」「自己アピールトレーニング」「キャリアビジョンと人物評価」の3科目（全て選択科目で各2単位、配当年次は1～4年、前・後期開講）である。また言語・情報リテラシー科目群の言語リテラシー科目（50科目）や情報リテラシー科目（10科目）によって、外国語運用能力や情報処理能力向上を期している。

社会情報学科の「基礎教育科目」と「専門教育科目」では、超スマート社会「Society5.0」の実現に向けて、新たな価値の創造を目指す情報のスペシャリストを育成していくために、その職能、社会的役割、責任、倫理、ICT社会を取り巻く問題に関する実践的な知識・能力を修得することを目的としている。

また、1年次開講の「初期演習」で、「専門教育の概要と履修計画」「アカデミックライティングスキル」「学科の学びと資格取得」を学ぶとともに、グループディスカッションを通じて、自己分析をもとに自分の適性や進路について考え、学習計画と関連させながら自らのキャリアパスを構築していく。

2年次に開講する「キャリアプランニング」では、情報のスペシャリストになるための具体的なプランニングづくりを、IT業界で活躍している実務家（現、情報メディア学科卒業生も含む）の講演などを参考にしながら行っていく。

そして3年次に開講する「生涯学習論」においては、「自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる」生涯学習社会の重要性を、生涯学習の実践例を通して理解し、自ら積極的に生涯にわたる学びを実践していくことのできる素養を身につけていく。

(2) 教育課程外の取組み

社会情報学部では、学生のキャリアに対する意識向上のため、既存の生活環境学部情報メディア学科において実施している「企業と学生の交流会」と「就職座談会」の取組みを踏襲する予定である。

「企業と学生の交流会」とは、学科3年生がIT系など様々な業種の企業人と交流し、自分の研究内容やその成果を企業に知ってもらうことと、参加企業からの情報を通して様々な業種の現状を理解することを目的として、毎年12月に開催している。

「就職座談会」とは、就職活動を終了した4年生と1～3年生が、IT系企業や金融、消費財メーカー、生産財メーカーなどの多様な業種の就職活動体験談を通して交流を図りながら、情報交換を行うことを目的に、毎年12月に開催している。

また、担任教員が全学生と個別に面談し、進路や希望職種を確認する機会を設けており、卒業後に就職を希望する学生に対してもゼミ担当教員やキャリア対策委員の教員が個別にサポートを行っている。

その他、全学部共通の取組みとして、キャリアセンターが以下のキャリア支援・就職支援の取組みを行っている。

<1・2年次>

“自分探し、未来探し”の期間とし、キャリアサポートオリエンテーション、キャリアガイドブック・キャリアサポートハンドブックの配付、適性検査の実施とその結果に基づくキャリアガイダンス、スキルアップセミナー、キャリアワークショップ、企業見学ツアー、インターンシップなどの「キャリア支援プログラム」を提供。

<3年次>

“進路選択”の期間とし、企業見学ツアーやインターンシップなどの「キャリア支援プログラム」に加え、JOB GUIDE BOOKの配付、就職ガイダンス、就職対策講座、人気・優良企業対策実力養成講座、就活特訓講座、学内企業説明会、模擬面接、個別就職相談、Uターン就職相談、公務員就職相談、公務員試験ガイダンス、SPI対策講座などの「就職支援プログラム」を提供。

<4年次>

“自分磨き”の期間とし、本学独自の教育支援情報システム(MUSE S)で、最新の企業・求人・セミナー情報の参照、各種相談の予約、適性検査結果の参照、履歴書の自動作成支援機能、先輩の自己紹介書の参照機能などの情報が収集でき、キャリア形成を支援している。

(3) 適切な体制の整備について

学生のキャリア支援の部署として「キャリアセンター」(中央キャンパス、日下記念マルチメディア館2階)を置き、入学直後から継続的に進路選択に関し、専門のキャリアカウンセラーを配置し、進路・就職全般への就職、インターンシップを担当)をサポートしている。全学部・学科には1人ずつ「キャリア対策委員」の教員を置き、学生のキャリア支援を行う体制が整備されている。全学部・学科のキャリア対策委員による「キャリア対策委員会」を組織し、全学横断的に学生のキャリア支援を行っている。上甲子園キャンパスをメインキャンパスとする建築学部の学生に対しても、求人情報の掲出、キャリアカウンセラーの派遣を

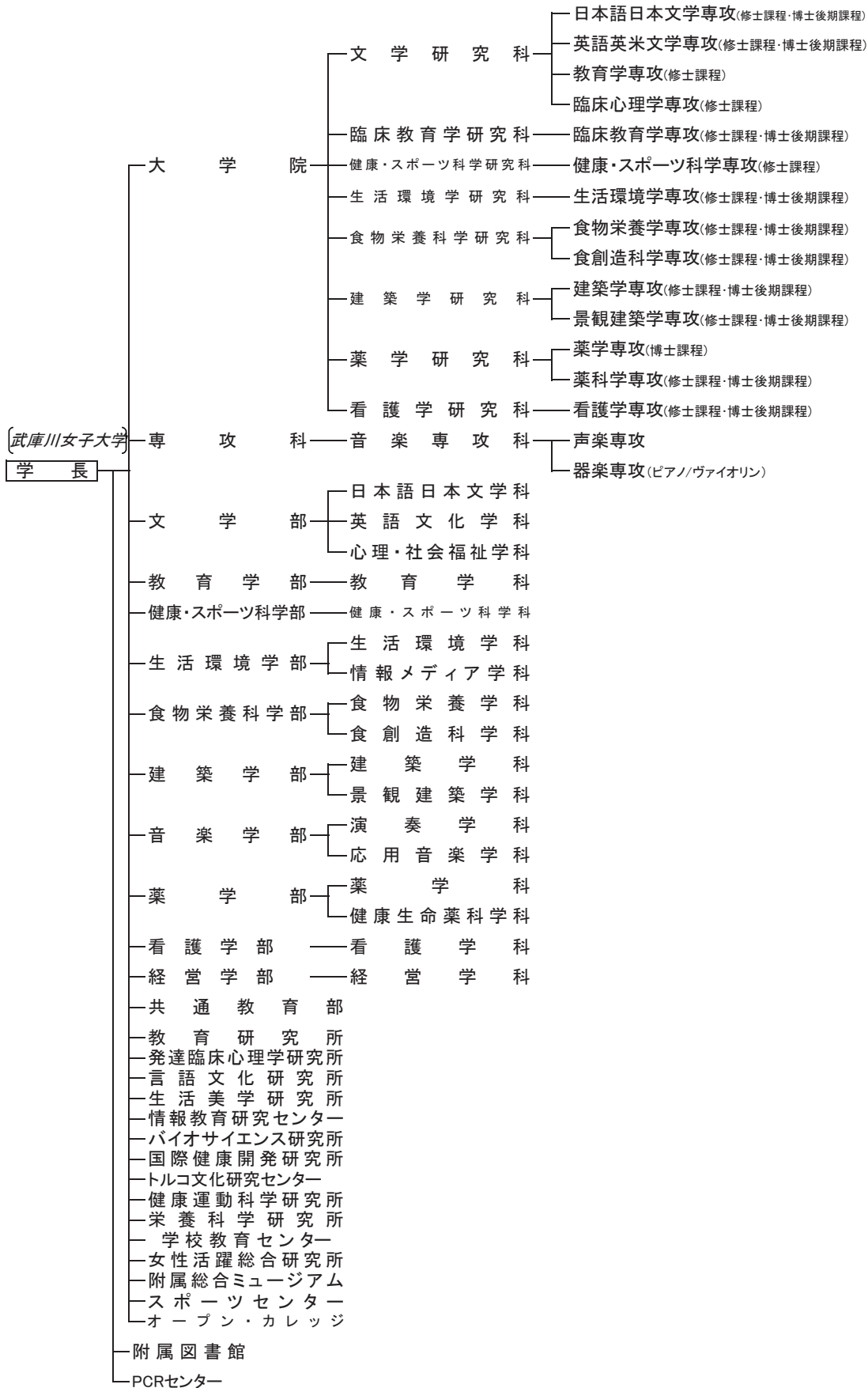
行うなど、教職員が連携してサポートする体制を整備している。

その他、J R 東京駅前に「武庫川女子大学東京センター」を開設して専門スタッフを常駐させ、企業の本社機能が集中する首都圏における学生の就職先企業の開拓や、就職活動のために上京した学生のサポートを行う体制を整備している。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

- 資料 1 : 武庫川女子大学教学組織図
- 資料 2 : 履修モデル
- 資料 3 : 教育実習受入承諾書
- 資料 4 : 教育実習ハンドブック (中学校・高等学校実習用)
- 資料 5 : 教育実習成績通知票
- 資料 6 : 武庫川学院在職研修規程
- 資料 7 : 定年に関する規定
- 資料 8 : 時間割
- 資料 9 : 武庫川女子大学自己評価委員会規則
- 資料 10 : 武庫川女子大学学部自己評価委員会規程
- 資料 11 : 武庫川女子大学FD推進委員会規程
- 資料 12 : 新任教員研修プログラム内容
- 資料 13 : SD 推進委員会規程



社会情報学部・社会情報学科 [情報メディア専攻] / IT・メディア業界(総合職) / 社会学系																
共通教育科目	16単位以上															
	1年		2年		3年		4年									
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ	1												
	データ・情報リテラシー	2														
	小計	3	小計	1												
専門教育科目	情報とコミュニケーション	2	メディア論	2	ネットワーク社会論	2	科学技術と社会	2	メディアと生活文化	2	メディア産業論	2	文化社会学	2	文化社会学演習	2
	組織コミュニケーション論	2	マーケティング論	2	コンセプトデザイン論	2	データサイエンス基礎演習	2	生涯学習論	2	メディアカルチャー論	2	映像文化史(集中)	2		
	情報科学入門	2	社会調査入門	2	社会調査Ⅰ	2	社会調査Ⅱ	2	社会調査演習	2						
	コンピュータネットワーク入門	2	プログラミング入門	2	SNSリテラシー演習(集中)	2	情報倫理	2								
	AI入門	2	ウェブ入門	2	プログラミング演習Ⅰ	2										
	ICT社会のビジネス	2	統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2										
			データベース入門	2												
	プロジェクト演習入門	2	プロジェクト演習Ⅰ	2	プロジェクト演習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅲ	2	卒業基礎研究	2	卒業基礎研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2
	社会情報学概論	2				キャリアプランニング	1	卒業基礎演習Ⅰ	2	卒業基礎演習Ⅱ	2					
	小計	16	小計	16	小計	14	小計	11	小計	10	小計	8	小計	6	小計	4

社会情報学部・社会情報学科 [情報メディア専攻] / IT・メディア業界（総合職） / 経営学系

共通教育科目	16単位以上															
	1年				2年				3年				4年			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ	1												
	データ・情報リテラシー	2														
	小計	3	小計	1												
専門教育科目	情報とコミュニケーション	2	メディア論	2	コンセプトデザイン論	2	経営情報論	2	経営情報演習	2	企業経営論	2	マーケットデザイン演習	2		
	組織コミュニケーション論	2	マーケティング論	2	SNSリテラシー演習（集中）	2	データサイエンス基礎演習	2	マーケティング戦略論	2	消費者経済学	2				
	情報科学入門	2	社会調査入門	2	社会調査Ⅰ	2	社会調査Ⅱ	2	社会調査演習	2						
	コンピュータネットワーク入門	2	データベース入門	2	広告メディア論	2	情報倫理	2	生涯学習論	2						
	ICT社会のビジネス	2	プログラミング入門	2	プログラミング演習Ⅰ	2										
	AI入門	2	統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2										
			ウェブ入門	2												
	プロジェクト演習入門	2	プロジェクト演習Ⅰ	2	プロジェクト演習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅲ	2	卒業基礎研究	2	卒業基礎研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2
	社会情報学概論	2				キャリアプランニング	1	卒業基礎演習Ⅰ	2	卒業基礎演習Ⅱ	2					
	小計	16	小計	16	小計	14	小計	11	小計	12	小計	8	小計	4	小計	2

社会情報学部・社会情報学科 [情報メディア専攻] / IT・メディア業界（専門職、もしくは映像エンジニア職） / 表現系

共通教育科目	16単位以上															
	1年				2年				3年				4年			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ	1												
	データ・情報リテラシー	2														
	小計	3	小計	1												
専門教育科目	情報とコミュニケーション	2	プログラミング入門	2	SNSリテラシー演習(集中)	2	広告メディア演習	2	IT活用とビジネス	2	メディア産業論	2	映像文化史(集中)	2		
	情報科学入門	2	ウェブ入門	2	広告メディア論	2	プログラミング演習Ⅱ	2	色彩情報演習	2	メディアカルチャー論	2				
	コンピュータネットワーク入門	2	統計学Ⅰ	2	プログラミング演習Ⅰ	2			ウェブデザイン演習	2						
	AI入門	2	デジタル表現入門	2	ウェブプログラミング	2										
	ICT社会のビジネス	2	オフィスツールの活用	2	システムセキュリティ入門	2										
					デジタル表現	2										
					色彩情報論	2										
	プロジェクト演習入門	2	プロジェクト演習Ⅰ	2	プロジェクト演習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅲ	2	卒業基礎研究	2	卒業基礎研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2
	社会情報学概論	2					キャリアプランニング	1	卒業基礎演習Ⅰ	2	卒業基礎演習Ⅱ	2				
	小計	14	小計	12	小計	16	小計	7	小計	10	小計	8	小計	4	小計	2

社会情報学部・社会情報学科 [情報サイエンス専攻] / システムエンジニア (SE) をめざす人

共通教育科目	16単位以上															
	1年				2年				3年				4年			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ	1												
	データ・情報リテラシー	2														
	小計	3	小計	1												
専門教育科目	情報科学入門	2	マーケティング論	2	ネットワーク社会論	2	経営情報論	2	ソフトウェア工学演習	2	ユーザインタフェース論	2	コンピュータネットワーク論	2	情報セキュリティ論	2
	コンピュータネットワーク入門	2	プログラミング入門	2	プログラミング演習Ⅰ	2	プログラミング演習Ⅱ	2	システム設計	2	システム設計演習	2	ウェブコンピューティング論	2		
	AI入門	2	データベース入門	2	コンピュータネットワーク演習	2	情報基礎数学	2	情報数学	2	プラットフォーム概論	2				
	ICT社会のビジネス	2	ウェブ入門	2	ウェブプログラミング	2	ソフトウェア工学	2								
	社会情報学概論	2	統計学Ⅰ	2	システムセキュリティ入門	2	アルゴリズム論	2								
							データサイエンス基礎演習	2								
							AI概論	2								
							ハッカソン (集中)	2	卒業基礎研究	2	卒業基礎研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2
									卒業基礎演習Ⅰ	2	卒業基礎演習Ⅱ	2				
	小計	10	小計	10	小計	10	小計	16	小計	10	小計	10	小計	6	小計	4

社会情報学部・社会情報学科【情報サイエンス専攻】／データサイエンティストをめざす人

共通教育科目	16単位以上															
	1年				2年				3年				4年			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ	1												
	データ・情報リテラシー	2														
	小計	3	小計	1												
専門教育科目	情報科学入門	2	マーケティング論	2	ネットワーク社会論	2	経営情報論	2	データサイエンス演習〈A〉	2	データサイエンス演習〈C〉	2	データサイエンス論〈A〉	2		
	コンピュータネットワーク入門	2	プログラミング入門	2	広告メディア論	2	データサイエンス基礎演習	2	データサイエンス演習〈B〉	2	データサイエンス演習〈D〉	2	データサイエンス論〈B〉	2		
	AI入門	2	社会調査入門	2	社会調査Ⅰ	2	社会調査Ⅱ	2	社会調査演習	2	AI演習	2				
	ICT社会のビジネス	2	ウェブ入門	2	ウェブプログラミング	2	情報基礎数学	2	情報数学	2						
	社会情報学概論	2	データベース入門	2	プログラミング演習Ⅰ	2	プログラミング演習Ⅱ	2								
			統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2	AI概論	2								
							ソフトウェア工学	2								
							ハッカソン（集中）	2	卒業基礎研究	2	卒業基礎研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2
							キャリアプランニング	1	卒業基礎演習Ⅰ	2	卒業基礎演習Ⅱ	2				
		小計	10	小計	12	小計	12	小計	17	小計	12	小計	10	小計	6	小計

社会情報学部・社会情報学科 [情報サイエンス専攻] / ウェブデザイナーをめざす人

共通教育科目	16単位以上																	
	1年				2年				3年				4年					
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1	初期演習Ⅱ	1														
	データ・情報リテラシー	2																
	小計	3	小計	1														
専門教育科目	情報科学入門	2	メディア論	2	ネットワーク社会論	2	AI概論	2	ソフトウェア工学演習	2	ユーザインタフェース論	2	ウェブコンピューティング論	2				
	コンピュータネットワーク入門	2	データベース入門	2	コンセプトデザイン論	2	ソフトウェア工学	2	システム設計	2	システム設計演習	2						
	AI入門	2	ウェブ入門	2	ウェブプログラミング	2	ウェブアプリケーション設計	2	ウェブアプリケーション開発演習	2	ウェブエンジニアリング	2						
	ICT社会のビジネス	2	デジタル表現入門	2	広告メディア論	2	データサイエンス基礎演習	2			プラットフォーム概論	2						
	社会情報学概論	2	プログラミング入門	2	プログラミング演習Ⅰ	2	プログラミング演習Ⅱ	2										
			統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2												
							ハッカソン (集中)	2	卒業基礎研究	2	卒業基礎研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2	卒業研究	2
									卒業基礎演習Ⅰ	2	卒業基礎演習Ⅱ	2						
		小計	10	小計	12	小計	12	小計	12	小計	10	小計	12	小計	4	小計	2	

実習受入承諾書

令和4年1月17日

武庫川女子大学

学長 瀬口 和義 様

武庫川女子大学附属中学校高等学校

校長 藤森 陽子

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、本校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

実習校の現況

以下について、令和3年5月1日現在でご記入ください。

記入日 令和 4 年 1 月 17 日

学校名 武庫川女子大学附属中学校高等学校

所在地住所 兵庫県西宮市枝川町4番16号

電話番号 0798-47-6436

(学級数・生徒数・教員数の内訳・実習受入可能人数)

・高等学校学級数 21 学級

生徒数 769 人

教員数 62 人

教員数内訳 (教諭45人)、(助教諭7人)、(講師9人)、
(養護教諭1人)、(養護助教諭0人)、(栄養教諭0人)

実習受入可能人数 3 人

以上

実習校の現況

以下について、令和3年5月1日現在でご記入ください。

記入日 令和 4年 1月 14日

教育委員会名 西宮市教育委員会

所在地住所 兵庫県西宮市六湛寺町10-3

電話番号 0798-35-3857

(実習校数・学級数の内訳)

・高等学校数 2校

学級数 47学級

以上

実習受入承諾書

令和 4 年 1 月 18 日

武庫川女子大学

学長 瀬口 和義 様

西宮市教育委員会

教育長 重松 司郎

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、当市の
高等学校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

教 育 実 習

ハ ン ド ブ ッ ク

(中 学 校 実 習 用)
(高 等 学 校)

武 庫 川 女 子 大 学
武庫川女子大学短期大学部

目 次

〔はじめに〕	1
I 教育実習の意義と目的	2
1 教職の理念	2
2 教育実習の意義	2
3 教育実習の目的	3
4 教育実習の内容	3
II 教育実習生の心得	5
1 実習生の心構えと態度	5
2 実習上の留意点	5
3 実習生の勤務	7
III 教育実習の方法	8
1 実習のはじまり	8
2 学習指導の実際	8
3 生徒指導の実際	12
4 実習のおわりに	15
IV 教育実習の記録	15
1 実習記録作成上の留意点	15
2 教育実習記録の書き方	16
3 実習記録の提出と成績評価	19
4 「教職課程履修カルテ」の入力について	20
〔おわりに〕	21

[は じ め に]

----- 本学における教員養成の理念 (学校教育センターHP「教員養成の状況について」より) -----

- (1) 学院立学の精神に立脚した教職実践力を体し、グローバル化する社会の新しい要請に応えるとともに日本国憲法・教育基本法・学校教育法等に規定されている教育理念とそのシステムを実践的に支え、次代を担う子ども達にその自立へ向けて“自他ともに学びあい・生かしあう力”を育むことのできる「幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員(保育士・保育教諭・栄養教諭を含む)」の養成を社会的使命として遂行し、人・家庭・社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 学院立学の精神に立脚した教職実践力とは、“高い知性”と“善美な情操”と“高雅な徳性”とを兼ね備え、これらの資質・能力を幼児・児童・生徒等に対して、それぞれの学校教育段階において創造的に育むことのできる教員としての実践力である。
- (3) 上記(1)(2)に示す本学教員養成の理念の具現化へ向けて、学院立学の精神はじめ教育綱領・教育目標・教育推進宣言について理解を深めるとともに、自立した教員を送り出すべく、女子総合学院の特質を生かし、“未来を担う子ども達の主体性・論理性・実行力を培う”教員の養成を「一貫して」推進する。その実質的具現化のため、これらの養成に携わる全教職員は、一致団結して改革・改善に取り組む。

- 1 このハンドブックは、教育実習のための手引きであり、教育実習の全般にわたって、最小限度、実習生が心得ていなければならないと思われる事項について解説するものである。
- 2 教育実習は、教員免許状を取得するための必修の教職科目であり、大学の教職課程の一環として位置づけられるものである。教育実習を受けてくださる実習校教員のご指導のもと、実習校の生徒らの協力によって、はじめて実施可能となる。実習生は、この貴重な機会に最大限の努力を傾注しなければならない。
- 3 教育実習は各実習校(教育委員会)に対して大学が依頼し、その承諾によって成り立つ。実習生は、必ず指定された実習校・実習期日で実習を行い、実習においては各実習校の指導方針に従わなければならない。実習に不熱心であったり、実習生としてふさわしくない行為があったときには、実習期間中であっても実習当該校長からその実習許可の取り消しを命ぜられることがある。
- 4 実習生は各自、本学所定の「教育実習の記録」(別冊)を使用し、実習校で実習した内容等の全般にわたって記録を作成し、実習校に提出して点検・評価を受けた後、定められた日に学校教育センターに提出して本学教員の点検を受けなければならない。
- 5 教育実習では、終始、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部の学生であるという自覚をもって、責任ある言動をとらなければならない。一人ひとりの行動や言動が、すべて本学教育の反映として評価されることを忘れてはならない。

実習中は、謙虚さをもって誠心誠意努力することが重要である。そのような学びの姿勢が、実習校の校長先生、教頭先生、諸先生方はもちろん、生徒からも多くのことを学ぶことにつながる。

教育実習を通して生涯のすばらしい糧を得ることを心から期待している。

I 教育実習の意義と目的

短い期間の実習であっても**実習生が行う指導の適・不適は、直接、生徒の人格形成に甚大な影響を及ぼす**ことになる。したがって、実習生は教育実習に当たって、まずその意義と目的をしっかりと心に銘記しておかなければならない。

1 教職の理念

教育とは本来、知識や経験の伝達を媒介として、被教育者の内から発展するものを助け育てつつ、それを生活と学習の両面において、より望ましい方向に教え導く作用を意味している。学校教育において、この重要な役割を担っているのは教員である。教員の仕事は、多様な個性をもつ生徒に直接働きかけて、全人格の発達を図るとともに、激変する社会に適応し新しい生き方を創っていく実践的能力を育成するという、きわめて責任の重い仕事である。教員の良し悪しが教育の成果を左右することを思えば、その仕事の遂行に必須の資質を豊かに備えていることが求められる。教員に要請される必須の資質として、次の3点を概略するので実習生と読み替えて参考にしてほしい。

まず第1に、教員は教育者としての使命感、深い教育愛と人間愛に支えられていなければならない。教員が豊かな人間味と人間に対する純粋な愛をもって教育に当たることによって、はじめて生徒を正しく指導できる。生徒を愛し、信頼して、生徒に打ち込む情熱と、意欲と、広やかな人間性の持ち主であってこそすぐれた教員と言い得るのではなかろうか。

第2は、教育者としてしっかりした教育観をもち、教える内容に関する専門的な学識と指導技術をもつことである。教員に求められるのは、これらの専門的学識や技術を、生徒のそれぞれの発達段階の学習にいかにか適合させ、人格的統合をはかっていくか、ということである。そのために、生徒の成長発達や思考・行動の特質、興味や能力の違い、現実の生活経験や地域社会の要求等について、深い理解をもつことが必要である。教員の指導技術の力量は、教員が生徒をどのようにとらえ、教育をどのように考えているかという教育観に支えられているものである。生徒を見つめ、その一人ひとりについて理解しようとする熱意と、生徒に向かって開かれた寛大な心がなければならない。教員には、深い洞察力、的確な判断力および豊かな創意工夫の能力を磨くことが求められる。ILO・ユネスコの「教員の地位に関する勧告」は、「厳しい継続的な研究を経て獲得され、維持される専門的知識と及び特別な技術」*を要求し、教育公務員特例法も、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」(第21条)と規定している。

第3に、教員は公共性の高い職務に携わる公務員であり、全体の奉仕者であるという自覚をもっていなければならない。子どもは教育を受けることによって、はじめて人間らしく生き発展するための諸権利を得ていくことができる。したがって、子どもの教育を受ける権利を中心におき、これを保護者、教員、国、社会が守り育てていくことが教育の根幹であるといえよう。教員はその中心的存在であり、国民全体に対し直接責任を負って、その職責の遂行に努めなければならない。

*文部科学省HP「教育に関する主な国際条約・宣言・勧告等」ユネスコ「教員の地位に関する勧告(1965)(抄)」

2 教育実習の意義

教育実習は、将来、教員になろうとするものが、一定の期間、実習校において、教員として必要な多くの事柄を、実地に学びとろうとするものである。すなわち、高度の学識技能を修得するに止まらず、生徒を指導しその資質能力を開発するための技術の修習が必要である。また、生徒を愛し、生徒のために奉仕しようとする教育愛をもつことも欠くことはできない。資質能力が異なり、生活経験や環境を異にする生徒を指導することは、学問研究の上に生徒に直接触れる経験を積み重ねなければで

きることではない。ここに、教員養成における教育実習の重要性がある。

教育実習を履修するに当たり、実習生はあらかじめ次の諸点について十分に認識しておくことが必要である。

- (1) 実習生は少くとも次の5つの要件を備えて実習に臨むようにしなければならない。
 - ア 将来教職に就くという強い意志をもっていること。
 - イ 原則として、教員採用選考試験を受験すること。
 - ウ 常に人格を磨き、誠意と情熱をもち、実習に取り組むこと。
 - エ 大学は「教育実習Ⅰ（中高）・Ⅱ（中高）」、短大は「教育実習Ⅰ（中）・Ⅱ（中）」の履修要件を満たすこと。
 - オ 「教育実習事前ガイダンス」に出席すること。
- (2) 実習生は、本ハンドブックで述べられている事項を基礎として実習校の方針に従い、綿密な計画と十分な準備の下に実習を行わなければならない。教材研究の不足や、実習意欲の不十分さのために、指導内容を誤ったり、不適切な言動をとることなどがないように十分注意しなければならない。
- (3) 実習指導教員は、多忙な中、実習生の教材研究や学習指導案の点検・指導をはじめ、指導授業、指導講話、実習授業後の研究会等きわめてご苦労が多い。また、実習授業等における過誤や不手際を補足修正することも必要となる。実習生はそのことを十分認識し、感謝の念をもち、格段の努力を払うことが必要である。

3 教育実習の目的

教育実習の目的は、「実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤－知識・技術・意欲・態度を修得する」ことにある。

次に教育実習の具体的目標をあげる。

- (1) 教育と教員の教育活動の本質や重要性を正しく理解すること。
- (2) 教員の仕事の領域全体にわたって実際の体験を通して学びとること。
- (3) 生徒の要求、興味、関心、生活、人権等に対する鋭敏な感受性を養い、豊かな人間尊重の精神を培うこと。
- (4) 専門領域の学識、教育学的素養を広め、深めること。
- (5) 学校教育活動の仕組み、および教育の社会における役割について理解を深めること。
- (6) 生徒に学ぶ心を育てること。

4 教育実習の内容

教育実習において学ばなければならない事項は、学習指導の技術だけではない。教員としてのあり方を学ぶのであって、その内容は以下にあげるように学校教育活動の幅広い分野にわたっている。実習生はこれらの分野にわたって、できるだけ多くのことを観察したり参加したりして、実地に知ることが大切である。

領 域	実 習 内 容
1 学 校 経 営	学校教育目標と経営方針、校務分掌、施設、設備、学校行事の運営、地域社会との関連、学校事務等
2 教員としての 資質向上	教員としての心構え、態度、理想的な教員などの研究と研修等
3 教 材 研 究	各教科の内容と教育課程についての研究

4 学 習 指 導	学習指導の原理および指導の計画、学習指導案、学習指導の過程・方法・技術、評価のあり方等
5 道徳教育および特別活動	道徳教育、特別活動の意義、目標と内容、指導原理と方針、学級指導、生徒会活動、学級会活動、部活動、学校行事等
6 生 徒 指 導	生徒指導の意義と目標、指導計画と方針、ホームルームの活動・学級経営、事例・場面指導等
7 学校保健と学校安全	健康管理に伴う事務、学校保健の意義・目標・内容、学校保健の計画、保健教育、学校安全の目的と安全管理、安全教育の指導の実際等
8 学校図書と視聴覚教育	学校図書教育の目標と内容、学校図書館の利用指導（各教科および総合的な学習の時間等での活用方法を含む）、視聴覚教育の意義と目標、教育機器の種類とその活用、パソコンの活用等
9 人 権 教 育	<p>教育の原点としての人権教育のあり方を学び、将来これに取り組む心構えを養う。その際の主な課題は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人権感覚を身につけ人権問題を解決する実践的行動力を養うということが、学校経営や全教科・全領域における指導方針の中にどのように位置づけられているか。 (2) 支えあう学級集団の基礎学力保障と進路保障にどのように取り組まれているか。 (3) 集団生活を大切にし、人権感覚の育成がどのように行われているか。 (4) 生徒を現象面だけでとらえないで、その内面をとらえなおしてみる態度がつかぬか。 (5) 人権についての正しい理解と認識を得るための系統的・科学的学習の指導がどのように行われているか。
10 特別支援教育	<p>学校がノーマライゼーション、インクルージョン、バリアフリーなどの教育理念を踏まえて、障がい者と健常者がともに生きる教育の場であるとの認識のもとに、以下の事項について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒一人ひとりの生命の尊厳と身体的・精神的能力や個性に応じた教育を大切にする態度を養う。 (2) 障がいのある生徒が障害に伴う困難を克服し、人間として成長していくために、これを支援する教員の心構えを養う。 (3) 学習指導や生徒指導など教育活動の個々の領域においてなされている障がいのある生徒に対する教育の内容・方法上の配慮について理解を深める。 (4) 障がいの種類と個々の実態および指導の実際について、基礎的知識を習得し理解を深める。 (5) 障がいのある個々の生徒についての実態を十分に理解し、障がいの事実に応じて適切な支援の工夫をする。 (6) 特別支援学級の指導に参加できる場合にはこれを通して、教育の原点として特別支援教育の重要性とあり方を学ぶ。

Ⅱ 教育実習生の心得

1 実習生の心構えと態度

(1) 教員になろうとする意欲をもつこと

教育実習の単位を修得することは、教員免許状取得のためのひとつの条件である。しかし、免許状を取得するためだけであるといった安易な気持ちでは、本人の実習が不成功に終わるだけでなく、実習校の指導教員の期待も裏切り、生徒にも迷惑を及ぼすことになる。教員になろうとする強い意欲をもって、教育実習に専念すること。

実習生が自分のもっている能力を精一杯発揮して、誠意をもって努力すれば生徒たちも必ずこれに反応してくれる。新鮮な張りつめた実習生の心を、純真な生徒たちはすばやく感じとってくれるものである。

(2) 服装・容儀を整えること

実習生は、実習期間中には下記事項に留意して、実習生としてふさわしい清潔な服装・容儀を整えること。

- 制服、白ブラウスを着用し、学章と名札をつける。実習校において、別に指示された服装がある場合には、それを優先する。
- 髪型は流行を追った極端な異型・異色のものは慎む。長い髪は束ねて、活動に支障のないようにする。爪も清潔に短く整えておく。
- 所持品などについても学生としての品位を保つものであること。勤務中(休み時間も勤務中)は、携帯電話・スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。
- 実習校では、それぞれの場に合った運動靴や上靴、下靴にはきかえる。

(3) 教員としての品位を保つこと

実習生は社会的には「学生」であるが、生徒にとっては「先生」である。教員は生徒の模範になるようにとの社会的な要請がある。礼儀作法、言葉づかい、服装・容儀においては、ふさわしい品位を保たなければならない。

なお、出勤の途中で実習校の教職員・生徒に会えば、会釈とあいさつを行うこと。

実習前に、実習生としてふさわしくないSNS上のデータは削除しておくこと。実習中の出来事はSNS上にはアップしないこと（実習中はもちろん実習終了後も）。

(4) 体調管理をすること

麻疹やインフルエンザ等の感染症を予防するため、日ごろから体調管理に注意すること。実習期間中はもとより、実習前後も「体調管理記録」表を利用し、毎日検温して体調を管理する。

とりわけ、実習前はむやみに人ごみの中には行かず、やむを得ない外出の際は必ずマスクを着用し、帰宅後の手洗い・うがいを励行すること。実習中は、慣れない環境への対応や緊張から、疲れが出やすいので、体調を維持するため、睡眠不足や偏食を避けること。体調に異変を感じたら、直ちに病院で診察してもらうこと。随時、大学の担当教員と連絡をとれるようにしておき、何かあればすぐに大学の担当教員に連絡すること。

2 実習上の留意点

(1) 素直に指導教員の指導を受ける

指導教員との密接な連絡なしには実習は不可能である。実習生のひとりよがりだけでは実習はできない。実習の全期間を通じて教材研究のこと、指導案のことなどあらゆることにわたって指導教員の教えを受けねばならない。実習生として学生として、常に尊敬の気持ちを忘れず、礼節

をわきまえ、言葉づかいなどにも注意して指導教員に接するようにすること。

(2) 丁寧に細かくメモをとる

実習期間中には多くの新しいことを見たり聞いたりする。実習期間中にはいつも丁寧に細かくメモをとるよう心がけること。校長先生からお話を伺うとき、実習指導教員から批評を聞くとき、実地指導について討議するときなどには、メモを忘れないようにする。メモの整理段階で、新しい発想も浮びあがってくる。メモは記録の材料を提供するとともに、創造の芽にもなる。

(3) 積極的に生徒に接する

充実した学習指導が行われるためには、実習生と生徒との間で信頼関係が保たれていなければならない。実習期間中に積極的に生徒に接すること。生徒たちに話かけ、話し合うことで生徒たちの気持ちを理解していくことも教育実習の大切な課題である。

とくに担当の学級の生徒の顔と名前をなるべく早く覚えることが大切である。しかし、「えこひいき」の感を生徒に与えてはならない。すべての生徒に公平な態度で接しなければならない。

(4) 安全管理に細心の注意を払う

生徒の生命と安全を確保することは、あらゆる教育活動の前提条件である。安全管理についての配慮がなされると同時に、生徒に対する事故防止のための指導が行われなければならない。

安全管理の領域には、①学校環境の安全管理、②学校生活の安全管理、③学校における事故防止などがあるが、とくに不審者対策は今日的課題でもある。実習生は、まず、実習校での安全教育の目標と指導計画、安全管理の実際などについて十分認識を深めておかななければならない。

理科の実験・薬品の取り扱い、家庭科の授業、保健体育科の授業、廊下や階段の通行、運動場での遊び、遠足や登下校時など生徒の身近なところで、危険はいつでもどこでも起こり得る。実習生は常に、生徒に事故が起こらないよう安全のために細心の注意を払う責任がある。もし、実習期間中に実習生にかかわる事故が発生した場合は、直ちに適切な処置をとり、すみやかに指導教員を通じて校長に報告し、同時に大学の担当教員・学校教育センターにも報告することを忘れてはならない。

(5) 実習生としての重責を自覚する

教育者には、生徒をそれぞれの保護者からあずかって教育するという、きわめて重い責任がかかっている。実習生も一方では教育者として、この重責を負担しなければならないことを自覚する。

ア 校外指導の禁止

実習生の中には、生徒と親しくなって、実習期間中にあるいは期間後において校外に連れていきたくなくなることがあるかもしれないが、このような行動は厳に慎まねばならない。また、自宅において実習校の生徒をとくに個人的に指導することも避けなければならない。

イ 個人的な助言は控え目に

生徒から個人的な相談をもちかけられることもあるかもしれない。しかし、実習生としては、できるだけ聞くことに努め、指示や助言はできるだけ控え目にしなければならない。自他ともに過信が思いがけない重大な結果を引き起こすことになる。なお、このような場合には、指導教員に連絡・相談をすることが必要である。

ウ さらに実習生は、次の事項について自分勝手に行動することは許されない

- 生徒の家庭へ、連絡や依頼などを出すこと。
- 生徒を随伴、残留、撮影すること。
- 生徒の賞罰を行うこと。
- 生徒に感想文、記念品などを求めること。
- 生徒や保護者とメールやSNSで交流すること（連絡先の交換、SNSやメールのIDやアド

レスの交換もしてはいけない)。

(6) 守秘義務

「職務上知り得た秘密を漏らしてはならない」(地方公務員法第34条)に基づき、個人情報の適正な取り扱いに留意し、実習中に知り得た個人情報について第三者に漏らしたり、不当な目的に利用したりするようなことがあってはならない。

3 実習生の勤務

(1) 実習校の規則を守ること

実習校には、「生徒心得」(校則)がある。実習生も実習期間中はこれを守らなければならない。例えば、通学路が示されているような場合には、教職員と同じように実習生も生徒の模範となるように、率先してこれを守らねばならない。

(2) 通勤

通勤は、公共交通機関を利用すること。自動車・バイクは禁止とする。実習校の許可があれば、自転車は利用してもよい。

(3) 勤務時間

実習校での勤務時間の詳細については、事前打ち合わせ時に指示されるが、通常は実習校の教職員と同じである。始業時間に遅れないように、常に早い目に出勤しておくことが必要である。

毎日の勤務終了時刻は、指導教員の指示によること。翌日の学習指導等の準備のため、遅くなるような場合には必ず指導教員の許可を受ける。また、単独で遅くまで残留しないように注意すること。指導教員も残留してくださる場合は、職員室で指導を受けるようにする。

(4) 出勤簿

登校すれば、直ちに所定の場所に置かれている実習生の出勤簿に押印し、出勤を明らかにしておかなければならない。

(5) 欠勤・遅刻・早退

欠勤・遅刻・早退はしないことが原則である。明確な理由がないのに、欠勤・遅刻・早退をすることは許されない。やむを得ず欠勤・遅刻・早退をする場合は、すみやかに実習校に連絡するとともに、大学の担当教員にも連絡しなければならない。無断で欠勤・遅刻・早退したり、理由にならないような理由で欠勤・遅刻・早退したりすることは絶対にあってはならない(教育実習においては、肉親の不幸の場合以外は公欠は認められない)。

なお、実質の実習日が15日間に満たない場合には、大学の担当教員・学校教育センターに連絡すること。欠勤・休校等によって、実習の期間に変更が生じた際は、「実習期間変更届」に必要事項を記入して実習校の証明印をいただき、実習終了後1週間以内に学校教育センターに提出すること。

(6) 昼食

昼食については、実習校の指示に従うこと。実習中は、学校給食の場合もある(給食費は実習生が負担)が、校外において昼食をとらなくてよいように弁当を持参する。

(7) 控室の管理

実習校では、実習生用の控室が設けられることがある。複数の実習生がいる場合は、当番を決めて毎日その控室を清掃整理しておかなければならない。なお、不要な貴重品を持参しないこと。控室での紛失は、実習校にも他の実習生にも迷惑をかけることになる。

(8) 突発的な休校

警報発令等の理由で実習校が臨時休校になった場合は、実習校の指示に従い、出勤または欠勤すること。教職員の方々の休校への対応を学ばせていただくことも、教育実習の一環である。

Ⅲ 教育実習の方法

すでに「教育実習の意義と目的」でも述べたように、教育実習はきわめて広い領域にわたって教員としてのすべてを学びとろうとする機会であり、本来、観察・参加・授業実習・評価反省の全過程を通じて行われるべきものである。

したがって、教育実習では、授業の実習だけではなく各種の観察や参加などあらゆる機会を通じて、一人ひとりの生徒がおかれている生活実態をみつめ、それに学びながら教育を考えることが重要である。そのような学びの姿勢こそが教員への道の出発点であることを、よく認識しよう。

1 実習のはじまり

教育実習を円滑に、かつ効果的に実施するためには、十分に準備を整えてかかる必要がある。その概要を述べる。

(1) 大学における事前ガイダンス

ア 実習生は教育実習事前事後指導の科目受講はもとより、実習の前に大学の引率指導・連絡担当教員のところまでお伺いし、実習に関する指導を受ける。(この際、実習中の連絡のための連絡先を確認すること)

イ 実習前の「教育実習事前ガイダンス」には、必ず出席しなければならない。このときに実習に行くための注意事項(各実習校への引率指導・連絡を担当される大学教員名も)などをあらためて確認し、実習への準備をしっかりと整える。もし「欠席許可理由」で欠席する場合には、学校教育センターまで事前に必ず所定の届をすることが必要である。

(2) 実習校における事前指導

実習校のご都合を伺い、必ず指定された日時に訪問する。校長、教頭または実習担当教員にお目にかかってあいさつし、日程、配属学年や組、指導教員、教科書の準備、登下校の時刻や通学路など、実習全般についての指示を受ける。また、実習生は『実習の記録』の中から「教育実習生プロフィール」「出勤簿」「教育実習成績通知票」に必要な事項を記入して、実習校に提出しなければならない。

(3) 実習第一日

ア 指示された出勤時刻よりも20分以上は早く登校し、指示のあった場所に集合する。

イ 職員朝礼や生徒朝礼で、実習生の紹介をしていただく際の実習生あいさつは簡単に、しかし実習をさせていただきに対する謝意を込めたものでなければならない。

ウ 朝礼のあとは、予定された計画に従って校長以下各教員の指導講話やオリエンテーションが行われ実習が始まる。

2 学習指導の実際

(1) 周到な準備と学習指導案の作成

教科については、中学校・高校では高度で広範囲な内容を含むため深い教材研究を必要とする。大学教職課程で学んでいる各専門分野の深い知識(中高「教科に関する科目」「教科に関する専門的事項」および中高各「教科指導法」を中心として)が役立つことになる。教材を考える場合、どのような角度からこれらを取り扱ったらよいか、既習教材との関連性をも考慮し、教材の中でどの部分が生徒に重要であるかについても検討する。生徒に質問を受けたときの答を想定できる程度にまで、教材を深く研究しておく必要がある。

実習生にはそれぞれに指導教員がきめられ、担当する学習指導の授業担当時間割などが作成さ

れる。『中学校学習指導要領』または『高等学校学習指導要領』に指導上の一般的方針や指導計画の作成と内容の取り扱いが述べられているので、作成のとき参考にとるとよいが、指導教員から十分な指導内容の教示を受け、それによって学習指導案を作成しなければならない。学習指導案は指導の先生の校閲を受けたのち、学習指導（授業実習）に当たる。

また教科のみならず、指導教員の受け持たれる学級の指導（中学校実習では道徳も）についても指導助言をいただくことになる。

指導案の形式は各校ごとに担当する教科によってきめられる場合があるので、指導の先生方のご教示を受けて作成しなければならない。次に参考までに、ひとつの形式を例示して指導案作成の要領、また、必要な項目について簡単に解説しておく。

ア 単元（主題・題目・題材）設定の理由

なぜこの単元が取り扱われるかの理由を述べるのであるが、教材観、指導観（方法観）、生徒観に分けて述べる場合もある。

教材観ではその教材が取り扱われている意味づけ（設定された理由）、その教材の重要性の軽重を述べるものであり、他の教材、学年との関連性についても述べることもある。学習指導要領、指導書等が参考となる。

生徒観では、生徒の発達段階、学級の現状、指導者の認識、既習事項等を述べるのであるが、個々の生徒の能力については指導教員に助言を受けるのもよい。

指導観（方法観）では、上の実態に即してどのような指導法を考えればどんな効果が期待されるか、どんな困難があるかを考えてみる。

イ 指導目標

指導者が何を目標として授業を進めていくかを述べるのであって、学習指導要領に示されている目標と関連させて明確にする。さらに本時の目標では、主題の中心的な目標を記入する。

ウ 学習指導計画

主題をどのように区分し、どういう順序で、どれだけの時間をかけて指導するのかの概要を記す。本時についての位置も書き添える。学習指導要領の「学習指導計画の作成と内容の取り扱い」を参照することも必要である。

エ 学習指導の過程

導入：生徒全員の学習への興味を起こさせ、生徒一人ひとりが、何を学習するかをしっかりと把握するように導く段階である。学習に対する興味の喚起→学習目的の確認→問題意識の自覚→問題の共通化・焦点化へと進めていく。

展開：本時の指導目標を区分された指導内容に沿って、計画的にすすめていく段階である。教科によって、いろいろな教材、教具、指導方法や形態を工夫し、生徒の活発な学習活動を育てながら、全員を問題解決と理解に導いていく。

まとめ（整理）：本時の学習の成果をまとめ、生徒一人ひとりに理解を確かめ自分のものにさせる重要な段階である。学習事項の整理、報告、発表、話し合い、質疑、ドリルなど多様な方法が考えられる。また、次時の予告なども行う。

生徒の学習活動は、学習内容の指導を進めていく過程で、生徒の主体的意識がどのような活動をするによって高まり、深まり、認識にまで形成されていくかという観点に立って、生徒の反応をも予想して展開を考えておくのが望ましい。そして具体的に学習活動の欄には、主題に基づいて分節されたいくつかの指導項目に対応する生徒の学習活動として、読む・聞く・書く・考える・調べる・話し合う・発表するなどを予定して記入する。

指導内容・留意点の欄には、この生徒の学習活動ごとに、教員が実際に指導するための手だて、すなわち、説明する・発問する・指名する・板書する・実験する・機器を使用する・考え

させる・調べさせる・助言する・実物や資料を提示する、などについて、できるだけ具体化して記入する。またそれぞれの活動に予定される所要時間（分）も配当しておく。

準備物等の欄には、本時の指導に当たって使用する必要な資料など準備すべきものを記入する。教科書、参考書、視聴覚教材、教育機器、見学すべき場所や事物、観察や実験・実習に必要な準備すべき備品、教具等を周到に予定しておく。

いうまでもなく、学習指導過程は教科によって同一ではない。同じ教科でも扱う教材によって変わる。教材の特性が学習指導過程を決定する一つの要因となっているので留意しなければならない。

オ 実習授業の評価と反省および助言

実地指導後に反省会がもたれるので、指導の実際の状況について記録し、また実際の指導が果たして効果的であったか、改善すべき問題点はなかったかなどを反省し、具体的に感想を書きとめておく。学習指導案と実際の授業との適合度を検討し、次の授業をさらに効果的にできるようフィードバックしていく。指導教員から受けた総評と指導助言の欄は、指導者の立場からみて、目標は達成されたか、時間配分は適切であったか、教具や資料の準備は適切であったか、能力差の配慮は適切であったか等について、また生徒の立場からみて、学習意欲・興味・関心はどうであったか、知識・技能・態度は身についたか等について指導教員から受けた批評・助言などを記入する。

カ 研究授業について

研究授業は実習生が行う公開の授業。実習校の教員方、他の実習生の参観のもとに実施され、授業の後、研究会（反省・批評会）が催される。研究会では授業批評が主であり、非難の人間批評や感情的印象批評にならないよう心がける。

これによって、自分の教育方法を高める資料のひとつとなるので、実習生はメモをとり、自分の指導と比較対照して考えることが大切である。

(2) 実地指導

指導案がいくらよくできていても実際に授業をするには、特別な指導技法が必要である。

機会があれば積極的に、指導教員以外の教員の授業も参観させていただき、具体的な指導を受けることによって、はじめて指導技術の一端が得られるものである、ここでは、実地指導の一般的な要点を指摘しておく。

ア 姿勢

「森をみて木をみる。木をみて森をみる」ということばがある。教卓上の書物や黑板の方ばかりに視線がとまっていると、生徒の集中力がだんだんと拡散してしまう。生徒の中に入りこんでいこうとする気持ちが必要である。とくに、一人ひとりを最大限に生かし、落ちこぼしの生徒をつくらないという基本態度をつらぬくこと。

イ 発声

教室のすみずみまで声が達することが必要である。このためには、意識して普通よりも少し大きい声を出す方がよい。原則として方言を使わず共通語でわかりやすくゆっくり、ときには繰り返して話すこと。声の調子はやわらかく話しかけるようにする。早口や語尾が消えてしまうのはいけない。「…しなさい」「…してください」ではなく、「…しましょう」の表現法が好ましい。こうした声の出し方、話し方ひとつでも、生徒の学習意欲をかきたてたり、そこねたりするのであるから、各自十分に研究してもらいたい。

ウ 発問

学習指導というものは、生徒に教え、生徒自身に考えさせていくのであるから、いつ何を教え、どういう状態で何を考えさせるかという見通しをまずつける。そして、発問のタイミング

を考え、どのような内容の発問をどのような形で、また、どのような順序で誰にするかという計画を立てておく。生徒がどのような答えをするかも予想して、あらかじめ発問の仕方などを工夫しておくことも必要である。

- (ア) すぐれた発問の条件：(a)質問の意味が明瞭で、理解が容易なものであること。(b)精選された発問、つまり指導目標を達成するために不可欠で、しかも有効な発問をすること。(c)思考のステップを踏んだ発問であること。(d)発問と指名との間（ま）を適切にとること。
- (イ) 発問の種類：(a)すでに学習した内容について、記憶していることを確かめるための発問、(b)学習意欲を高めるための発問、(c)新しい教材に対する生徒たちの興味や関心、あるいは理解の程度をさくための発問、(d)新しい問題に取り組む意欲を起こさせるための発問、(e)問題点を分析する手がかりを与えるための発問、(f)各人の違った考えをまとめるための発問、などが考えられる。

なお、問題解決のための発問のときは、生徒たちの考えぬく過程を重視し、指導者は性急に答を言わせたり、正解を与えたりしない方がよい。また、ひとつの発問だけでは、ただちに解決できないことも多いので、あらかじめ、助言的な二段三段の発問を用意しておくことも必要である。

- (ウ) 発問時の配慮：指導者は、生徒の答えのうちでもとくに「つまずき」の答えを重視し、**正しさへの思考の発展に生かす**ことが大切である。生徒の発言を大事にして、それに依拠する授業の発展を考えることが、一人ひとりを生かす指導の要点である。「まちがった答」を言ってみんなに笑われるような教室の中では、学習の原動力である「やる気」は育たない。

とくに全員参加の学習を実現し、どの生徒にも学ぶことによる喜びをもたせ「生きがい」を感じさせるためには、一人ひとりの生徒をみつめて、「この生徒には」また「あの生徒には」どう質問するかという、きめ細かな配慮と用意が重要である。生徒のつぶやきやささやきの中にすばらしい発見をすることがある。

エ 板書

学習指導のために黒板に字を書くこと（板書）は、重要な問題点を順次浮かびあがらせ、それらの間に関係を与えていく。生徒の注意をひきつけるとともに、平板な授業にアクセントをつけ、さらに、主題についての分析的な思考をうながすのに役立つものである。板書は発問と連係して行われることが多い。発問の場合と同じように、いつ、どこに、何を書くかということ、あらかじめ計画（板書メモの作成）しておくことが必要である（**板書メモを作っておくのがよい**）。

※ 板書についての注意事項：

- 適当な量で急所をおさえた板書の工夫が大切である。
- 文字は、少し大きすぎると感じる程度の大きさで書くよう十分に気を配る。
- 文字は正確に記すること。濃い目に書くよう心がける。実習期間中には小さな辞書などを携帯しておくことが望ましい。
- 板書の完成時を予想して、書き始める位置に注意する。
- 色チョークを適当に使って、内容の区分を明確にするなどの工夫をする。
- 必要な表や図、フラッシュカードなどを作成し、黒板や展示板に掲げるなど工夫を凝らす。
- 大事な事項を最後まで残し、確認を強める。

オ 教具

教具を自分で工夫して作ることも大切である。教具として、地図、模型のようなものから、いろいろの器具や器械に至るまで使用することがある。これらの教具を使うときには、あらか

じめ指導教員の指示を受けて、許可を得ておかなければならない。

教具を使うときには、それぞれの内容をよく知っておいて、指導計画の中に、どのように組み入れるかを検討しておく。それとともに、取り扱い方をよく調べて、熟練しておくことが必要である。あらかじめ借用しておいて、教室で前もって練習しておくのがよい。借用した教具は、使用後は必ず整備して、すみやかに所定の場所に返却しておかなければならない。

なお、最近では、プロジェクターや書画カメラ、電子黒板、タブレット端末など、いろいろなICT機器が使われている。教育実習中に機会があればなるべく指導を仰ぐことが望ましい。

カ 授業参観

授業の実地指導をするには、指導教員の授業や他の実習生の授業を努めて参観しておかなければならない。発問の仕方、指名の仕方、板書の仕方など、ときには指導者の立場に立ち、ときには生徒の立場に立ち、自分であればどうするかと自問してみよう。また、指導者と生徒の間でどのように相互の反応が進行していくか、そして、それによって教室内の空気がどのように活気をおびてくるか、様々な状況の変化に対応して指導者はどのように調和していくかなどを注視し観察の眼を休ませてはならない。

さらに、生徒同士が支え、助け、教え、励まし合う学級こそ学級活動の基盤であり、人間尊重の生き方を育てる場であることを観察していこう。

キ 授業の反省と相互討議

実地指導および授業参観を行ったのちには、必ず、指導教員の批評や指導助言を受けねばならない。そして、それらを詳細に記録しておき、教育実習記録の中に記入し、今後の教育実践に生かすことを忘れてはならない。

また、教員の指導のもとに、実習事項に関して実習生相互の間で討議することも大切である。討議を通じて創造的な意見が形成されてくるように、積極的に考えを出しあっていこう。

会心の授業は多年の経験を積んだ教員でもなかなかできないものであり、教育は限りなき道である。したがって、できないことに悩むのではなく、誠実に生徒に接し、授業に生きることに教育の真実があることを学んでほしい。

ク 他の教育活動への参加

教員の教育活動は、各教科の指導だけではない。道徳教育や特別活動などいろいろな教育活動がある。これらは、それぞれ独自の意義と価値をもつものであり、生徒の全面的な発達と深く結びついている。実習生もこれらに参加することによって、教育活動の全領域を経験するとともに、教員のきわめて幅広い職務を学んでおかなければならない。

3 生徒指導の実際

生徒指導は、学校全体として取り組む重要な教育活動のひとつであり、明確な指導目標を定めて計画的・組織的に進めていくことが必要となっている。生徒指導はそれぞれの学校とこれを取りまく社会および生活環境の実態に即し、さらに、生徒一人ひとりの個性や特性ならびに発達の要求に即して行うべき極めて具体的で実際的な指導と援助の過程である。

教育実習においては実習生はそれぞれの実習校での生徒指導の目標や具体的な取り組みの実際について、校長や生徒指導担当教員から指導講話を受けるなどによって、基本的に理解し認識を深めよう。また、学級担任あるいはホームルーム担任からも直接に生徒指導の具体的なお話を伺い、指導上の留意点、工夫、方法・技術、関連事務などについて積極的に教えを受けよう。

以下では、生徒指導の意義、目的、内容、方法等について基本的な要点のみを述べておく。

(1) 生徒指導の意義と目的

生徒指導の本質は、「人間の尊厳という考え方にに基づき、それぞれの内在的価値をもった個人

の自己実現を助ける過程であり、人間性の最上の発達を目的とする」。

生徒指導が、学習指導と並んで学校本来の教育目標を達成するための重要な機能であることはいうまでもない。教員が個々の生徒の人間としての主体的な生き方に直接働きかけ、彼らの個性ある人格の形成を援助するのが生徒指導である。

現代社会の急激な発展・変動が進む過程で、様々に深刻な反社会的問題状況や教育病理現象が生まれ、青年期にある生徒の中に不安や悩み、あるいは不適応をもつ者も多い。それゆえ今日の学校は、このような状況に積極的に対応し、生徒の個人的・社会的な生活適応を指導し、人間性豊かな心身ともに健全な発達を助成するための継続的な指導計画を進めていくことがますます重要となっている。

したがって、学校における生徒指導の意義は、不適応や暴力行為・いじめなど問題行動をとる生徒に対する対策といった消極的な面にあるのではなく、生徒の理解に基づき積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のより良い発達を目指すとともに、生徒一人ひとりにとって学校生活全般にわたって有意義で充実したものとなるように、生徒が主体的に日常生活の場で最も適切な行動がとれ自ら判断して行動できるような自己理解、自己指導の能力や態度を育てることである。

(2) 生徒指導の内容

生徒指導は、教育課程の特定領域を指すものでなく、全教職員が学校教育のすべての分野において計画的・組織的に展開する教育機能である。したがって、以下のように生徒の登校から下校に至る学校生活全般に関連する諸活動に及んでいる。

- 学習指導
- 学級集団指導
- 道徳性・社会性指導
- 人権教育
- 個人的適応と問題行動の指導
- 進路指導（キャリア教育）
- 保健指導
- 安全指導
- 食に関する指導
- レクリエーション指導
- 校外生活の指導

これらの指導に関しては、それぞれの指導の場で適切に行うべきものであることはいうまでもない。

ア 教科と生徒指導

教科指導は、各教科の知識や技術の内容を目標に沿って計画的・組織的に提供し、生徒の知的能力や、技術の習熟態度の育成を図るものである。この領域での生徒指導は、学習上の不適応に対する指導と、意欲的な楽しい学習指導をすすめる条件をつくり出すことを目的とする。

- (ア) 各教科の学習を直接に援助する指導：基本的な学習態度や学習習慣を形成する。学習の難易度を考慮し、生徒の個性や能力に応じた個別指導を工夫する。学習意欲や興味を高める。
- (イ) 学習集団をつくり、学級の生活条件を改善する指導：学習集団内の人間関係の改善をして楽しい学級の雰囲気をつくり、グループ編成によって助け合い学習ができるようにしたり、あるいは座席配置の工夫をすることによって学習意欲を促進する。
- (ウ) 学習活動の条件を整えることに関する指導：生徒の学習のための計画の立て方、図書館、資料室、器具や用具の利用法、学習教材の選び方と使い方などの指導。

イ 道徳と生徒指導

道徳教育は、人間尊重の精神を育成することを究極の目標とし、中学校生徒を対象に人間としての正しい行動規範と生き方を教え、これを内面化させて、日常の社会生活において具体的に実践していける心情や自律的態度を育てるものである。したがって、道徳的な価値観が正しく生徒の身についていけば、それはやがて生徒の現実の行動を確かなものにするのに役立つ。また、生徒の日常生活における指導が徹底すれば、生徒は正しい生活態度を身につけることから道徳的価値観の形成につながる。

このように道徳教育と生徒指導とは相互の関係にあるものであるが、価値観をおしつけるものでなく生徒の日常生活の現状に沿って具体的な指導が展開されることが望ましい。

ウ 特別活動と生徒の指導

『学習指導要領』によると、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す」ことを目標としている。このような目的は、生徒指導の理念や意義と基本的に通じるものであり、特別活動が生徒の集団活動を土台にしていることからもとくに集団指導の場として、重要な役割をもつものである。

特別活動は、中学校では、学級活動、生徒会活動、学校行事から成り、高等学校ではホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成る。

したがって、部活動も含め、指導教員の指導のもとに積極的に活動に参加することが望まれる。

(3) 生徒指導の方法

生徒指導の具体的な方法としては、一般に個別指導と集団指導とがある。集団指導の場と方法は、特別活動や学級経営とも深く関連している。ここでは、主として学級経営との関係で、生徒指導の方法について述べておく。

ア 生徒の理解

生徒指導は個人が自己の成長発達の中で主体的に問題を選択し、取り組み、解決するのを援助する過程である。したがってまず、生徒の個人的特性や生活環境条件の実態を正しく理解することが指導の基本的要件である。その場合、一人ひとりの生徒を、かけがえのない人間として尊重し、その個性的存在をあるがままに理解していく構えがなくてはならない。

また、できるだけ客観的に豊富な資料を整備しておく必要がある。それによって指導に際し、適切な情報を提供できるし、問題を早期に発見して予防処置もとることができる。一般的に必要な資料としては、次のものがある。

- (ア) 学力、出席状況、学習態度、学校生活への適応状況
- (イ) 性格、適性、行動、趣味、特技、将来の希望や進路
- (ウ) 健康状態
- (エ) 家族構成、教育的関心、地域環境
- (オ) 友人関係
- (カ) 生育歴

これらの資料を得る方法としては、(a)観察による方法、(b)検査や調査による方法、(c)作品物などによる方法、(d)面接による方法などがあるが、実習生としては日常的な生徒の観察が大切である。

観察による方法は生徒の言動を、偏見を加えずありのままに見極め考察する実証的方法であって、あらゆる生徒理解の基本となる方法である。観察して得た事柄を、学習指導、生徒指導、学級経営の資料として活用する。観察は、生徒の心や行動の変化を継続的にとらえられるよう、計

画的に進めていくことが大切であり、実習生は時間の許す限り、生徒の中に入ってコミュニケーションをとることに心がけるべきである。

イ 教育相談

教育相談は、生徒のもつ悩みや困難を共有し、考え、生活に適應させることなどを通じて、人格形成の援助を図ることを目的とする。教育相談の実際についての知識や方法を身につけることが生徒指導上大切であるが、実習生としては、まず、生徒の声、心を「聴く」という姿勢が大切である。

- ◎ いずれにしても、実習上で知り得た生徒に関する事柄は指導教員などに伝える以外は、「**守秘義務**」があることを自覚しておこう。

4 実習のおわりに

実習最終日には、最初と同様、実習生は全員職員室における職員朝礼に加わる。そこで校長はじめ全教職員に対し無事教育実習が終了したことに深く感謝し、十分誠意を尽くしてお礼のあいさつをする。次に全校朝礼に出席して、生徒たちにお礼とお別れのあいさつをする。これらのあいさつも、やはり、その場になってまごつかないようにあらかじめ用意しておく必要がある。事務室、管理員室の方々にもお礼のごあいさつを忘れないようにしよう。

教育実習終了後1週間以内に、大学の担当教員に実習終了の報告とお礼のごあいさつをする。そのときに「教育実習終了報告書」を提出し、事後のご指導・検印をいただく。この報告書は、担当教員の検印を受けた後、「実習記録」に綴じ込んで学校教育センターに提出すること。

IV 教育実習の記録

教育実習生は教育実習記録を作成し、実習校に提出しなければならない。それぞれのねらいを、どの程度達成できたかを常に反省し評価できるように、具体的にできるだけ詳しく記録する必要がある。

本学所定の「**教育実習の記録**」(別冊)を実習生に配布する。教育実習記録のとり方、まとめ方を、記録用紙の種類に応じて説明する。

1 実習記録作成上の留意点

実習記録の内容を今後にも有用な具体的なものにするためには、まずノートなどを使用し、あとで整理しやすいよう日付や時間ごとに観察参加や実習した内容を詳細にメモにとっておき、このメモを活用するようにする。

次に、内容に応じてそれぞれ実習記録用紙に要領よくまとめる。その場合、記録の主題となるものを明確に設定し、具体的内容の要点をおさえてまとめ、そこからどんなことを理解し習得したかについても記録する。記録はすべてペンまたはボールペンを使用することを原則とするが、鉛筆の使用なども含め実際には実習校の指示に従うこと。

これらの記録は、学習や行動の記録であるとともに研究の記録である。努めて具体的に書くようにし、また、教育研究的な態度のうかがえる客観的・論理的な所感を書くよう心がける。実習記録の最後には、この実習をふり返り実習全般についてまとめとなる所感を書く。

なお、実習校から配布される印刷物などで記録と関係の深い資料や、他の実習生の指導案などもこの記録に貼付しておくことが望ましい。

実習記録は提出後に指導教員に読んでいただくことになる。実習生の実習に対する意欲や研究成果などを読みとっていただくものである。したがって、そのつもりで実習記録を作成するよう心がけたい。

2 教育実習記録の書き方

別冊の「教育実習の記録」に含まれている記録用紙に基づき、書き方について説明する。

- (1) 「表紙」：実習校名、所在地、実習期間、実習生氏名を所定の欄に正確に記入する。実習校名は、例えば、〇〇市立〇〇中学校のように書く。学校所在地については、郵便番号、電話番号を忘れないこと。
- (2) 「教育実習生プロフィール」：所定の欄に実習生各自の該当事項をもれなく正確に記入する。氏名のあとに押印を忘れないこと。なお、所定の顔写真（制服を原則とする）を貼付する。
- (3) 「実習生出勤簿」：実習校名・期間・所属・氏名等を記入する。
- (4) 「教育実習成績通知票」：実習校名、実習生欄（学籍番号・所属・氏名・教科、わかっている場合は配当学年学級）を記入する。
※(2)(3)(4)は、事前打合わせ時または実習初日に実習校に提出すること。
- (5) 「体調管理記録」：自身の体調管理を徹底するため、実習開始の1～2週間前から実習終了まで、毎日検温し、体調を記録すること。実習先からの指示に従い、この記録をもとに報告すること。
- (6) 「実習期間変更届」：実習開始後、実習期間が変更になった場合にのみ、必要事項を記入して実習校の証明印を受け、実習後1週間以内に学校教育センターに提出すること。
- (7) 「中・高教育実習事前報告書」：必要事項を記入し、実習に行くまでに大学の担当教員にあいさつに伺う際に提出すること。
- (8) 「中・高教育実習終了報告書」：必要事項を記入し、**実習終了後1週間以内に大学の担当教員に提出し、押印いただいた後**、実習記録に綴じ込んで大学が指定する提出期日に学校教育センターに提出すること。
- (9) 「実習校の現況」：実習の第1日には、校長・教頭・実習担当教員から学校経営の概要について講話を受けるのが普通である。また同時に『学校要覧』『教育指導の計画』などの印刷物の配布を受け、それに基づいて説明をされることもある。
実習生は、これらの講話や実習校のHPなどで、各教員のお名前や学校の規模、教育環境、教育目標と努力（指導）目標、経営方針、勤務時間等一日の流れその他について、まとめておくことが大切である。記入に当たって、自分の印象や感想を加えておくことが望ましい。
- (10) 「教育実習の予定・実施内容」：実習校で配布された実習実施日程表や行事予定表を参考にして実習期間中の実習校における行事予定と教育実習指導計画の日程などを記入し、実習生が各自の具体的な学習計画を自主的にすすめていくようにする。
「実習・行事予定」は、観察、参加、授業実習の予定を記入し、行事は学校行事および学級や学年の行事を記入する。（次ページ〈例〉(10)を参照）
- (11) 「実習配属学級の現況」：学年・学級名、生徒数、学級担任氏名を記入するほか、その学級の目標や、経営方針、学級の特色や生徒の様子、特徴などを記入する。これらについては、学級担任から指導講話を受けるとともに、自分の眼でよく学級ならびに生徒を観察し、理解した内容をまとめて記録する。とくに自分の感じ取った印象や、感想、気づいたことなどを加えておくことが望ましい。なお、クラスの生徒名や一人ひとりの特徴、座席表、教室経営

(13) 「指導講話、授業・行事等の参加記録」

ア 実習生として、校長はじめ各教員の指導講話や学校経営・学級経営・研究資料なども大切な記録である。

講話については、主題・要旨・要点、自分の感想・意見も添えて記録を整理すること。

イ 指導教員の模範（指導）授業、学校の研修計画による研究授業に参加する場合は、観点をもって注意深く観察し、その記録をとること。

時間の流れにそって、①生徒の学習活動 ②教員の指導活動がどのように展開されているか ③指導上の留意点は何か ④どのような教材・教具・資料が準備され、工夫されているか ⑤発問・板書・指名の方法や工夫などの記録を整理すること。

また、自分が気づいた点をメモしておくことも大切である。これをもとに、授業の反省・批評会で自分の意見を積極的に述べるように努めること。

ウ 教育実習においては授業だけでなく、すべての学校教育の場にも積極的に参加し体験を通して観察することが重要である。

授業以外の教育諸活動および生徒の記録の場面として、具体的には次のようなものがある。

- (ア) 登下校時・朝の会や終わりの会・休憩時・給食時・清掃時・放課後など。
- (イ) 遠足・社会見学・集団宿泊、野外活動など、学校を離れて行われる教育活動。
- (ウ) 担任および各教員の指導による教材研究・指導案作成・生徒（生活）指導に関する助言など。
- (エ) 授業準備や教材製作・生徒成績物の点検評価など。
- (オ) 保健的行事・教材や教育機器の取り扱いなど。
- (カ) 運動会（体育会）・音楽会や作品展・文化祭・写生会・参観日など。
- (キ) 教室廊下等の掲示物やその活用状態、施設（教育環境）配置状況など。
- (ク) 生徒の行動事例にかかわる教員の場面指導。

各々の場面における生徒や教員の表情・動き・言葉づかいなどを注意深く観察し、記憶し、メモをとっておくことが実習の一つであり、今後の参考となる。

なお、この記録は教育上（教員は職務上）知り得た秘密に属することも含まれる場合が考えられるので、取り扱いには万全の配慮をする必要がある。生徒のみならず教員や保護者や学校経営上のことで知り得た秘密に属すると考えられることは、他に洩らさない（守秘義務）。

(14) 「学習指導案」：実習記録に収録している指導案の様式はひとつのひな形（サンプルなので、そのままコピーして使わない）であり、これにこだわることはない。学校では各々の様式があるので指導教員に確認して、とくに指示のない場合は独自の形式によればよい。修正作成のことも考えて、パソコン等で作成するのが有効である。なお、指導案は終了後に「授業の記録」に

〈例〉

(13)

指導講話、授業・行事等の参加記録
(指導講話の記録及び授業・行事等の参加記録)

日	時	平	夜	○	年	△	月	□	日	○	曜	△	場	所	○	○	○	天	気	晴
・講話の主題 ・授業科目名 ・行事・諸活動名		〈国語〉・テスト解説 ・小論文読解力													指導者名	〇〇〇先生				
記 録 内 容		・講話内容 ・授業内容 ・生徒の学習活動等の状況													気づいたこと 留意点					
14:20～ 出席の点検															・先生が指導から降りて 「いいね、おめでとう」が 行動ととれればよい 分りやすかった (準備物あり)					
14:25 忘れ物チェック															・忘れ物をチェック 通ったり、準備された り準備として、この課 は大きな影響を及ぼ すと思う。テストに 返すだけでなく、先生 が喜ぶことにおよ び生徒への影響を 考えた。					
机の上(赤ペンとテスト問題のみ)																				
テスト配付 (準備物あり)																				
〈テスト解説〉																				
テストの準備																				
「いい子は頑張るよ」 先生に話しかけ、これは金と関係ないからいい。 誰かから話しかけ、これは金と関係ないからいい。 先生の説明、言葉は新しい。自分の力で書ける。 自分の力で書ける。先生の説明、先生はすごい。 先生の説明、先生はすごい。先生の説明、先生はすごい。																				
・講義を徹底的に聞いて、語り聞か (前の授業で1つは説明がわかり、言葉と書く)																				
・書きの型(科の表現)																				
○キーマット																				
～15:00 「いろいろの教員」																				
小説 織り込みながら読む															・先生がいろいろの 目録も出さずお話し!!					
◎どうして読むのかから読むか																				
・場面描写																				
・心情(視点人物の)																				
◎どうして読むのかから読むか															・今までの授業と 出しがかりの説明					
[行事や諸活動参加で指導助言を受けた事例]																				
授業参観・態度や姿勢の意向を熱心にとり、お話しを聞き取り																				

貼付しておくこと。

- (15) **「授業の記録」**：実習生が実地授業や研究授業を行うに当たって、事前に十分検討し、まとめた教材研究と学習指導の展開計画を学習指導案として作成する。実習生は学習指導案を作成後、指導教員の校閲を受けて必要な修正を行う。

実地授業をした後は必ず反省、評価し、次の指導を改善できるように、自己の反省、生徒の感想、意見、指導教諭からの批評などを記録しておく。記録内容は、自分が行った実地授業について、これを「教材研究と学習指導案」および「指導の実際」の2点に分け、それぞれについて、指導教員や参観し出席された各教員からいただいたご講評やご指導ご助言ならびに自分自身の反省を整理し、具体的項目をあげて記入するようにする。余白のページは授業の形態・教材教具の位置など図解する場合に活用したり、資料等の貼付に活用する。

- (16) **「教育実習のまとめ」**：この記録は、教育実習のしめくくりとして、実習校での勤務、学習指導、生徒指導、生徒とのふれあい、その他、実習全般を通して習得したこと、反省や感想、その他について、項目をあげて記入する。とくに、これから教員を目指す者として教職の重要性や責任の重さについて、どのようなことを学び取ったか、どのような自覚が得られたか、今後この実習で得たものをどのように生かしていくか、課題は何かなどについても所見を述べておくことが望ましい。

最後に、実習でいろいろご指導いただいた校長をはじめ担当していただいた各教員に対する感謝のことは忘れてはならない。

- (17) **「実習生への指導助言」**：実習の終わりに、ご指導くださった先生にメッセージをいただく。署名・捺印（個人印）は校長・指導教員とも願います。

3 実習記録の提出と成績評価

(1) 実習記録の提出

① 実習校への提出

実習記録はよく点検整理してまとめ、実習後の指定された期日までに各実習校の指導教員に提出しなければならない。実習終了後に実習記録を書き始めたのでは間に合わない。毎日、きわめて多忙であるにせよ、その日の記録はその日のうちに書き上げて指導教員に提出して検印をいただいておき、実習最終日には、最終日分と「教育実習のまとめ」を記入してすぐ提出できるのが理想。

② 学校教育センターへの提出

実習校へ提出した後、指定のあった日に受け取りに伺うこと。実習校が遠方などの理由で、受け取りに伺えない場合は、事情をお話ししてレターパックライト（郵便局で370円）にあて名（実習生の住所・氏名）を記入し、実習最終日に実習校の担当の先生に渡しておくこと。学校教育センターへの提出は、大学が指定した期日に遅れないよう注意すること。

(2) 教育実習の成績評価

実習記録は、実習校において校閲・指導を受けることになる。実習校では、実習記録の内容だけでなく、校長はじめ実習を指導された教員全員によって、出勤状況、勤務態度、実習態度、指導能力、人物その他について、実習生一人ひとりの総合的評価が行われる。(50点)

しかし、教育実習の単位の評価は、最終的には、大学が責任をもって履修単位を認定することになる。本学では、実習校から送付された「教育実習生成績通知票」を十分に尊重し、教育実習記録と併せて、総合的、客観的に評価を行う(50点)。なお、実習記録は、学校教育センターにおいて受理し、それぞれの学科の担当教員の点検を受けた後に、実習生に返却する。

なお、実習記録を実習校に提出すること、および受け取りに行くことに関して、公欠とはなら

ないので、留意すること。

4 「教職課程履修カルテ」の入力について

教職課程を履修する場合、卒業学年次に「教職実践演習」（2単位）が必修とされている。併せて、その履修履歴を確認し、教員としての資質・能力の修得状況を検証するため、「教職課程履修カルテ」を作成し活用することが、義務付けられている。

- (1) 「教職課程履修カルテ」のうち、学生本人が入力する「課題事項Ⅱ・Ⅲ」については、Ⅱは実習前に「教育実習に臨む決意や課題等」を、Ⅲは実習後に「教育実習の反省点や今後の抱負や課題等」を400字以内で速やかに入力すること。
- (2) 「教職課程履修カルテ」については、卒業学年次後期開講の「教職実習演習」初回授業日に、授業担当者に提出しなければならないので、カルテ作成に努めること。提出されたカルテについては、教職実践演習の成績評価に10点分配点されている。

The screenshot displays the MUSES web portal interface. At the top, there is a navigation menu with various icons and labels, including 'HOME', 'info@MUSES', 'Personal File', '履修', '時間割参照', '休講・補講等', '出欠・公欠', '授業アンケート', '試験', '成績(Grade)', '見込みチェック', '諸資格', '履修カルテ', 'キャリア支援', and '学友会'. The '履修カルテ' icon is circled in red. Below the menu, the main content area is titled '自己評価シート入力<自己評価>' and '自己評価シート入力<課題事項入力>'. The left side shows a table with columns for '大項目', '中項目', and '確認指標'. The right side contains text input fields for '教育実習を前にして...' and '教育実習を終えて...', each with a 400-character limit. Arrows point to the '保存' (Save) buttons and the input fields.

【注】「教職課程履修カルテ」の詳細な作成方法については、すでに配布している『教職課程履修カルテ説明資料』を参照のこと。

おわりに

実習生の皆さんは、短い実習期間の間にも「先生」と呼ばれ、不安と期待と喜びが入り交じり、一日一日を夢中で実習校へ通ったことでしょう。はじめて体験することによって学ぶことの意義をしみじみと感じたことと思います。教育実習を通して教員の責任の重大さ、すばらしさ、難しさ、楽しさを学び取ったことでしょう。

板書を間違えたり、途中で言うことを忘れてたりして生徒たちの前で立ち往生し、二度とない一日を、失敗の連続で終わるようなこともあったかもしれません。また一方では、教員の仕事のやりがいや喜びも味わったことでしょう。生徒たちへの愛情も一段と深まり、生徒一人ひとりの顔かたちが浮かんでくることでしょう。

しかし、短い実習期間を通して、教育について、果たしてどれだけの理解が得られたでしょうか。それに引き替え、この期間中、親しくご指導していただいた先生方は、教育の現場に身をおいて長い年月を苦勞されてきた方々ばかりです。豊かな識見、積み重ねて来られた多くの経験に対して、心からの敬意を忘れないでください。そしていつもと変わらない多忙な仕事の上に、さらに、実習指導という特別なご苦勞をおかけした先生方に対して、いつまでも感謝の気持ちを忘れてはなりません。先生方は実習生の皆さんが、立派な教員となり、いつの日にか同じ道を歩むようになることを強く願って、期待して指導されているのです。実習生はこの期待に応えるべく、先生方に続く一人の中学校・高等学校教員としての自覚と抱負をもって一層努力し、この教育実習で得た成果を実りのあるものにしてください。

実習が終わったらすぐに、懇切丁寧な指導をしてくださった担当の先生はもとより、校長先生、教頭先生、他の先生や職員の方々、励まし協力してくれた学級の生徒たちに礼状を書きましょう。

教員採用選考試験に挑戦し、その結果については、必ず教育学習でお世話になった先生方にお知らせしましょう。そして卒業後に、どの都道府県のどの地区であろうと実際に教壇に立ったとき、まず実習校の校長先生はじめ先生方に、その喜びをお伝えすることを忘れないでください。

令和3年4月1日 改訂

武庫川女子大学・同短期大学部
学校教育センター

〒663-8558 西宮市池開町6-46
Tel 0798-31-0243

教育実習 前後にやるべきこと チェック表

実習前

	やるべきこと	✓
1	実習校と事前打合わせ【日時： 】 連絡がない場合は自分から電話	
	事前打ち合わせで確認する事項	
	実習期間、就業時間の確認（自転車通勤の許可が出るか、その場合駐輪場の場所なども）	
	実習中の服装・持ち物、教科書等の準備、配当学年クラス、担当の単元などの確認	
2	事前打合せ日に授業がある場合→公欠手続＝「事前打合せ証明書」準備→学校教育センターへ	
3	「教育実習生プロフィール」「実習生出勤簿」「教育実習成績通知票」準備 (必要事項は記入して実習校へ提出)	
4	実習校HPなどで、校則・きまり事、担当クラスの現状・生徒の状況等調べておく(事前打合せでも確認)	
5	通学定期（1か月以上前）の準備（学生部へ）	
6	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」(他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」)、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」が履修登録されているか確認	
7	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅱ「教育実習を前にして」入力	
8	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習 事前報告書」を記入の上、持参）	

実習後

	やるべきこと	✓
1	実習校からの借用物（名札・教科書・ロッカーの鍵など）があれば返却	
2	実習校に実習記録提出（「中・高教育実習 終了報告書」は抜いておく）【日時： 】	
3	実習開始後に実習期間に変更があった場合→「実習期間変更届」の準備→学校教育センターへ	
4	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習 終了報告書」を記入の上、持参して検印を受ける）	
5	実習校へ実習記録受け取り【日時： 】	
7	実習校（校長・指導教員・生徒など）にお礼状送付	
8	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅲ「教育実習を終えて」入力	
9	大学へ実習記録提出（「中・高教育実習 終了報告書」を綴じ込む）【日時： 】	
10	実習記録採点者より実習記録受け取り（他学科聴講・学部聴講・科目等履修は学校教育センターより）	
11	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」(他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」)、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」の成績確認（前期実習の成績発表は10月～11月）	





教育実習成績通知票

中学・高校用

(武庫川女子大学)
(武庫川女子大学短期大学部)

実習校名		学校長氏名	Ⓔ	指導教員氏名	Ⓔ	
実習生 学籍番号	実習生 所属	実習生 氏名	実習教科	学年学級		
	学科					
	年 組 番					
右欄に総合評価点(50点満点)をご記入ください。評価目安は下記のとおりです 50～45点：よく努力し、実習の実をあげることができた 44～35点：努力し、実習の成果はあった 34～30点：いまま少しの努力と実習の成果が望まれる 29点～：努力に欠け、実習の成果は認められなかった					総合評価 /50点	
	評価項目	評価の着眼点		観点別評価		
学 習 指 導	教材研究	○教科書や教材を十分に検討して、指導内容を正確に把握しているか。 ○教材と指導目標との関連、及び生徒の生活現実や発達段階との関連がよく研究されているか。		5	4 3 2 1	
	学習指導の 計画と準備	○学習指導案は綿密で、よく整理して立案されているか。 ○指導のねらいは明確で、しっかり把握されているか。 ○必要な教材・教具・資料を準備し、活用しようとしているか。		5	4 3 2 1	
	学習指導 の展開	○導入や展開のすすめ方は、活気があり、効果的であるか。 ○指導の方法や形態、板書に工夫がみられるか。 ○言語・音声・指導態度は好ましく、適切であるか。		5	4 3 2 1	
	生徒の 理解と配慮	○生徒を個人的にも、集団的にもしっかりとらえ、よく理解して指導しようとしているか。 ○また、生徒の心理状態や反応に即して、学習をすすめようとしているか。		5	4 3 2 1	
学 級 経 営	教科外活動 の指導	○学級(ホームルーム)の諸行事・諸活動に積極的に参加しているか。 ○生徒をよく理解・把握し、適切に指導しているか。		5	4 3 2 1	
	教室の 環境整備	○教室内の整理や美化によく気を配っているか。 ○衛生面や安全面によく配慮しているか。 ○帳簿や記録物の保管・事務処理の能力があるか。		5	4 3 2 1	
実 習 態 度	勤務態度	○教育に対する熱意と課題意識をもち、常に工夫、改善しようとする研究的な姿勢がみられるか。		5	4 3 2 1	
	実習意欲	○学校の規則や指導教員の指示をよく守っているか。 ○自らすすんで、指導教員の指導を求め、礼儀正しく協調的であるか。 ○教職に対する自覚を深め、積極的意欲的に責任感をもって、誠実に実行しているか。		5	4 3 2 1	
	教育への意欲	○ものごとを謙虚に受けとめ、勤務態度は誠実、実直であるか。		5	4 3 2 1	
	実習の記録 と反省	○几帳面に実習記録をとり、よくまとめているか。 ○課題意識をもち、研究的姿勢がみられるか。 ○指導の評価・反省は適正で、常に謙虚に見つめているか。		5	4 3 2 1	
出 席 状 況	出席すべき日数	欠席日数	遅刻	人物所見(性格・態度についての特記事項)		
	日	病欠	日			回
	出席した日数	その他	日			早退
	日	計	日			回

実習終了後3週間以内に、同封の返信用封筒でご返送くださいますようお願いいたします。

○武庫川学院在職研修規程

平成15年4月1日

規程第4号

改正 令和3年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、学校法人武庫川学院（以下「学院」という。）の教職員が、職員就業規則第55条第3号に基づき、通常の勤務に就きながら、自己の専門領域を深めるために、大学院における研修、修士又は博士の学位を取得することについて、規定することを目的とする。

(資格)

第2条 前条で研修若しくは修学しようとする者（以下「在職研修員」という。）は、研修終了後5年以上勤務できる年齢で、修学開始年度の4月1日において勤務年数3年以上（特別嘱託期間を3年以上経ている場合、2年以上）の専任職員とする。ただし、在職期間中1回限りとする。

(期間)

第3条 在職研修員の研修・修学期間は、修士課程2年、博士課程3年（4年制の博士課程に関しては4年）とする。ただし、業務の都合により長期履修制度を利用することを在職研修願（様式第1号）に明記して申し出た場合、許可された期間とする。

(願出)

第4条 在職研修を希望する者は、大学院受験前に在職研修願（様式第1号）と在職研修計画書（様式第2号）に研修の種類、目的及び期間等を記入し、大学教員は学部長、共通教育部長、研究所長又はセンター長に、短期大学部教員は学科長又は共通教育科長に、高等学校・中学校教員は校長に、幼稚園教員及び保育園職員は園長に、事務職員は事務局長に提出し、許可を得なければならない。

(推薦)

第5条 前条により提出された在職研修願及び在職研修計画書に学部長、共通教育部長、研究所長、センター長、学科長、共通教育科長、校長、園長又は事務局長は、修学に関する副申書（様式第3号）を作成して、前年度の7月末日までに、人事課に提出しなければならない。

(選考・決定)

第6条 在職研修員選考委員会（以下「選考委員会」という。）は、前条に定めるところに

より推薦された在職研修員候補者について選考し、学院長が決定する。

(選考委員会)

第7条 選考委員会は、学院長、学長、副学長、学部長、教学局長及び事務局長をもって組織する。ただし、学院長は選考上必要があるときは、他に適当と認められる者を加えることができる。

(期間中の勤務)

第8条 在職研修員の研修期間中の勤務については、所属長は在職研修員の研修計画に基づき、勤務時間（内容）の一部を軽減することができる。

(期間中の給与)

第9条 在職研修員には、研修期間中その給与及び賞与については、通常どおり支給する。

(研修の中間報告)

第10条 在職研修員は、研修期間中、所属長の指示があれば研修の中間報告をしなければならない。

(研修計画の変更)

第11条 在職研修員が、やむを得ない事情のため、研修計画等に著しい変更が生じる場合は、事前に在職研修変更許可願（様式第4号）により、計画変更の理由、変更内容等について、所属長を経て学院長に願い出て承認を得なければならない。

(資格の取消)

第12条 在職研修員が、研修期間中に本規程に定める研修目的等に違反したときは、学院長は、在職研修員の資格を取り消すことができる。

(報告義務)

第13条 在職研修員は、研修終了後、2か月以内に在職研修報告書（様式第5号）を所属長を経て人事課に提出しなければならない。なお、報告書は、A4判横書により、4000字程度で作成すること。

(研修費用の補助)

第14条 在職研修員には、研修終了後、次の各号に定めるとおり、研修費用を補助する。

- (1) 本学大学院で修士又は博士の学位を取得した場合：30万円
- (2) 本学大学院に専攻がないため、他大学大学院で修士又は博士の学位を取得した場合：30万円
- (3) 論文博士（本学大学院のみ）の学位を取得した場合：5万円

2 次の各号に定める場合は、研修費用の補助対象外とする。

- (1) 本学大学院に専攻があるにもかかわらず、他大学大学院で学位を取得した場合
- (2) 研修・修学期間中に学位を取得できなかった場合
- (3) 科目等履修生として修学した場合

(研修終了後の義務)

第15条 在職研修員は、研修終了後、5年以上の期間、本学院において在職勤務しなければならない。

2 第13条及び前項の定めを履行しないときは、第14条により学院が補助をした費用の原則全額を返還しなければならない。

(その他)

第16条 この規程に定めのない事項が生じたときは、学院長は、選考委員会に諮り決定するものとする。

(改廃)

第17条 この規程の改廃は、常任理事会の議を経て、理事長が決定する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行し、令和4年度在職研修員募集分から適用する。

様式第1号(第4条関係)

学部長	学科長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

勤続年数※ (年)

年 齢※ (歳)

※研修開始年度の4月1日現在

在 職 研 修 願

私、下記により在職研修を希望しますので、ご承認くださいますようお願いいたします。

- 1 研修の種類 ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得後満期退学
(該当項目を イ 大学院科目等履修
○で囲む) ウ 博士の学位取得(論文博士)

2 研 修 先 _____大学大学院_____研究科_____専攻

3 研 修 期 間 令和 年 月 日から
(年 か月)
令和 年 月 日まで

様式第1号(第4条関係)

研 究 所・セ ンター長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

勤続年数※ (年)

年 齢※ (歳)

※研修開始年度の4月1日現在

在 職 研 修 願

私、下記により在職研修を希望しますので、ご承認くださいますようお願いいたします。

- 1 研修の種類 ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得後満期退学
(該当項目を イ 大学院科目等履修
○で囲む) ウ 博士の学位取得(論文博士)

2 研 修 先 _____大学大学院_____研究科_____専攻

3 研 修 期 間 令和 年 月 日から
(年 か月)
令和 年 月 日まで

様式第1号(第4条関係)

共通教
育部長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

勤続年数※ (年)

年 齢※ (歳)

※研修開始年度の4月1日現在

在 職 研 修 願

私、下記により在職研修を希望しますので、ご承認くださいますようお願いいたします。

- 1 研修の種類 ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得後満期退学
(該当項目を イ 大学院科目等履修
○で囲む) ウ 博士の学位取得(論文博士)

2 研 修 先 _____大学大学院_____研究科_____専攻

3 研 修 期 間 令和 年 月 日から
(年 か月)
令和 年 月 日まで

様式第1号(第4条関係)

校 長	副 校 長	教 頭

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

勤続年数※ (年)

年 齢※ (歳)

※研修開始年度の4月1日現在

在 職 研 修 願

私、下記により在職研修を希望しますので、ご承認くださいますようお願いいたします。

- 1 研修の種類 ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得後満期退学
(該当項目を イ 大学院科目等履修
○で囲む) ウ 博士の学位取得(論文博士)

2 研 修 先 _____大学大学院_____研究科_____専攻

3 研 修 期 間 令和 年 月 日から
(年 か月)
令和 年 月 日まで

様式第1号(第4条関係)

園長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

勤続年数※ (年)

年 齢※ (歳)

※研修開始年度の4月1日現在

在 職 研 修 願

私、下記により在職研修を希望しますので、ご承認くださいますようお願いいたします。

- 1 研修の種類 ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得後満期退学
(該当項目を イ 大学院科目等履修
○で囲む) ウ 博士の学位取得(論文博士)

2 研 修 先 _____大学大学院_____研究科_____専攻

3 研 修 期 間 令和 年 月 日から
(年 か月)
令和 年 月 日まで

様式第2号(第4条関係)

学部長	学科長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊦

在 職 研 修 計 画 書

<p>1 研 修 の 種 類 (該当項目を○で 囲み、ア、イに ついては履修便 覧等内容のわか る資料を添付の こと)</p>	<p>ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・ 単位取得後満期退学</p> <p>イ 科目等履修 (1) 取得予定単位数 _____ 単位 (2) 履修予定科目名 ()</p> <p>ウ 博士の学位取得(論文博士)</p>
<p>2 研 修 目 的</p>	
<p>3 研 修 先</p>	<p>_____ 大学大学院 _____ 研究科 _____ 専攻</p>
<p>4 研 修 期 間</p>	<p>令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで</p>
<p>5 在 職 研 修 歴 の 有 無</p>	<p>有 ・ 無</p>
<p>6 経 費 等 (金額のわかる資 料を添付のこ と)</p>	<p>ア 大学院課程修了・単位取得後満期退学 入学金 円 授業料 円</p> <p>イ 科目等履修 登録料 円 履修料 円(円× 単位)</p> <p>ウ 博士の学位取得(論文博士) 論文審査料 円</p>

様式第2号(第4条関係)

研究所・センター長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 計 画 書

1 研 修 の 種 類 (該当項目を○で 囲み、ア、イに ついては履修便 覧等内容のわか る資料を添付の こと)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・ 単位取得後満期退学 イ 科目等履修 (1) 取得予定単位数 _____ 単位 (2) 履修予定科目名 ウ 博士の学位取得(論文博士)
2 研 修 目 的	
3 研 修 先	_____大学大学院_____研究科_____専攻
4 研 修 期 間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで
5 在 職 研 修 歴 の 有 無	有 ・ 無
6 経 費 等 (金額のわかる資 料を添付のこ と)	ア 大学院課程修了・単位取得後満期退学 入学金 円 授業料 円 イ 科目等履修 登録料 円 履修料 円(円× 単位) ウ 博士の学位取得(論文博士) 論文審査料 円

様式第2号(第4条関係)

共通教
育部長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 計 画 書

<p>1 研 修 の 種 類 (該当項目を○で 囲み、ア、イに ついては履修便 覧等内容のわか る資料を添付の こと)</p>	<p>ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・ 単位取得後満期退学</p> <p>イ 科目等履修 (1) 取得予定単位数 _____ 単位 (2) 履修予定科目名 _____)</p> <p>ウ 博士の学位取得(論文博士)</p>
<p>2 研 修 目 的</p>	
<p>3 研 修 先</p>	<p>_____大学大学院_____研究科_____専攻</p>
<p>4 研 修 期 間</p>	<p>令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで</p>
<p>5 在 職 研 修 歴 の 有 無</p>	<p>有 ・ 無</p>
<p>6 経 費 等 (金額のわかる資 料を添付のこ と)</p>	<p>ア 大学院課程修了・単位取得後満期退学 入学金 円 授業料 円</p> <p>イ 科目等履修 登録料 円 履修料 円(円× 単位)</p> <p>ウ 博士の学位取得(論文博士) 論文審査料 円</p>

様式第2号(第4条関係)

校 長	副 校 長	教 頭

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 計 画 書

<p>1 研 修 の 種 類 (該当項目を○で 囲み、ア、イに ついては履修便 覧等内容のわか る資料を添付の こと)</p>	<p>ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・ 単位取得後満期退学</p> <p>イ 科目等履修 (1) 取得予定単位数 _____ 単位 (2) 履修予定科目名 _____)</p> <p>ウ 博士の学位取得(論文博士)</p>
<p>2 研 修 目 的</p>	
<p>3 研 修 先</p>	<p>_____ 大学大学院 _____ 研究科 _____ 専攻</p>
<p>4 研 修 期 間</p>	<p>令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで</p>
<p>5 在 職 研 修 歴 の 有 無</p>	<p>有 ・ 無</p>
<p>6 経 費 等 (金額のわかる資 料を添付のこ と)</p>	<p>ア 大学院課程修了・単位取得後満期退学 入学金 円 授業料 円</p> <p>イ 科目等履修 登録料 円 履修料 円(円× 単位)</p> <p>ウ 博士の学位取得(論文博士) 論文審査料 円</p>

様式第2号(第4条関係)

園 長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 計 画 書

1 研 修 の 種 類 (該当項目を○で 囲み、ア、イに ついては履修使 覧等内容のわか る資料を添付の こと)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・ 単位取得後満期退学 イ 科目等履修 (1) 取得予定単位数 _____ 単位 (2) 履修予定科目名 _____ ウ 博士の学位取得(論文博士)
2 研 修 目 的	
3 研 修 先	_____ 大学大学院 _____ 研究科 _____ 専攻
4 研 修 期 間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで
5 在 職 研 修 歴 の 有 無	有 ・ 無
6 経 費 等 (金額のわかる資 料を添付のこ と)	ア 大学院課程修了・単位取得後満期退学 入学金 円 授業料 円 イ 科目等履修 登録料 円 履修料 円(円× 単位) ウ 博士の学位取得(論文博士) 論文審査料 円

様式第3号(第5条関係)

学 長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

推薦者 職・氏名※		印
-----------	--	---

在職研修候補者推薦書

候補者	所属	職名	氏名	推薦順位
1 研修の種類 (該当項目を ○で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得 後満期退学 イ 科目等履修 ウ 博士の学位取得(論文博士)			
2 研修先	_____大学大学院_____研究科_____専攻			
3 研修期間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで			
4 候補者に関する意見				
5 授業等への 支障の有無 〔注 ある場合は、授業計画について詳細に記入すること〕				

※ 推薦者は、学部長、研究所長のうち、該当職の方の署名、押印となります。

様式第3号(第5条関係)

令和 年 月 日

学 院 長 殿

推薦者 職・氏名	校長	㊟
----------	----	---

在職研修候補者推薦書

候補者	所属	職名	氏名	
1 研修の種類 (該当項目を ○で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得 後満期退学 イ 科目等履修 ウ 博士の学位取得(論文博士)			推薦順位
2 研 修 先	_____大学大学院_____研究科_____専攻			
3 研 修 期 間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで			
4 候補者に関する意見				
5 授業等への支障の有無 (注 ある場合は、授業計画について詳細に記入すること)				

様式第3号(第5条関係)

令和 年 月 日

学 院 長 殿

推薦者 職・氏名	園長	㊟
----------	----	---

在職研修候補者推薦書

候補者	所属	職名	氏名	
1 研修の種類 (該当項目を○で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期)・単位取得後満期退学 イ 科目等履修 ウ 博士の学位取得(論文博士)			推薦順位
2 研修先	_____大学大学院_____研究科_____専攻			
3 研修期間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで			
4 候補者に関する意見				
5 授業等への支障の有無 (注 ある場合は、授業計画について詳細に記入すること)				

様式第4号(第11条関係)

学部長	学科長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____ 学科

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 変 更 許 可 願

私、在職研修員として、先に在職研修計画書を提出しましたが、下記のとおり研修計画を変更したいので、許可くださいますようお願いいたします。

記

変 更 理 由	
変更後の研修計画	別紙のとおり

注：変更後の研修計画は、すでに提出している在職研修計画書(様式第2号)を使用し、変更部分について朱書きしたものを添付すること。

様式第4号(第11条関係)

研究所長・センター長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 変 更 許 可 願

私、在職研修員として、先に在職研修計画書を提出しましたが、下記のとおり研修計画を変更したいので、許可くださいますようお願いいたします。

記

変 更 理 由	
変更後の研修計画	別紙のとおり

注：変更後の研修計画は、すでに提出している在職研修計画書(様式第2号)を使用し、変更部分について朱書きしたものを添付すること。

様式第4号(第11条関係)

共通教
育部長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊦

在 職 研 修 変 更 許 可 願

私、在職研修員として、先に在職研修計画書を提出しましたが、下記のとおり研修計画を変更したいので、許可くださいますようお願いいたします。

記

変 更 理 由	
変更後の研修計画	別紙のとおり

注：変更後の研修計画は、すでに提出している在職研修計画書(様式第2号)を使用し、変更部分について朱書きしたものを添付すること。

様式第4号(第11条関係)

校 長	副 校 長	教 頭

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 附属中学校・高等学校

職 名 教 諭

氏 名 _____ ㊦

在 職 研 修 変 更 許 可 願

私、在職研修員として、先に在職研修計画書を提出しましたが、下記のとおり研修計画書を変更したいので、許可くださいますようお願いいたします。

記

変 更 理 由	
変 更 研 修 計 画 書	別紙のとおり

注：変更後の研修計画は、すでに提出している在職研修計画書(様式第2号)を使用し、変更部分について朱書きしたものを添付すること。

様式第4号(第11条関係)

園長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 附属幼稚園

職 名 教 諭

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 変 更 許 可 願

私、在職研修員として、先に在職研修計画書を提出しましたが、下記のとおり研修計画を変更したいので、許可くださいますようお願いいたします。

記

変 更 理 由	
変 更 研 修 計 画 書	別紙のとおり

注：変更後の研修計画は、すでに提出している在職研修計画書(様式第2号)を使用し、変更部分について朱書きしたものを添付すること。

様式第5号(第13条関係)

学部長	学科長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

在 職 研 修 報 告 書

1 研修の種類 (該当項目を○ で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・単位取得後満期退学 <修了者は修了証明書を、満期退学者は単位修得証明書を添付のこと> イ 科目等履修<単位修得証明書を添付のこと> ウ 博士の学位取得(論文博士)<学位記の写しを添付のこと>																				
2 研 修 先	_____大学大学院_____研究科_____専攻																				
3 研 修 期 間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで																				
4 研修に要した 費用	ア 大学院の課程修了・博士課程単位取得後満期退学 <入学金・授業料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">経 費</td> <td style="text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>入学金 円</td> <td>入学金全額 円</td> </tr> <tr> <td>授業料 円</td> <td>授業料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計 円</td> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> </tr> </table> イ 科目等履修<登録料、履修料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">経 費</td> <td style="text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>登録料 円</td> <td>登録料全額 円</td> </tr> <tr> <td>履修料 円</td> <td>履修料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計 円</td> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> </tr> </table> ウ 博士の学位取得<学位記の写し、論文審査料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">経 費</td> <td style="text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>論文審査料 円</td> <td>論文審査料全額 円</td> </tr> </table>	経 費	補助予定額	入学金 円	入学金全額 円	授業料 円	授業料×0.5 円	合計 円	合 計 円	経 費	補助予定額	登録料 円	登録料全額 円	履修料 円	履修料×0.5 円	合計 円	合 計 円	経 費	補助予定額	論文審査料 円	論文審査料全額 円
経 費	補助予定額																				
入学金 円	入学金全額 円																				
授業料 円	授業料×0.5 円																				
合計 円	合 計 円																				
経 費	補助予定額																				
登録料 円	登録料全額 円																				
履修料 円	履修料×0.5 円																				
合計 円	合 計 円																				
経 費	補助予定額																				
論文審査料 円	論文審査料全額 円																				
5 研修報告の詳細については、A4判横書き10枚(4000字)程度の文書にまとめ、この研修報告書に添付して提出すること。																					

様式第5号(第13条関係)

研 究 所・セ ンター長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ (印)

在 職 研 修 報 告 書

1 研修の種類 (該当項目を○ で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・単位取得後満期退学 <修了者は修了証明書を、満期退学者は単位修得証明書を添付のこと> イ 科目等履修<単位修得証明書を添付のこと> ウ 博士の学位取得(論文博士)<学位記の写しを添付のこと>																				
2 研修先	_____大学大学院_____研究科_____専攻																				
3 研修期間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで																				
4 研修に要した 費用	ア 大学院の課程修了・博士課程単位取得後満期退学 <入学金・授業料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"><u>経 費</u></td> <td style="width: 50%;"><u>補助予定額</u></td> </tr> <tr> <td>入学金 円</td> <td>入学金全額 円</td> </tr> <tr> <td>授業料 円</td> <td>授業料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td>合 計 円</td> <td>合 計 円</td> </tr> </table> イ 科目等履修<登録料、履修料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"><u>経 費</u></td> <td style="width: 50%;"><u>補助予定額</u></td> </tr> <tr> <td>登録料 円</td> <td>登録料全額 円</td> </tr> <tr> <td>履修料 円</td> <td>履修料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td>合 計 円</td> <td>合 計 円</td> </tr> </table> ウ 博士の学位取得<学位記の写し、論文審査料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"><u>経 費</u></td> <td style="width: 50%;"><u>補助予定額</u></td> </tr> <tr> <td>論文審査料 円</td> <td>論文審査料全額 円</td> </tr> </table>	<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>	入学金 円	入学金全額 円	授業料 円	授業料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>	登録料 円	登録料全額 円	履修料 円	履修料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>	論文審査料 円	論文審査料全額 円
<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>																				
入学金 円	入学金全額 円																				
授業料 円	授業料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>																				
登録料 円	登録料全額 円																				
履修料 円	履修料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>																				
論文審査料 円	論文審査料全額 円																				
5 研修報告の詳細については、A4判横書き10枚(4000字)程度の文書にまとめ、この研修報告書に添付して提出すること。																					

様式第5号(第13条関係)

共通教育部長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ (印)

在 職 研 修 報 告 書

1 研修の種類 (該当項目を○ で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・単位取得後満期退学 <修了者は修了証明書を、満期退学者は単位修得証明書を添付のこと> イ 科目等履修<単位修得証明書を添付のこと> ウ 博士の学位取得(論文博士)<学位記の写しを添付のこと>																				
2 研 修 先	_____大学大学院_____研究科_____専攻																				
3 研 修 期 間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで																				
4 研修に要した 費用	ア 大学院の課程修了・博士課程単位取得後満期退学 <入学金・授業料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">経 費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>入学金 円</td> <td>入学金全額 円</td> </tr> <tr> <td>授業料 円</td> <td>授業料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td>合 計 円</td> <td>合 計 円</td> </tr> </table> イ 科目等履修<登録料、履修料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">経 費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>登録料 円</td> <td>登録料全額 円</td> </tr> <tr> <td>履修料 円</td> <td>履修料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td>合 計 円</td> <td>合 計 円</td> </tr> </table> ウ 博士の学位取得<学位記の写し、論文審査料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">経 費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>論文審査料 円</td> <td>論文審査料全額 円</td> </tr> </table>	経 費	補助予定額	入学金 円	入学金全額 円	授業料 円	授業料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	経 費	補助予定額	登録料 円	登録料全額 円	履修料 円	履修料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	経 費	補助予定額	論文審査料 円	論文審査料全額 円
経 費	補助予定額																				
入学金 円	入学金全額 円																				
授業料 円	授業料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
経 費	補助予定額																				
登録料 円	登録料全額 円																				
履修料 円	履修料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
経 費	補助予定額																				
論文審査料 円	論文審査料全額 円																				
5 研修報告の詳細については、A4判横書き10枚(4000字)程度の文書にまとめ、この研修報告書に添付して提出すること。																					

様式第5号(第13条関係)

校 長	副 校 長	教 頭

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

在 職 研 修 報 告 書

1 研修の種類 (該当項目を○ で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・単位取得後満期退学 <修了者は修了証明書を、満期退学者は単位修得証明書を添付のこと> イ 科目等履修<単位修得証明書を添付のこと> ウ 博士の学位取得(論文博士)<学位記の写しを添付のこと>																				
2 研 修 先	_____大学大学院 _____ 研究科 _____ 専攻																				
3 研 修 期 間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで																				
4 研修に要した 費用	ア 大学院の課程修了・博士課程単位取得後満期退学 <入学金・授業料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">経 費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>入学金 円</td> <td>入学金全額 円</td> </tr> <tr> <td>授業料 円</td> <td>授業料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> </tr> </table> イ 科目等履修<登録料、履修料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">経 費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>登録料 円</td> <td>登録料全額 円</td> </tr> <tr> <td>履修料 円</td> <td>履修料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> </tr> </table> ウ 博士の学位取得<学位記の写し、論文審査料の領収書を添付のこと> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">経 費</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">補助予定額</td> </tr> <tr> <td>論文審査料 円</td> <td>論文審査料全額 円</td> </tr> </table>	経 費	補助予定額	入学金 円	入学金全額 円	授業料 円	授業料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	経 費	補助予定額	登録料 円	登録料全額 円	履修料 円	履修料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	経 費	補助予定額	論文審査料 円	論文審査料全額 円
経 費	補助予定額																				
入学金 円	入学金全額 円																				
授業料 円	授業料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
経 費	補助予定額																				
登録料 円	登録料全額 円																				
履修料 円	履修料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
経 費	補助予定額																				
論文審査料 円	論文審査料全額 円																				
5 研修報告の詳細については、A4判横書き10枚(4000字)程度の文書にまとめ、この研修報告書に添付して提出すること。																					

様式第5号(第13条関係)

園 長

令和 年 月 日

学 院 長 殿

所 属 _____

職 名 _____

氏 名 _____ ㊟

在 職 研 修 報 告 書

1 研修の種類 (該当項目を○ で囲む)	ア 大学院課程修了(修士・博士後期) ・単位取得後満期退学 <修了者は修了証明書を、満期退学者は単位修得証明書を添付のこと> イ 科目等履修<単位修得証明書を添付のこと> ウ 博士の学位取得(論文博士)<学位記の写しを添付のこと>																				
2 研修先	_____大学大学院_____研究科_____専攻																				
3 研修期間	令和 年 月 日から (年 か月) 令和 年 月 日まで																				
4 研修に要した費用	ア 大学院の課程修了・博士課程単位取得後満期退学 <入学金・授業料の領収書を添付のこと> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>経 費</u></td> <td style="text-align: center;"><u>補助予定額</u></td> </tr> <tr> <td>入学金 円</td> <td>入学金全額 円</td> </tr> <tr> <td>授業料 円</td> <td>授業料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> </tr> </table> イ 科目等履修<登録料、履修料の領収書を添付のこと> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>経 費</u></td> <td style="text-align: center;"><u>補助予定額</u></td> </tr> <tr> <td>登録料 円</td> <td>登録料全額 円</td> </tr> <tr> <td>履修料 円</td> <td>履修料×0.5 円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計 円</td> </tr> </table> ウ 博士の学位取得<学位記の写し、論文審査料の領収書を添付のこと> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>経 費</u></td> <td style="text-align: center;"><u>補助予定額</u></td> </tr> <tr> <td>論文審査料 円</td> <td>論文審査料全額 円</td> </tr> </table>	<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>	入学金 円	入学金全額 円	授業料 円	授業料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>	登録料 円	登録料全額 円	履修料 円	履修料×0.5 円	合 計 円	合 計 円	<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>	論文審査料 円	論文審査料全額 円
<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>																				
入学金 円	入学金全額 円																				
授業料 円	授業料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>																				
登録料 円	登録料全額 円																				
履修料 円	履修料×0.5 円																				
合 計 円	合 計 円																				
<u>経 費</u>	<u>補助予定額</u>																				
論文審査料 円	論文審査料全額 円																				
5 研修報告の詳細については、A4判横書き10枚(4000字)程度の文書にまとめ、この研修報告書に添付して提出すること。																					

様式第 1 号 (第 4 条関係)

様式第 2 号 (第 4 条関係)

様式第 3 号 (第 5 条関係)

様式第 4 号 (第 11 条関係)

様式第 5 号 (第 13 条関係)

定 年 に 関 す る 規 定

○ 武庫川学院職員就業規則（抜粋）

（定義）

第2条 この規則における職員とは、第2章に定める手続により学院に採用された専任の教育職員、事務職員及び技能労務職員をいう。

2 前項職員の資格は別表1に定めるとおりとし、任用、判定基準その他については別に定める。

（任命権者）

第4条 職員の任命その他人事に関する権限は、任命権者がこれを行う。

2 前項の任命権者は、理事長とする。

（定年）

第17条 職員は、次の年齢に達した年度の3月末日をもって定年退職となる。

(1) 教育職員(本条第2号の職員を除く)、事務職員及び技能労務職員 満66歳

(2) 附属幼稚園の教育職員 満60歳

2 附属幼稚園の教育職員については定年到達者が引き続き勤務を希望した場合、臨時職員、嘱託職員等の身分にて、原則として65歳に達した年度の3月末日まで継続雇用する。なお、当該雇用期間の身分については、職員個別に定める。

3 前項の定めにかかわらず、次のいずれかに該当した場合は継続雇用しない。

(1) 心身の故障のため業務に堪えられないと認められた場合

(2) 勤務状況が著しく不良で、引き続き職責を果たし得ないと認められた場合

(3) その他、就業規則に定める解雇事由又は退職事由(年齢に係るものを除く)に該当する場合

4 業務の都合により、特に任命権者が必要があると認めた者については、第1項の規定にかかわらず定年を延長することがある。

○武庫川女子大学自己評価委員会規則

平成3年11月1日

規則第1号

改正 平成6年10月1日

平成7年4月1日

平成19年4月1日

平成26年4月1日

平成29年4月1日

令和2年5月1日

令和3年4月1日

(設置)

第1条 武庫川女子大学学則第4条の規定に基づき、武庫川女子大学に自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、教育研究水準の向上に資するため、武庫川女子大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、全学的な自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することを目的とする。

(委員会の組織)

第3条 委員会は、次にかかげる委員をもって組織し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 理事のうちから選任されたもの
- (6) 事務局長
- (7) 教学局長
- (8) 教学局次長
- (9) 教務部長
- (10) 入試センター長
- (11) 学生部長
- (12) キャリアセンター長

- (13) 教育研究所長
- (14) 大学事務室統括部長
- (15) その他学長が必要と認めたもの
(会議)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、議長は副学長のうちから学長が指名する。
- 3 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 4 委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針の策定に関する事項
- (2) 自己点検・評価の実施、組織及び体制に関する事項
- (3) 自己点検・評価報告書の作成に関する事項
- (4) 自己点検・評価結果に基づき改善・改革の取り組みに関する事項
- (5) 自己点検・評価結果の公表に関する事項
- (6) 認証評価及びその他の第三者評価に関する事項
- (7) その他委員長が必要と認めた事項

(学部自己評価委員会)

第6条 各学部自己点検・評価を実施するために学部自己評価委員会を委員会の下に置く。

- 2 学部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(共通教育部自己評価委員会)

第7条 共通教育部自己点検・評価を実施するために共通教育部自己評価委員会を委員会の下に置く。

- 2 共通教育部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(自己点検・評価の実施方法)

第8条 第6条及び第7条に規定する各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて委員会に報告するものとする。

(委員の任期)

第9条 各委員会の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となっ

た者の任期は、前任者の残任期間とする。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、委員会の議を経て、学長がこれを行う。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会について必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成3年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成6年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年5月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学学部自己評価委員会規程

平成29年4月1日

規程第3号

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学自己評価委員会規則第6条の規定に基づき、各学部の自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を実施する学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。

- (1) 学部長
- (2) 学科長
- (3) 幹事教授
- (4) 事務長
- (5) その他委員長が必要と認めたもの

(会議)

第3条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 4 委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(自己点検・評価項目)

第4条 委員会は、次に掲げる項目について自己点検・評価を実施する。

- (1) 理念・目的に関する事項
- (2) 教育課程・学習成果に関する事項
- (3) 学生の受け入れに関する事項
- (4) 教員・教員組織に関する事項
- (5) その他自己点検・評価に必要な事項

(学科自己評価委員会)

第5条 複数の学科を有する学部の委員会に、学科単位の自己評価委員会を置くことができる。

- 2 学科自己評価委員会は、学部長の委嘱する委員若干名をもって組織し、会議は学科長が

招集して、その議長となる。

(任期)

第6条 委員会の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(報告)

第7条 委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて武庫川女子大学自己評価委員会に報告する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学部事務室がこれを担当する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、武庫川女子大学自己評価委員会の議を経て、学長が行う。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学FD推進委員会規程

平成20年1月1日

規程第1号

改正 平成23年4月1日

平成24年4月1日

平成26年4月1日

平成27年4月1日

平成29年4月1日

平成31年4月1日

令和2年4月1日

(目的)

第1条 武庫川女子大学の教育理念及び学部等の教育目標の実現を目指し、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善に資することを主たる目的とし、大学全体で組織的に教育水準の質的向上を推進するため、学長の下に、武庫川女子大学FD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 文学部各学科から推薦された委員 各1名 計3名
- (2) 教育学部から推薦された委員 1名
- (3) 健康・スポーツ科学部から推薦された委員 1名
- (4) 生活環境学部各学科から推薦された委員 各1名 計2名
- (5) 食物栄養科学部から推薦された委員 1名
- (6) 建築学部から推薦された委員 1名
- (7) 音楽学部から推薦された委員 1名
- (8) 薬学部から推薦された委員 1名
- (9) 看護学部から推薦された委員 1名
- (10) 経営学部から推薦された委員 1名
- (11) 共通教育部から推薦された委員 1名
- (12) 教務部長
- (13) 学長が委嘱する委員 若干名

- 2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、学長が指名する。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項
- (2) 教員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項
- (4) FD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 各学科の教員へのFD活動の啓発に関する事項
- (6) 教員の教授活動の支援に関する事項
- (7) その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回会議を開く。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
- 4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、教育開発推進室教育開発・IR推進課が担当する。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、FD推進委員会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年1月1日から施行する。
- 2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成20年1月1日から平成21年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2022年度 新任教員研修プログラム

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、プログラム内容が変わる可能性があります。

研修目的	本学院は、2039年までのビジョンとして「一生を描ききる女性力を。」を掲げ、「立学の精神」にうたわれる“高い知性、善美な情操、高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成を具現化することを宣言しました。本学の教職員は、これらを受けて、幅広い教養と豊かな人間性をはぐくむ全人教育を実践し、人・家庭・社会に貢献できる女性の育成に寄与することを目指しています。 MUKUJO Principles 2019→2039においては、女性一人ひとりのライフデザインを支える総合大学の教育として、教育の面では8つの目標を掲げ、さまざまな先駆的な取組みを進めようとしています。 さらに内部質保証を重視した認証評価受審が本学においても2022年度に実施されることとなり、大学全体として教育の質を高めることがより一層求められています。 本研修では、本学に新規採用された教員に対して、本学でこれまで取り組まれてきた大学教育を展開するための知識と技能を共有するとともに、MUKUJO Principles 2019→2039を共有し、お互いが持っている技能や大学教育に対する想いを紡ぎ合わせるにより、教員自身の考えによって教育をさらに良くしていく力の形成を目的としています。これにより、新しい武庫川の姿を考える力、教員の専門領域を超えた新しい教育が創発されることを目指しています。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 本学の教員として教育活動を行うために、これまで本学において取り組まれてきた教育改革・改善の基礎知識や手法、教育インフラを理解しそれらを自身の教育に活用できる。 2 授業の創意工夫を行うための基礎となる考え方や評価方法、集団におけるコミュニケーション能力を修得し、学生の能力を引き出すことができる。 3 教育の質向上のために教員同士が切磋琢磨できる関係を築きあげ、学院全体の教育力の向上に繋げることができる。 4 さらなる改善に向けての、具体的な形での改革・提案を示すことができる。

15回のプログラムで構成されています。対象者を1班5名程度のグループに編成し、研修を展開します。(注1) 対面実施が難しい状況となった場合は、オンラインでの研修実施とする。

チーフコーディネータ：副学長・教育開発推進室長 河合 優年

教室：文学部2号館3階アクティブ・ラーニング教室 L2-31教室

実施日 (水曜2時限) 10:55~12:25		授業方法 (注1)	ユニット	テーマ	内容	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	GW	研修担当者(案)	アドバイザー
初 回 レ ク ル ス	4月13日	対面	本学に関する 知識の定着	本学で共に働くにあたって 本学の実情を知る (1)	学長・事務局長メッセージ、現在の本学の状況について	○					学長 瀬口 和義 事務局長 瀧居 豊	教育開発推進室
					本研修の目的とゴール・アイスブレイク			◎				
2回目	4月20日	online		本学で共に働くにあたって 本学の実情を知る (2)	新たな時代の大学に求められるものと本学の課題 (1) (本学の教育の現状と成果、自己点検評価結果(認証評価)ととりまとめの結果から)	◎	○				副学長・教学局長 山崎 彰 法人課 課長補佐 星山 一剛	
3回目	4月27日	対面			新たな時代の大学に求められるものと本学の課題 (2) (グループ内での問題意識の共有)	◎	○	○		○	副学長・教育開発推進室長 河合 優年 教育開発・IR推進課 課長 田中 邦子	未定
4回目	5月11日	online	資源のアーカイブ*1 授業設計・教育方法 ・教育評価	3つのポリシーと教育課程 (1)	3つのポリシー・カリキュラムツリー・ナンバリング等、体系的教育の理解	◎				○	愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 講師 竹中 喜一	—
5回目	5月18日	対面		3つのポリシーと教育課程 (2)	所属する組織の教育目標の理解とグループ内での問題意識の共有	○		◎		○	副学長・教育開発推進室長 河合 優年	未定
6回目	5月25日	online		授業デザイン	授業デザインとは(授業デザインとシラバス作成)	○	◎			○	愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 講師 竹中 喜一	—
7回目	6月1日	online		概念理解の形成を助ける工夫	さまざまな授業方法(遠隔・対面、ICTの活用、能動的学修の方法など)	○	◎			○*	共通教育部 准教授 寺井 朋子	未定
8回目	6月8日	online		授業における評価	さまざまな評価方法 (形成的評価・量的評価・質的評価・ポートフォリオ・ルーブリック)	○	◎			○	愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 講師 竹中 喜一	—
9回目	6月15日	対面		授業設計・教育方法・教育評価の振り返り	第6回~8回目の振り返りワーク (グループ内での問題意識の共有)	○	○	◎		○*	副学長・教育開発推進室長 河合 優年	過去の修了生
10回目	6月22日	online	資源のアーカイブ*2 授業運営	実際の授業見学	実際に行われている授業への参観	○	◎	◎			参観する授業の科目担当者	—
11回目	6月29日	online		授業見学の振り返り	授業見学を踏まえての振り返り	◎	○	◎		○*	副学長・教育開発推進室長 河合 優年	未定
12回目	7月6日	対面/online	アーカイブ*の活用	提案資料の検討	本学の教育改革・授業改善に繋がる提案に向けての検討	○	○	◎	◎	○	副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊	—
13回目	7月13日	対面		提案発表	本学の教育改革・授業改善に繋がる提案内容の発表	○	○	◎	◎	○	学 長 瀬口 和義 副学長・教学局長 山崎 彰 副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊	教育開発推進室
14回目	7月20日	対面		提案発表	本学の教育改革・授業改善に繋がる提案内容の発表	○	○	◎	◎	○	学 長 瀬口 和義 副学長・教学局長 山崎 彰 副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊	
15回目	7月27日	対面	振り返り	研修のまとめ・意見交換会	研修内容の振り返り、学長、副学長、事務局長を交えた意見交換会、修了証授与	○	○	◎		○	学 長 瀬口 和義 副学長・教学局長 山崎 彰 副学長・教育開発推進室長 河合 優年 事務局長 瀧居 豊	

* 学外紹介資料については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、キャンパスマップおよび施設紹介の動画資料をClassroomに格納

GW：グループワーク
(グループワーク時には研修担当者または学科長・修了生がアドバイザーとして参加します)

○*の回はグループ構成を変更して実施

SD推進委員会規程

(目的)

第1条 学校法人武庫川学院の立学の精神のもと、社会に役立つ有為な人材を育成するために、事務職員（以下「職員」という。）の教育・研究に対する提案力と支援業務の対応能力の向上、および、法人・組織の管理運営に対する企画力と管理運営業務の対応能力の向上を推進するため、事務局長の下に、武庫川学院SD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、事務局長、教学局長、人事部長から推薦された委員10名程度で構成する。

2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、事務局長が指名する。

3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 本規程に掲げる目的達成に必要な人事諸施策の改革・改善に関する事項
- (2) 職員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 職員の業務対応能力の相互研鑽に関する事項
- (4) SD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 事務局各部署の職員へのSD活動の啓発に関する事項
- (6) FD活動との連携・調整に関する事項
- (7) その他、事務局長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回以上会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、人事部が担当する。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

1 この規程は、平成27年7月1日から施行する。

2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成27年7月1日から平成29年3月31日までとする。

武庫川女子大学社会情報学部 学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
①学生の確保の見通し	・・・・・・ p. 2
ア 定員充足の見込み	・・・・・・ p. 2
1 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み	・・・・・・ p. 2
2 定員超過率が0.7倍未満の学科について	・・・・・・ p. 2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	・・・・・・ p. 3
1 18歳人口推移	・・・・・・ p. 3
2 女子の進学動向	・・・・・・ p. 4
3 分野別志願動向	・・・・・・ p. 4
4 同分野を有する近隣競合校の志願状況	・・・・・・ p. 6
5 既存学部学科の状況	・・・・・・ p. 7
6 受験対象者への進学需要調査	・・・・・・ p. 7
ウ 学生納付金の設定の考え方	・・・・・・ p. 9
②学生確保に向けた具体的な取組状況	・・・・・・ p. 11
1 学生確保の取り組み	・・・・・・ p. 11
2 定員超過率が0.7倍未満の学科について	・・・・・・ p. 13
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	・・・・・・ p. 13
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもの であることの客観的な根拠	・・・・・・ p. 14
1 社会的な人材需要	・・・・・・ p. 14
2 企業及び事業所への人材需要に関する採用意向調査	・・・・・・ p. 15
3 既存学部学科の就職状況・求人状況	・・・・・・ p. 16

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

武庫川女子大学社会情報学部（以下、本学部という。）の入学定員については、情報ネットワークの高度化、ビッグデータの活用、AIの発展により到来するスマート社会において、社会情報学分野における高度な専門的な知識や技術、人間性を身につけた指導的立場の女性を育成するという設置目的を実現するため、養成する人材に係る社会的・地域的な需要を踏まえるとともに、教育研究活動の実施方法に留意しつつ、私立大学として安定的な財務基盤を築くことを前提に設定した。

18歳人口の推移、女子の大学進学等の状況、他大学情報系学部の大学進学への入学志願状況、本学既存学科の学生募集の状況、その他様々な状況とデータを比較分析して想定した。そのうえで、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある教育機関等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案したうえで、十分な定員充足を見込むことができる入学定員として **180人に設定**した。

社会情報学部の設置に係る定員変更

生活環境学部情報メディア学科(廃止)			⇒	社会情報学部 社会情報学科(新設)		
入学定員	編入学定員	収容定員		入学定員	編入学定員	収容定員
150人	—	600人		<u>180人</u>	—	<u>720人</u>

2 定員超過率が0.7倍未満の学科について

令和4年度の入試結果を受けて、音楽学部演奏学科の4年間の平均入学定員超過率が0.7倍未満(0.60倍)となった。定員未充足の原因は、伝統的なクラシック音楽を学ぶ音楽大学・音楽学部への進学率の低下及び新型コロナウイルス感染拡大による影響と分析している。また、全国的にミュージカルやデジタル機器を駆使したオリジナル音楽を志向する傾向にあり、中学および高校のクラブ活動で音楽を続けた生徒はクラシック音楽を専門とする進学には直接的には結びつかず、進学者減少に拍車をかけている。コロナ禍の中、経済状況に好転の兆しがなく学校教育とは別の場での音楽教育が衰退し、演奏家を取り巻く環境改善の見通しが困難な中では、就職が難航すると予想される音楽学部を敬遠する傾向にあるものと分析している。

また併設の武庫川女子大学短期大学部に設置している7学科のうち、日本語文化学科(平

均入学定員超過率 0.51 倍) 英語キャリア・コミュニケーション学科 (同 0.32 倍)、幼児教育学科 (同 0.51 倍)、心理・人間関係学科 (同 0.49 倍)、健康・スポーツ学科 (同 0.52 倍) 及び食生活学科 (同 0.61 倍) の 6 学科において 2 年間の平均入学定員超過率が 0.7 倍未満となった。

令和 3 年度学校基本調査によると大学進学率は 54.9%であるのに対して短期大学への進学率は過去最低の 4.0%を記録した。また、文部科学省が令和 3 年 2 月にとりまとめた「私立学校の経営状況について (概要)」によると、令和 2 年度における入学定員未充足の短期大学の割合は 73.9%であり、また、入学定員の 80%以上に満たない短期大学の割合は全体の約 35%と、全国的な短大離れの傾向は止まらない。武庫川女子大学短期大学部においても、平成 27 年度以降毎年定員未充足の状況が続いていたが、令和 3 年度入試からその傾向がさらに顕著となり、短期大学部全体の入学定員 700 人に対して入学者は 365 人 (入学定員超過率 0.52 倍) という厳しい結果となった。現在、短期大学部の収容定員は 7 学科 1,400 人と、わが国における短期大学の中でも有数の規模であるが、この定員規模を維持することは難しいと分析しており、大学の学部学科の充実とあわせて短大定員設定の在り方を見直し、教育・研究に係る人的・物的資源を大学に集中させる構想を進めている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1 18 歳人口の推移

文部科学省が「学校基本調査」や国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」を元に作成した資料「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」によると、平成 21～令和 2 年頃までほぼ横ばいで推移してきた 18 歳人口は、令和 3 年頃から再び減少局面に突入し、令和 22 年には約 88 万人まで減少することが予測されている。

また、中央教育審議会大学分科会将来構想部会で配付された「高等教育に関する基礎データ」によると、本学の所在する兵庫県の 18 歳人口は、平成 29 年の 54,774 人から令和 22 年には 39,050 人まで減少すると推計されている。隣接する大阪府についても 85,687 人から 58,280 人まで減少すると予測されており、20 年間で 18 歳人口は約 3 割減少する。

株式会社リクルートの調査研究機関「リクルート進学総研」が、文部科学省「学校基本調査」のデータを基に分析した「18 歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」(令和 3 年 4 月発表)によると、令和 2 年の近畿エリア 2 府 4 県の 18 歳人口は 195,001 人で、その中でも本学の設置圏域である大阪府は 81,797 人、兵庫県は 52,305 人と近畿全体の 7 割近くを占めている。今後の 18 歳人口の推移をみると、令和 5 年から 4 年間は、近畿エリア全体で 181,639 人⇒175,501 人⇒179,248 人⇒179,159 人とほぼ横ばいもしくは微減となると予測されている。また、令和 2 年の近畿エリア全体の女子 18 歳人口は 95,085 人、その中でも大阪府は 39,667 人、兵庫県は 25,631 人であるが、令和 4 年から 4 年間は近畿エリア全体で 90,742 人⇒88,985 人⇒85,362 人⇒87,843 人とほぼ横ばい傾向で推移し、その後、令和 10 年には 85,448 人、令和 14 年には 81,153 人へと減少することが

予測されている。

以上のことから、長期的には18歳人口は減少するが、本学が立地する近畿エリアにおいては中期的な傾向として大学受験対象者数は横ばいであり、長期的にも大きく減少することはないものと見込まれる。

【資料1 リクルート進学総研マーケットリポート 2021年4月号】

2 女子の進学動向

18歳人口の減少の一方で、女子の大学進学率は増加が続いている。近畿エリアの女子の大学進学率は平成23年で49.1%であったが、令和2年には55.2%と、6.1ポイントも上昇している。先の「リクルート進学総研」の調査によると、進学者数も平成23年の41,889人から令和5年には47,717人と5,828人へと増加し、女子については大学進学者数が増加傾向にあることが分かる。

また、令和2年度の「学校基本調査」によると、全国の大学学部の女子学生数は、119万3千人と、前年度より1万人増加し、過去最多を記録した。また、学生全体に占める女子の割合は45.5%（前年度より0.1ポイント上昇）で過去最高となった。以上のことから、18歳人口は日本全体で漸減傾向にあるものの、大学入学対象者が激減することはなく、特に女子の大学進学意欲は旺盛であり、女子を募集対象とする女子大学である本学は、中長期的に安定した志願者・入学者の確保を目指せるものと見込んでいる。

3 分野別志願動向

日本私立学校振興・共済事業団では、全国の私立大学を対象に実施している「学校法人基礎調査」から各大学の入学者数等の状況を集計し、『私立大学・短期大学等入学志願動向』として報告書を発行している。令和3年9月に発行された同報告書の最新版によると私立大学の情報系学部の志願者数等は以下のとおりである。

年度	情報科学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	4	1,046	19,740	1,139	108.89
平成30年度	4	1,046	22,836	1,075	102.77
平成31年度	4	1,046	26,130	1,126	107.65
令和2年度	4	1,046	27,781	1,136	108.60
令和3年度	4	1,090	29,130	1,237	113.49
平均	4	1,055	25,123	1,143	108.28

年度	情報学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	10	2,220	15,003	2,315	104.28
平成30年度	10	2,220	16,707	2,308	103.96
平成31年度	9	2,020	20,458	2,247	111.24
令和2年度	9	2,040	22,907	2,155	105.64
令和3年度	9	2,040	21,409	2,234	109.51
平均	9	2,108	19,297	2,252	106.93

年度	総合情報学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	6	1,645	10,588	1,726	104.92
平成30年度	6	1,685	12,350	1,818	107.89
平成31年度	6	1,685	15,209	1,800	106.82
令和2年度	6	1,685	15,667	1,779	105.58
令和3年度	6	1,685	13,207	1,786	105.99
平均	6	1,677	13,404	1,782	106.24

年度	メディア学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	学部数僅少のためデータなし				
平成30年度	3	730	3,632	755	103.42
平成31年度	3	790	4,759	814	103.04
令和2年度	3	790	5,295	865	109.49
令和3年度	3	790	4,994	843	106.71
平均	3	775	4,670	819	105.67

年度	情報メディア学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成29年度	3	370	543	340	91.89
平成30年度	3	370	716	374	101.08
平成31年度	3	370	883	430	116.22
令和2年度	3	370	1,188	391	105.68
令和3年度	3	370	1,012	414	111.89
平均	3	370	868	390	105.35

令和3年度時点で、私立大学には「情報科学部」が4学部、「情報学部」は9学部、「総合情報学部」は6学部、「メディア学部」は3学部、「情報メディア学部」は3学部あり、入学定員の合計は5,975人となっている。これら25学部の入学定員総合計5,975人に対し、志願者数は69,752人と11.67倍の高い志願倍率を有しており、入学者数は令和2年度よりも188人増加している。また、入学定員充足率についても5か年平均で情報科学部は108.28%、情報学部で106.93%、総合情報学部で106.24%、メディア学部で105.67%、情報メディア学部で105.35%と、情報系学部では安定した志願者数の確保と定員充足を達成していることが分かる。

また、入学定員充足率についても令和2年度は107.00%、令和3年度は109.52%と、受験生から非常に人気の高い学部となっている。『私立大学・短期大学等入学志願動向』によると、令和3年度の私立大学全体に占める未充足校の割合は、前年度から15.4ポイント上昇して46.4%となったが、そのような状況下においても本学部と同じ情報系学部では安定した志願者数の確保と定員充足を達成していることが分かる。

4 同分野を有する近隣競合校の志願状況

令和3年度に本学に在籍する学生の出身高校の所在地を確認したところ、79.4%が兵庫県、大阪府であった。次いで奈良県、京都府の高校出身者が多く、これら2府2県の占める割合は85.8%と、在籍者の大半を占めており、本学が学生確保の基盤としているのは、兵庫県、大阪府、奈良県、京都府であることが確認できた。受験生の併願先としてもこれら府県に所在する大学の同系統学部が選ばれりと判断し、これまでの受験生の併願動向等も踏まえ、立地や教育内容から社会情報学部及の競合と想定する学科をピックアップした。当該競合校の令和元年度から3年度の一般入試募集状況は以下のとおりである。なお、志願者数のデータは、旺文社の「螢雪時代 全国大学受験年鑑 11月臨時増刊」の各年版から引用した。

[社会情報学部社会情報学科の想定競合校の一般入試募集状況（過去3年間）]

大学名	学部名	年度	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
関西大学	総合情報学部	令和3	280	5,188	5,081	866	5.9
		令和2	280	5,851	5,671	679	8.4
		令和元	280	6,483	-	708	9.2
同志社女子大学	学芸学部 メディア創造学科	令和3	67	632	629	144	4.4
		令和2	67	812	798	166	4.8
		令和元	67	704	687	141	4.9
京都女子大学	現代社会学部 現代社会学科 情報システム専攻	令和3	112	891	822	318	2.6
		令和2	17	199	196	65	3.0
		令和元	18	242	239	78	3.1

競争率（受験者数／合格者数）の過去3年間の平均は、関西大学総合情報学部が7.8倍、同志社女子大学学芸学部メディア創造学科が4.7倍、京都女子大学現代社会学部現代社会

学科情報システム専攻は2.9倍、志願倍率（志願者数／募集人数）の過去3年間の平均は、関西大学総合情報学部が20.9倍、同志社女子大学学芸学部メディア創造学科が10.7倍、京都女子大学現代社会学部現代社会学科情報システム専攻は11.0倍と安定した志願者を集めていることが分かる。関西圏の受験生の情報系学部に対する関心度は十分高いものと考えられる。

5 既存学部学科の状況

本学部は、既存の生活環境学部情報メディア学科の教員組織・教育課程を発展的に改組する形で設置する。情報メディア学科の直近5年の学生募集、定員充足の状況は下表のとおりである。

年 度	入学定員 ①	志願者 ②	志願倍率 (②/①)	入学者 ③	定員超過率 (③/①)
平成30年度	150	1,493	10.0	129	0.86
平成31年度	150	1,603	10.7	168	1.12
令和2年度	150	1,481	9.9	145	0.96
令和3年度	150	1,311	8.7	154	1.02
令和3年度	150	1,649	11.0	159	1.06
平 均	—	1,470	10.1	151	1.00

以上のとおり志願倍率は平均して約10倍であり、また入学定員150人に対して、入学者数の平均は151人、5年間の定員超過率の平均は1.00倍と、極めて適正な定員管理を行っている。

これら旺盛な進学需要の実績を踏まえれば、生活環境学部情報メディア学科を社会情報学部社会情報学科へと発展的に改組し、入学定員が150人から180人へと30人増加した場合でも、十分に入学定員の充足が可能であると判断している。

6 受験対象者への進学需要調査

令和5年4月設置の学部学科（心理・社会福祉学部、社会情報学部、健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科）の継続的な学生確保の見通しを定量的に確認することを目的として、設置圏域を中心に所在する高等学校の2年生女子に対する進学意向等に関するアンケート調査を実施した。調査は、学外の調査機関である株式会社進研アドに委託し、令和3年6月21日から8月10日の間に実施した。

本学学生の約80%が大阪府と兵庫県の高等学校の卒業者であることから、新設する学部・学科についても大阪府と兵庫県が学生確保における基盤となることは確実であり、大阪府と兵庫県の高等学校を中心に、108校20,465人に対して調査を実施した。うち、有効回答数は90校10,105人で、回答率は49.4%であった。その他、本学附属高等学校2年生

249 人からも回答を得た。

調査にあたっては、本学部の目的、特色、養成する人材像、想定される進路、入学定員、初年度納付金、交通アクセス等を明示し、有効回答 10,354 人（内訳：大阪府と兵庫県の高等学校 2 年生女子 10,105 人、本学附属高等学校 2 年生 249 人）のうち、19.9%にあたる 2,059 人が、「武庫川女子大学を受験したいと思う」と回答した。

「受験したいと思う」と回答した 2,059 人のうち、11.5%にあたる 236 人が本学部社会情報学科の情報メディア専攻に「入学したい」と回答、3.4%にあたる 69 人が本学部社会情報学科情報サイエンス専攻に「入学したい」と回答している（他学部との複数選択を不可としているため、重複なし）。

以上のことから本学部への進学需要は両専攻合計で 305 人と、入学定員 180 人の 1.7 倍となり、入学定員数を上回る入学意向者が見込まれる。なお、入学意向を示した生徒の内訳を高校所在地別にみると、本学の立地する兵庫県の高校在籍者のうち、入学意向を示したのは 182 人（情報メディア専攻 149 人、情報サイエンス専攻 33 人）であり、兵庫県だけでも入学定員を上回る入学意向者が確認できた。また、高校卒業後の希望進路別にみると本学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは 1,748 人中 264 人（情報メディア専攻 205 人、情報サイエンス専攻 59 人）であり、予定している入学定員を大きく上回っている。

さらに、開設 2 年目以降の入学ニーズを把握するため、本学附属高等学校 1 年生及び附属中学校 1 年～3 年の生徒に対しても進学意向等に関するアンケート調査を実施した。高校 1 年生 225 人、中学 3 年生 157 人、中学 2 年生 128 人、中学 1 年生 156 人から回答があった。

学年	回答者数	武庫川女子大学に 進学したい(a)	情報メディア専攻 に進学したい(b)	情報サイエンス専 攻に進学したい(c)	(b + C) / (a)
附属高校 1 年	225 人	165 人	11	6	10.3%
附属中学 3 年	157 人	120 人	14	5	15.8%
附属中学 2 年	128 人	101 人	10	6	15.8%
附属中学 1 年	156 人	124 人	7	8	12.1%

以上のように附属高校から内部進学を希望する生徒のうち、各学年で全体の 13%程度、約 20 人が本学科への進学意向があることが確認できた。本学は創設以来、「中高大一貫教育」を標榜しており、附属高校から本学への進学率は極めて高いことから入学者として見込むことができる。

【資料 2 社会情報学部リーフレット（高校生向け）】

【資料 3 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生調査】】

その他、本学に対する関西エリアの高校生の知名度・志願度や大学イメージについて、株式会社リクルートマーケティングパートナーズが「進学ブランド力調査 2021」を実施している。その結果を見てみると、「志願したい大学」で武庫川女子大学は19位（前年20位）にランクインし、私立大学では13位、女子大学では1位であった。また、男女別にみると10位（前年11位）、文理別にみると14位（前年19位）と、いずれも前年よりランクアップしており、本学に対する進学需要が高まっていることがうかがえる。

【関西】『志願したい大学ランキング』

高校所在地が関西エリアの高校生の「志願したい大学」（質問紙で4校まで選択）

志願度(関西)																			
全体				性別								文理別							
順位	学校名	区分	志願度(%)	男子				女子				文系		理系					
順位	学校名	区分	志願度(%)	順位	学校名	区分	志願度(%)	順位	学校名	区分	志願度(%)	順位	学校名	区分	志願度(%)				
1 (1)	関西大学	私	13.5	1 (1)	関西大学	私	14.5	1 (1)	関西大学	私	12.5	1 (1)	関西大学	私	17.4	1 (3)	大阪大学	国	15.5
2 (2)	近畿大学	私	10.7	2 (2)	近畿大学	私	13.6	2 (2)	関西学院大学	私	8.6	2 (3)	関西学院大学	私	12.1	2 (1)	神戸大学	国	14.9
3 (7)	同志社大学	私	8.7	3 (4)	神戸大学	国	11.3	3 (5)	同志社大学	私	8.1	3 (5)	同志社大学	私	11.9	3 (2)	大阪市立大学	公	11.7
4 (3)	関西学院大学	私	8.6	4 (8)	大阪大学	国	11.1	4 (3)	近畿大学	私	7.9	4 (2)	近畿大学	私	11.1	4 (4)	近畿大学	私	10.3
5 (8)	大阪大学	国	8.5	5 (6)	同志社大学	私	9.3	5 (4)	立命館大学	私	7.0	5 (4)	立命館大学	私	9.0	5 (6)	大阪府立大学	公	7.8
6 (6)	神戸大学	国	8.4	6 (6)	関西学院大学	私	8.7	6 (10)	大阪大学	国	5.9	6 (6)	龍谷大学	私	7.7	5 (5)	関西大学	私	7.8
7 (4)	立命館大学	私	7.7	7 (4)	大阪市立大学	公	8.5	7 (7)	大阪市立大学	公	5.7	7 (10)	神戸大学	国	5.6	7 (9)	京都大学	国	6.7
8 (5)	大阪市立大学	公	7.1	8 (3)	立命館大学	私	8.4	8 (8)	神戸大学	国	5.5	8 (7)	大阪市立大学	公	5.3	8 (7)	立命館大学	私	6.6
9 (9)	龍谷大学	私	6.0	9 (9)	龍谷大学	私	6.5	8 (6)	龍谷大学	私	5.5	8 (12)	大阪大学	国	5.3	9 (12)	京都工芸繊維大学	国	4.7
10 (10)	大阪府立大学	公	4.3	10 (12)	大阪府立大学	公	4.7	10 (11)	武庫川女子大学	私	5.0	8 (9)	甲南大学	私	5.3	9 (14)	摂南大学	私	4.7
11 (10)	甲南大学	私	4.0	11 (10)	京都産業大学	私	4.6	11 (12)	同志社女子大学	私	4.5	11 (8)	関西外国語大学	私	4.7	11 (11)	同志社大学	私	4.5
12 (12)	京都産業大学	私	3.5	12 (11)	甲南大学	私	4.4	12 (9)	関西外国語大学	私	4.0	12 (11)	京都産業大学	私	4.6	11 (13)	兵庫県立大学	公	4.5
13 (15)	京都大学	国	3.3	13 (13)	京都大学	国	4.2	13 (13)	大阪府立大学	公	3.9	13 (13)	神戸学院大学	私	3.3	13 (10)	大阪工業大学	私	4.0
14 (14)	摂南大学	私	3.2	14 (14)	摂南大学	私	3.1	14 (14)	甲南大学	私	3.6	14 (15)	追手門学院大学	私	3.2	14 (8)	関西学院大学	私	3.9
15 (13)	関西外国語大学	私	2.9	15 (15)	大阪工業大学	私	3.0	15 (23)	摂南大学	私	3.4	14 (19)	武庫川女子大学	私	3.2	15 - *	大阪医科大学	私	3.1
16 (18)	神戸学院大学	私	2.8	16 (20)	京都工芸繊維大学	国	2.8	16 (15)	京都女子大学	私	3.2	16 (21)	同志社女子大学	私	2.8	16 (15)	龍谷大学	私	3.0
17 (16)	兵庫県立大学	公	2.7	16 (17)	兵庫県立大学	公	2.8	17 (29)	神戸学院大学	私	2.9	16 (28)	大和大学	私	2.8	16 (32)	和歌山県立医科大学	公	3.0
18 (28)	大和大学	私	2.6	18 (16)	神戸学院大学	私	2.7	18 (17)	大阪教育大学	国	2.7	18 (14)	大阪教育大学	国	2.5	18 (16)	森ノ宮医療大学	私	2.9
19 (17)	大阪教育大学	国	2.5	19 (17)	大阪経済大学	私	2.5	18 (24)	大和大学	私	2.7	19 (22)	大阪府立大学	公	2.4	19 (17)	大阪教育大学	国	2.8
19 (20)	武庫川女子大学	私	2.5	19 (32)	大和大学	私	2.5	20 (15)	京都橋大学	私	2.6	19 (20)	京都橋大学	私	2.4	20 (20)	京都橋大学	私	2.5
																20 (32)	京都府立医科大学	公	2.5
																20 (19)	京都府立大学	公	2.5

「進学ブランド力調査 2021」リクルート進学総研調べ

ウ 学生納付金の設定の考え方

学部学科等を新設する際、本学では大学の経営に係る財務的な視点と学生への還元等、受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、大学の将来の発展を目的とする施設・設備の充実を考慮するとともに、近隣他大学の類似学部学科の状況を勘案したうえで、学生納付金を設定している。

本学部の学生納付金（令和3年6月28日理事会決定）は、入学金200,000円、学費は1年次1,170,000円（授業料990,000円、教育充実費180,000円）、2年次以降は1,310,000円（授業料1,060,000円、教育充実費250,000円）に設定した。卒業までの納付金総額は、

5,300,000 円は、本学部の基礎となる既存の生活環境学部情報メディア学科と同じであり、本学部を志望する受験生にとっても許容範囲内の金額であると思われる。

また、本学部及び情報・メディア系学部を擁する近隣大学の入学金、授業料、その他納入金、初年度納入金は、以下の表とおりである。

(単位：円)

大 学 名	入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納入金	適用入学年度
武庫川女子大学 社会情報学部	200,000	990,000	180,000	14,700	1,384,700	R5 年度
近畿大学 情報学部	250,000	1,442,000	20,000	6,500	1,718,500	R4 年度
関西大学 総合情報学部	260,000	1,302,000	0	27,000	1,589,000	R4 年度
同志社女子大学 学芸学部メディア創造学科	260,000	916,000	370,000	17,000	1,563,000	R4 年度
甲南女子大学 文学部メディア表現学科	250,000	760,000	350,000	45,700	1,405,700	R4 年度
同志社女子大学 現代社会学部情報システム学科	260,000	802,000	240,000	17,000	1,319,000	R4 年度
京都女子大学 現代社会学部	250,000	800,000	250,000	10,000	1,310,000	R4 年度

※各大学 Web サイト、河合塾大学入試情報サイト「Kei-Net」より

以上のように、本学部の予定している初年度納入金 1,384,700 円は、競合校として想定する近隣の情報系学部学科と比較しても平均的な額となっていることが分かる。

さらに、近畿圏以外の“社会情報”を掲げる学部を擁する大学の入学金、授業料、その他納入金、初年度納入金は、以下の表とおりである。

大 学 名	入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納入金	適用入学年度
青山学院大学 社会情報学部	200,000	1,007,000	401,000	52,000	1,660,000	R4 年度
大妻女子大学 社会情報学部	250,000	755,000	420,000	39,350	1,464,350	R4 年度
十文字学園女子大学 社会情報デザイン学部	250,000	750,000	330,000	64,660	1,394,660	R4 年度

いずれも本学部の予定している初年度納入金額を上回っており、全国的にみても本学部の学費は低い額に設定されており、学生募集にあたって影響はないものと考えられる。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

1 学生確保の取り組み

学生確保に向けた具体的な取り組みは、従来から大学全体として行っている様々な取り組みに加え、学部学科独自の取り組みを通して、受験生をはじめ社会一般への認知度向上を図り、学生の確保につなげていく。当然ながら、設置届出受理と収容定員に係る学則変更認可を受けていない段階での本学部のPR活動及び学生募集についてはルールを遵守し、入学希望者や社会一般に対して誤解や損害を与えることのないようにする。

(ア) 広報戦略

本学では、法人創立80周年を迎えた令和元年、創立100周年に向けた活性化プロジェクト「MUKOJO ACTION 2019-2039」をスタートさせた。「日本の女子大を、更新しよう。」をスローガンとし、「未来像」となるビジョンを策定、公表している。特設Webサイトやポスター、大学案内等の各種広報媒体のビジュアルイメージを統一して大規模な広報戦略を展開し、女子総合大学としての本学の知名度向上に努めている。

(イ) 大学案内（キャンパスガイド）や学科紹介パンフレット等の印刷物の配布

大学案内（キャンパスガイド）は約8万部を作成、また学科紹介パンフレット、入試案内、募集要項を作成し、高校訪問、オープンキャンパス、高校教員向け説明会、保護者向け説明会、大学見学会、各地域での進学・入試相談会等において幅広く配布している。

(ウ) 高校訪問

本学の設置圏域である兵庫県、大阪府の高等学校を中心に、全国の高等学校（本学に志願実績のある高等学校等）を教職員が訪問し、高校生や進路担当教諭に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。訪問校の延べ数は、令和2年度は26府県735校、令和3年度は30都府県839校にのぼる。

(エ) 多様な入学選考（選抜）試験の実施

本学では、アドミッションポリシーに沿って、次のように多様な入試を実施している（令和4年度入試実績）。

- ・公募制推薦入試（前期）・公募制推薦入試（後期）・一般選抜A・一般選抜B
- ・一般選抜C・一般選抜D（大学入試共通テスト利用型）・演奏奨学生入試
- ・グローバル（英語重視型）入試 ・スポーツ推薦入試
- ・指定校推薦入試 ・附属高校推薦入試 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生入試

また、遠隔地の受験生に対して利便性を図り、広く志願者を確保するため、公募制推薦□試及び一般選抜A・Bでは全国12会場（東京、石川、愛知、京都、和歌山、鳥取、岡山、広島、香川、愛媛、福岡、沖縄）に学外試験場を設置している。

(オ) オープンキャンパス、各種説明会等

オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者、教員等を対象に入試概要の説明や、学科企画プログラム（学科説明・施設見学・体験授業）、予備校講師による入試対策講座、学科別のQ&Aコーナーにて入試・就職・資格・奨学金・寮・下宿など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。令和3年度のオープンキャンパスは6月13日、7月10日・11日、8月10日、9月26日、10月3日の6日間にわたって開催した。コロナ禍のため、参加人数を制限した上での開催となったが、6日間で3,287組5,500人の参加があった。定員変更前年度の令和4年度についても同様の時期に開催を予定している。

受験生の大学見学については、常時受け付けられるようにしている。数人のグループや個人単位の訪問に対して、平日及び土曜日の午前中は入試センター職員が応対、また、入試センターが閉室となる土曜の午後や日祝日は、中央キャンパス内に設ける「受験生の部屋“Muko ナビルーム”」にて、学生スタッフが大学の授業や学生生活の紹介、キャンパス見学の案内、入試に関する相談・質疑応答を行っている（※令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため「受験生の部屋“Muko ナビルーム”」は閉室、また、学生スタッフによる対応も一時休止中）。

また、高校単位での受け入れ対応も行っている。その他、高校教員向けの説明会や保護者向け説明会、附属高校向け説明会を開催している。

(カ) ソーシャルメディア等による情報の提供

Facebook、Twitter、LINE及びInstagramに本学の公式アカウントを開設し、ソーシャルメディアを利用した情報発信を積極的に実施している。学内施設や授業風景、学生の日常を動画配信等の情報発信を定期的に行い、本学で学ぶ具体的なイメージを掴めるように努めている。

(キ) 新聞・雑誌、駅・車内広告等

新聞や雑誌等のマスメディアでの広告やインターネット広告、駅・電車内の交通広告を出稿し、受験生はもちろんのこと広く社会で知名度が向上するよう努めている。また、出版社、新聞社、予備校等が発行する受験情報誌等の媒体に積極的に情報掲載を行い、具体的な学修内容や大学生活の様子、受験情報等を提供している。

2 定員超過率が0.7倍未満の学科について

音楽学部への志願者を有するが進学に結びついていないクラブ活動の中でも、人気がある吹奏楽へ働きかけ、令和2年度入学生より専門に学ぶ管楽器の楽器種を5種類増やし、また追加した管楽器の非常勤講師（採用予定者）の氏名を記載して、吹奏楽に打ち込んでいる高校生の関心を引くよう試みた。その結果、令和2年度の管弦楽器入学者は3名、令和3年度4名、令和4年度5名とわずかではあるが着実に増加傾向にある。

志願者を増やす対策として、令和4年度各入試制度において大幅な見直しを行い、受験科目・内容の工夫と演奏奨学生入試における専願制を廃止した。2023年度入試からは秋に加え、国公立大学入試直前の2月にも演奏奨学生入試を行う予定である。

情報発信の点からは令和3年度はホームページにおいて授業紹介動画や主催コンサートの動画を多数公開するとともにインスタグラムも開設した。今後も高校生に本学部の良さが伝わるよう情報提供を続けていく。募集活動に欠かせない学部パンフレットはリニューアルし、学生や卒業生の様子を多数掲載する。また、教員が積極的に高校訪問を行い、今後も音楽担当教諭への面談を続け、希望があれば音楽学部教員による特別レッスンやクラブ指導を行うなど良好な関係構築を進めていく。

武庫川女子大学短期大学の7学科のうち、定員超過率が0.7倍未満の6学科の学生確保に向けた取組としては、学科の魅力を伝えるリーフレットの作成、より分かりやすいホームページの開設、ダイレクトメール送付等をこれまで以上に行い、入学者確保をめざしたい。なお、健康・スポーツ学科及び心理・人間関係学科については、定員充足の見込みは難しいと判断し、令和5年度に学生募集を停止し、在学生全員の卒業を待って廃止することを令和4年2月28日開催の理事会で決定した。今後も大学の新学科の増設と短期大学の縮小・廃止を計画している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

AI（人工知能）やIoT(Internet of Things)、ロボットなどに代表されるデジタル技術が急速に進化する今、社会や暮らしのあり方が急速に変化しつつある。そのような時代の変革期に、情報やマルチメディアの知識・技能を生かし、社会で活躍し、豊かに生き抜くことができる人材を育成することが本学部の目的である。

その目的のもと、ICT社会における幅広い知識や技能を身に付け、多角的な視点を有する個人としての強みを発揮し、情報を扱う実践力を持ち、社会の課題に主体的に取り組み、新たな価値を創出できる人材を育成する。

本学部は文系的要素の強い「情報メディア専攻」と理系的要素の強い「情報サイエンス専攻」の2つの専攻から教育課程が構成されている。

〔情報メディア専攻〕

「人間の生活」と「情報化社会」の関わり、ICTを活用したこれからの豊かな暮らしを編集・設計・演出するスキルの修得をめざします。また、文化や経済をさまざまなデータから分析するコミュニケーションやマーケティングなどの基礎科目や演習科目も履修し、身に付けたスキルを実際に社会で生かせるよう、社会の課題を発見し、その解決に向けた対応力を養う科目も受講していく。

〔情報サイエンス専攻〕

スマートフォンをはじめ、AI や IoT、ロボットなどの最先端技術は社会を変革と時代に、ICT 機器を操作して、情報を活用する能力の向上をめざします。コンピュータ、プログラミング、ネットワーク、セキュリティなどの高度な情報技術を修得し、さらに人工知能やビッグデータを社会や企業の課題解決に役立てるため、データサイエンスや統計学の科目も充実していく。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1 社会的な人材需要

経済産業省が平成 28 年 6 月に公表した「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査」によれば、IT 需要が今後拡大する一方で、我が国の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれ、IT 人材の需要と供給の差（需給ギャップ）は、需要が供給を上回り、令和 12 年には、最大で約 79 万人に拡大する可能性があるとして試算されている。

例えば、内閣府経済社会総合研究所が実施した『組織マネジメントに関する調査（平成 30 年度）』⁷によれば、「意思決定をサポートするためのデータを利用するにあたり、現在、どのような課題に直面していますか」という問いに対して、調査に回答した 6,749 事業所のうち 50%を超える 3,471 事業所が、「データ利用を行う人材が不足している」ことを問題点としてあげている。この調査は、道路貨物運送業、卸売業、医療業に属する事業所を調査対象としたものである。これらの事業所は、いわゆる IT 企業や AI 企業といったデータサイエンスに直結したサービスの提供を主業とするものではなく、IT や AI の技術を利用する側のユーザー企業であるといえる。従って彼らが求めているのは、「AI を開発する人材」ではなく、あくまでも「データ利用を行う人材」であり、これは本学が目標とする「データに基づきビジネスの現場で新たな価値創造の担い手となり得るような人材」そのものである。ユーザー企業の 50%以上が「データ利用を行う人材」を求めているというこの調査結果は、本学部が育成する人材に対する社会的なニーズが非常に大きいことを示唆している。

また、政府が令和元年 6 月 11 日に策定した「AI 戦略 2019」では、『「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能と、人文社会芸術系の教養をもとに、新しい社会の在り方や製品・サービスをデザインする能力が重要であり、これまでの教育方法の抜本的な改善と、STEAM 教育などの新たな手法の導入・強化、さらには、実社会の課題解決的な学

習を教科横断的に行うことが不可欠となる。』としている。

このように、本学部が育成しようとしている、数理・データサイエンス教育とあわせて、文理融合の教育により自然科学と人文・社会科学の双方に通じた人材への期待は高い。社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担うことができる女性の育成は、社会から強く要望されていることがうかがえる。

2 企業及び事業所への人材需要に関する採用意向調査

本学部における人材需要の見通しを測定するために、本学への求人実績や卒業生の採用実績が民間企業・団体等に対して、本学部の必要性や卒業した者の採用に関する人材需要調査（無記名方式）を実施した。なおアンケート実施にあたっては、同時期に届出による設置を予定している心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科における人材需要についても同時に調査した。

調査は、学外の調査機関である株式会社進研アドに委託し、卒業生の採用が期待できる企業・団体の 1,413 社に対して令和 3 年 6 月 21 日から 8 月 10 日の間に郵送で調査を実施し、26.9%の 380 社から回答を得た。380 社の回答者の属性は、採用や選考にかかわっている者の割合が 90%を超えており、採用意向を確認するにあたって十分なデータを得ることができた。

【資料 4 社会情報学部リーフレット（企業向け）】

【資料 5 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業・団体対象調査】】

<社会的必要性>

本学部の目的、特色、養成する人材像等を明示し、本学部社会情報学科の情報メディア専攻及び情報サイエンス専攻の社会的必要性をたずねたところ、情報メディア専攻については 380 社中 97.6%にあたる 371 社が「必要だと思う」と回答、情報サイエンス専攻については 96.3%にあたる 366 社が「必要だと思う」と回答しており、本学部がこれからの社会にとって必要な学部であると多くの企業・団体が評価していることが確認できた。この割合は、同時に調査した心理・社会福祉学部及び健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科と比べても高いものであり、本学部への期待の大きさが伺える。

<採用意向>

本学部卒業生に対する採用意向については、380 社中 81.8%にあたる 311 社が社会情報学科情報メディア専攻の卒業生を「採用したいと思う」と回答した。311 企業のうち、本学部卒業生の想定される就職先と関連の深い業種の採用意向を抽出すると、「情報通信業」では 96.1%（51 社中 49 社）、「製造業」では 80.6%（31 社中 25 社）、「金融・保険業・不

動産」では 82.1% (39 社中 32 社)、「卸売・小売業」では 90.7% (86 社中 78 社)であった。

また、情報サイエンス専攻卒業生についても 82.6%にあたる 314 社が「採用したいと思う」と回答した。314 企業のうち「情報通信業」では 100% (51 社中 51 社)、「製造業」では 90.3% (31 社中 28 社)、「金融・保険業・不動産」では 84.6% (39 社中 33 社)であった。

さらに「採用したいと思う」と回答した企業に本学部卒業生の具体的な採用予定数を聞いたところ、情報メディア専攻については 421 人程度、情報サイエンス専攻については 427 人程度という回答があり合計 848 人程度の採用意向が確認できた。本学部の入学定員は 180 人であることから、定員を大きく上回る結果となった。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業・団体等に限定した調査結果において、本学部を卒業した者への高い採用意向を確認できたことから、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。

3 既存学部学科の就職状況・求人状況

本学は現在、文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、建築学部、音楽学部、薬学部、看護学部、経営学部の 10 学部 17 学科を有し、入学定員は女子大学としては日本最大規模の 2,190 人である。最近 5 年間の本学の就職状況は下表の通りである。

年度	卒業者数	求人件数	就職希望者数	就職者数	就職率
平成 28 年度	1,932	7,326	1,751	1,740	99.4%
平成 29 年度	1,947	7,264	1,752	1,744	99.5%
平成 30 年度	2,072	6,806	1,853	1,845	99.6%
平成 31 年度	2,019	6,225	1,832	1,820	99.3%
令和 2 年度	1,964	5,719	1,732	1,715	99.0%

多数の求人件数を得て、また高い就職実績を維持していることは、本学の有する学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等の社会の要請を踏まえたものであることを示しているものである。これは女子大学である本学が、社会が求める人材を輩出する高等教育機関として社会からの高く期待されていることの顕れと言える。

社会情報学部社会情報学科の基礎となる既設の生活環境学部情報メディア学科の最近 5 年間の就職実績は下表の通り、100%に近い値が継続している。

年度	卒業 者数	求人件数	就職 希望者数	就職 者数	就職率
平成 28 年度	171	7,326	157	156	99.4%
平成 29 年度	173	7,264	170	168	98.8%
平成 30 年度	166	6,806	161	160	99.4%
平成 31 年度	180	6,225	172	171	99.4%
令和 2 年度	155	5,719	137	137	100%

※求人件数は大学全体を記載

※令和 3 年度分については集計中。令和 4 年 6 月頃集計完了予定。

このように、昨今の就職難及びコロナ禍の状況下においても多くの求人があり、高い就職率で推移している。また、令和 2 年度卒業生就職者の就職先の業種は、情報通信業が 57%、卸・小売業が 14%、サービス業が 8%であり、本学及び情報メディア学科における人材の養成に関する目的や教育研究上の目的が、情報系分野の産業界の人材需要の動向に合致していることは明らかであり、情報メディア学科を発展的に改組して本学部を設置した場合でも、卒業後の進路については十分に見込むことができると考える。

【資料 6 情報メディア学科令和 2 年度卒業生の就職先業種】

以上

学生確保の見通しを記載した書類

資料目次

資料1：リクルート進学総研マーケットレポート 2021年4月号

資料2：社会情報学部リーフレット（高校生向け）

資料3：武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生調査】

資料4：社会情報学部リーフレット（企業向け）

資料5：武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科」（すべて仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業・団体対象調査】

資料6：情報メディア学科令和2年度卒業生の就職先業種

資料 1

(掲載省略)

1. 書類等の題名

リクルート進学総研マーケットレポート 2021年4月号

2. 出典

リクルート進学総研

URL:https://souken.shingakunet.com/research/.assets/202104_kinki_souken_report.pdf

設置概要

学 部：社会情報学部(仮称)
 学 科：社会情報学科(仮称)
 学 位：学士(社会情報学)
 入学定員：180名(募集予定人数:情報メディア専攻140名、情報サイエンス専攻40名)
 修業年限：4年
 開設時期：2023年4月予定
 開設場所：中央キャンパス(兵庫県西宮市)

◎初年度納付金※ 1,384,700円

※初年度納付金には、入学金、授業料、教育充実費を含みます。(2023年度入学者対象)
 ※2021年4月時点での学費を参考にした金額であり、変更となる可能性があります。

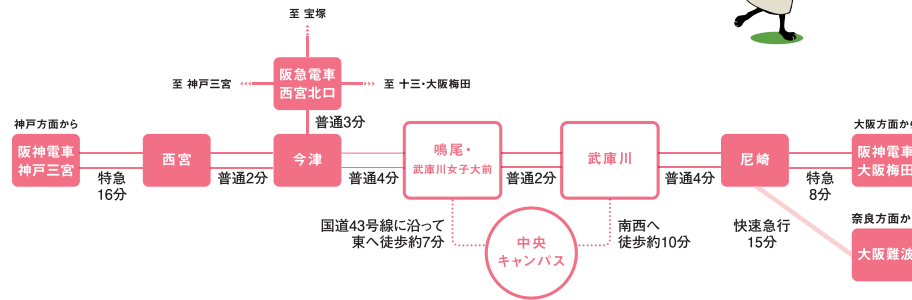
◎類似学部

関 西 大 学 / 総合情報学部
 同志社女子大学 / 学芸学部 メディア創造学科
 京 都 女 子 大 学 / 現代社会学部 現代社会学科 情報システム専攻
 兵 庫 県 立 大 学 / 社会情報科学部 社会情報科学科

※初年度納付金(参考) 817,800円～1,589,000円
 ※出典：2021年4月各大学HPより
 詳しくは各大学にお問い合わせください。

Access

武庫川女子大学中央キャンパスへは、阪神電車のご利用が便利です。
 阪急電車ご利用の場合は、阪急西宮北口にて今津線にお乗り換えのうえ今津駅より阪神電車をご利用ください。
 ※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。



情報技術で、
 暮らしも
 わたしも
 もっと豊かに。

 **武庫川女子大学**
 Mukogawa Women's University

中央キャンパス 文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
 浜甲子園キャンパス 薬学部、大学院
 上甲子園キャンパス 建築学部、大学院

●お問い合わせ

入試センター 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500 FAX. 0798-45-3563
 テレフォンサービス(24時間) 入試情報 TEL. 0798-45-8888 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/>

文理融合学部 **社会情報学部 社会情報学科(仮称) 誕生**
 (2023年4月 設置構想中)



武庫川女子大学
 Mukogawa Women's University

2023年4月、社会情報学部 社会情報学科〈仮称〉誕生

情報技術を生かして

もっと豊かに

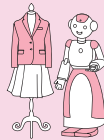
暮らしと社会を変えていく女性へ。

生活×文化

AIが私に似合う洋服を
コーディネートしてくれるって本当？

「本当です!」

洋服を買う時、いつも迷いませんか?そんな時、AI(人工知能)が役立ちます。クローゼットやネット購入の履歴からあなたの趣味はもちろん、年齢や体型、最新のトレンドまで分析してあなたに似合う服をコーディネートしてくれます。AIを活用すればそんな未来も夢ではありません。



生活×経済

女子に人気のスイーツ!
ヒット商品のヒントは、
あなたのポイントカードにある?

「あります!」

ビジネスで、今注目されているのがビッグデータの活用です。例えば、みんながよく利用するコンビニのポイントカードを分析すると、誰が、いつ、どこで、どんな商品を購入したかがわかります。女子をターゲットにしたヒット商品の開発など、売れる商品や販売のヒントがいっぱい詰まっているのです。



社会×IT

スマホゲームも
もはや操作するのではなく、
あなたが主人公になる?

「なります!」

いよいよ次世代モバイル通信方式5Gの時代へ突入。高速・大容量によりARやVR*を存分に活用できるようになります。これまでゲームを操作する感覚だったのが、まさに自分自身がゲームの世界の登場人物となって、舞台となる街を探検したり、敵と闘ったり、今までにない迫力や臨場感を味わえます。



*AR(拡張現実)とVR(仮想現実)

情報化社会を
生き抜くための
実践力を養う。

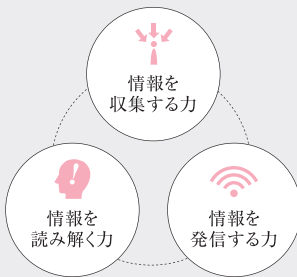
2023年、武庫川女子大学に社会情報学部が誕生します(※)。ICT社会の生活を、「社会・経済」と「情報」という文理融合の幅広い視点から学びます。専門科目ではメディアやコミュニケーションなどをテーマに暮らしと社会を考える講義とともに、情報技術に関する演習を履修します。さらに、データを扱う実践的演習科目を履修し、実社会の問題解決に役立つ、生きたスキルの修得をめざします。
(※設置構想中)

設置の背景

AI(人工知能)やIoT(Internet of Things)、ロボットなどに代表されるデジタル技術が急速に進化する今、社会や暮らしのあり方が急速に変化しつつあります。そんな時代の変革期に、情報やマルチメディアの知識・技能を生かし、社会で活躍し、豊かに生き抜くことができる人材の育成が本学部の目標です。

養成する人物像

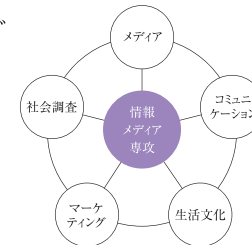
ICT社会における社会・経済・情報に関わる幅広い知識や技能を身に付けます。多角的な視点をもつ個人としての強みを発揮し、情報を扱う実践力を持ち、社会の課題に主体的に取り組み、新たな価値を創出できる人材を育てています。



文系

情報メディア専攻〈仮称〉

情報化社会と人びとの暮らしをつなぐ
「情報のコミュニケーター」を育成



【開設科目】
コミュニケーション論、メディア論、文化社会学、経営情報論、マーケットデザイン演習、統計学、社会調査 等

専攻の特色

実社会の課題に取り組む「プロジェクト演習」

1年次からスタートする「プロジェクト演習」ではチームで課題解決に取り組むプロセスを体験し、2年次には実際に企業の課題解決にも取り組みます。企業のWeb戦略を分析したり、消費者の行動をさまざまなデータから読み解いたり、広告制作に取り組んだり、ヒアリング調査を行ったり、プロジェクトのテーマは多岐。実践的な授業を通して、課題発見・解決スキルの向上はもちろん、主体性や社会性も養っていきます。

Future

想定される
将来のステージ

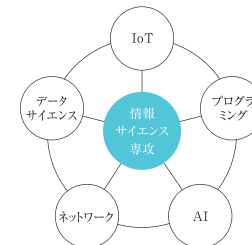
- ・IT業界の企画・営業職
- ・Webデザイナー
- ・システムエンジニア
- ・データアナリスト
- ・メディア産業のプロデューサー
- ・旅行業界の企画・営業職
- ・金融機関のデジタル職
- ・eコマース関連の企画・営業職
- ・教員(高校情報科)
- ・公務員



理系

情報サイエンス専攻〈仮称〉

情報技術から豊かな社会をつくる
「情報のスペシャリスト」を育成



【開設科目】
データサイエンス論、AI概論、プログラミング演習、コンピュータネットワーク応用、システム設計 等

専攻の特色

反転授業*1、ハッカソン*2、
徹底した少人数による充実したデータサイエンス教育

学生の主体的な反転授業によりプログラミングの基礎を学び、「ハッカソン(ハッキング+マラソン)」を通して確かなプログラミング技能を養います。データサイエンスとAIについては最重要教科として1年次から4年次まで一貫した授業科目を配置し、この中でビッグデータや金融系の情報技術についても学びます。徹底した少人数のゼミでは、指導教員の専門性に応じて、VR・AR、IoT技術なども学びます。

*1 自宅学習で知識を修得し、授業では詳しい解説や発展問題を扱う。従来の教育方法の順番を反転させた新しい学習方法。
*2 ハック(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた造語。短期間で集中的に意見やアイデアを出し合う共同の開発作業。

Future

想定される
将来のステージ

- ・システムエンジニア
- ・システム管理者
- ・システムデザイナー
- ・アプリケーションエンジニア
- ・Webエンジニア
- ・データサイエンティスト
- ・データアナリスト
- ・教員(高校情報科)
- ・公務員



武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」
「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年10月
株式会社 進研アド

-学生確保-22-

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」新設構想に関して、高校生の入学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査		
調査対象		高校2年生の女子		
調査エリア		大阪府、兵庫県、奈良県		附属高校留置き調査
調査方法		高校留置き調査		
調査対象数	依頼数 (依頼校)	20,465人	108校	249人
	有効回収数 (回収校)	10,105人	90校	
	回収率	49.4%	83.3%	
調査時期		2021年6月21日(月)～ 2021年8月10日(火)	2021年6月21日(月)～ 2021年8月10日(火)	
調査実施機関		株式会社 進研アド		

3. 調査項目

高校生対象調査「高校留置き」
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校所在地・高校種別・高校卒業後の希望進路・武庫川女子大学への受験意向・各学部・学科・専攻への入学意向

高校生対象調査「附属高校留置き」
<ul style="list-style-type: none">・学年・居住地・高校卒業後の希望進路・武庫川女子大学への進学意向・各学部・学科・専攻への入学意向

高校2年生対象 調査結果まとめ

高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計したため、武庫川女子大学の主な学生募集エリアである大阪府、兵庫県、奈良県に所在する高校の高校2年生の女子生徒(10,354人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は91校、10,354人。(うち、249人は附属校)
- 回答者の高校所在地は武庫川女子大学の所在地である「兵庫県」が61.3%を占める。次に「大阪府」が37.3%、「奈良県」が1.4%と続く。
- 回答者の高校種別は「公立」が73.3%、「私立」が26.7%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が68.1%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が38.3%、「専門学校・専修学校に進学」が19.7%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる高校生の意見を聴取できていると考えられる。

高校生対象 調査結果まとめ

武庫川女子大学への受験・進学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた人は、**2,059人 (19.9%)**である。(うち、173人は附属校)

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は**658人 (32.0%)**であり、予定している入学定員150名を大きく上回っている。(うち、36人は附属校)※詳細はP8～P9参照

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は**188人 (9.1%)**であり、予定している入学定員70名を大きく上回っている。(うち、15人は附属校)※詳細はP10～P11参照

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は**236人 (11.5%)**であり、予定している入学定員140名を上回っている。(うち、26人は附属校)※詳細はP12～P13参照

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

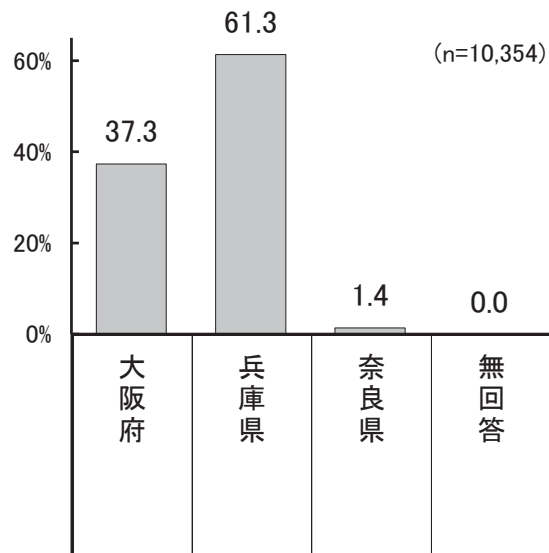
- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は**69人 (3.4%)**であり、予定している入学定員40名を上回っている。(うち、7人は附属校)※詳細はP14～P15参照

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

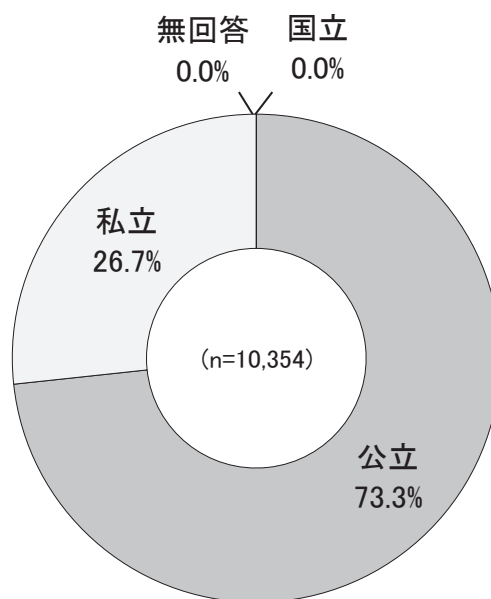
- 武庫川女子大学を「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は**343人 (16.7%)**であり、予定している入学定員100名を大きく上回っている。(うち、25人は附属校)※詳細はP16～P17参照

回答者の属性(高校所在地／高校種別)

■高校所在地



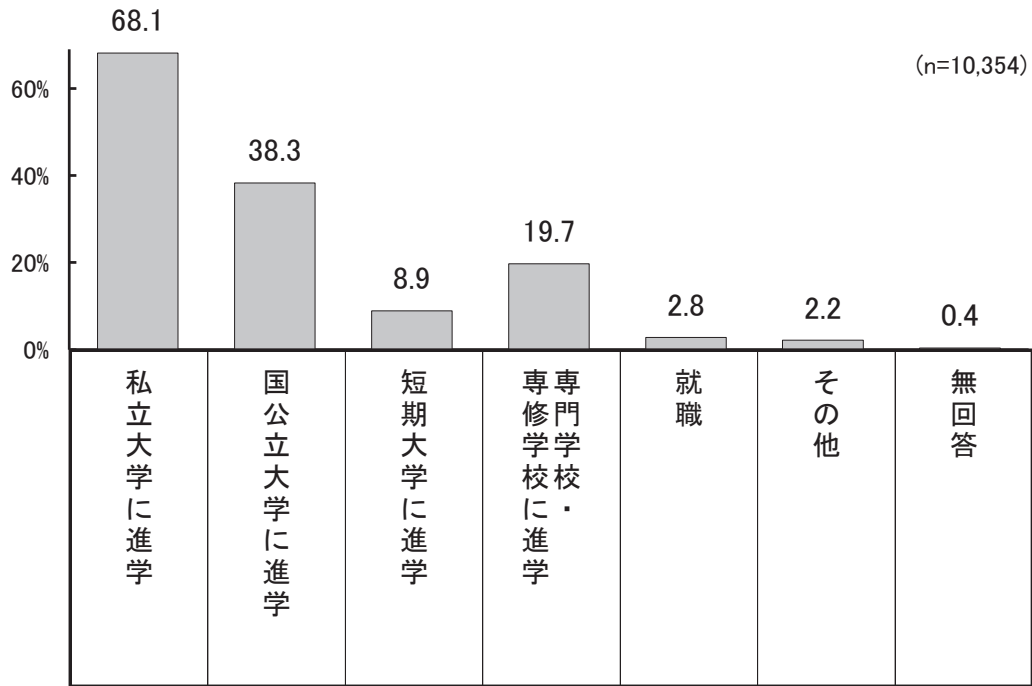
■高校種別



高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

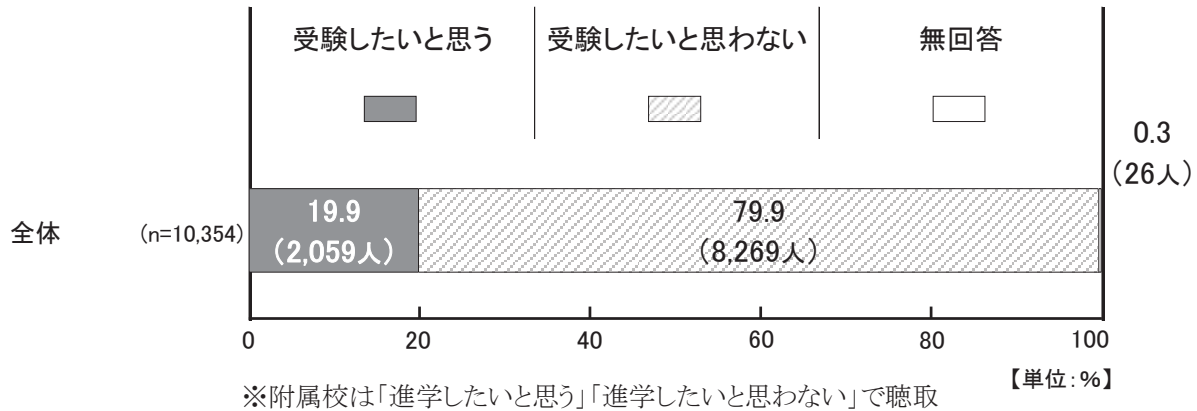
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



武庫川女子大学への受験意向／入学意向

■武庫川女子大学への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

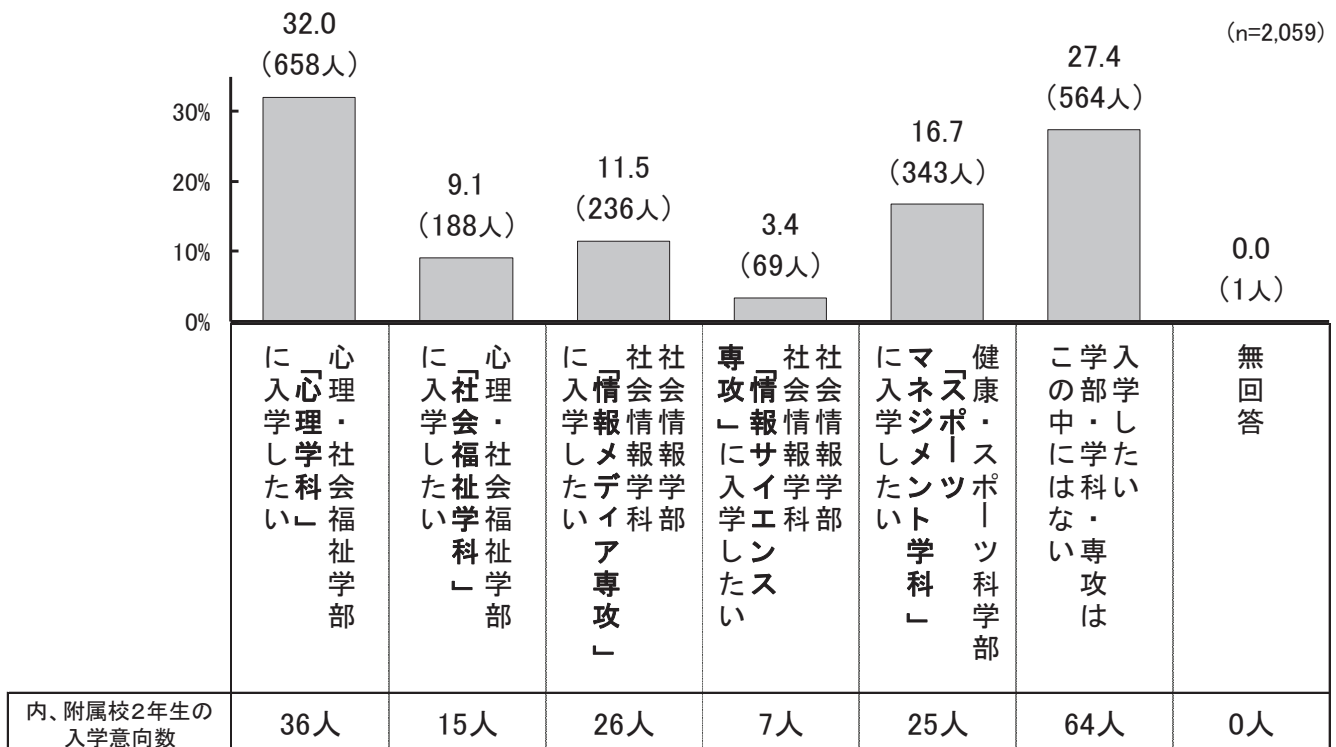


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

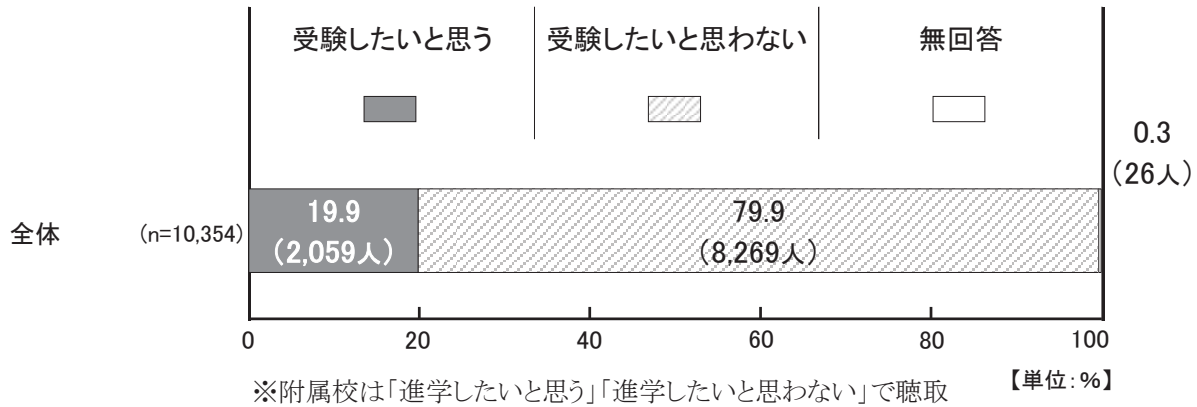
※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



心理・社会福祉学部 心理学科①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

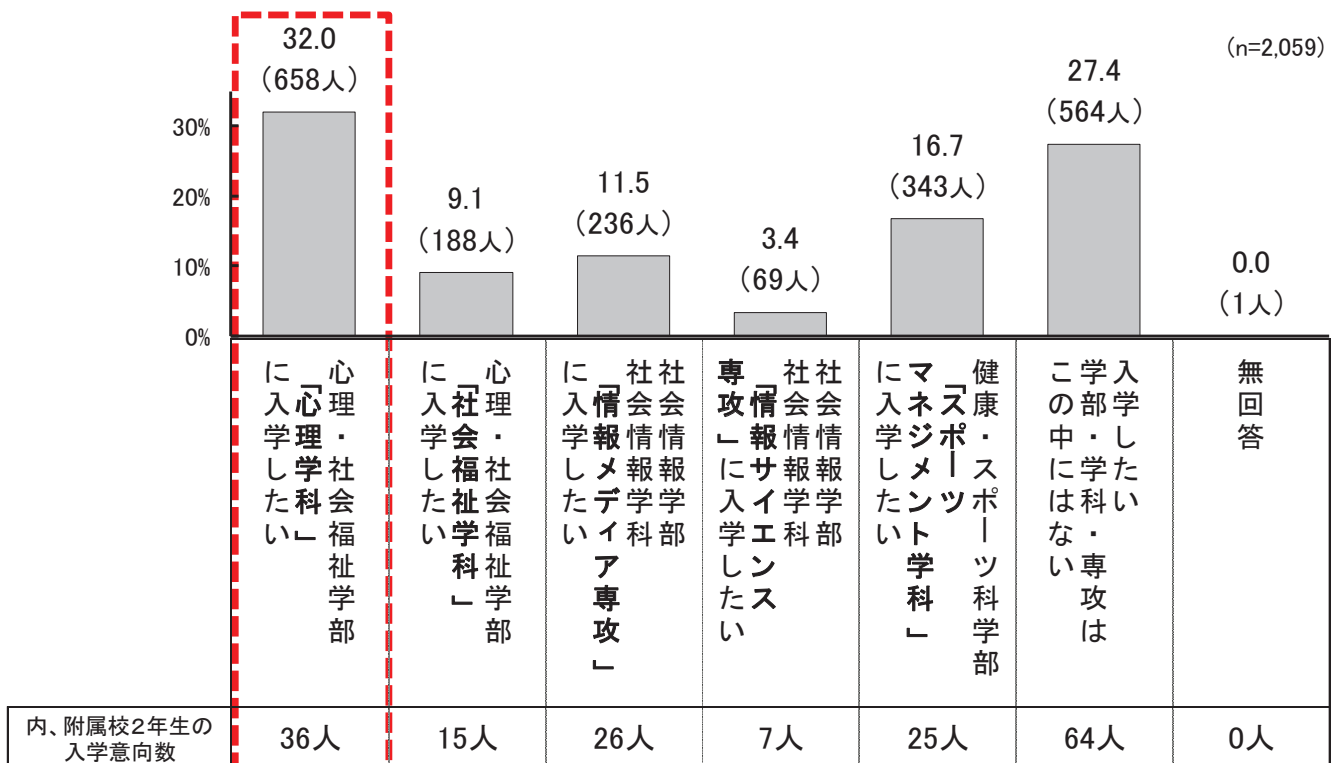


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



心理・社会福祉学部 心理学科②

■「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向 属性別結果

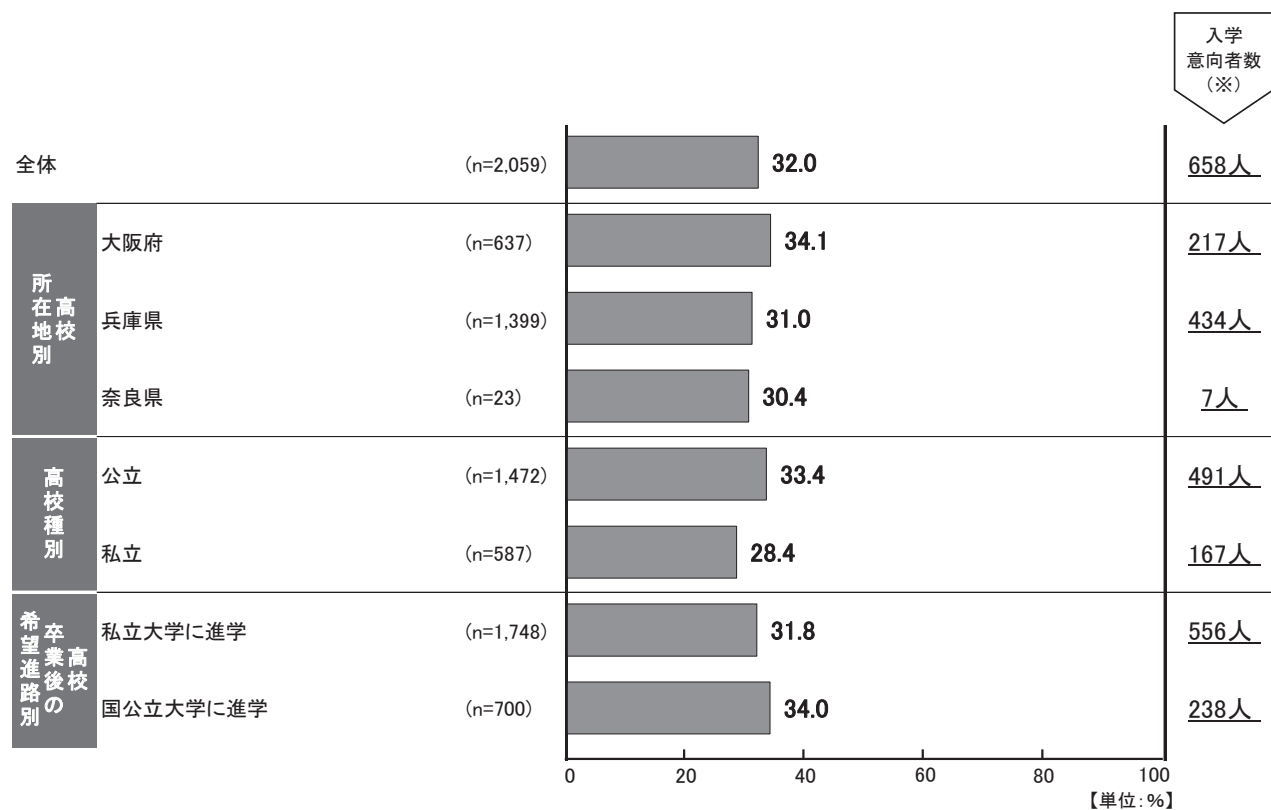
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、Q3で「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と答えた658人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学と隣接する「大阪府」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは637人中、**217人**(34.1%)である。(うち、2人は附属校)。また、大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**434人**(31.0%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、33人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

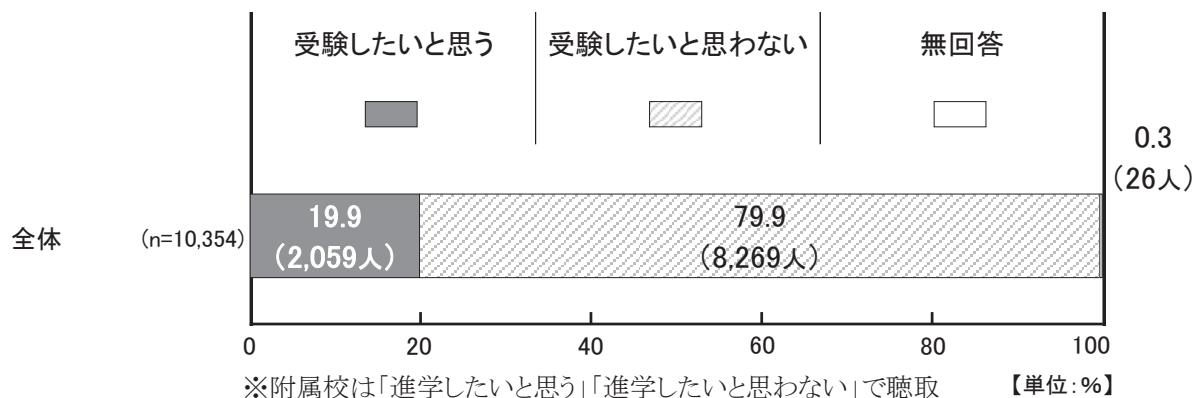
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**556人**(31.8%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、32人は附属校)



心理・社会福祉学部 社会福祉学科①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

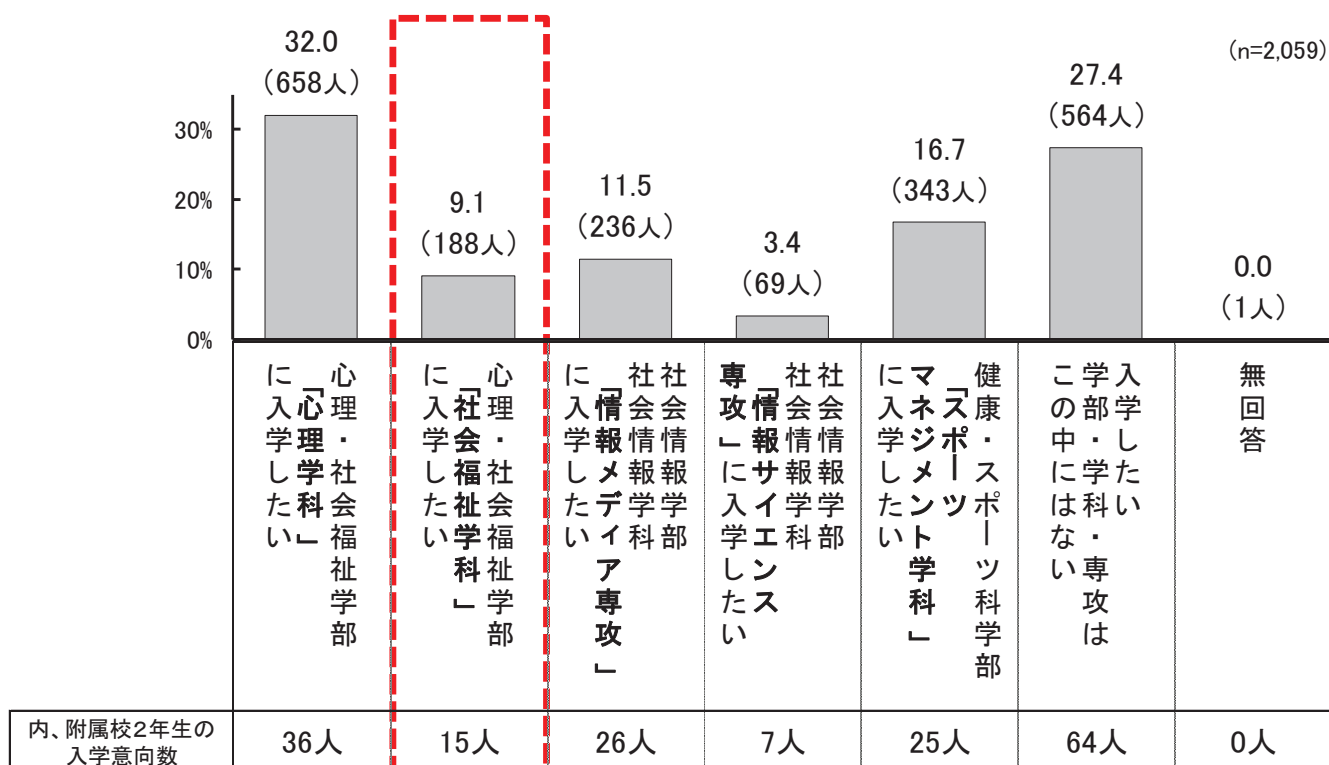


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人
(うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



心理・社会福祉学部 社会福祉学科②

■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向 属性別結果

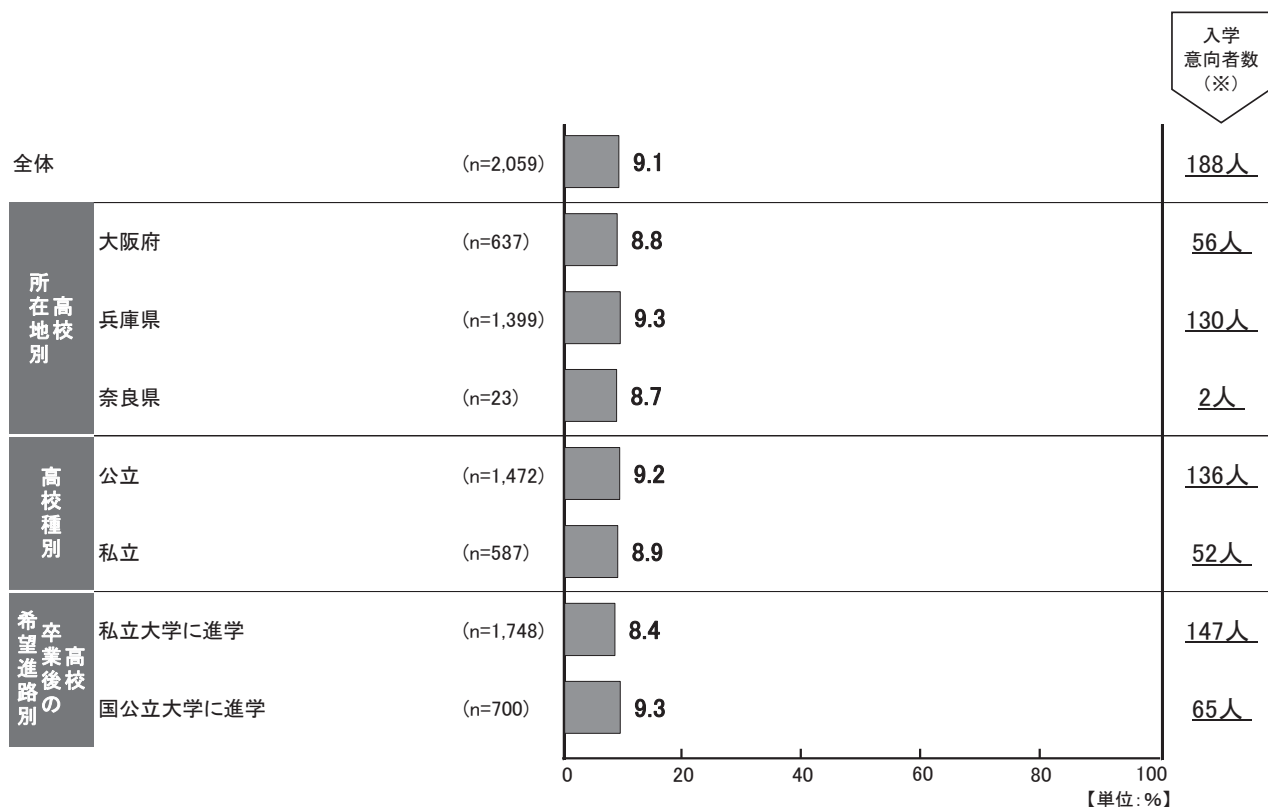
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、Q3で「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と答えた188人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**130人(9.3%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、12人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

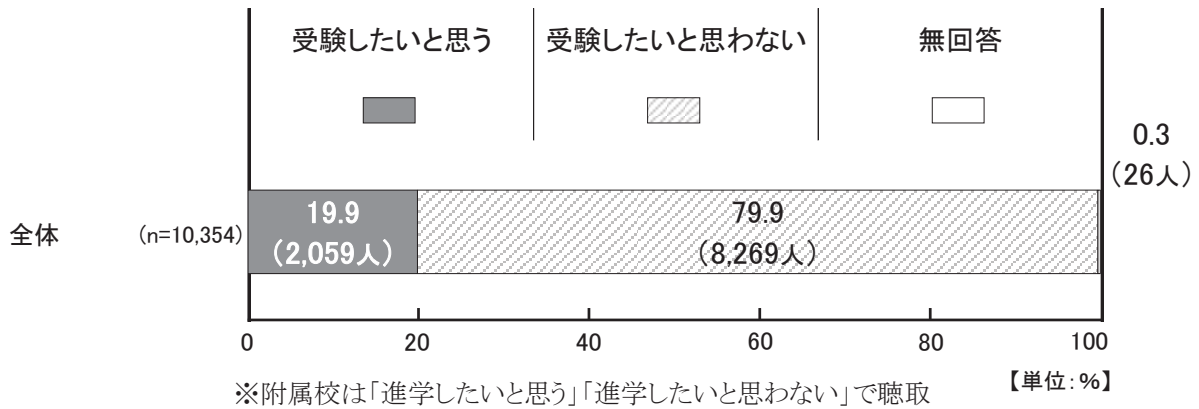
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**147人(8.4%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、14人は附属校)



社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

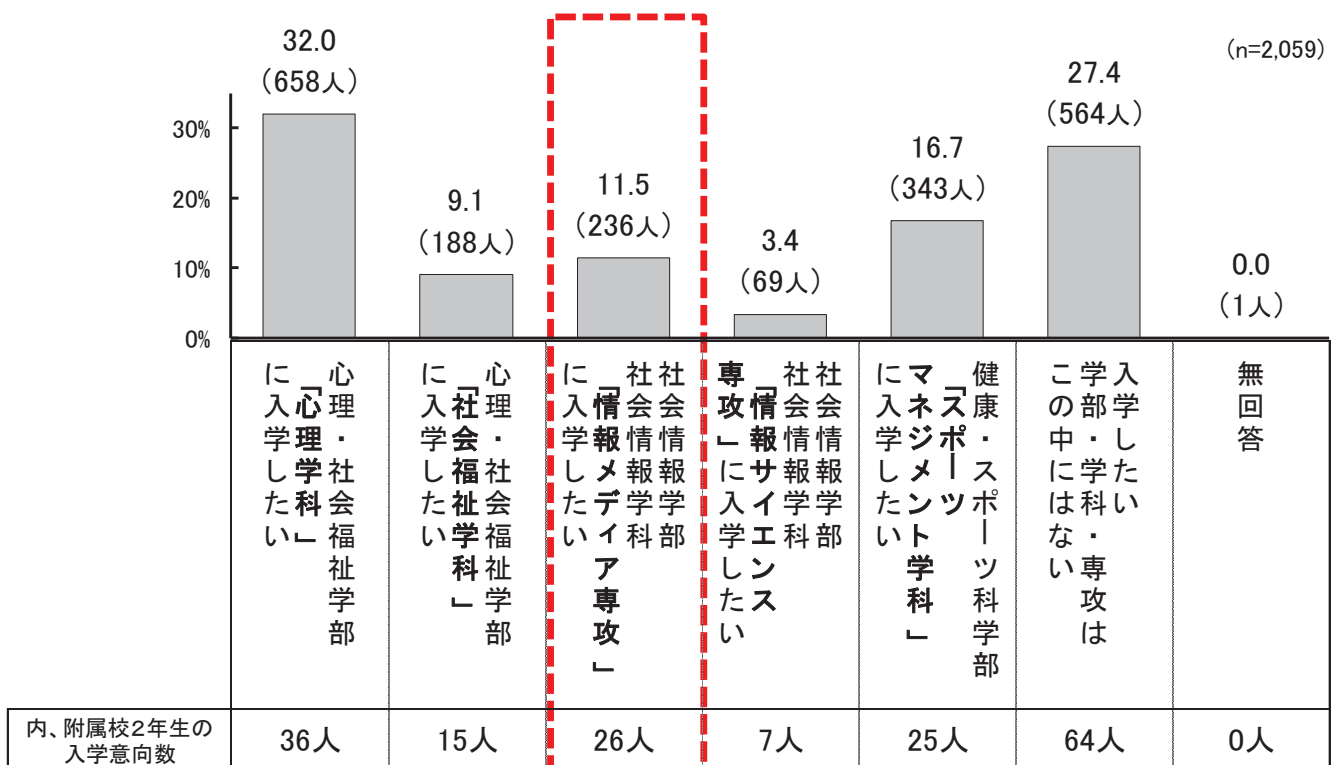


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻②

■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向 属性別結果

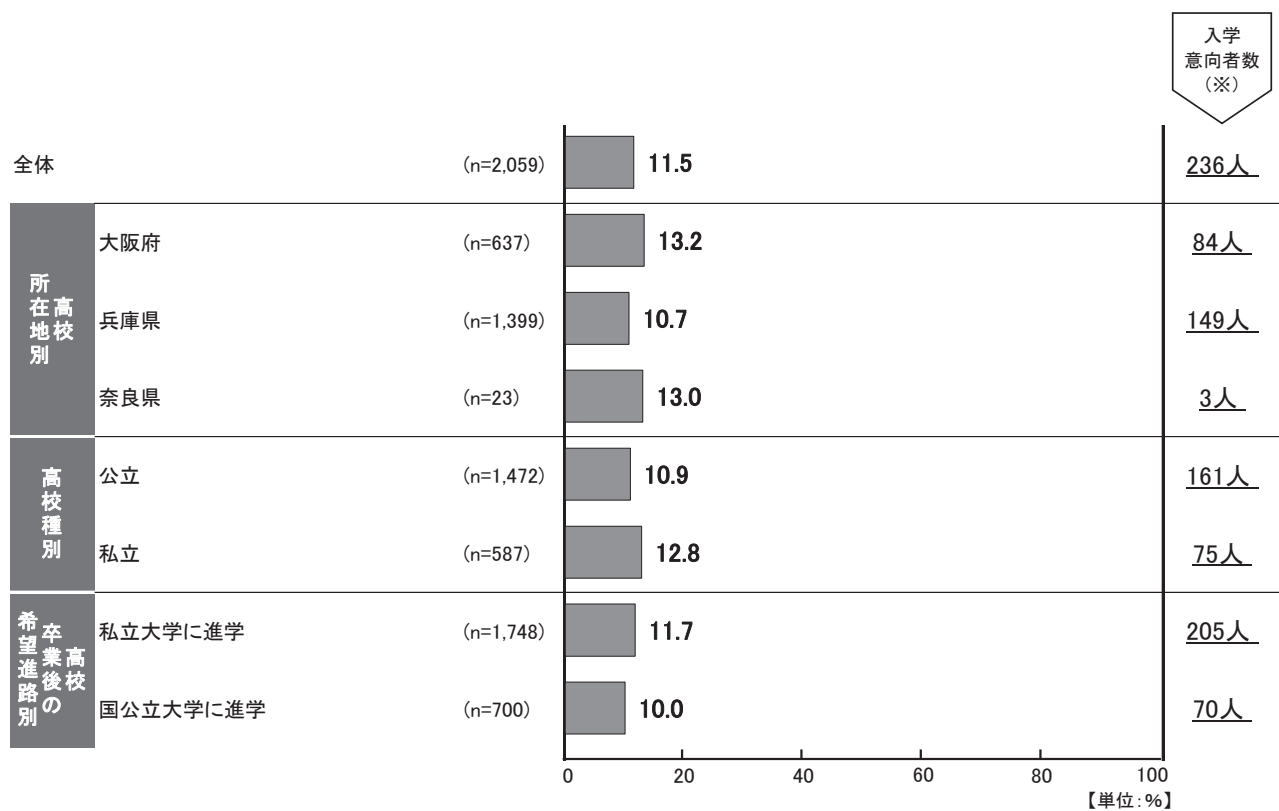
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、
Q3で「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と答えた236人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**149人(10.7%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、22人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

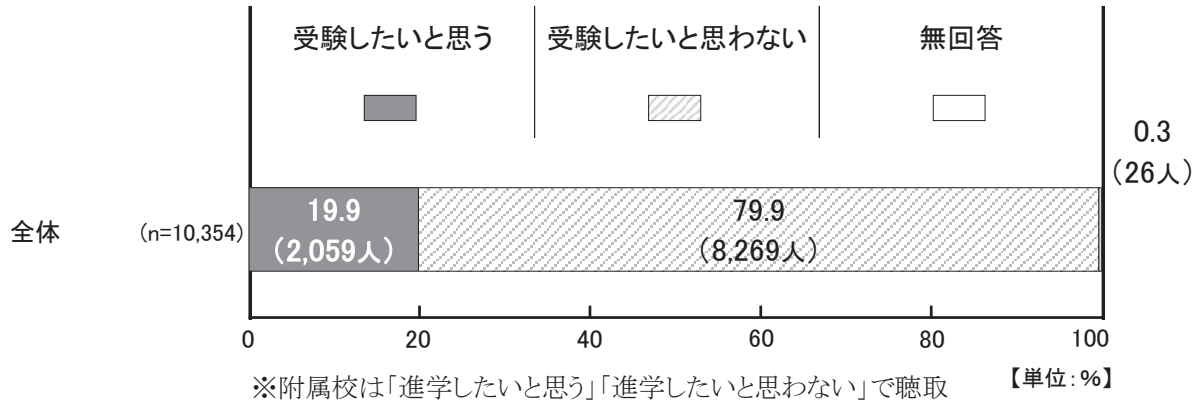
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**205人(11.7%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、25人は附属校)



社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

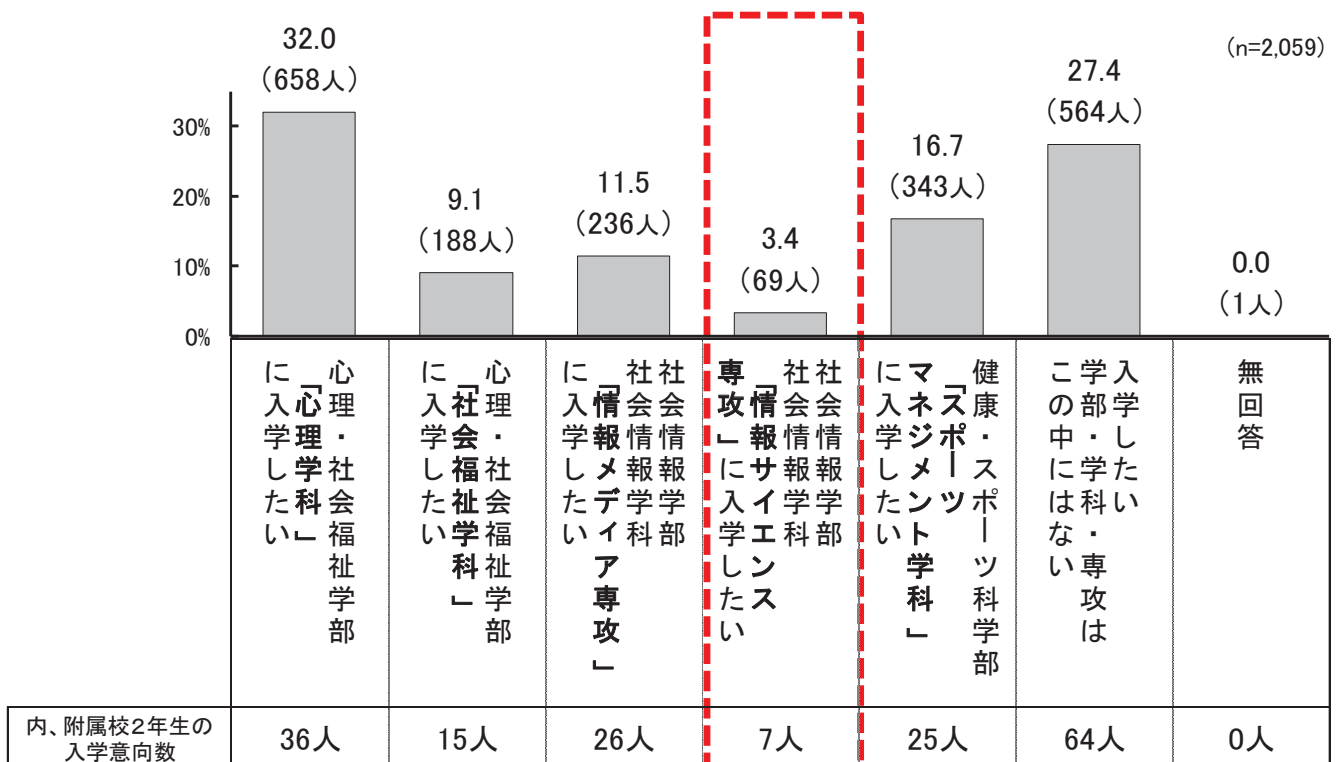


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻②

■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向 属性別結果

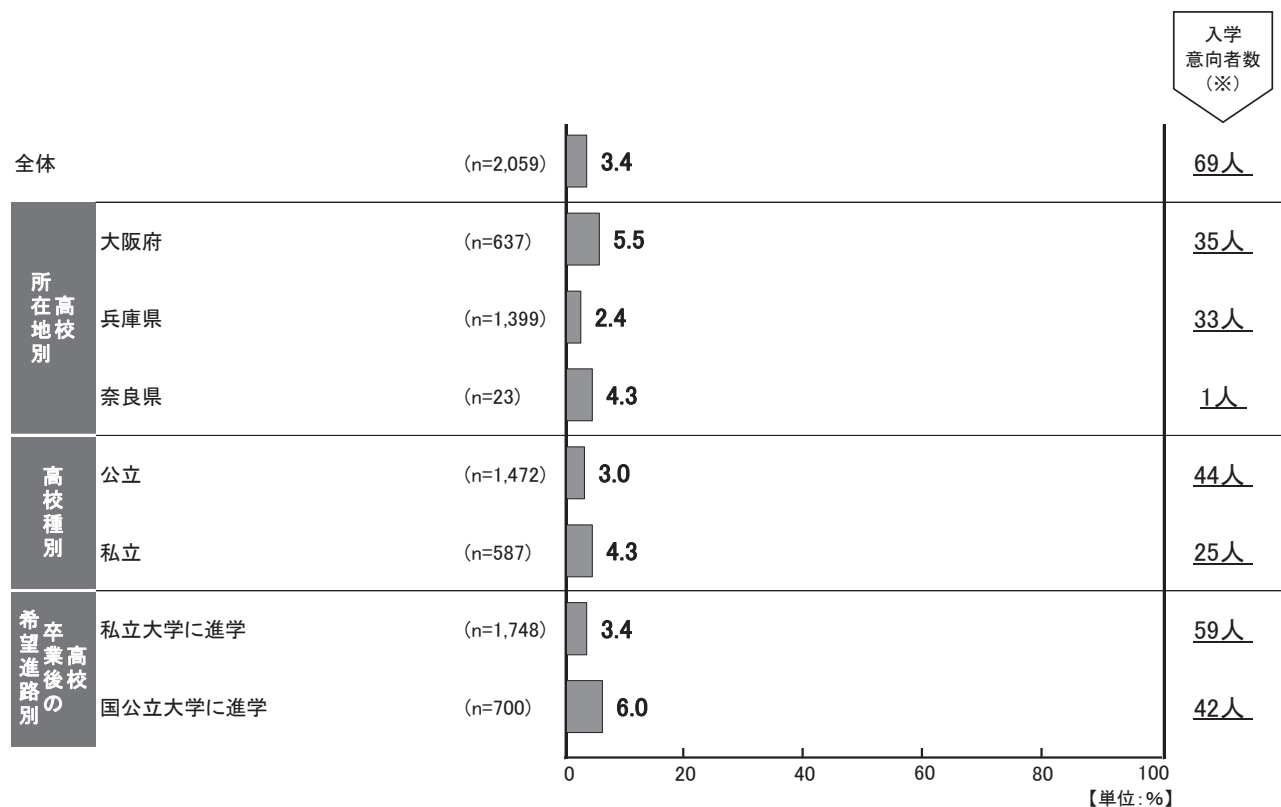
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、
Q3で「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と答えた69人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学と隣接する「大阪府」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは637人中、**35人**(5.5%)である。(うち、1人は附属校)。また、大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**33人**(2.4%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、6人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

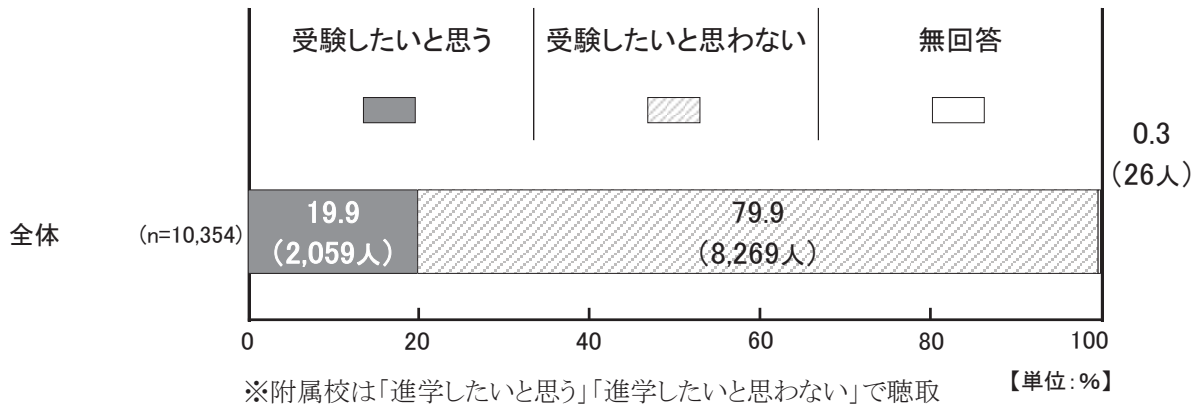
- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**59人**(3.4%)であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、7人は附属校)



健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科①

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への受験・進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

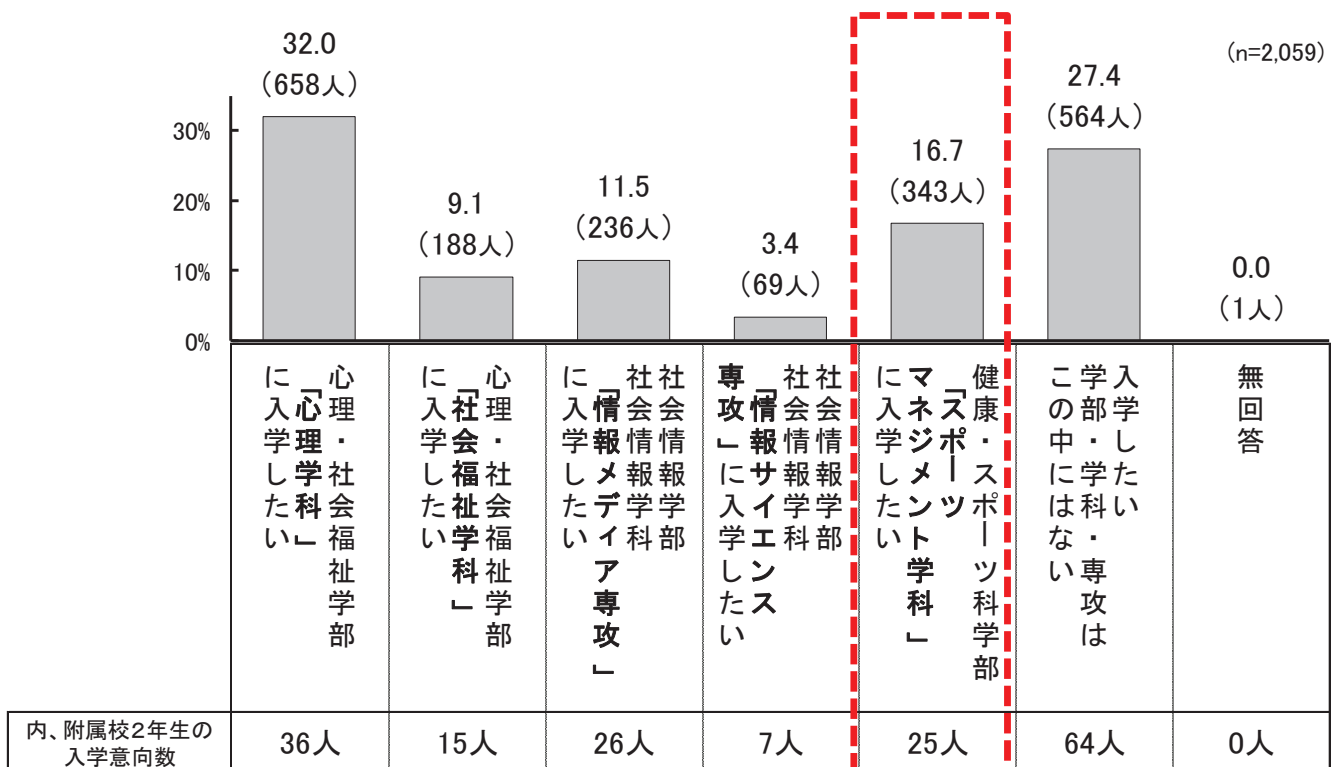


「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人 (うち、173人は附属校)のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「受験したいと思う」と答えた2,059人の回答



健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科②

■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向 属性別結果

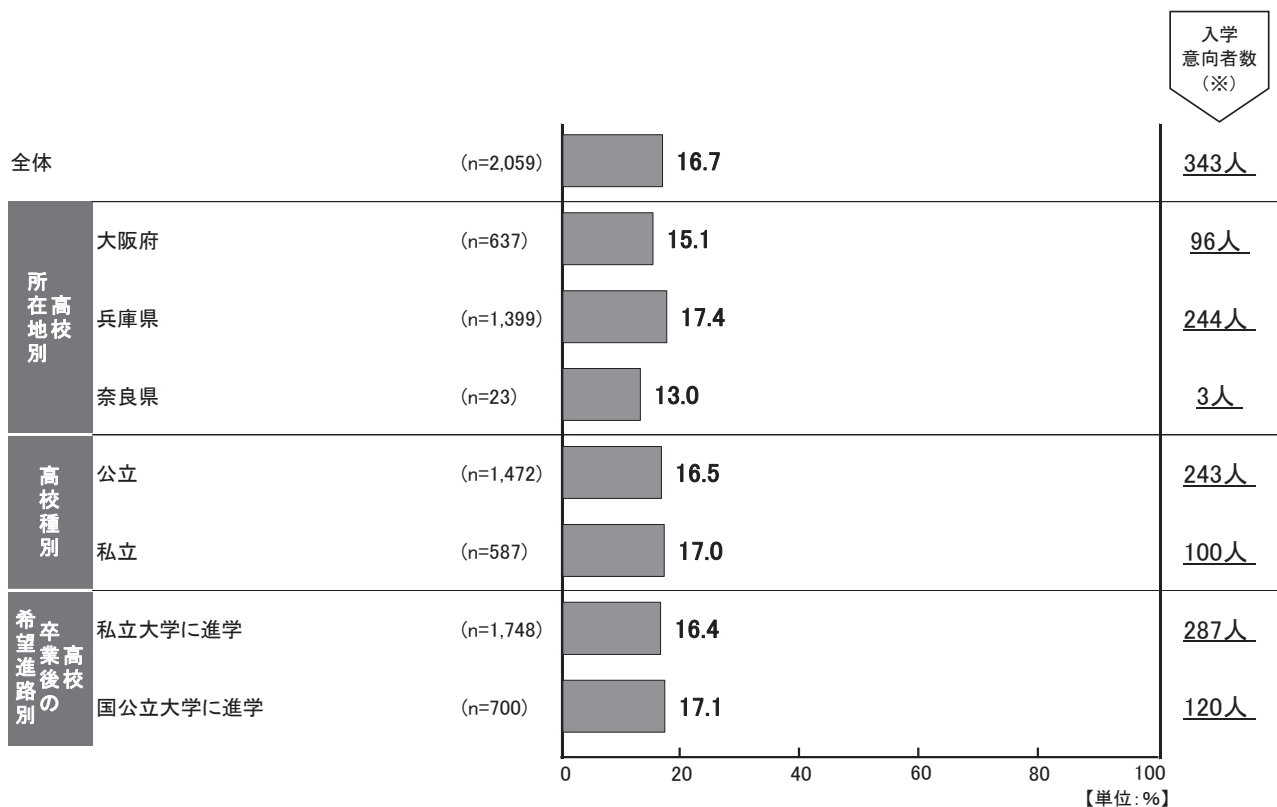
※ Q2で「受験したいと思う」「進学したいと思う」と答えた2,059人(うち、173人は附属校)のうち、
Q3で「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と答えた343人の属性別割合

◇高校所在地別

- ・大学所在地である「兵庫県」の高校在籍者のうち入学意向を示したのは1,399人中、**244人(17.4%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、23人は附属校)

◇高校卒業後の希望進路別

- ・武庫川女子大学を受験・入学する可能性がある「私立大学」への進学希望者のうち入学意向を示したのは1,748人中、**287人(16.4%)**であり、予定している入学定員を上回っている。(うち、25人は附属校)



附属高校1年・附属中学校 調査結果まとめ

附属高校1年・附属中学校対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」新設構想に関して、開設2年目以降の入学ニーズを附属高校1年・中学校の生徒から把握する。

2. 調査概要

			附属高校1年・附属中学校対象調査
調査対象			附属高校1年・附属中学校1～3年
調査方法			留置き調査
調査対象数	高校1年生	有効回収数	225人
	中学3年生	有効回収数	157人
	中学2年生	有効回収数	128人
	中学1年生	有効回収数	156人
調査時期			2021年6月21日(月)～2021年8月10日(火)
調査実施機関			株式会社 進研アド

3. 調査項目

附属高校1年・附属中学校対象調査
<ul style="list-style-type: none">・ 学年・ 居住地・ 高校卒業後の希望進路・ 武庫川女子大学への進学意向・ 各学部・学科・専攻への入学意向

附属高校1年・附属中学校対象 調査結果まとめ

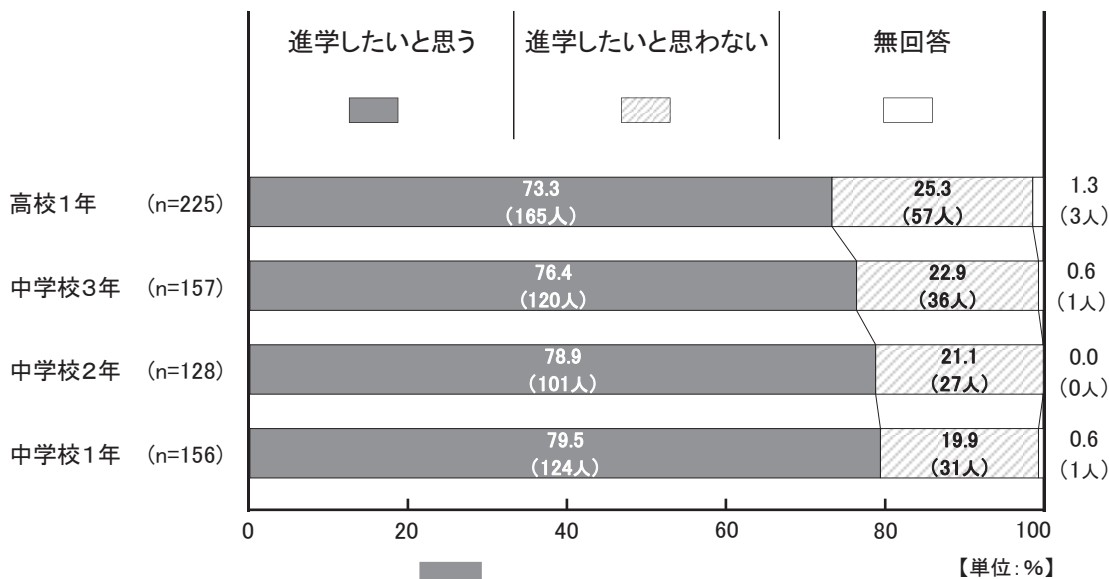
本ページ以降の結果は、武庫川女子大学 附属高校1年・中学校1～3年の生徒に高校卒業後の進路や、新学部・学科・専攻への入学意向について、聴取した結果を掲載している。

結果は、いずれの学年においても、7割超の生徒が武庫川女子大学への進学意向を示し、また新学部・学科・専攻に対して、一定の入学意向があることがうかがえる。(本ページ下部参照)

次ページ以降では、各学年ごとの結果を掲載している。

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



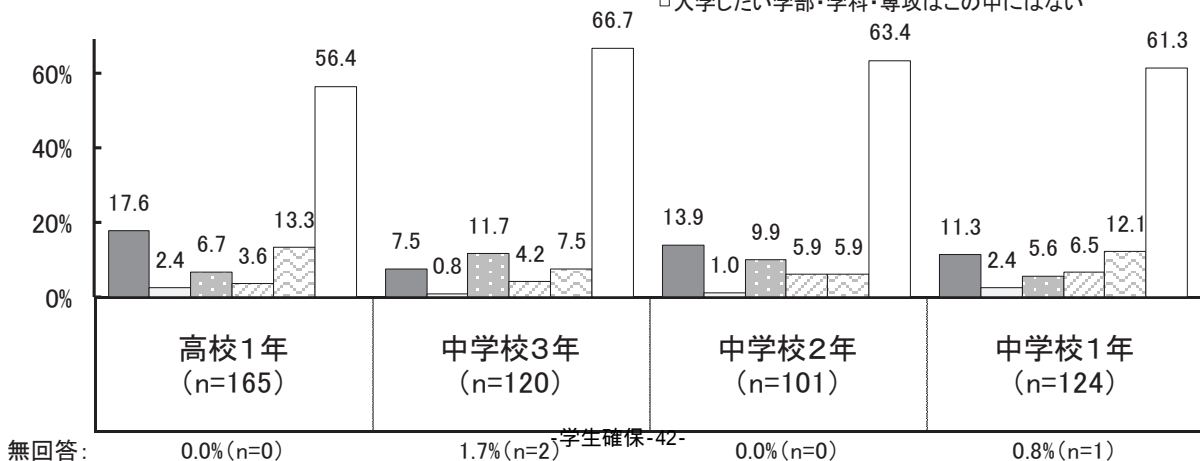
「進学したいと思う」と答えた510人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた510人の回答

- 心理・社会福祉学部「心理学科」に入学したい
- 心理・社会福祉学部「社会福祉学科」に入学したい
- 社会情報学部社会情報学科「情報メディア専攻」に入学したい
- 社会情報学部社会情報学科「情報サイエンス専攻」に入学したい
- 健康・スポーツ科学部「スポーツマネジメント学科」に入学したい
- 入学したい学部・学科・専攻はこの中にはない



<附属高校1年>調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属高校1年生(225人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は225人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が83.6%、「大阪府」が15.6%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が92.9%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が18.7%、「専門学校・専修学校に進学」が8.9%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる高校生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属高校1年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、165人(73.3%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は29人(17.6%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は4人(2.4%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は11人(6.7%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は6人(3.6%)。

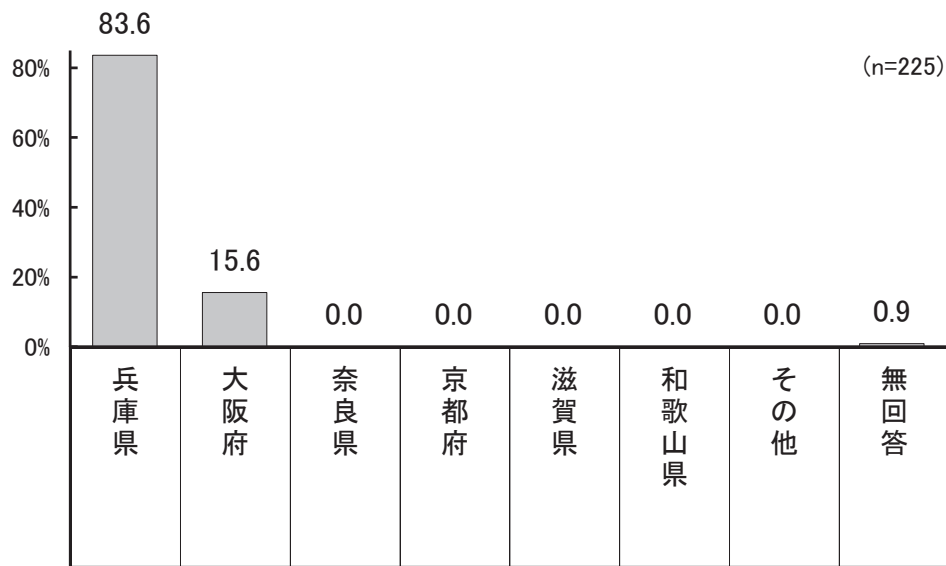
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた165人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は22人(13.3%)。

<附属高校1年>

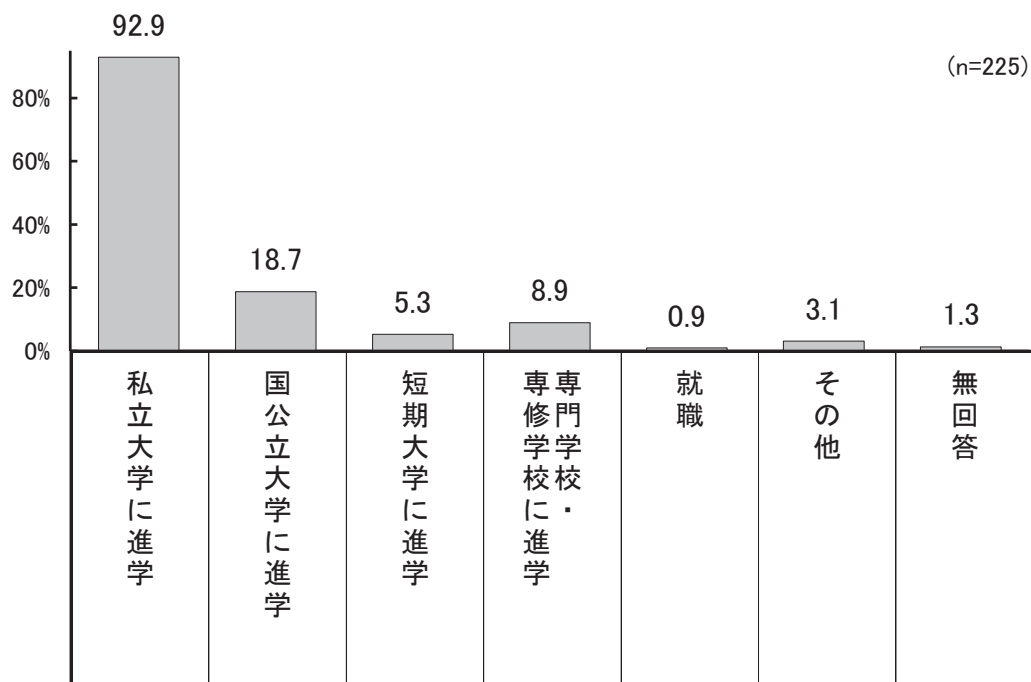
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

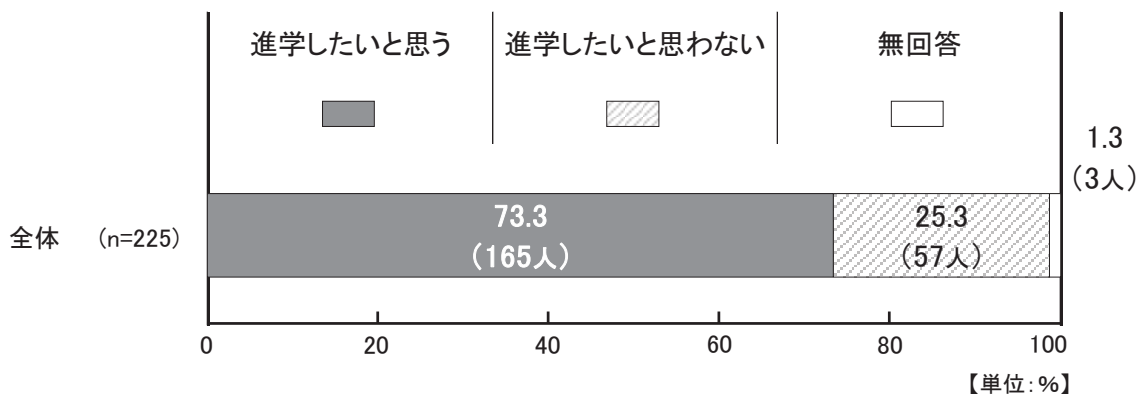


<附属高校1年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

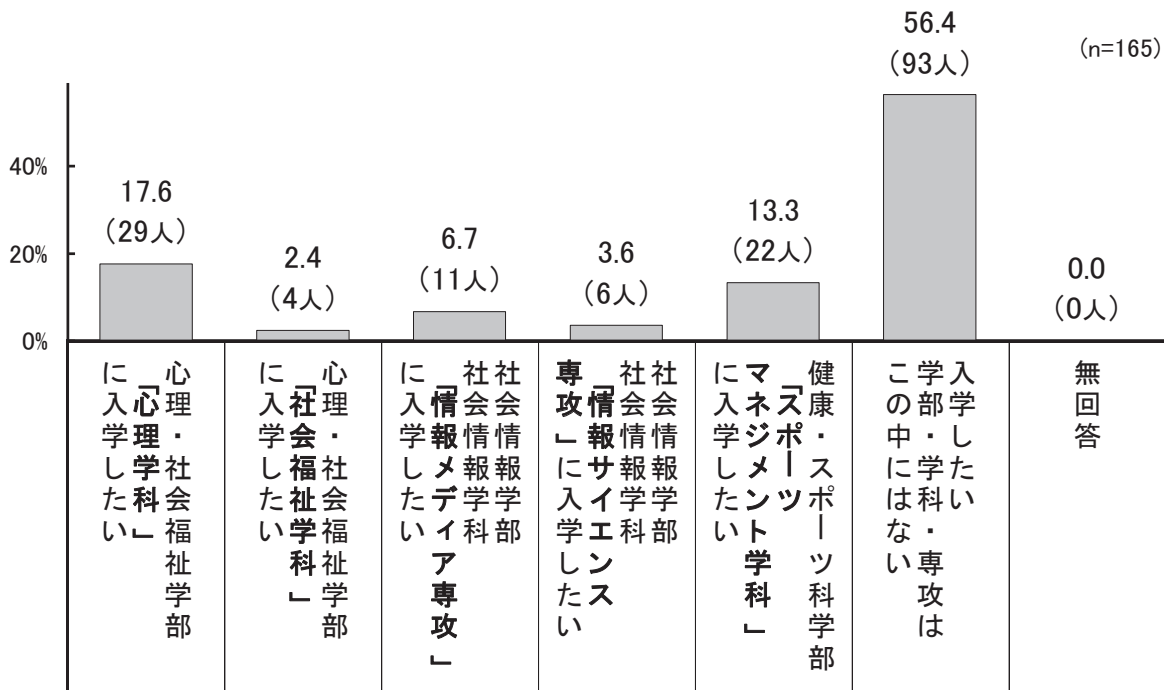


「進学したいと思う」と答えた165人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた165人の回答



<附属中学校3年> 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属中学3年生(157人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は157人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が80.3%、「大阪府」が15.9%、「奈良県」が0.6%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が77.1%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が21.0%、「専門学校・専修学校に進学」が12.7%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる中学生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属中学校3年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、120人(76.4%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は9人(7.5%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は1人(0.8%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は14人(11.7%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は5人(4.2%)。

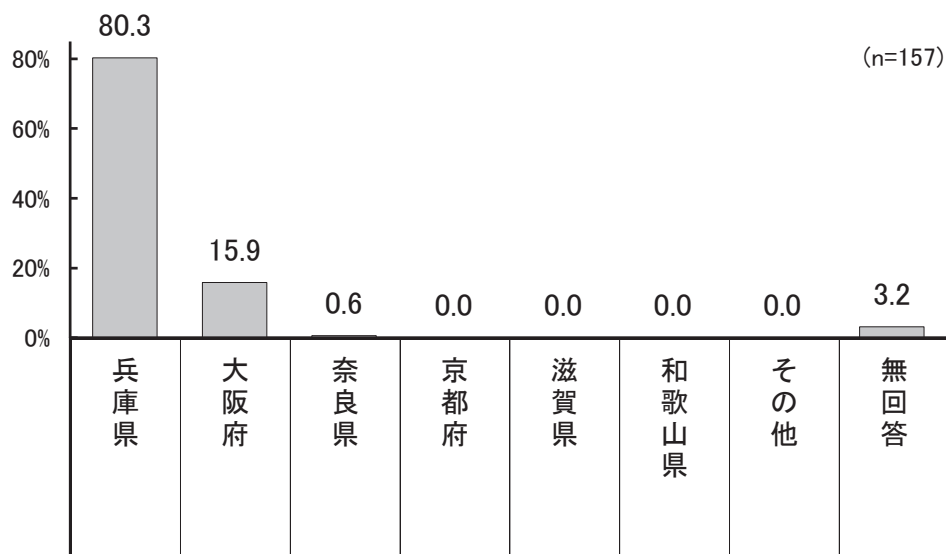
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- ・武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた120人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は9人(7.5%)。

<附属中学校3年>

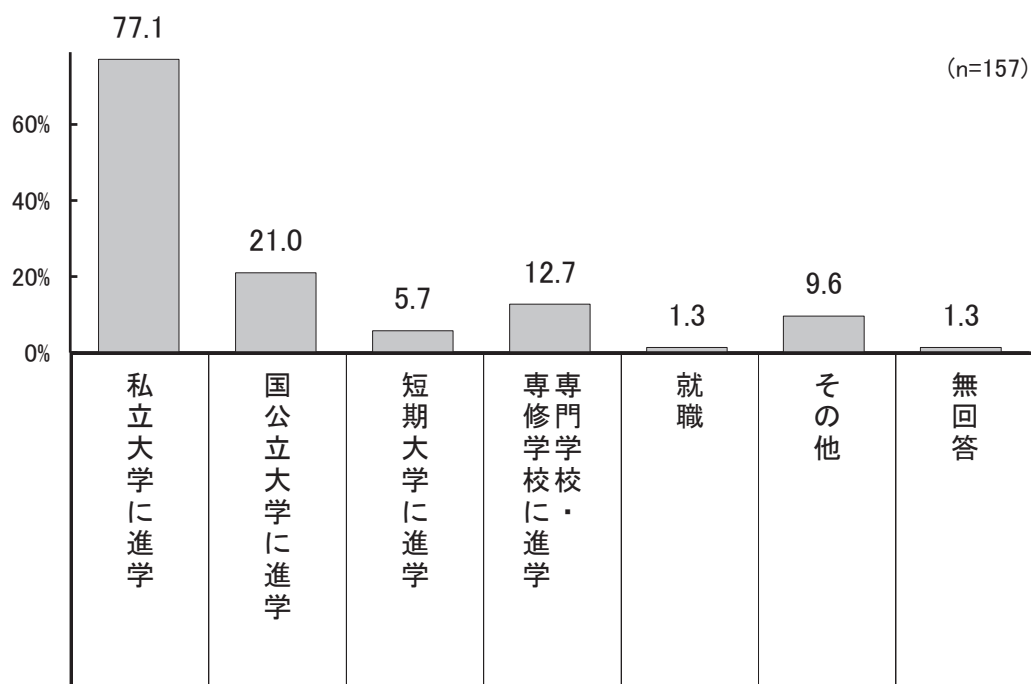
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

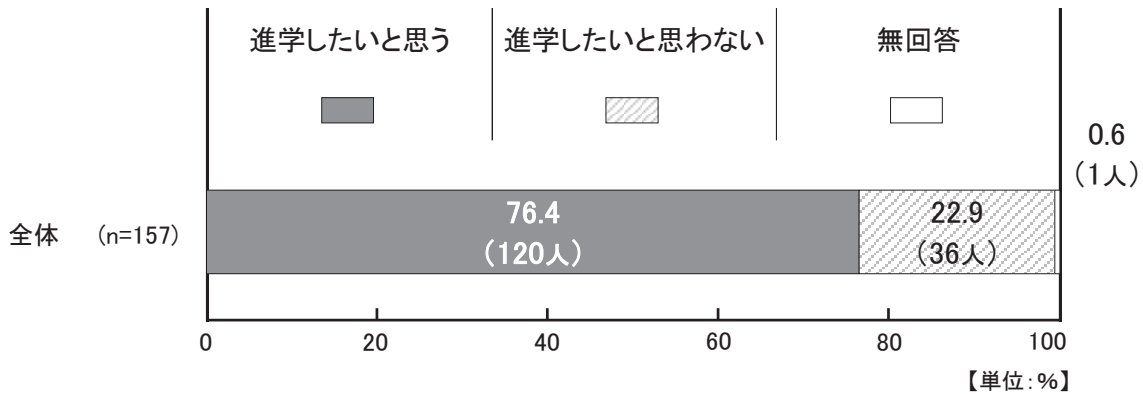


<附属中学校3年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

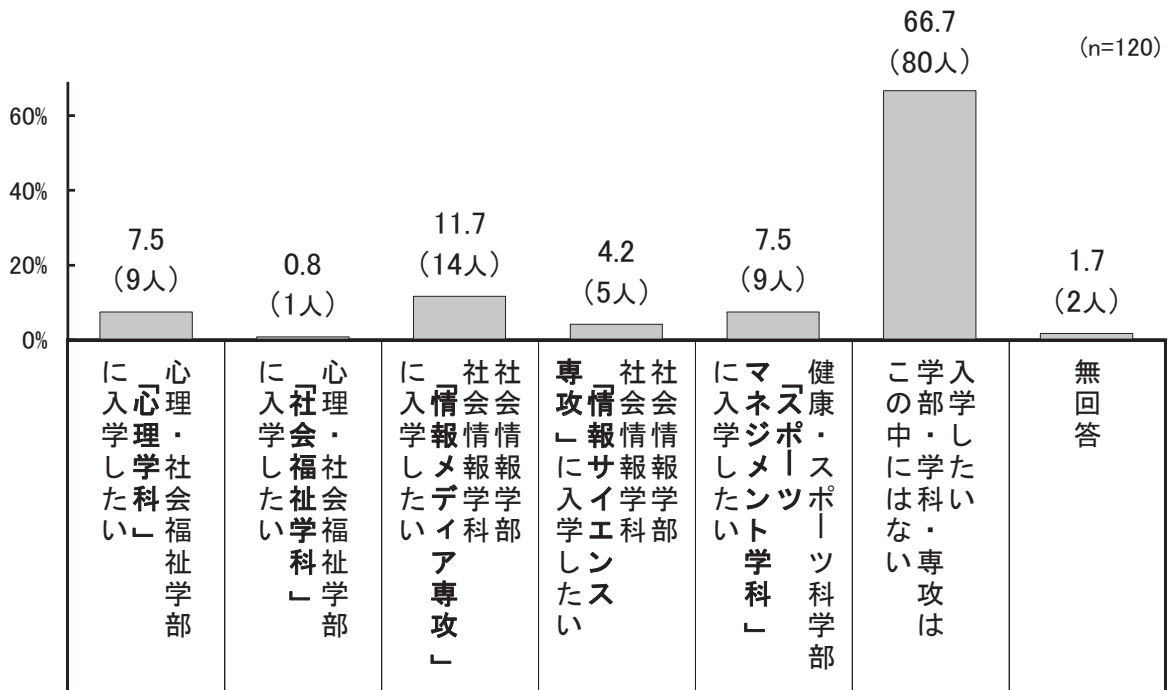


「進学したいと思う」と答えた120人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた120人の回答



<附属中学校2年> 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属中学2年生(128人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は128人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が84.4%、「大阪府」が14.8%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が86.7%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が16.4%、「短期大学に進学」が15.6%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる中学生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属中学校2年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、101人(78.9%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は14人(13.9%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は1人(1.0%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は10人(9.9%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は6人(5.9%)。

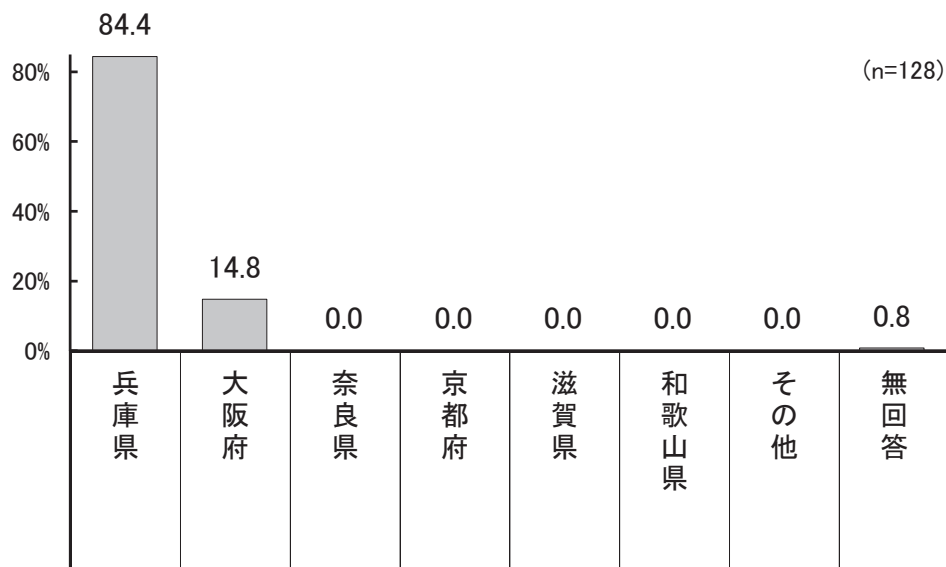
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた101人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は6人(5.9%)。

<附属中学校2年>

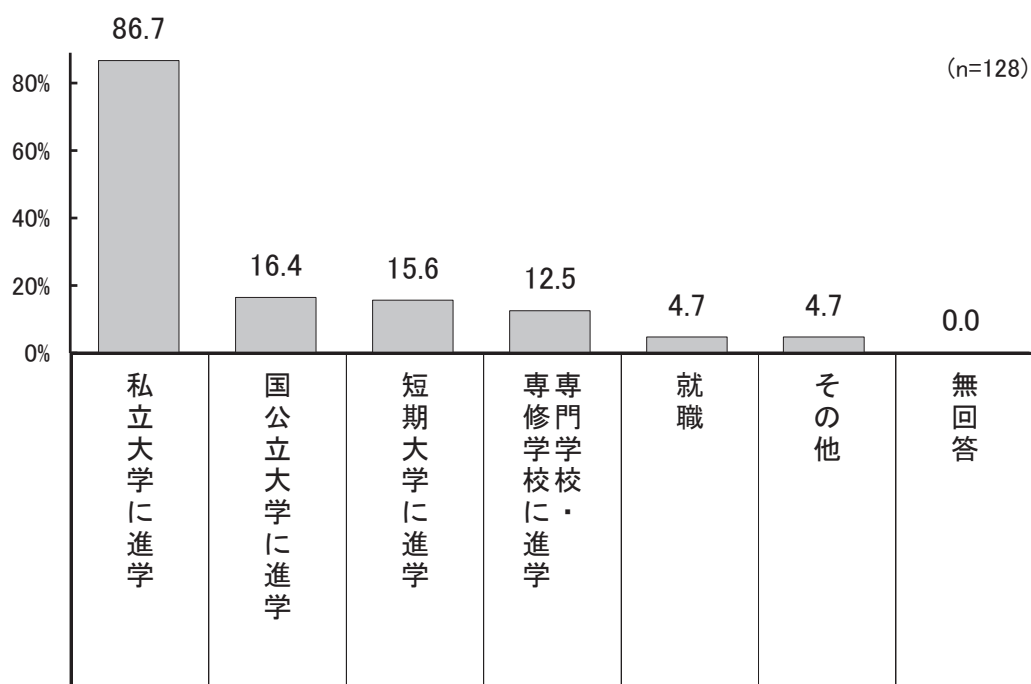
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

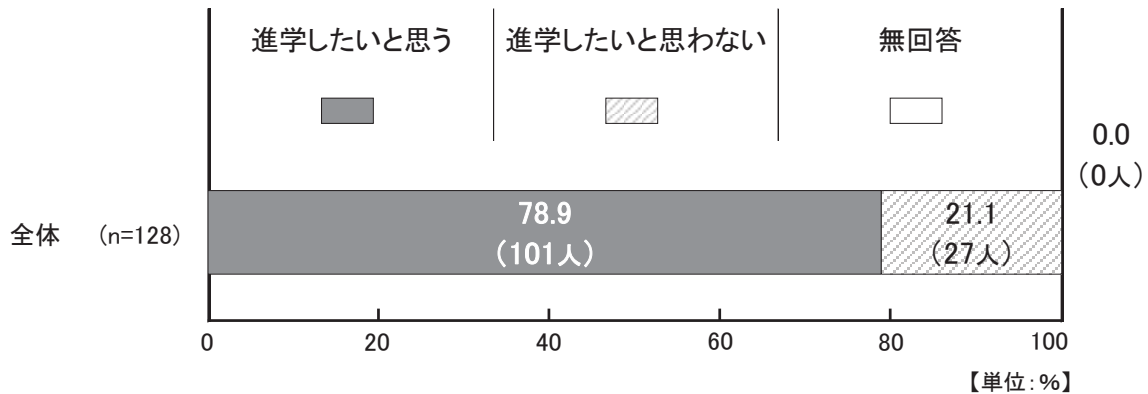


<附属中学校2年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

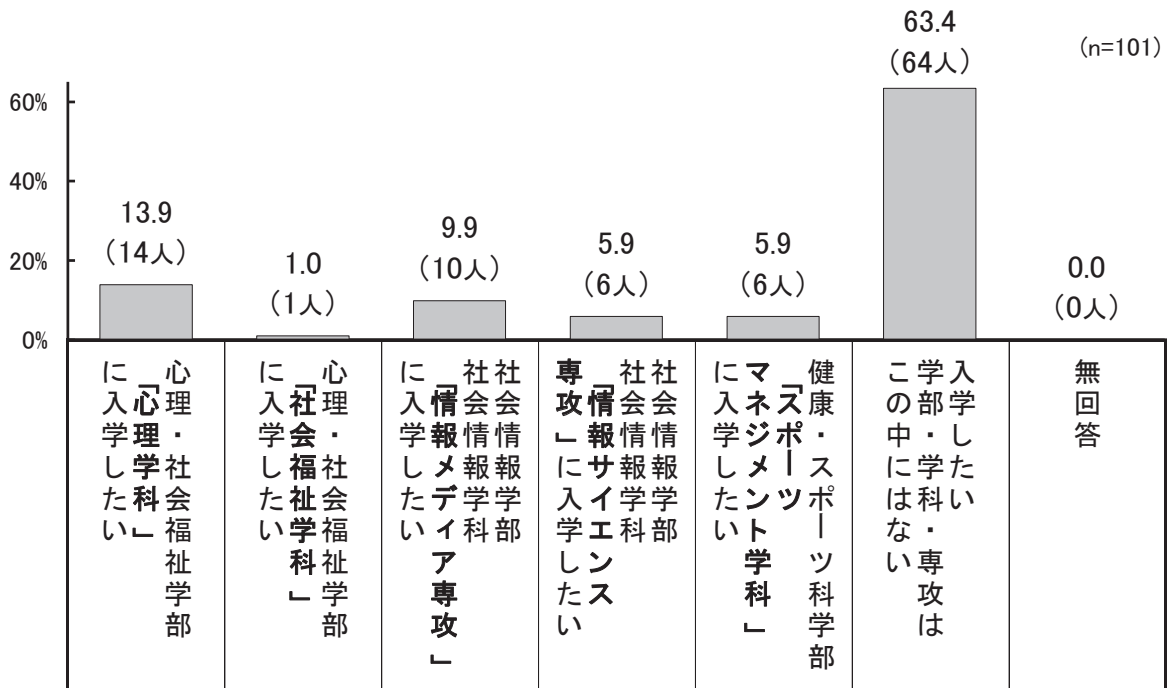


「進学したいと思う」と答えた101人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた101人の回答



<附属中学校1年>調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計。附属中学1年生(156人)に調査を実施した。

- 本調査の有効回答数は156人。
- 回答者の居住地は「兵庫県」が77.6%、「大阪府」が21.2%、「奈良県」が1.3%である。

高校卒業後の希望進路

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」を希望する人の割合が84.0%で最も高い。次いで「専門学校・専修学校に進学」が19.2%、「国公立大学に進学」「その他」が13.5%と続く。私立大学進学志望者が多いことから、武庫川女子大学の受験を検討しうる中学生の意見を聴取できていると考えられる。

＜附属中学校1年＞調査結果まとめ

武庫川女子大学への進学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた人は、124人(79.5%)である。

「心理・社会福祉学部 心理学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科に入学したい」と入学意向を示した人は14人(11.3%)。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科に入学したい」と入学意向を示した人は3人(2.4%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻に入学したい」と入学意向を示した人は7人(5.6%)。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻に入学したい」と入学意向を示した人は8人(6.5%)。

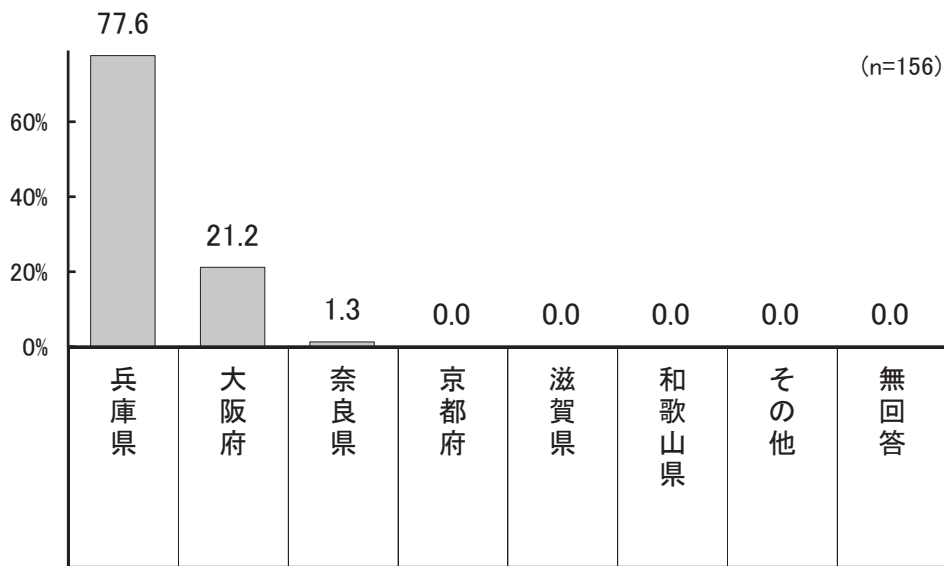
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」への入学意向

- 武庫川女子大学に「進学したいと思う」と答えた124人のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科に入学したい」と入学意向を示した人は15人(12.1%)。

<附属中学校1年>

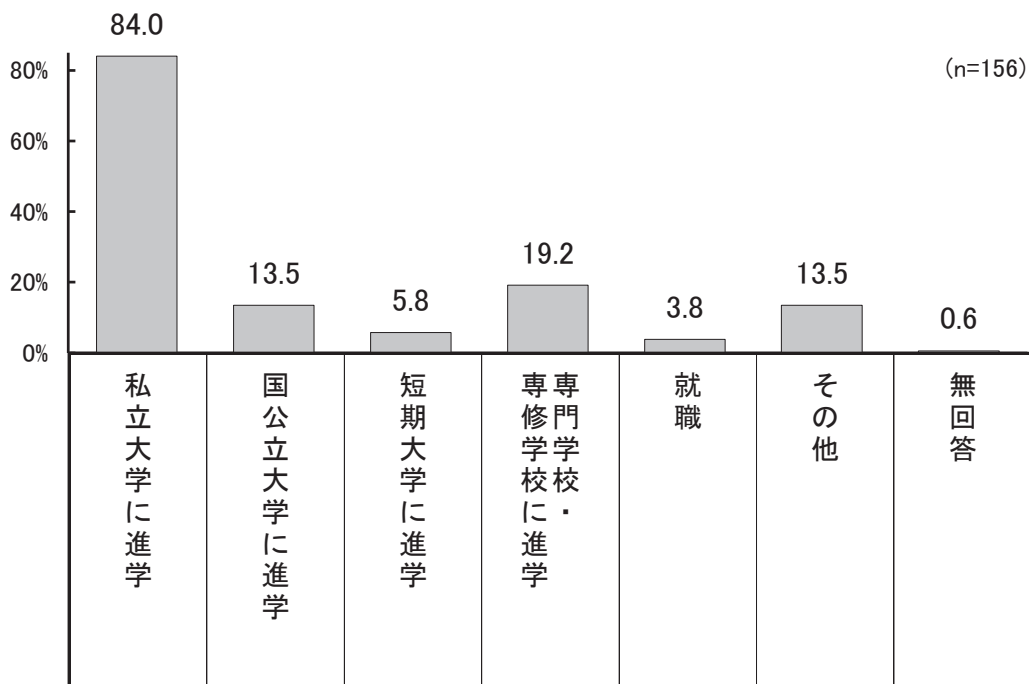
回答者の属性(居住地) 高校卒業後の希望進路

■居住地



■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

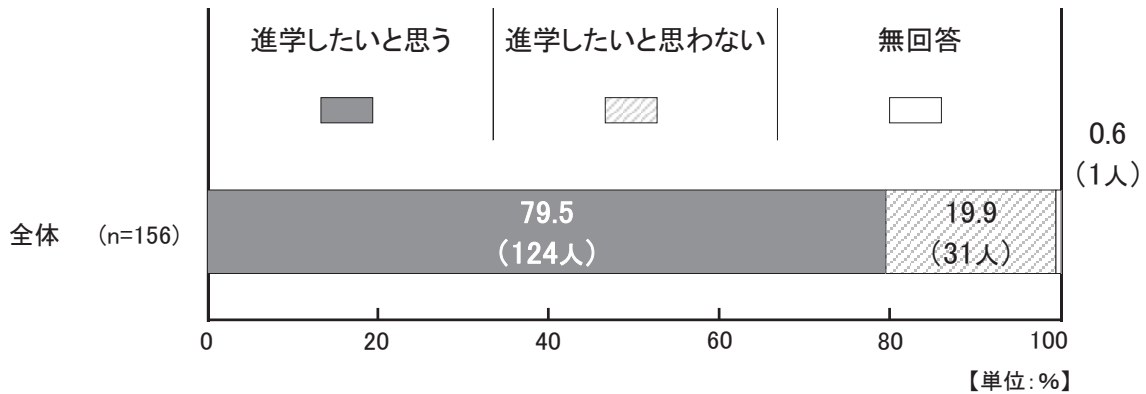


<附属中学校1年>

武庫川女子大学への進学意向／入学意向

■武庫川女子大学への進学意向

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

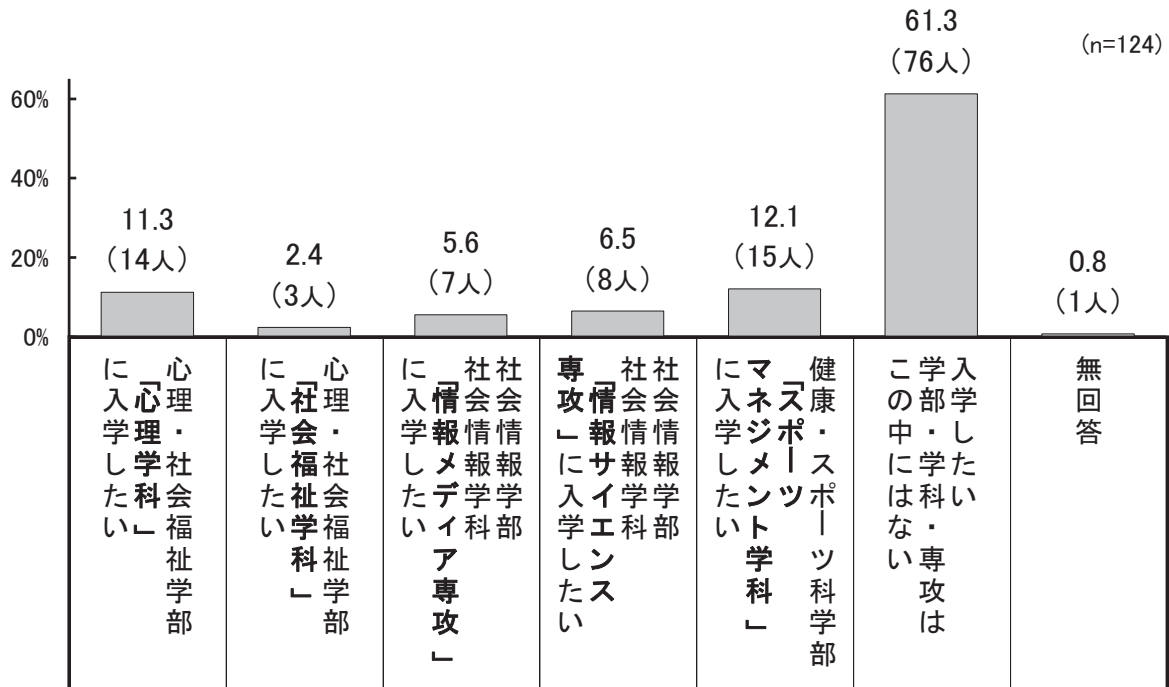


「進学したいと思う」と答えた124人のみ抽出

■武庫川女子大学 各学部・学科・専攻への入学意向

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q2の「進学したいと思う」と答えた124人の回答



卷末資料 調査票

高校生対象 アンケート調査票

<対象:2021年度現在、高校2年生の女子生徒の皆さん>

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」
(すべて仮称、設置構想中)に関するアンケート

武庫川女子大学では2023年4月に、「心理・社会福祉学部 心理学科/社会福祉学科」「社会情報学部 社会情報学科」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、武庫川女子大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※下記の記入要領をお読みいただき、次ページからの質問にご回答ください。

記入要領	1. 回答は、 あてはまる番号 に「○」印をつけてください。	ここに○印をつけてください 心理学	ID 20			
	2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。		この欄には記入しないでください			
	3. 記入は、必ず 鉛筆 又は シャープペンシル で濃く書いてください。					
	4. 下記の【 良い記入例 】にしたがって記入してください。 特に、「○」印は、 番号丸枠 からはみ出さないようにつけてください。					
良い記入例	○ 心理学 ② 社会福祉学	悪い記入例	○ 心理学 ② 社会福祉学	① 心理学 ② 社会福祉学	● 心理学 ② 社会福祉学	① 心理学 ② 社会福祉学

このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

高校生対象 アンケート調査票

「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)の特色

心理・社会福祉学部	心理学科	<p>カウンセリングなどを学ぶ「臨床系」、心理学研究のための「研究系」、企業・社会で役立つ「実用系」の科目が学べます。</p> <p>実社会の課題に取り組むフィールドワークなど実践的な授業を通して課題を発見し、解決策を生み出す力を身につけることができます。また、公認心理師受験資格や社会調査士の資格取得も可能です。</p>
	社会福祉学科	<p>社会福祉士を目指す「ソーシャルワーク基礎コース」、精神保健福祉士を目指す「ソーシャルワーク・アドバンスコース」、地域貢献や国際協力の現場での活躍を目指す「ソーシャルビジネスコース」から学びを選択できます。</p> <p>フィールドワークなどを通して、地域での孤立、子どもの貧困、多文化共生などの課題に挑む実践力を身につけることができます。</p>
社会情報学部	情報メディア専攻	<p>メディアとコミュニケーションをキーワードに、生活・経済における情報デザインについて学びます。</p> <p>データ分析から広告企画、WEBページ制作まで、さまざまな実践プログラムを通して、情報技術活用力と問題解決・提案力を育みます。</p> <p>情報(広告・通信・マスコミ)業界をはじめICT社会で幅広く活躍できる力を身につけることができます。</p>
	情報サイエンス専攻	<p>システムエンジニアはもちろんコンピュータを使うすべての業種・職種で活躍できる実践的な情報処理技術を身につけることができます。</p> <p>また、4年間にわたって体系的に学ぶデータサイエンス・AI教育により、データを分析する技能を磨き、銀行・保険・観光・エンターテインメントなどの業界でもデータに強い女性として活躍することを目指します。</p>
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	<p>多様なスポーツビジネス業界で活躍するために必要となる「マネジメント」「マーケティング」「実務」「生活・健康」「先端ビジネス」の5つの領域を学ぶことができます。</p> <p>スポーツイベントの企画・運営などを通して、スポーツマネジメント力、スポーツビジネス力、スポーツ指導・教育力を身につけることができます。</p>

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

附属高校・中学校対象 アンケート調査票

<対象:2021年度現在、附属高校1・2年生、附属中学校1・2・3年生の皆さん>

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」
(すべて仮称、設置構想中)に関するアンケート

武庫川女子大学では2023年4月に、「心理・社会福祉学部 心理学科／社会福祉学科」
「社会情報学部 社会情報学科」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて
仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは、本学附属中学・高等学校で学ぶみなさんの進路選択に対する考え方や、
大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、武庫川女子大学の教育をより充実したものにす
るための参考資料とさせていただくものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用
し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

このアンケートや同封した資料に記載されている事項は、すべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

附属高校・中学校対象 アンケート調査票

◆最初にあなた自身についてお聞きます。

学年 (1つに○)	1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生 4. 高校1年生 5. 高校2年生
お住まいの 府県 (1つに○)	1. 兵庫県 2. 大阪府 3. 奈良県 4. 京都府 5. 滋賀県 6. 和歌山県 7. その他

◆高校卒業後の進路などについてお聞きます。

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- | | | |
|-------------|-----------------|--------|
| 1. 私立大学に進学 | 3. 短期大学に進学 | 5. 就職 |
| 2. 国公立大学に進学 | 4. 専門学校・専修学校に進学 | 6. その他 |

**武庫川女子大学では、2023年4月に、
新しく「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。**

※右に記載の各学部・学科・専攻の特色とアンケートに同封している資料をご覧の上、
以下の質問にお答えください。

Q2. あなたは、新しい学部・学科・専攻を備えた武庫川女子大学に進学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 進学したいと思います | 2. 進学したくない |
|---------------|------------|

Q3. あなたは、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」
(すべて仮称、設置構想中)のうち、どの学部・学科・専攻に入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 心理・社会福祉学部 「心理学科」に入学したい
2. 心理・社会福祉学部 「社会福祉学科」に入学したい
3. 社会情報学部 社会情報学科 「情報メディア専攻」に入学したい
4. 社会情報学部 社会情報学科 「情報サイエンス専攻」に入学したい
5. 健康・スポーツ科学部 「スポーツマネジメント学科」に入学したい
6. 入学したい学部・学科・専攻はこの中にはない

* * * 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。* * *

附属高校・中学校対象 アンケート調査票

「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)の特色

心理・社会福祉学部	心理学科	カウンセリングなどを学ぶ「臨床系」、心理学研究のための「研究系」、企業・社会で役立つ「実用系」の科目が学べます。 実社会の課題に取り組むフィールドワークなど実践的な授業を通して課題を発見し、解決策を生み出す力を身につけることができます。また、公認心理師受験資格や社会調査士の資格取得も可能です。
	社会福祉学科	社会福祉士を目指す「ソーシャルワーク基礎コース」、精神保健福祉士を目指す「ソーシャルワーク・アドバンスコース」、地域貢献や国際協力の現場での活躍を目指す「ソーシャルビジネスコース」から学びを選択できます。 フィールドワークなどを通して、地域での孤立、子どもの貧困、多文化共生などの課題に挑む実践力を身につけることができます。
社会情報学部	情報メディア専攻	メディアとコミュニケーションをキーワードに、生活・経済における情報デザインについて学びます。 データ分析から広告企画、WEBページ制作まで、さまざまな実践プログラムを通して、情報技術活用力と問題解決・提案力を育みます。 情報(広告・通信・マスコミ)業界をはじめICT社会で幅広く活躍できる力を身につけることができます。
社会情報学部	情報サイエンス専攻	システムエンジニアはもちろんコンピュータを使うすべての業種・職種で活躍できる実践的な情報処理技術を身につけることができます。 また、4年間にわたって体系的に学ぶデータサイエンス・AI教育により、データを分析する技能を磨き、銀行・保険・観光・エンターテインメントなどの業界でもデータに強い女性として活躍することを目指します。
健康・スポーツ科学部	マネジメントスポーツ学科	多様なスポーツビジネス業界で活躍するために必要となる「マネジメント」「マーケティング」「実務」「生活・健康」「先端ビジネス」の5つの領域を学ぶことができます。 スポーツイベントの企画・運営などを通して、スポーツマネジメント力、スポーツビジネス力、スポーツ指導・教育力を身につけることができます。

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

情報で、10年後の暮らしは変わる。

設置概要

学 部：社会情報学部(仮称)
 学 科：社会情報学科(仮称)
 学 位：学士(社会情報学)
 入学定員：180名(募集予定人数:情報メディア専攻140名、情報サイエンス専攻40名)
 修業年限：4年
 開設時期：2023年4月予定
 開設場所：中央キャンパス(兵庫県西宮市)

◎初年度納付金※ 1,384,700円

※初年度納付金には、入学金、授業料、教育充実費を含みます。(2023年度入学者対象)
 ※2021年4月時点での学費を参考にした金額であり、変更となる可能性があります。

◎類似学部

関 西 大 学 / 総合情報学部
 同志社女子大学 / 学芸学部 メディア創造学科
 京 都 女 子 大 学 / 現代社会学部 現代社会学科 情報システム専攻
 兵 庫 県 立 大 学 / 社会情報科学部 社会情報科学科

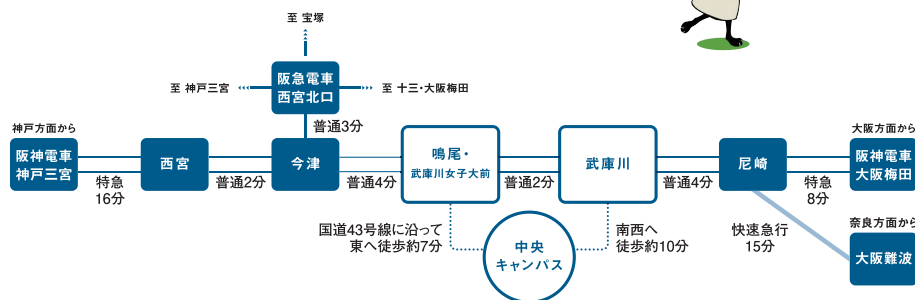
※初年度納付金(参考) 817,800円~1,589,000円
 ※出典：2021年4月各大学HPより
 詳しくは各大学にお問い合わせください。

Access

武庫川女子大学中央キャンパスへは、阪神電車のご利用が便利です。

阪急電車ご利用の場合は、阪急西宮北口にて今津線にお乗り換えのうえ今津駅より阪神電車をご利用ください。

※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。



 **武庫川女子大学**
Mukogawa Women's University

中央キャンパス	文学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス	薬学部、大学院
上甲子園キャンパス	建築学部、大学院

●お問い合わせ

入試センター 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 TEL. 0798-45-3500 FAX. 0798-45-3563
 テレフォンサービス(24時間) 入試情報 TEL. 0798-45-8888 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/>

-学生確保-66-

ビッグデータで 暮らしが豊かになる?

社会×IT

情報技術で、 人々の娯楽も変化する?

生活×文化

AIが、 これからの企業を 変えていく?

生活×経済

文理融合学部 **社会情報学部 社会情報学科**(仮称) 誕生
 (2023年4月 設置構想中)



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

2023年4月、社会情報学部 社会情報学科〈仮称〉誕生

社会×IT

これからの社会に不可欠な データ活用の担い手

SNSやウェブサイト、ICカードをはじめ、社会のさまざまなシーンで集積されたビッグデータを活用することは、ビジネスはもちろん、私たちの暮らしをより豊かにする可能性を秘めています。医療、防災・減災対策、街づくりなどにも生かすことができ、あらゆる分野でビッグデータの活用に注目が集まる中、データ活用の担い手が必要とされています。

生活×文化

情報技術で新たな価値をつくる 創造力豊かな人材が必要に

VRで世界中の観光地を体験できたり、スポーツができたり、今後ますますバーチャルリアリティの世界は進化していきます。また、仕事では煩雑な作業をAIに任せることで効率が上がったり、AIを駆使して家事も簡略化される。未来の私たちの生活。情報技術によって、趣味に費やせる時間も増え、これからの余暇の楽しみ方も大きく変化していくでしょう。

生活×経済

今後求められるのは AIを賢く利用する企業人

大量のデータによるディープラーニングを通じて、さまざまな能力を向上させるAI。AIを活用すれば、個人の消費者のニーズに合わせた商品情報やサービスの提供が可能。また、人びとの働き方も大きく変化します。これからの企業では、人間がAIを賢く活用し、消費者や労働者にいかに豊かな価値を提供できるかが重要になるのです。

Society5.0時代の豊かな暮らしと社会を 創造する女性を育成。

2023年、武庫川女子大学に社会情報学部が誕生します(※)。ICT社会の生活を、「社会・経済」と「情報」という文理融合の幅広い視点から学びます。専門科目ではメディアやコミュニケーションなどをテーマに暮らしと社会を考える講義とともに、情報技術に関する演習を履修します。さらに、データを扱う実践的演習科目を履修し、実社会の問題解決に役立つ、生きたスキルの修得をめざします。

(※設置構想中)

情報を
収集する力

情報を
読み解く力

情報を
発信する力

設置の背景

AI(人工知能)やIoT(Internet of Things)、ロボットなどに代表されるデジタル技術が急速に進化する今、社会や暮らしのあり方が急速に変化しつつあります。そんな時代の変革期に、情報やマルチメディアの知識・技能を生かし、社会で活躍し、豊かに生き抜くことができる人材の育成が本学部の目標です。

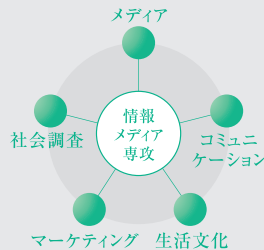
養成する人物像

ICT社会における社会・経済・情報に関わる幅広い知識や技能を身に付けます。多元的な視点を有する個人としての強みを発揮し、情報を扱う実践力を持ち、社会の課題に主体的に取り組み、新たな価値を創出できる人材を育てています。

文系 情報メディア専攻〈仮称〉

情報化社会と人びとの暮らしをつなぐ 「情報のコミュニケーター」を育成

“人間の生活”と“情報化社会”の関わりを理解し、ICTを活用したこれからの豊かな暮らしを編集・設計・演出するスキルの修得をめざします。また、文化や経済をさまざまなデータから分析するコミュニケーションやマーケティングなどの基礎科目や演習科目も履修。身に付けたスキルを実際に社会で生かせるよう、社会の課題を発見し、その解決に向けた対応力を養う科目も受講していきます。



【開設科目】
コミュニケーション論、メディア論、文化社会学、経営情報論、マーケティング演習、統計学、社会調査 等

専攻の特色 実社会の課題に取り組む「プロジェクト演習」

1年次からスタートする「プロジェクト演習」ではチームで課題解決に取り組むプロセスを体験し、2年次には実際に企業の課題解決にも取り組みます。企業のWeb戦略を分析したり、消費者の行動をさまざまなデータから読み解いたり、広告制作に取り組んだり、ヒアリング調査を行ったり、プロジェクトのテーマは多岐。実践的な授業を通して、課題発見・解決スキルの向上はもちろん、主体性や社会性も養っていきます。

想定される 将来のステージ

- ◎IT業界の企画・営業職
- ◎Webデザイナー
- ◎システムエンジニア
- ◎データアナリスト
- ◎メディア産業のプロデューサー
- ◎旅行業界の企画・営業職
- ◎金融機関のデジタル職
- ◎eコマース関連の企画・営業職
- ◎教員(高校情報科)
- ◎公務員

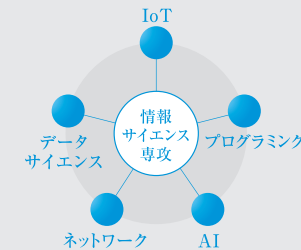


-学生確保-67-

理系 情報サイエンス専攻〈仮称〉

情報技術から豊かな暮らしをつくる 「情報のスペシャリスト」を育成

スマートフォンをはじめ、AIやIoT、ロボットなどの最先端技術が社会を変革する時代に、ICT機器を操作して、情報を活用する能力の向上をめざします。コンピュータ、プログラミング、ネットワーク、セキュリティなどの高度な情報技術を修得。さらに、人工知能やビッグデータを、社会や企業の課題解決に役立てるため、データサイエンスや統計学の科目も充実させています。



【開設科目】
データサイエンス論、AI概論、プログラミング演習、コンピュータネットワーク応用、システム設計 等

専攻の特色 反転授業*1、ハッカソン*2、 徹底した少人数による充実したデータサイエンス教育

学生の主体的な反転授業によりプログラミングの基礎を学び、「ハッカソン(ハッキング+マラソン)」を通して確かなプログラミング技能を養います。データサイエンスとAIについては最重要教科として1年次から4年次まで一貫した授業科目を配置し、この中でビッグデータや金融系の情報技術についても学びます。徹底した少人数のゼミでは、指導教員の専門性に応じて、VR・AR、IoT技術なども学びます。

*1 自宅学習で知識を修得し、授業では詳しい解説や発展問題を扱う、従来の教育方法の順番を反転させた新しい学習方法。
*2 ハック(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた造語。短期間で集中的に意見やアイデアを出し合う共同の開発作業。



※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

武庫川女子大学
「心理・社会福祉学部」
「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業・団体対象調査】

令和3年10月
株式会社 進研アド

-学生確保-68-

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」新設構想に関して、企業・団体のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業・団体対象調査
調査対象		企業・団体の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、宮城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,413企業
	回収数(回収率)	380企業・団体(26.9%)
調査時期		2021年6月21日(月)～2021年8月10日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業・団体対象調査
<ul style="list-style-type: none">・人事採用への関与度・本社所在地・業種・従業員数・正規社員の平均採用人数・各学部・学科・専攻の社会的必要性・各学部・学科・専攻卒業生に対する採用意向・各学部・学科・専攻卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対する需要を確認するための調査として設計したため、武庫川女子大学卒業生への採用実績のある企業・団体(以降、企業と表記)380企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施した。

- 本調査の回答企業は380企業(回収率26.9%)。
- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人が26.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は63.9%であり、採用や選考にかかわっている人は合わせて90.7%である。
- 回答企業の本社所在地は、「大阪府」が36.6%と最も多い。次いで「東京都」が23.9%、武庫川女子大学の所在地である「兵庫県」が20.8%と続く。
- 回答企業の業種としては、「卸売・小売業」が22.6%で最も多く、次いで「情報通信業」が13.4%、「その他サービス業」が12.6%と続く。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が35.3%で最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が22.4%、「500名～1,000名未満」が17.6%と続く。

回答企業の採用状況

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が17.9%で最も多く、次いで「10名～20名未満」が17.1%、「50名～100名未満」が16.6%と続く。採用人数の規模は様々であるが、毎年正規社員を採用している企業がほとんどである。

企業対象 調査結果まとめ

<心理・社会福祉学部 心理学科>

「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性

- ・武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性については、94.5% (359企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、73.9% (281企業) である。
- ・「採用したいと思う」と答えた281企業へ武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計385名程度で、予定している入学定員150名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- ・上記281企業のうち、「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では83.9% (31企業中、26企業)、「医療機関・病院」では58.8% (17企業中、10企業)、「公務」では76.2% (21企業中、16企業) である。加えて、「金融・保険業・不動産」では84.6% (39企業中、33企業)、「卸売・小売業」では82.6% (86企業中、71企業) と、多様な業種からの採用意向がみられる。以上を合わせると、156企業が採用意向を示している。
- ・前述の156企業へ、「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計217名程度である。このことから、「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP13～P14参照。

企業対象 調査結果まとめ

<心理・社会福祉学部 社会福祉学科>

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性

- 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性については、96.3% (366企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、69.7% (265企業) である。
- 「採用したいと思う」と答えた265企業へ武庫川女子大学「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計393名程度で、予定している入学定員70名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- 上記265企業のうち、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では96.8% (31企業中、30企業)、「医療機関・病院」では76.5% (17企業中、13企業)、「公務」では90.5% (21企業中、19企業) である。以上を合わせると、62企業が採用意向を示している。
- 前述の62企業へ、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計131名程度である。このことから、「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。
※詳細はP15～P16参照。

企業対象 調査結果まとめ

＜社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻＞

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性

- ・武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性については、97.6% (371企業)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、81.8% (311企業)である。
- ・「採用したいと思う」と答えた311企業へ武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計421名程度で、予定している入学定員140名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- ・上記311企業のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「情報通信業」では96.1% (51企業中、49企業)、「製造業」では80.6% (31企業中、25企業)、「金融・保険業・不動産」では82.1% (39企業中、32企業)、「卸売・小売業」では90.7% (86企業中、78企業)である。以上を合わせると、184企業が採用意向を示している。
- ・前述の184企業へ、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計235名程度である。このことから、「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP17～P18参照。

企業対象 調査結果まとめ

＜社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻＞

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性

- 武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性については、96.3% (366企業)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- 武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、82.6% (314企業)である。
- 「採用したいと思う」と答えた314企業へ武庫川女子大学「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計427名程度で、予定している入学定員40名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- 上記314企業のうち、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「情報通信業」では100.0% (51企業中、51企業)、「製造業」では90.3% (31企業中、28企業)、「金融・保険業・不動産」では84.6% (39企業中、33企業)である。以上を合わせると、112企業が採用意向を示している。
- 前述の112企業へ、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計151名程度である。このことから、「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP19～P20参照。

企業対象 調査結果まとめ

＜健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科＞

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性

- ・武庫川女子大学「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性については、88.7% (337企業) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・武庫川女子大学「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、65.8% (250企業) である。
- ・「採用したいと思う」と答えた250企業へ武庫川女子大学「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数は合計354名程度で、予定している入学定員100名を大きく上回っている。

想定される就職先からの採用意向

◇想定される就職先の業種別

- ・上記250企業のうち、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の想定される就職先と関連の深い業種について、採用意向を抽出すると、「福祉施設・福祉関連業」では64.5% (31企業中、20企業)、「製造業」では77.4% (31企業中、24企業)、「スポーツ・フィットネス・ヘルス関連業」では92.9% (14企業中、13企業) である。以上を合わせると、57企業が採用意向を示している。
- ・前述の57企業へ、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計106名程度である。このことから、「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の想定される就職先の業種においても安定した人材需要があることがうかがえる。

※詳細はP21～P22参照。

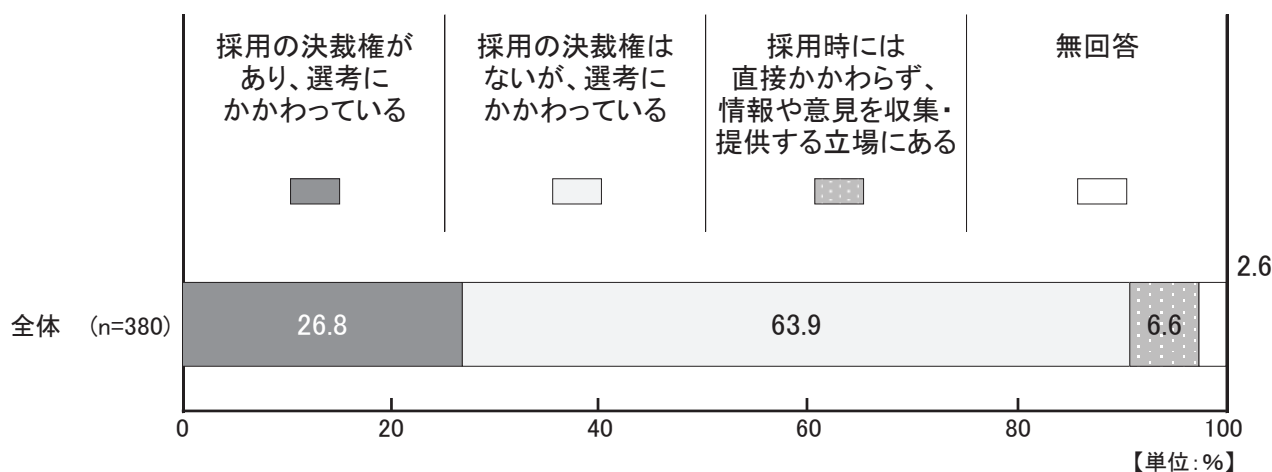
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

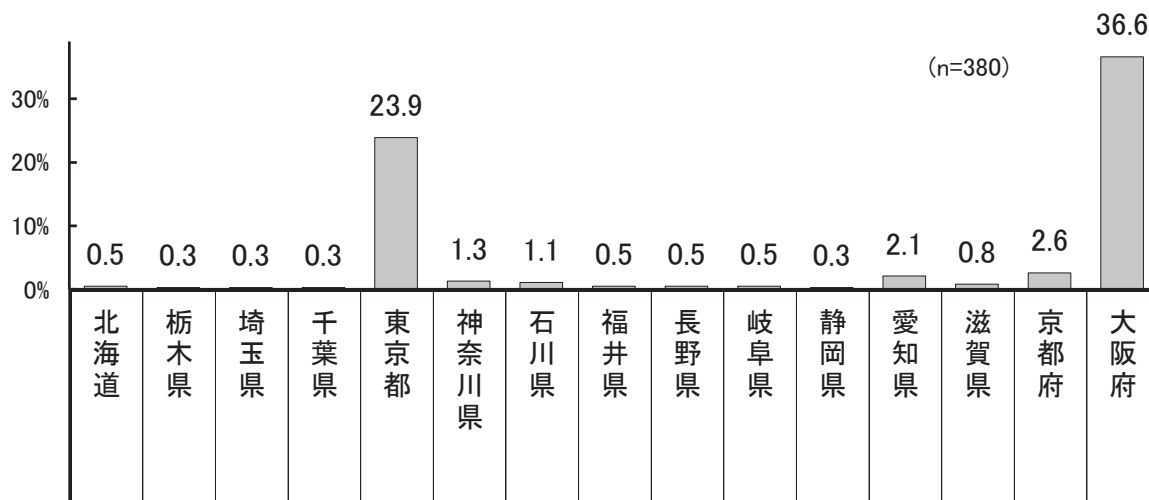
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

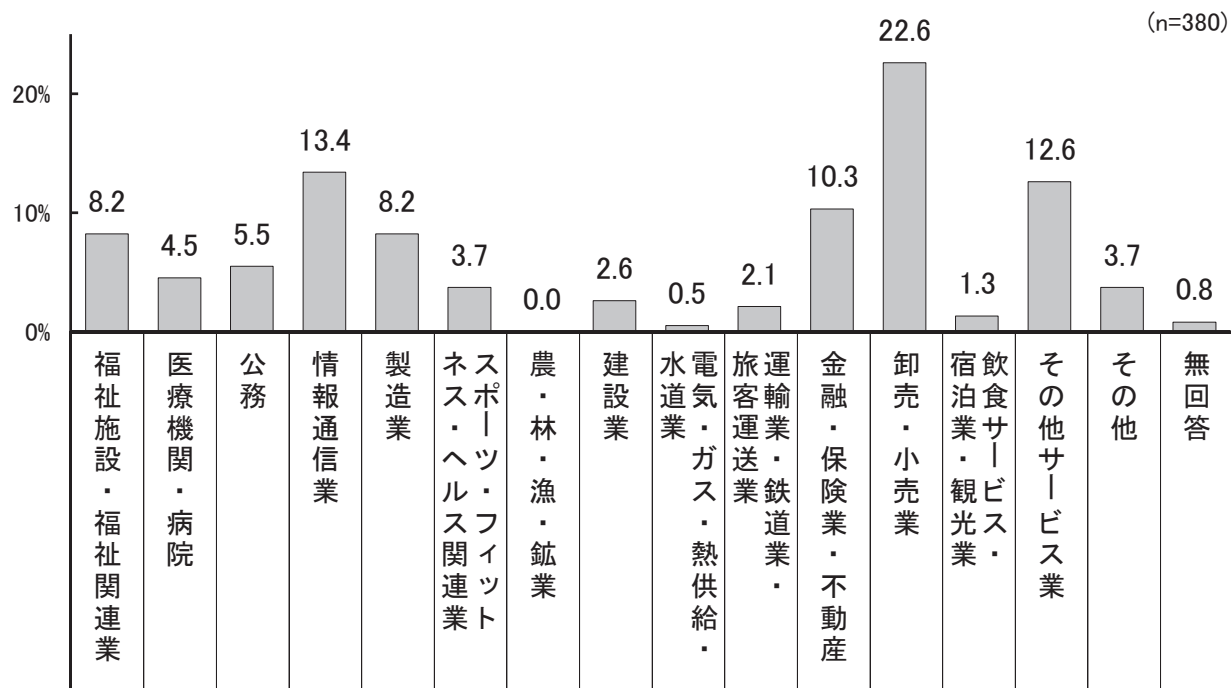
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種/従業員数)

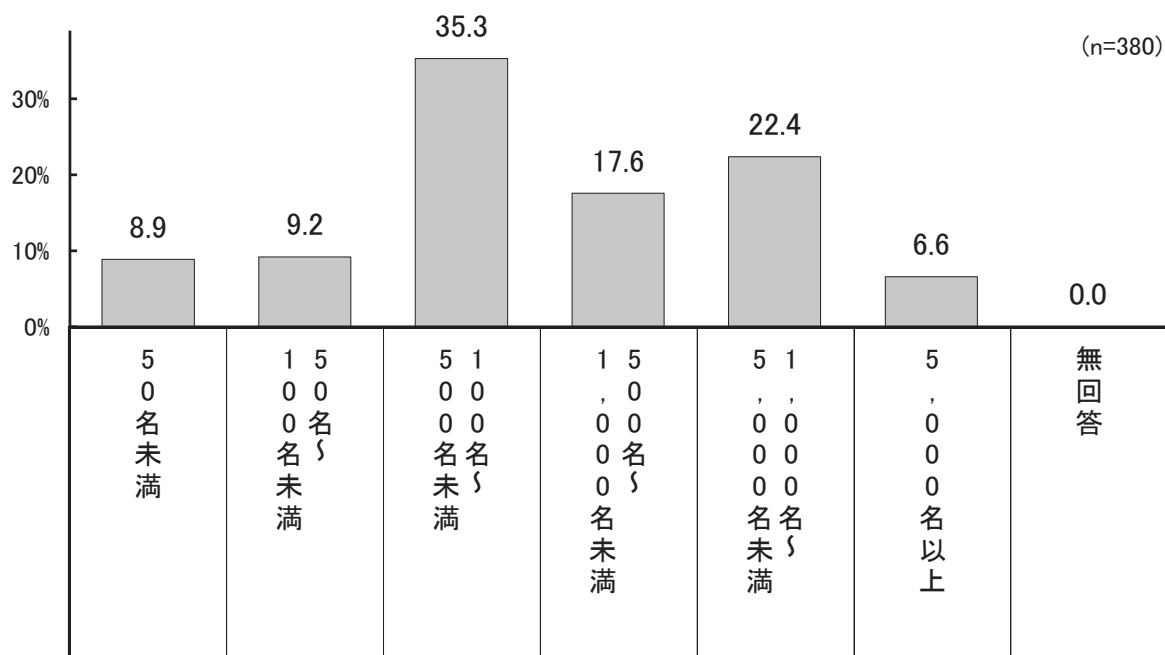
■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

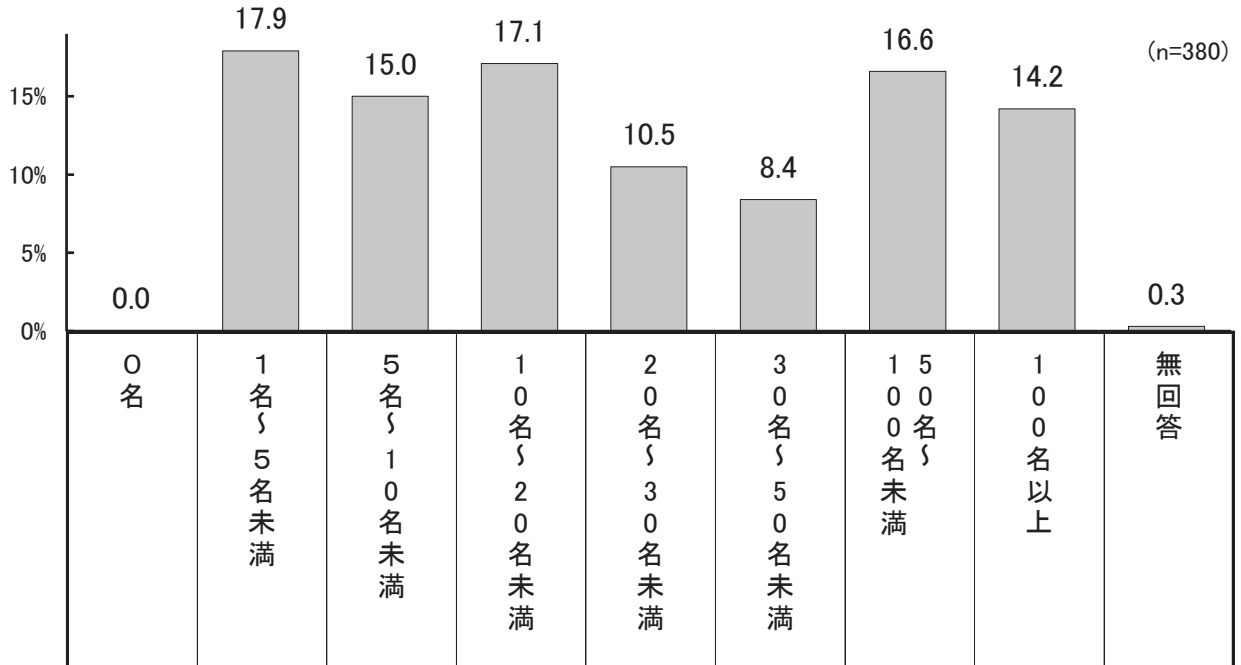
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



正規社員の平均採用人数

■正規社員の平均採用人数

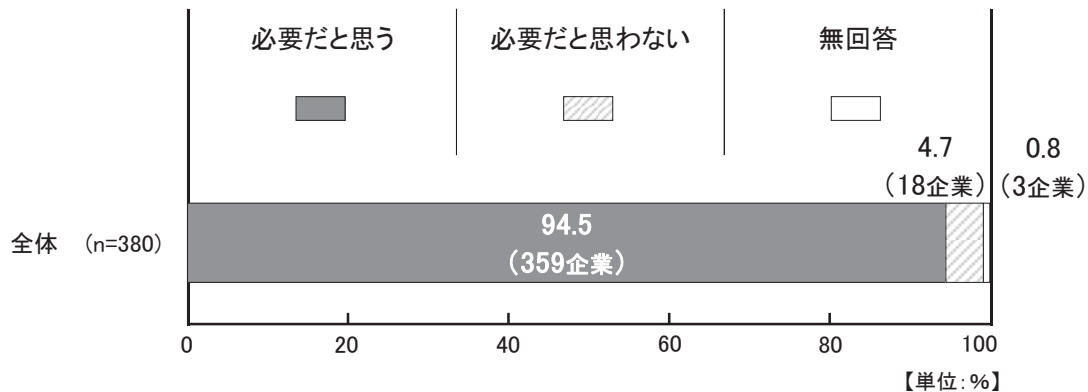
Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性／ 卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

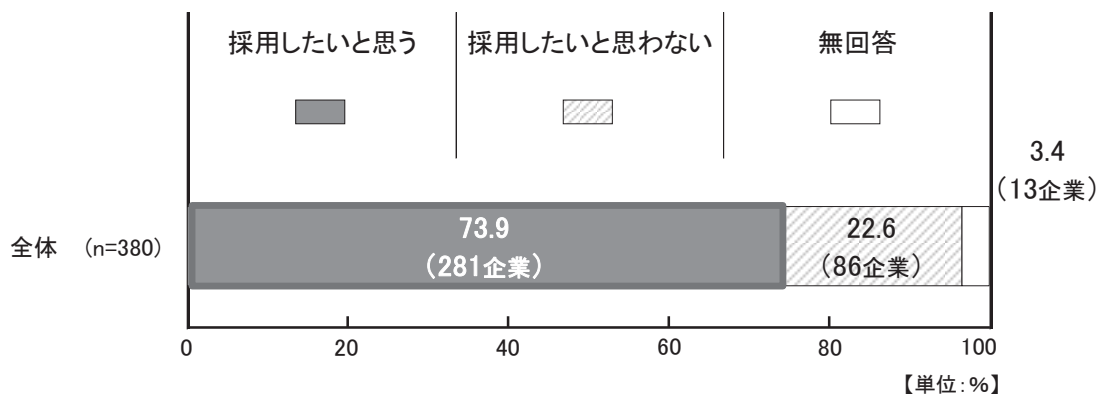
■「心理・社会福祉学部 心理学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた281企業のみ抽出

■「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ びた の 採 用 企 業 採 用 想 定 人 数 ・ 計 人 数 を)	
		%	企業数	企業数	企業数	企業数	企業数		
全体	281	70.5%	12.5%	4.6%	0.7%	2.1%	1.4%	⇒ 258 385	
			198	35	13	2	6		4
			198	70	39	8	30		40

-学生確保-81-

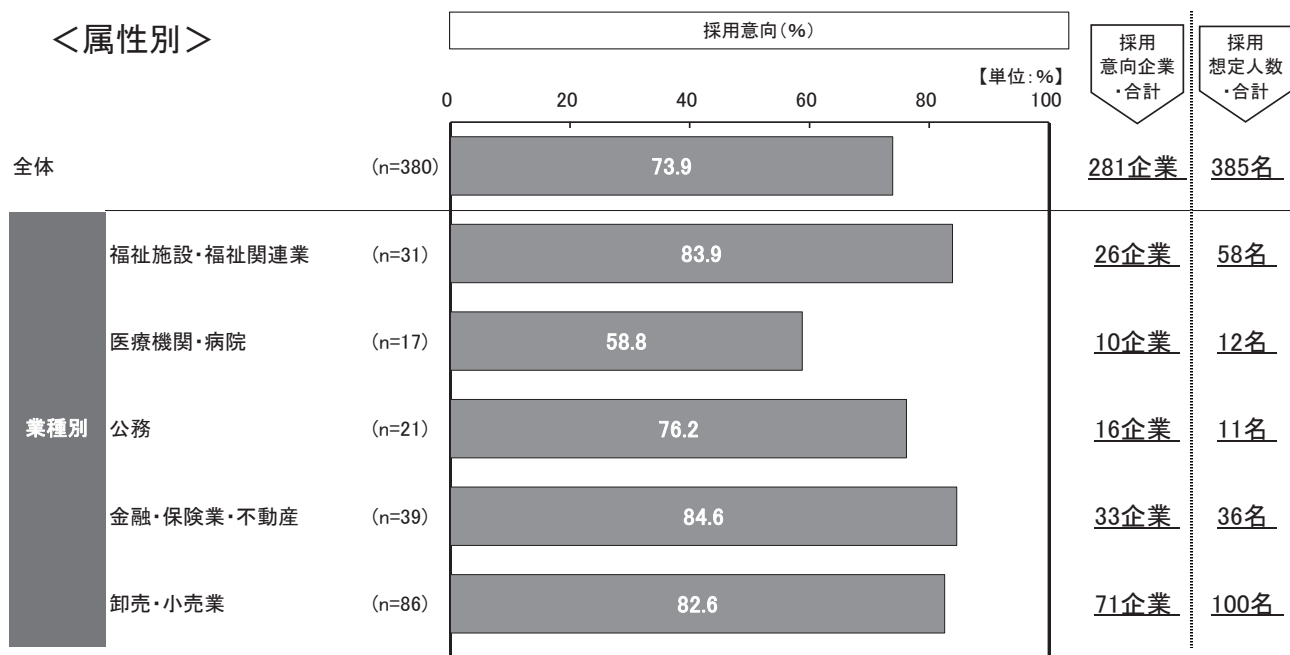
※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「心理・社会福祉学部 心理学科」卒業生に対する採用意向／ 採用想定人数＜属性別＞

※「心理・社会福祉学部 心理学科」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

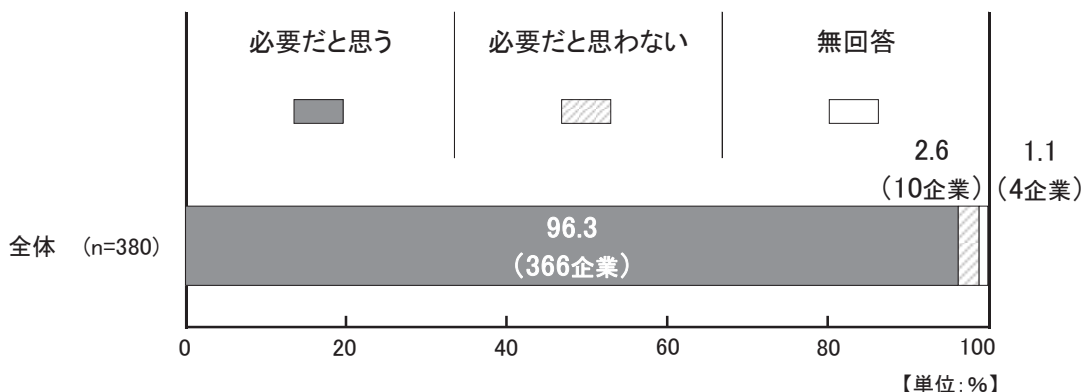


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

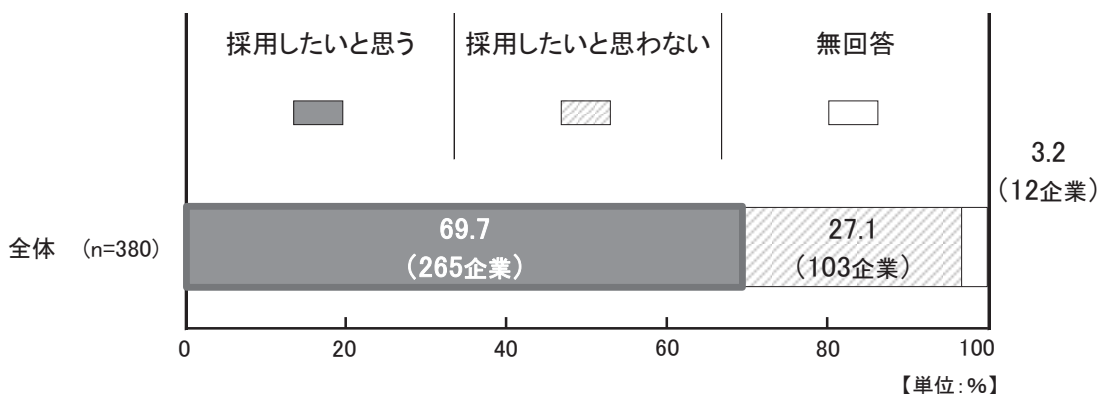
■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた265企業のみ抽出

■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

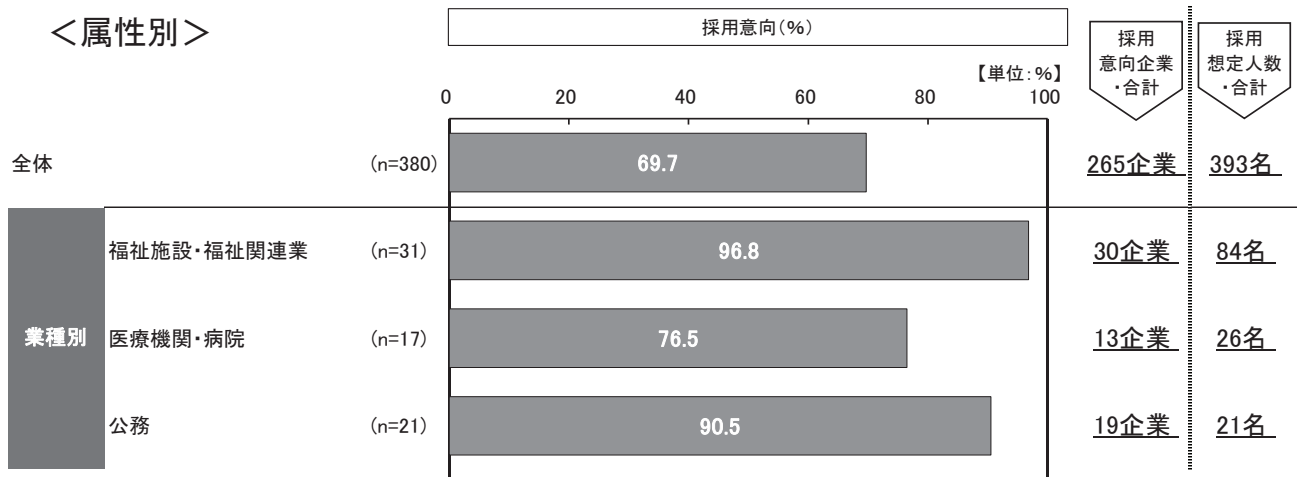
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ びた の採 用企 業 数 ・ 採 用 想 定 人 数 を 計 算)
		全体	265	% 70.2%	10.6%	5.3%	0.4%	
		企業数	186	28	14	1	7	
		名	186	56	42	4	35	70

「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／ 採用想定人数＜属性別＞

※「心理・社会福祉学部 社会福祉学科」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

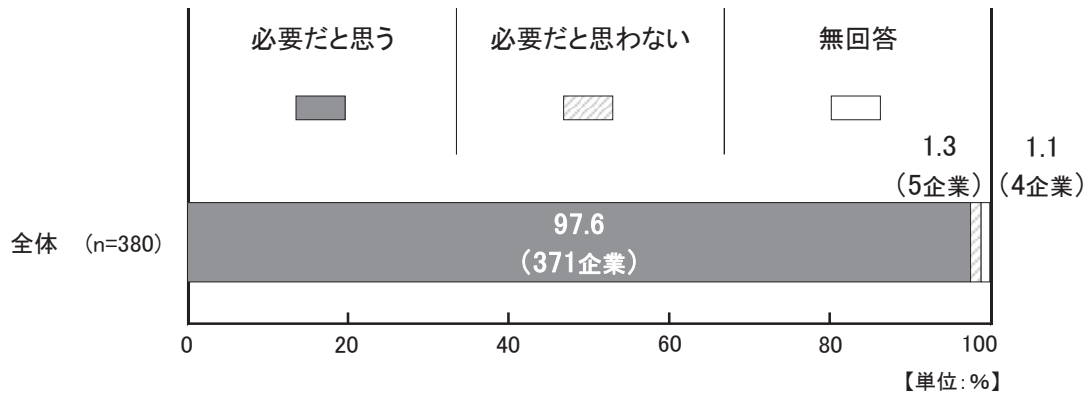


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

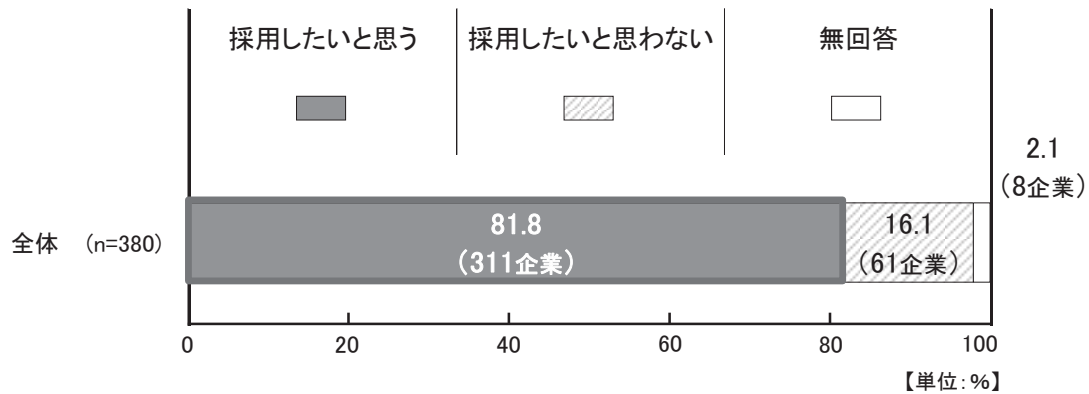
■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた311企業のみ抽出

■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計
		%	69.8%	14.5%	5.8%	0.0%	2.6%	
企業数	217	45	18	0	8	2		
名	217	90	54	0	40	20		

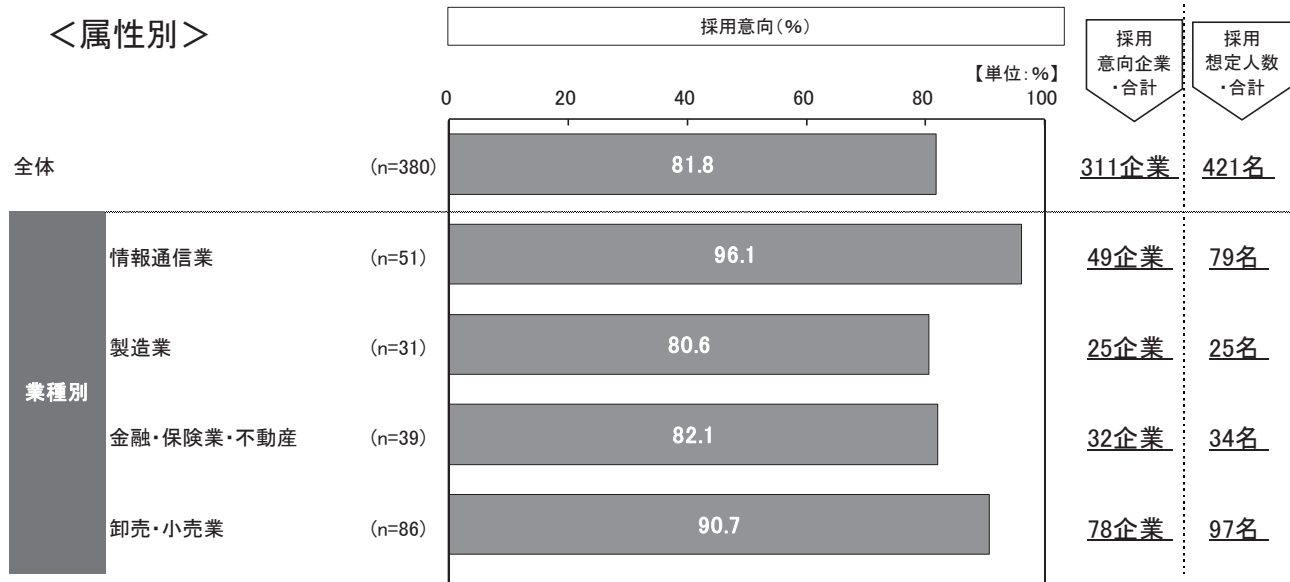
-学生確保-85-

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※「社会情報学部 社会情報学科 情報メディア専攻」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

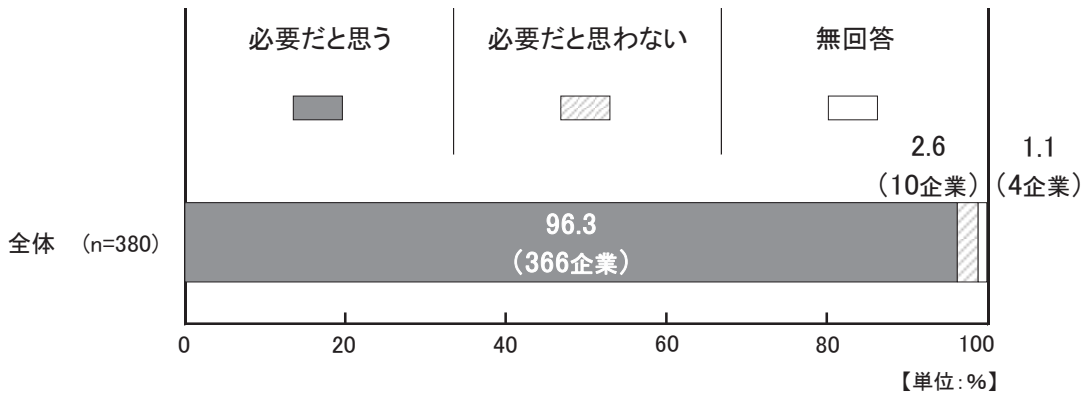


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

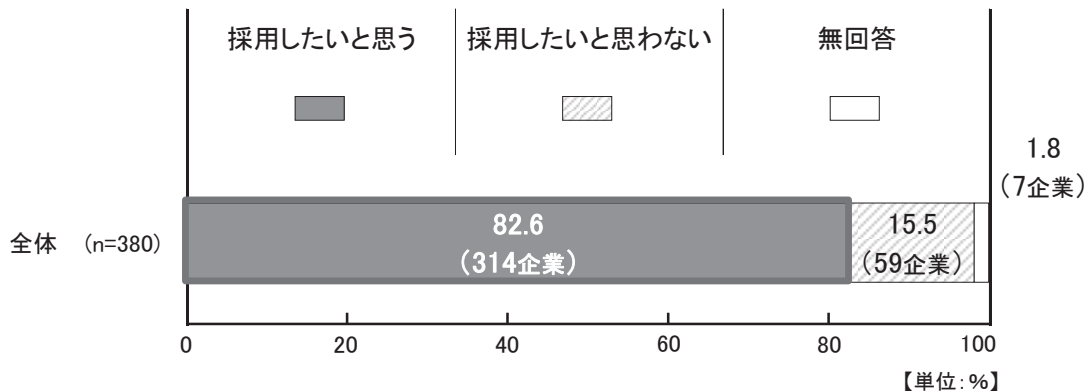
■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた314企業のみ抽出

■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計	
		%	企業数	名	%	企業数	名		
全体	314	69.1%	14.6%	5.7%	0.3%	2.5%	0.6%	⇒ 292 427	
			217	46	18	1	8		2
			217	92	54	4	40		20

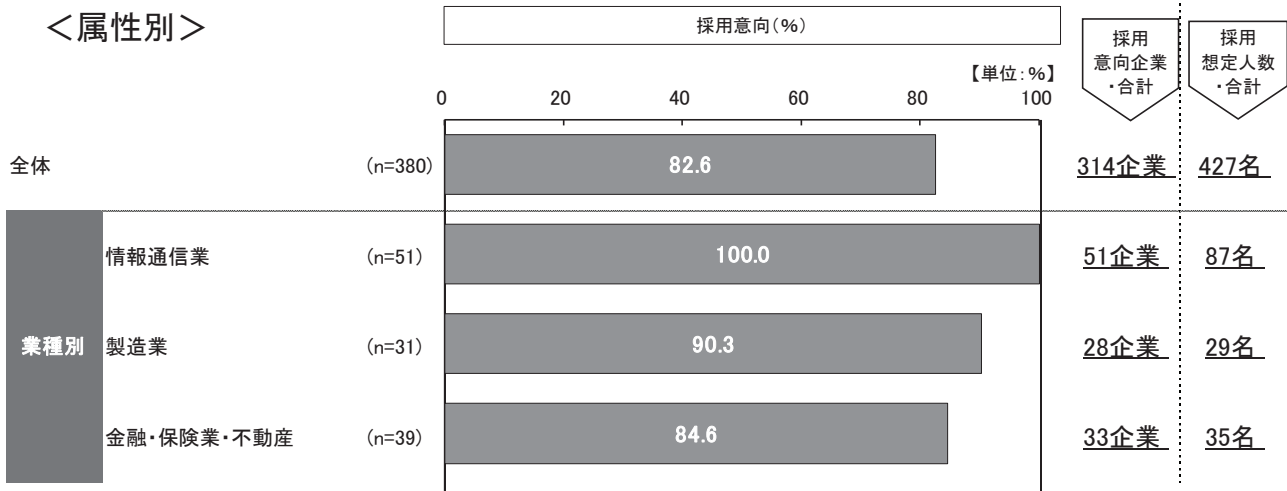
-学生確保-87-

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※「社会情報学部 社会情報学科 情報サイエンス専攻」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

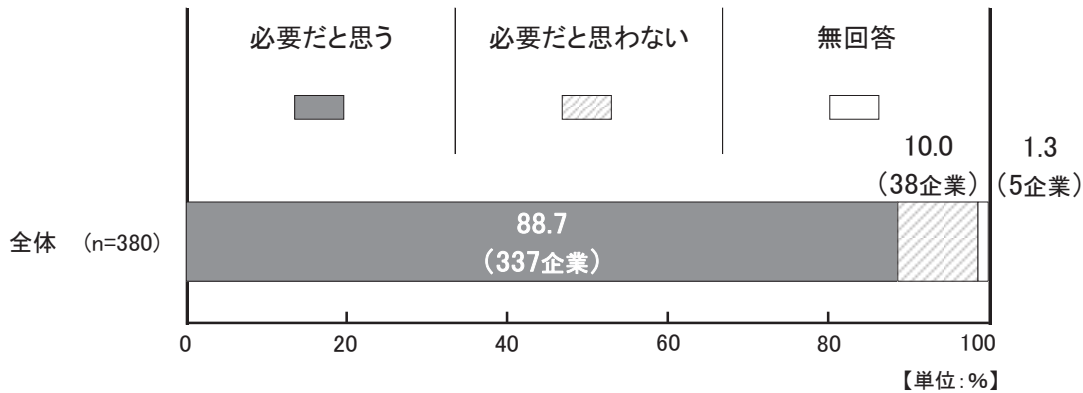


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

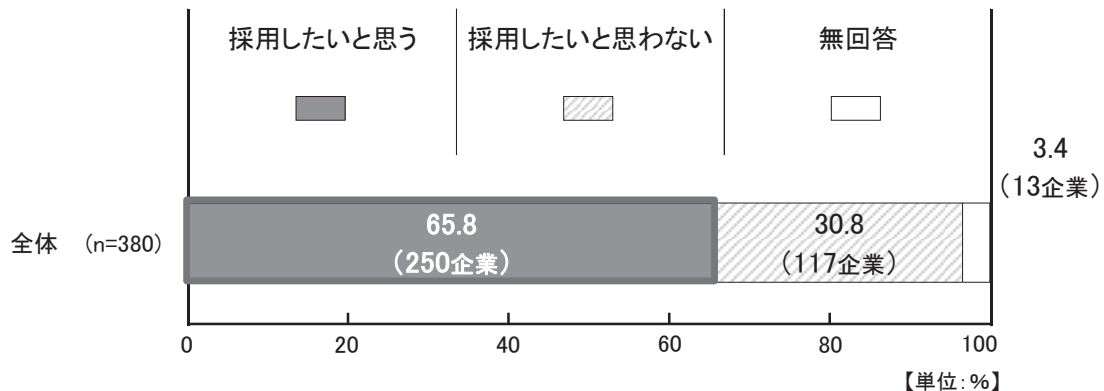
■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた250企業のみ抽出

■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計
		%	70.4%	10.8%	6.8%	0.8%	2.8%	
企業数	176	27	17	2	7	3	⇒ 354	
名	176	54	51	8	35	30		

計 お示 毎
(※) び 年
() 採 企 採
用 業 用
想 定 定
数 人 数
・ 計 数
を

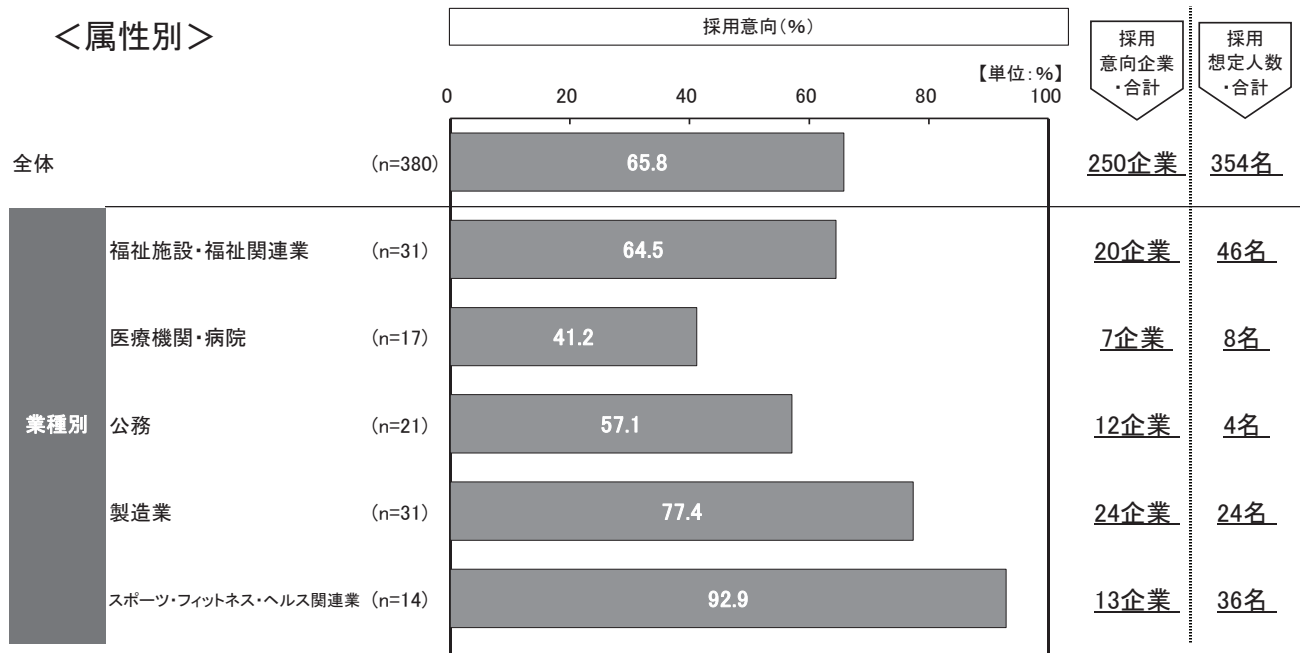
-学生確保-89-

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」に対して、Q7で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q8で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調査票



調査票

<対象:人事・採用ご担当者様>

武庫川女子大学 「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」 「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」 (すべて仮称、設置構想中)に関するアンケート

武庫川女子大学では2023年4月に、「心理・社会福祉学部 心理学科/社会福祉学科」「社会情報学部 社会情報学科」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------------------|--------------------|
| 1. 福祉施設・福祉関連業 | 6. スポーツ・フィットネス・ヘルス関連業 | 11. 金融・保険業・不動産 |
| 2. 医療機関・病院 | 7. 農・林・漁・鉱業 | 12. 卸売・小売業 |
| 3. 公務 | 8. 建設業 | 13. 飲食サービス・宿泊業・観光業 |
| 4. 情報通信業 | 9. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 14. その他サービス業 |
| 5. 製造業 | 10. 運輸業・鉄道業・旅客運送業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

次ページへ続く→

調査票

武庫川女子大学では、2023年4月に、
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部
スポーツマネジメント学科」(すべて仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、右に記載の各学部・学科・専攻の特色と
アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
心理・社会福祉学部	心理学科	→	1	2
	社会福祉学科	→	1	2
社会情報学部	社会情報学科 情報メディア専攻	→	1	2
	社会情報学科 情報サイエンス専攻	→	1	2
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	→	1	2

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、武庫川女子大学「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を
卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
心理・社会福祉学部	心理学科	→	1	2
	社会福祉学科	→	1	2
社会情報学部	社会情報学科 情報メディア専攻	→	1	2
	社会情報学科 情報サイエンス専攻	→	1	2
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	→	1	2

Q8. Q.7でいずれかの学部・学科・専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
武庫川女子大学の「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」の
各学部・学科・専攻(すべて仮称、設置構想中)を卒業した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を
想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
心理・社会福祉学部	心理学科	→	1	2	3	4	5	6
	社会福祉学科	→	1	2	3	4	5	6
社会情報学部	社会情報学科 情報メディア専攻	→	1	2	3	4	5	6
	社会情報学科 情報サイエンス専攻	→	1	2	3	4	5	6
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

調査票

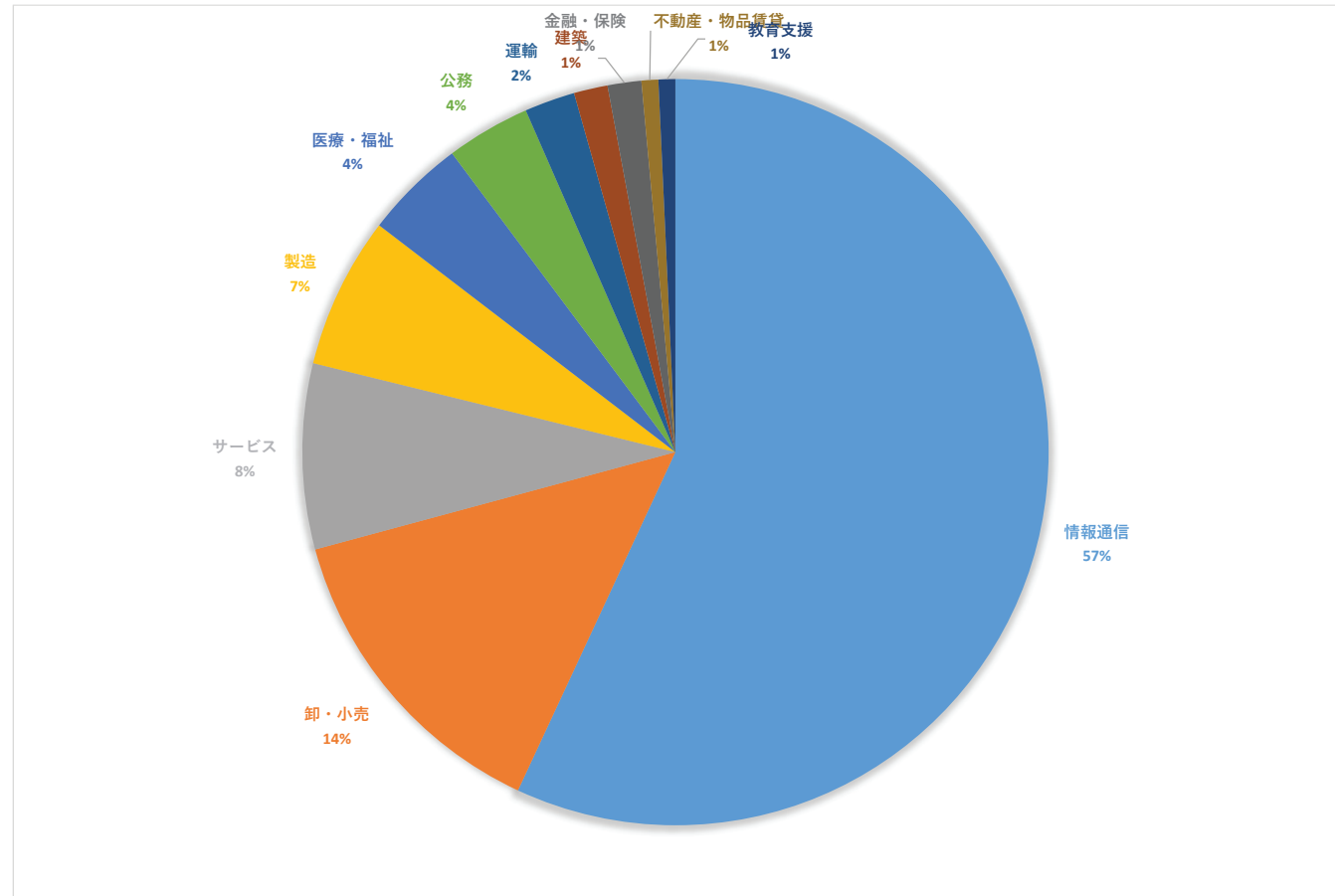
「心理・社会福祉学部」「社会情報学部」
「健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科」(すべて仮称、設置構想中)の特色

		学科・専攻の特色
心理・社会福祉学部	心理学科	<p>カウンセリングなどを学ぶ「臨床系」、心理学研究のための「研究系」、企業・社会で役立つ「実用系」の科目が学べます。</p> <p>実社会の課題に取り組むフィールドワークなど実践的な授業を通して課題を発見し、解決策を生み出す力を身につけることができます。また、公認心理師受験資格や社会調査士の資格取得も可能です。</p>
	社会福祉学科	<p>社会福祉士を目指す「ソーシャルワーク基礎コース」、精神保健福祉士を目指す「ソーシャルワーク・アドバンスコース」、地域貢献や国際協力の現場での活躍を目指す「ソーシャルビジネスコース」から学びを選択できます。</p> <p>フィールドワークなどを通して、地域での孤立、子どもの貧困、多文化共生などの課題に挑む実践力を身につけることができます。</p>
社会情報学部	情報メディア専攻	<p>メディアとコミュニケーションをキーワードに、生活・経済における情報デザインについて学びます。</p> <p>データ分析から広告企画、WEBページ制作まで、さまざまな実践プログラムを通して、情報技術活用力と問題解決・提案力を育みます。</p> <p>情報(広告・通信・マスコミ)業界をはじめICT社会で幅広く活躍できる力を身につけることができます。</p>
	情報サイエンス専攻	<p>システムエンジニアはもちろんコンピュータを使うすべての業種・職種で活躍できる実践的な情報処理技術を身につけることができます。</p> <p>また、4年間にわたって体系的に学ぶデータサイエンス・AI教育により、データを分析する技能を磨き、銀行・保険・観光・エンターテインメントなどの業界でもデータに強い女性として活躍することを目指します。</p>
健康・スポーツ科学部	スポーツマネジメント学科	<p>多様なスポーツビジネス業界で活躍するために必要となる「マネジメント」「マーケティング」「実務」「生活・健康」「先端ビジネス」の5つの領域を学ぶことができます。</p> <p>スポーツイベントの企画・運営などを通して、スポーツマネジメント力、スポーツビジネス力、スポーツ指導・教育力を身につけることができます。</p>

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

生活環境学部情報メディア学科の進路状況（令和2年度卒業生）

卒業生数		155
就職希望者数		137
就職者数		137
就職率（％）		100
就職 以外 の 進 路	進学者	1
	専修学校等進学者	1
	留学・渡航	0
	その他	16
就職 者 の 業 種 別 内 訳	情報通信	78
	卸・小売	19
	サービス	11
	製造	9
	医療・福祉	6
	公務	5
	運輸	3
	建築	2
	金融・保険	2
	不動産・物品賃貸	1
	教育支援	1
	電気・ガス・熱供給・水道	0
	宿泊・飲食	0



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学 長	セガチ カズヨシ 瀬口 和義 <平成31年4月>		理学博士		武庫川女子大学学長 (平31.4~令5.3)

教 員 の 氏 名 等													
(社会情報学部 社会情報学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数	
1	専	教授 (学部長)	アジカ ツネオ 鱒坂 恒夫 ＜令和5年4月＞		工学博士		コンピュータネットワーク入門 ソフトウェア工学 ソフトウェア工学演習 プラットフォーム概論 社会情報学概論※ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	1前 2後 3前 3後 1前 3通 3前 3後 4通 2後	4 4 2 2 0.4 4 2 2 4 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (令3.4)	5日	
2	専	教授 (学科長)	アカハ ヒロユキ 赤岡 仁之 ＜令和5年4月＞		商学修士※		データ・情報リテラシー マーケティング論 マーケティング戦略論 企業経営論 マーケットデザイン演習 プロジェクト演習Ⅱ 社会情報学概論※ プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 3前 3後 4前 2前 1前 2後 3通 3前 3後 4通	2 4 2 4 2 1.6 0.4 2 4 2 2 4	1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平3.1)	5日	
3	専	教授	アノ ヒキ 天野 憲樹 ＜令和5年4月＞		博士 (情報科 学)		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (社会情報入門) 情報科学入門 プログラミング入門 システム設計 ウェブ入門 社会情報学概論※ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	1前 1後 1前 1後 3前 1後 1前 3通 3前 3後 4通 2後	1 1 4 4 2 2 0.4 4 2 2 4 2	1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平27.4)	5日	
4	専	教授	オノ ユウコ 大野 ゆう子 (優子) ＜令和5年4月＞		医学博士		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (社会情報入門) データサイエンス基礎演習 データサイエンス演習＜A＞ データサイエンス演習＜C＞ データサイエンス論＜A＞ 社会調査演習 社会情報学概論※ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	1前 1後 2後 3前 3後 4前 3前 1前 3通 3前 3後 4通 2後	1 1 6 4 2 2 2 0.4 4 2 2 4 2	1 1 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (令4.4)	5日	
5	専	教授	オモリ 大森 いさみ ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (社会情報入門) メディア論 コンセプトデザイン論 メディアと生活文化 社会情報学概論※ プロジェクト演習入門 プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 1後 2前 3前 1前 1前 2後 3通 3前 3後 4通	1 1 4 4 2 0.4 2 2 4 2 2 4	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平15.9)	5日	
6	専	教授	オキ マサキ 奥居 正樹 ＜令和5年4月＞		博士 (マネジメ ント)		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (社会情報入門) 経営情報論 経営情報演習 組織コミュニケーション論 データサイエンス演習＜D＞ プロジェクト演習Ⅱ プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2後 3前 1前 3後 2前 2後 3通 3前 3後 4通	1 1 4 2 4 2 1.6 2 4 2 2 4	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	広島大学大学院 人間社会科学研究所 准教授 (平17.10)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
7	専	教授	ショウノ ヒロシ 庄野 宏 <令和5年9月>		博士 (システムズ・マネジ メント)		プログラミング演習Ⅱ 統計学Ⅰ 統計学Ⅱ データサイエンス基礎演習 データサイエンス演習 データサイエンス論 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	2後 1後 2前 2後 3前 4前 3通 3前 3後 4通 2後	4 4 4 2 4 2 4 2 2 4 2	2 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1	広島工業大学 工学部 教授 (令1.9)	5日
8	専	教授	フクイ テツオ 福井 哲夫 <令和5年4月>		理学博士		情報科学入門 ユーザインタフェース論 システム設計演習 情報基礎数学 情報数学 ウェブプログラミング 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	1前 3後 3後 2後 3前 2前 3通 3前 3後 4通 2後	4 2 2 2 2 4 4 2 2 4 2	2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平6.4)	5日
9	専	教授	フジモト ケンイチ 藤本 憲一 <令和5年9月>		学術修士		メディアカルチャー論 文化社会学 文化社会学演習 ネットワーク社会学 プロジェクト演習Ⅰ プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	3後 4前 4後 2前 1後 2後 3通 3前 3後 4通	2 2 2 4 2 2 4 2 2 4	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平4.4)	5日
10	専	教授	ニタ ミヤケ ナオコ 新田(三宅) 直子 <令和5年4月>		博士 (工学)		プログラミング演習Ⅰ AⅠ入門 AⅠ概論 AⅠ演習 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	2前 1前 2後 3後 3通 3前 3後 4通 2後	4 4 4 2 4 2 2 4 2	2 2 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (令4.4)	5日
11	専	教授	ハギワラ ジュンイチロウ 萩原 淳一郎 <令和5年9月>		博士 (工学)		プログラミング入門 コンピュータネットワーク演習 コンピュータネットワーク論 システムセキュリティ入門 情報セキュリティ論 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	1後 2前 4前 2前 4後 3通 3前 3後 4通 2後	4 4 2 4 2 4 2 2 4 2	2 2 1 2 1 1 1 1 1 1	株式会社ドコモCS 茨城支店NW部長 (平30.7)	5日
12	専	准教授	イズミ イクダ シノブ 和泉(池田) 志穂 <令和5年9月>		博士 (情報メ ディア学)		衣生活情報論 オフィスツールの活用 色彩情報論 色彩情報演習 プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	3後 1後 2前 3前 2後 3通 3前 3後 4通	2 4 4 2 2 4 2 2 4	1 2 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平29.4)	5日
13	専	准教授	イノウエ シダブ 井上 重信 <令和5年4月>		商学修士、 国際会計修 士(専門 職)		グローバルビジネス論 広告メディア論 広告メディア演習 I T活用とビジネス プロジェクト演習入門 プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	2後 2前 2後 3前 1前 2後 3通 3前 3後 4通	2 4 2 4 2 2 4 2 2 4	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平26.4)	5日
14	専	准教授	オノキ 基行 尾関 基行 <令和5年9月>		博士 (工学)		ウェブ入門 ウェブプログラミング ウェブアプリケーション設計 ウェブアプリケーション開発演習 ウェブエンジニアリング ウェブコンピューティング論 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	1後 2前 2後 3前 3後 4前 3通 3前 3後 4通 2後	4 4 2 2 2 2 4 2 2 4 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平26.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
15	専	准教授	カベト 久訓 株本 訓久 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学) ※		科学技術と社会 プロジェクト演習入門 プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 生涯学習論	2後 1前 2後 3通 3前 3後 4通 3前	2 2 2 4 2 2 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平23.4)	5日
16	専	准教授	ヒロ 有紀子 肥後 有紀子 ＜令和5年4月＞		修士 (芸術文化) ※		メディア技術と文字デザイン 広告メディア演習 ウェブデザイン演習 デジタル表現入門 デジタル表現 プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	1前 2後 3前 1後 2前 2後 3通 3前 3後 4通	2 2 2 4 4 2 4 2 2 4	1 2 1 2 2 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平21.4)	5日
17	専	准教授	ナノ 邦彦 中野 邦彦 ＜令和5年4月＞		博士 (社会情報 学)		情報とコミュニケーション 社会調査入門 社会調査Ⅰ 社会調査Ⅱ 社会調査演習 プロジェクト演習Ⅰ プロジェクト演習Ⅲ 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 1後 2後 3通 3前 3後 4通	4 2 4 2 2 2 4 2 2 2 4	2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (令4.4)	5日
18	専	准教授	ヒライ 拓己 平井 拓己 ＜令和5年4月＞		M. A. (米国)		我々の暮らしと日本の産業 地域産業論 コミュニティビジネス論 消費者経済学 ICT社会のビジネス プロジェクト演習Ⅱ プロジェクト演習Ⅲ キャリアアブランニング 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究	1前・後 2後 3前 3後 1前 2前 2後 2後 3通 3前 3後 4通	4 4 2 2 4 1.6 2 1 4 2 2 4	2 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平30.4)	5日
19	専	講師	エナシ 穂並(住野) 直子 穂並(住野) 直子 ＜令和5年9月＞		博士 (工学)		プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ データベース入門 卒業基礎研究 卒業基礎演習Ⅰ 卒業基礎演習Ⅱ 卒業研究 ハッカソン	2前 2後 1後 3通 3前 3後 4通 2後	4 4 4 4 2 2 4 2	2 2 2 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 生活環境学部 講師 (平30.4)	5日
20	専	助教	コマダ 安紀 駒田 安紀 ＜令和5年9月＞		博士 (人間・環境 学)		統計学Ⅰ 統計学Ⅱ 社会調査Ⅱ プロジェクト演習Ⅰ	1後 2前 2後 1後	4 4 2 2	2 2 1 1	大阪府立大学大学院 人間社会システム科学 研究科 非常勤講師 (平26.4)	5日
21	兼任	教授	ヤギガワ 和雄 柳沢 和雄 ＜令和5年4月＞		教育学修士 ※		スポーツと現代社会	1前・後	4	2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (令3.4)	
22	兼任	教授	コジマ 明子 小島 明子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		鎌倉時代の文学への誘い 平安時代の文学への誘い	1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 教育学部 教授 (令2.4)	
23	兼任	教授	フクラ スミエ 福原 寿美枝 ＜令和5年4月＞		芸術学修士		ミュージカル歌唱法	1前・後	2	2	武庫川女子大学 音楽学部 教授 (平29.4)	
24	兼任	教授	フジイ 達矢 藤井 達矢 ＜令和5年4月＞		博士 (芸術)		先端芸術表現	1前・後	2	2	武庫川女子大学 教育学部 教授 (平8.4)	
25	兼任	教授	サイドウ ミル 西道 実 ＜令和5年4月＞		社会学 修士※		環境心理学入門	1前・後	4	2	武庫川女子大学 経営学部 教授 (平30.9)	
26	兼任	教授	ヤマモト 晶子 山本 晶子 ＜令和5年4月＞		会計修士 (専門職)		まちづくりと地方自治の役割 女性が輝く社会づくり	1前・後 1前・後	8 8	4 4	武庫川女子大学 共通教育部 教授 (令3.4)	
27	兼任	教授	カンバラ カズキ 神原 一之 ＜令和5年9月＞		博士 (教育学)		文化を創造する数学	1後	2	1	武庫川女子大学 教育学部 教授 (平26.4)	
28	兼任	教授	ムラタ シゲル 村田 成範 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		生命科学入門	1前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (平19.4)	
29	兼任	教授	マツイ トクミツ 松井 徳光 ＜令和5年4月＞		農学博士		微生物がつくる発酵食品の不思議	1前	2	1	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平2.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に從事す る週当たり 平均日数
30	兼任	教授	ハギモリ マサヨリ 萩森 政頼 ＜令和5年9月＞		博士 (薬学)		薬の歴史と未来※	1後	0.4	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (令3.4)	
31	兼任	教授	ヤノ シンアキ 矢野 義明 ＜令和5年9月＞		博士 (薬学)		薬の歴史と未来※	1後	1.6	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (令3.4)	
32	兼任	教授	ヨシダ シヤコ 吉田 都 ＜令和5年9月＞		博士 (薬学)		薬とからだ※	1後	1.1	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (平20.4)	
33	兼任	教授	タウチ シンヒコ 田内 義彦 ＜令和5年4月＞		博士 (薬学)		医薬品概論※	1前	1.3	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (令3.4)	
34	兼任	教授	クワハラ アキコ 栗原 晶子 ＜令和5年4月＞		博士 (薬学)		医薬品概論※	1前	0.7	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (平20.4)	
35	兼任	教授	タカハシ チキョウ 高橋 千枝子 ＜令和5年4月＞		博士 (商学)		女性のためのマーケティング	1前・後	4	2	武庫川女子大学 経営学部 教授 (平30.4)	
36	兼任	教授	モリタ マサコ 森田 雅子 ＜令和5年4月＞		Ph. D. (西ドイ ツ)		イタリア語ⅠA	1前・後	2	2	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平4.4)	
37	兼任	准教授	ワタナベ マサシ 渡邊 昌史 ＜令和5年9月＞		博士 (人間科 学)		遊びの人類学	1後	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 准教授 (平26.4)	
38	兼任	准教授	クスマ ケン 楠山 研 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		現代世界の教育	1前・後	4	2	武庫川女子大学 教育学部 准教授 (平31.4)	
39	兼任	准教授	ナガシマ アカネ 永島 茜 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		現代フランスの音楽事情 フランスの音楽と芸術文化	1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 音楽学部 准教授 (平20.4)	
40	兼任	准教授	ナカノ カヨコ 中尾 賀要子 ＜令和5年4月＞		PhD (米国)		セクシュアリティ入門	1前・後	6	3	武庫川女子大学 教育研究所 准教授 (平22.4)	
41	兼任	准教授	ケビン アラン Kevin Alan バートレット Bartlett ＜令和5年4月＞		Ed. D (豪州)		Current Affairs in Japan I	1前	2	1	武庫川女子大学 文学部 准教授 (令3.4)	
42	兼任	准教授	アナター リン エイデン Anita Lynn Aden ＜令和5年4月＞		M. A. in TESL (米国)		英語コミュニケーションⅢ Speaking & Listening III Presentation Current Events I Current Events II	1前・後 3後 3後 4前 4後	6 1 1 1 1	6 1 1 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 准教授 (平21.4)	
43	兼任	講師	ハセガワ ヒロキ 長谷川 裕紀 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		音楽の科学 データサイエンスの基礎とExcel データサイエンスの応用とExcel データリテラシー・AIの基礎	1前・後 1前・後 1後 1後	4 6 4 2	2 3 2 1	武庫川女子大学 共通教育部 講師 (平20.11)	
44	兼任	講師	スギイ シュンスケ 杉井 俊介 ＜令和5年4月＞		法務博士		教養としての法律 暮らしと法律	1前 1後	4 4	2 2	武庫川女子大学 経営学部 講師 (令2.4)	
45	兼任	講師	トヨナガ ジュンコ 豊永 洵子 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		スポーツ実技 (ジャズダンス)	1前・後	2	2	武庫川女子大学 短期大学部 健康・スポーツ学科 講師 (令3.4)	
46	兼任	講師	キタオ ミカ 北尾 美香 ＜令和5年9月＞		博士 (看護学)		女性と子どものヘルスケア※	1後	1.1	1	武庫川女子大学 看護学部 講師 (令3.4)	
47	兼任	講師	ミナミグチ ヨウコ 南口 陽子 ＜令和5年9月＞		博士 (看護学)		女性と子どものヘルスケア※	1後	0.9	1	武庫川女子大学 看護学部 講師 (令2.4)	
48	兼任	講師	ジョージ クリントン George Clinton デニソン Denison ＜令和5年4月＞		M. S. in Education (米国)		英語コミュニケーションⅣ 英語ライティングⅡ Speaking & Listening I Speaking & Listening II Writing I Writing II Global Communication I Global Communication II 情報英語Ⅰ 情報英語Ⅱ	1前・後 1前・後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3前 3後	2 2 1 1 1 1 1 1 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 講師 (平30.4)	
49	兼任	講師	ナカムラ カツヲ 中村 勝則 ＜令和6年9月＞		博士 (工学)		アルゴリズム論	2後	2	1	武庫川女子大学 共通教育部 講師 (平24.9)	
50	兼任	助教	キシモト テアキ 岸本 千秋 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		SNSから日本語を見る	1前・後	4	2	武庫川女子大学 言語文化研究所 助教 (平31.4)	
51	兼任	助教	コジマ ホトミ 小島 穂菜美 ＜令和5年9月＞		博士 (薬学)		薬とからだ※	1後	0.9	1	武庫川女子大学 薬学部 助教 (平20.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
71	兼任	講師	ホリエ マサノブ 堀江 正伸 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		Oral communication I Oral communication II 国際協力入門 Current Affairs in Japan II English for Careers 特別英語演習 I 特別英語演習 II 特別中国語演習 I 特別中国語演習 II 特別ハングル演習 I 特別ハングル演習 II	1前 1後 1前 1後 3前 1前・後 1前・後 1前 1前 1前 1前	1 1 2 2 1 16 16 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 4 4 1 1 1 1	元 武庫川女子大学 短期大学部 英語・IT・ コミュニケーション学科 教授 (R4.3まで)	
72	兼任	講師	マツオミ トモコ 松並 知子 ＜令和5年4月＞		博士 (言語 文化学)		世界の中の日本人 メディアに見るジェンダー 女性の身体とセクシュアリティ	1前 1前・後 1前・後	4 4 4	2 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平24.4)	
73	兼任	講師	タワ マキ 田和 真希 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		女性のためのライフプランニング 英語リーディング I	1前・後 1前・後	4 6	2 6	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平17.4)	
74	兼任	講師	アキタ ヒサコ 秋田 久子 ＜令和5年4月＞		文学士		自己アビールトレーニング	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平17.4)	
75	兼任	講師	カイ タカヒロ 甲斐 陸浩 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		グラフィックデザイン基礎 フォトレタッチ基礎 Webデザイン基礎 Webデザイン応用	1後 1前 1前・後 1前・後	2 2 4 4	1 1 2 2	Plus Project 代表 (平16.4)	
76	兼任	講師	カワサキ トシキ 川本 俊行 ＜令和5年4月＞		工学士		Scratchによるプログラミング 情報社会を生きる技術 Accessデータベース基礎	1前・後 1前・後 1前・後	4 4 4	2 2 2	有限会社 トランステック 代表取締役 (平7.4)	
77	兼任	講師	クロカワ トモコ 黒川 知子 ＜令和5年4月＞		M.S. in Education (米国)		英語リーディング II Grammar for Communication Reading & Writing	1前・後 2前 2後	4 1 1	4 1 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平14.4)	
78	兼任	講師	トリイ タカシ 鳥居 孝司 ＜令和5年4月＞		修士 (言語 科学)		英語ライティング I	1前・後	2	2	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平25.4)	
79	兼任	講師	イワイ マキ 岩井 麻紀 ＜令和5年4月＞		M.Ed. (米国)		英語リーディング I	1前・後	2	2	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平28.4)	
80	兼任	講師	ウエノ トモコ 植野 智子 ＜令和7年9月＞		Ph.D (アイルラン ド)		Reading & Discussion	3後	1	1	武庫川女子大学 教育学部 非常勤講師 (平25.4)	
81	兼任	講師	マツイ セイイチロウ 松井 聖一郎 ＜令和5年4月＞		学術修士		ハングル I ハングル II	1前・後 1後	4 8	2 4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平21.4)	
82	兼任	講師	チョン ソンヒ 田 星姫 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		ハングル I	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平28.4)	
83	兼任	講師	マンニョ Mannino マッシミリアノ Massimiliano ＜令和5年4月＞		Laurea (イタリア)		イタリア語 I B	1前・後	2	2	アップルケイ・ラン ゲージイタリア語講師 (平25.1)	
84	兼任	講師	ツボイ ユキエ 坪井 幸栄 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		スペイン語 I	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平26.4)	
85	兼任	講師	イダケ コウイチ 井高 浩一 ＜令和5年4月＞		文学修士		フランス語 I フランス語 II	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平5.4)	
86	兼任	講師	ハシキ ユキコ 橋本 郁子 ＜令和5年4月＞		文学修士		ドイツ語 I ドイツ語 II	1前・後 1後	8 2	4 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平7.4)	
87	兼任	講師	イチナリ ナオコ 市成 直子 ＜令和5年4月＞		文学博士		中国語 I 中国語 II	1前・後 1前	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平8.4)	
88	兼任	講師	カヘ ケイリン 何 景琳 ＜令和5年4月＞		文学修士		中国語 I 中国語 II	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平3.4)	
89	兼任	講師	リュウ ケンズ 劉 燕子 ＜令和5年4月＞		修士 (中国文 学)		中国語 I 中国語 II	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平31.4)	
90	兼任	講師	ナリタ アツコ 成田 厚子 ＜令和5年4月＞		修士 (スポーツ科学)		スポーツと栄養	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平25.4)	
91	兼任	講師	オオタ マサオ 太田 雅夫 ＜令和5年9月＞		体育学修士		生涯スポーツ論	1後	2	1	天理大学 体育学部 教授 (平7.4)	
92	兼任	講師	ヨシカワ サユリ 吉川 小百合 ＜令和5年4月＞		学士 (健康・ スポーツ科学)		スポーツ実技(テニス)	1前・後	4	4	マーズプランニング テニスインストラク ター (平25.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
93	兼任	講師	マツムラ クミコ 松村 公美子 ＜令和5年4月＞		文学士		スポーツ実技（ゴルフ）	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平23.4)	
94	兼任	講師	アサチ マチ 足立 学 ＜令和5年4月＞		修士 (学校教育学)		スポーツ実技（バレーボール）	1前・後	4	4	園田学園女子大学 人間健康学部 准教授 (平20.4)	
95	兼任	講師	カハシ ミカ 高橋 美佳 ＜令和5年4月＞		修士 (体育方法学)		スポーツ実技（バドミントン）	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平26.4)	
96	兼任	講師	サカタ ジュンコ 坂田 純子 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		スポーツ実技（エアロビクス）	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平19.4)	
97	兼任	講師	キノ カスキ 木野 和樹 ＜令和5年9月＞		修士 (体育学)		スポーツ実技（水泳）	1後	1	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (令3.4)	
98	兼任	講師	イワタ ユリヨ 岩下 由利子 ＜令和5年4月＞		体育学士		スポーツ実技（軽スポーツ）	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
99	兼任	講師	オオヤ マサコ 雄谷 昌子 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		スポーツ実技（ヨガ）	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平20.4)	
100	兼任	講師	ヤマシタ ハナエ 山科 花恵 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		スポーツ実技（サッカー）	1前・後	2	2	セレッソ大阪スポーツ クラブコーチ (平24.2)	
101	兼任	講師	アサガ ソエ 浅賀 園恵 ＜令和5年4月＞		高等学校卒		スポーツ実技（スタイルジャズ）	1前・後	2	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (令3.4)	
102	兼任	講師	ヒガシデ マサ 東出 益代 ＜令和5年9月＞		修士 (臨床教育学)		からだど気づきと姿勢法	1後	3	3	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平29.4)	
103	兼任	講師	ウエキ ユカ 植木 豊 ＜令和7年9月＞		修士 (工学)		メディア産業論	3後	2	1	日本放送協会 大阪放送局 考査部部長 (昭62.4)	
104	兼任	講師	コバヤシ マサヒロ 小林 昌廣 ＜令和8年4月＞		医科学修士		映像文化史	4前	2	1	情報科学芸術大学院大 学 メディア表現研究科 教授 (平18.11)	
105	兼任	講師	ヨシダ イタル 吉田 達 ＜令和6年4月＞		修士 (コミュニケーション学)		SNSリテラシー演習	2前	2	1	東京経済大学 コミュニケーション学 部 非常勤講師 (令2.4)	
106	兼任	講師	サトウ ウミ 佐藤 生実 ＜令和7年4月＞		修士 (コミュニケーション学)		コンテンツプランニング演習	3前	2	1	武庫川女子大学 生活環境学部 非常勤講師 (平28.4)	
107	兼任	講師	ヨシダ エツコ 吉田 悦子 ＜令和6年9月＞		修士 (法学)		情報倫理	2後	4	2	大阪大学 知的基盤総合センター 特任助教 (令3.4)	
108	兼任	講師	ニガタ タカシ 苦田 高志 ＜令和6年4月＞		学士 (理学)		プロジェクト演習Ⅱ	2前	1.2	3	株式会社キャブ 代表取締役社長 (平15.8)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(社会情報学部社会情報学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3人	3人	1人	2人	9人	
	修 士	人	人	人	人	人	2人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	3人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	3人	1人	人	人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	5人	3人	3人	1人	2人	14人	
	修 士	人	人	人	3人	1人	2人	人	6人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	